

現代哲学の入門のための教科書

- philosophy
- liberal arts
- contemporary philosophy
- mathematics
- buddhism
- psychiatry

第1篇 入門篇・基礎篇・現代哲学篇

第2篇 応用篇・実践篇・現代思想篇

我々は知らなければならない。我々は知るだろう。 ダフィット・ヒルベルト

もし私がそれをより理解したのであればそれは巨人の肩に立って見たからである。 サ
ー・アイザック・ニュートン

知は力なり フランシス・ベーコン

はしがき

この本の1番の目的は智と愛を大切にすること、特に智への愛を持ってもらうことです。英語ではそれを **philosophy** と言います。**Philo**-は愛で **sophy** は智と言います。“知を愛する”という意味にもなります。つまりみんなが **philosopher** になるということです。

学びの楽しさを知らせるためにユダヤ人は本にはちみつをつけて幼児になめさせます。

「知は甘い」ものだ。好奇心、知ることへの興味、関心を深めて学ぶのは嬉しいことだと覚えるためです。学問的というと新規性探求を高めさせるためです。

Philosophy は哲学と訳します。西洋哲学では 2 つの意味を持ちます。上記の意味と「確実性を追求する学問」という意味です。本書では哲学に両方の意味を持たせます。

この教科書の 2 番目の目的は現代哲学を面白く、分かりやすく理解してもらうことです。

現代哲学は **contemporary philosophy** と言います。現代哲学は完成された理論・体系を持っていますのでそれを学べば誰でも現代哲学をマスターできます。

Contemporary philosophy は日本語で現代思想と訳されることがあります。倫理学は哲学を含む大きな学問で哲学を含みます。倫理学では思想は人々の思いなしを表し広い意味があります。意味が広すぎますので本書は哲学の教科書として思想は第 2 篇でやや触れる程度とします。

具体的には、実在論、構造主義、ポスト構造主義の 3 つを理解すればそれで学習は完成、終了です。

しかし実は実在論と構造主義は簡単です。

誰にでも直感的に理解できるからです。

しかし構造主義が少し難しい場合があります。

ですから場合によっては構造主義は理解しなくても結構です。

最低限ポスト構造主義の 1 つだけ理解し実践すればその人は現代思想の精神を持っています。

実在論しか理解できない場合は？

その人は近代主義者、あるいは近代人、モダニストになります。

何もないよりはいいのでそれはそれでいいでしょう。

現代主義者、現代人、すなわちポストモダンを理解するということはポスト構造主義を理解すること、できれば構造主義も理解することと同義です。

まとめると現代とは現代哲学が支配する時代で現代人とは現代哲学を理解、実践している人です。近代とは近代哲学、その基底をなす実在論が支配する時代でポスト構造主義を（できれば構造主義）を理解せず実在論だけを理解していれば近代人になります。

現代哲学を学ぶのに昔の哲学や現在研究中の応用哲学について学ぶことは必要ありません。そういう勉強は哲学史を勉強したい人や現代哲学の応用を考えている研究者に任せればいいのです。

現代哲学をマスターするには既に完成している理論を学ぶだけで十分です。

ですから高度な学問を学ぶというよりは塾講師や予備校講師にすでに完成した学問をい

かに分かり易く教えてもらうかという塾や予備校の勉強と同じものになります。

この本の3番目の目的は、みんなが **liberal arts** を大切にすることです。

ギリシア時代は都市の住民は自由市民と（非自由民）奴隷に分かれていました。リベラルアーツは奴隷が自由市民になるために必要な技術です。都市の外にはバーバリアン（野蛮人）もいましたがこれは置いておきましょう。

liberal arts とは自由と技術、自由の技術と書きます。人間が自由になるための技術です。ギリシア時代では自由市民であるための条件でした。

中世では **liberal arts** は自由7科と呼ばれ、専門の学問を学ぶ前に学ぶ必要のある学問と考えられました。自由7科とは文法、修辞学、古典語、算術、幾何学、天文学、音楽です。これを学んで専門4科、神学、哲学、医学、法学を勉強するための条件とされます。

ちなみに現在のアメリカでも同じです。教養大学などで教養を学ばないと専門であるメディカルスクールやロースクールには進めません。

liberal arts の内容は時代によって変わります。学問、人間の知的基盤が変化するからです。現代の **liberal arts** で最も大切なものは現代哲学です。アメリカの大学では教養課程の現代哲学はほぼ必修です。

liberal arts は日本語で教養と書きます。教養について2つの意味を持たせます。一つは人間の精神を自由にする技術、もう一つは知識や情報処理能力を身に着けて精神を豊かにするために教えを受け自分を養うことです。ですからたくさん勉強することを推奨します。

1つ目は愛と智を大切にすること、更には智を愛することです。

2つ目は現代人の **liberal arts** として **contemporary philosophy**（日本語で現代哲学訳す）をマスターすることです。

3つ目は教養としてたくさん何でも学ぶことです。

まとめるとこの教科書は全ての人を **philosopher** にするために書かれています。

フィロソファーの必要条件是ベーシックには智を愛すること、アドバンスドには現代哲学マスターになることです。

現代哲学マスターとは实在論、構造主義、ポスト構造主義の3つを理解している人です。

今何かで不自由している人は気づかぬ間に何かの奴隷になっているのかもしれませんが。

この本を読むとその不自由の理由が分かるでしょう。知情意にいい影響があります。この本を読むと余得として知力が高まる、情意をコントロールできるというメリットがあります。

・本書の目的

- ① 愛と智を大切にする。
- ② 智を愛する。
- ③ 現代哲学をマスターする。
- ④ 自由と技術を大切にする。
- ⑤ 自由の技術を大切にする。
- ⑥ 勉強してたくさん学問を身に着ける。

この本は分かり易いように書かれています。

そこでコラムやケーススタディーや表や図をたくさん挟み、読みやすくしています。

現代哲学は学問です。普通は大学の教養課程で学びます。しかし社会人や賢い高校生にも向けて書かれています。自己啓発のためにも使用できます。

現代哲学は学問です。特定の宗教や主義主張を押し付けるものではありませんので誰でも学べます。どんな思想の持ち主でもその人の思想を否定することはありません。

逆に現代哲学は我々がどうやって生きていくべきかについて何も教えてくれません。現代哲学を学んだあとは各人でそれを考えることが必要になります。

繰り返しますが現代哲学は完成した理論と体系をもつ学問です。

ですから問題はいかに効率的に分かりやすく勉強できるかだけです。

最後に要点をまとめます。

- ・ベーシック 智を好きになること
- ・アドバンスド 現代哲学をマスターすること

・現代哲学の3要素

- ① 実在論
- ② 構造主義
- ③ ポスト構造主義

本書では現代哲学を理解するために4通りの異なるアプローチを提供しました。

- ①哲学、倫理学を使って理解する方法
- ②現代数学の基礎論を使って理解する方法
- ③仏教を使って理解する方法
- ④精神医学を使って理解する方法

どれかの方法でピンときてくれたらそれが理解の突破口になるでしょう。

本書で難しい部分があります。①構造主義の理解と②構造主義を使った存在論、認識論の理解、の2点です。

構造主義以外、実在論とポスト構造主義は直感的に理解できます。

この教科書を4通りの異なる方法で書いたのは何らかの方法で構造主義を理解してもらうためです。一度びんと着てコツをつかめば結論は全て同じであることが分かるでしょう。

おそらくこの教科書で一番難しく感じられるであろう部分は精神科医ラカンの理論、つまり構造主義を使って認識論、存在論を説明するためのモデルであるシェーマLの理論を理解する部分です。

そのためシェーマLの理論を単純な足し算で示してみました。

下の式になります。

ラカンの理論=フッサールの現象学+精神分析学（精神の構造論、自我心理学、クライン派の理論）+実存哲学（特にニーチェの理論）+構造主義+実在論

ただしこの足し算の個々の項の理解が難しい場合があります。

そこで予備校教師や塾講師のようなことを言いますが構造主義は場合によっては捨てて頂いても結構です。

その場合ポスト構造主義と実在論を理解すればある程度現代哲学は使いこなせます。

最低限ポスト構造主義だけ理解できれば現代哲学の大枠を理解していると言えます。

ですから場合によっては理解できなければ実在論も捨てて頂いても構いません。

では実在論は理解できてもポスト構造主義と構造主義は理解できない場合はどうなるでしょう。それはモダニストと言って近代的な考え方の持ち主であるという事になります。

それはそれで何もわからないよりもいいでしょう。

この教科書では第一篇で理論を示します。

第2篇は応用篇になります。現代哲学は使える学問ですので使いましょう。

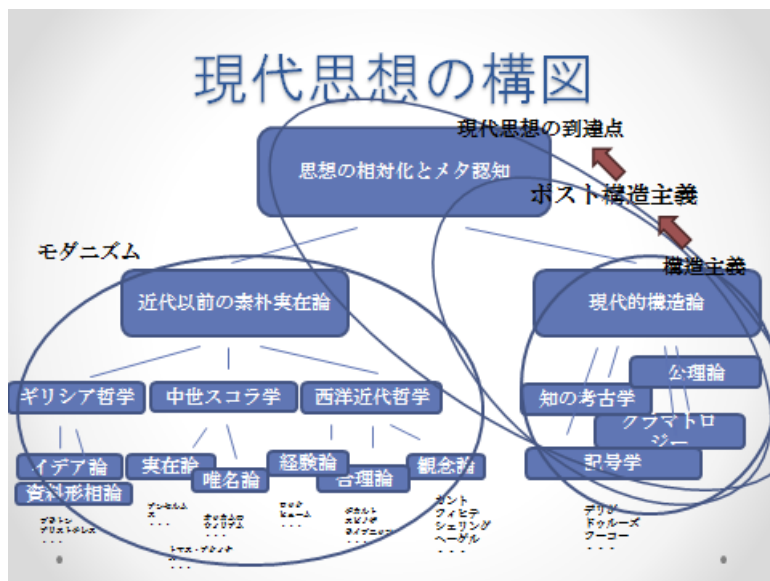
あるいは何かの専門の学問分野や職業分野を研究、就職している人はそれに対する理解が深まります。

現代哲学を使いこなすため第2篇の第4部で現代哲学を使いこなしやすいように操作装置、インターフェース、コックピットを設計、作成させてもらいました。

それを使えば現代哲学を使いこなしくなります。

図で示します。以下の図を理解できれば現代哲学は理解できていることとなります。

現代哲学が大学の教養課程の必修科目になることを願いつつ筆をおきます。



実体と構造の関係

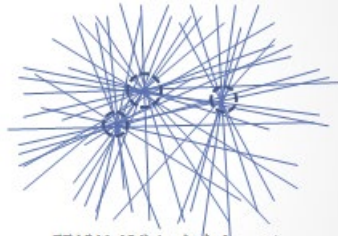
モダニズム

ポスト構造主義



要素がまず存在し、要素同士が二次的に関係性を持つ。

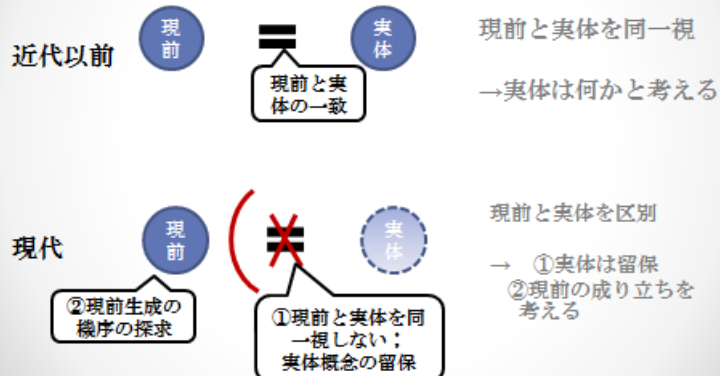
- 物（物質）の説明にすぐれる。
- 認識対象の概念的な部分の説明が苦手

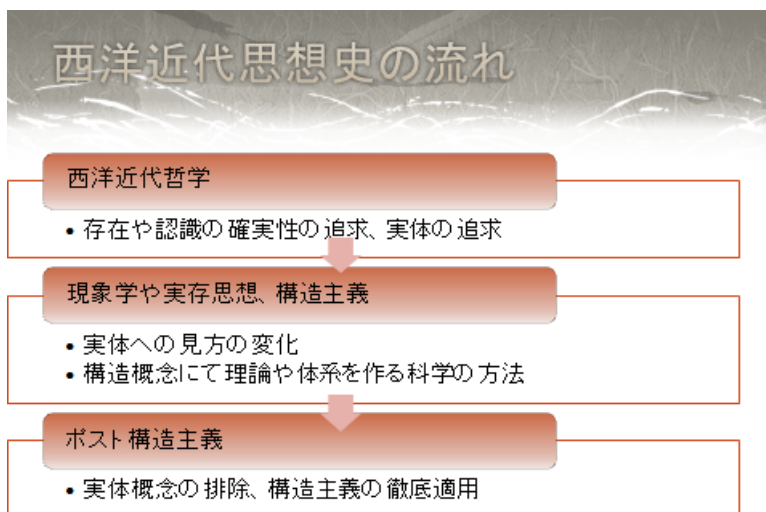
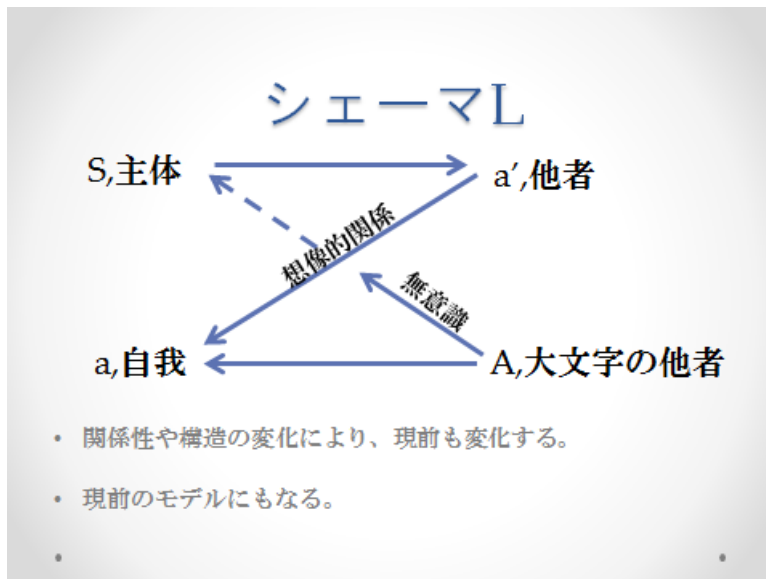


関係性が先に存在し、二次的に要素を定義する。

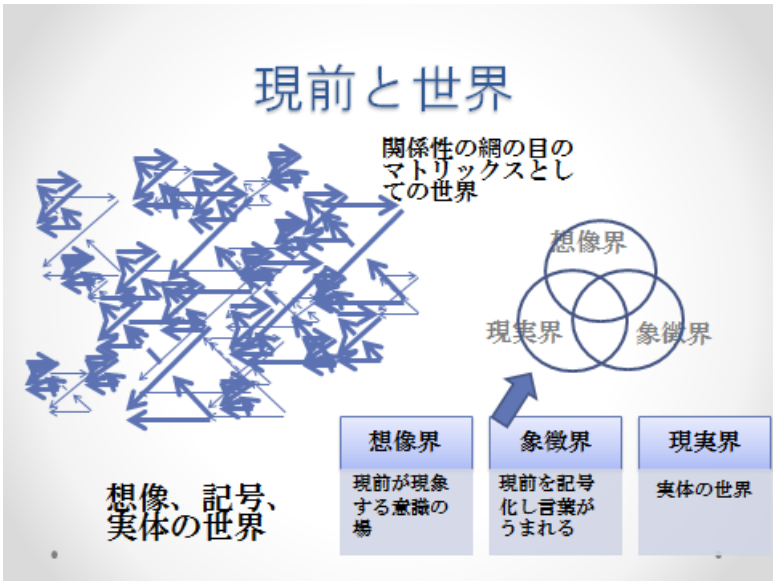
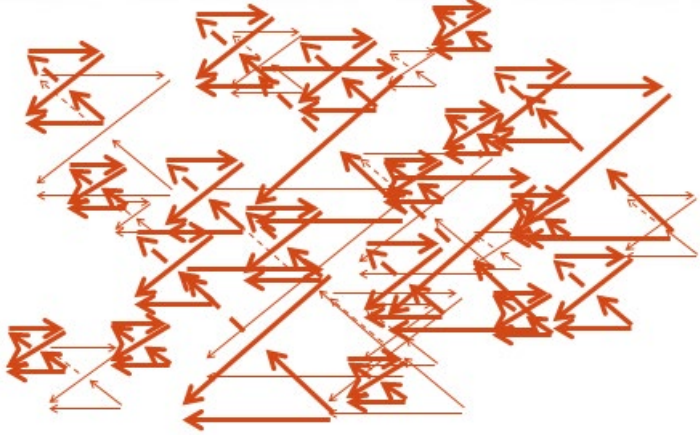
- 事（概念）の説明にすぐれる。
- 認識対象の感覚で把握する部分の説明が苦手

素朴実在論と現代的構造論の違い





現前が作る心的現象世界



2019年9月11日

奥村 克行

序論

人類史上最も偉大とされる数学者 3 人はアルキメデス、ニュートン、ガウスと 20 世紀初頭のアメリカ数学会の会長ベルはいいました。ニュートンとガウスは「なぜあなたは偉大な業績をあげたのか」という質問に対して同じ答えを返しています。「考え続けたからだ」と。

この教科書では学び、考えることを推奨します。1 つ目の理由は人生の姿勢として。人間年を取り色々なことに飽きていきますが飽きずに続く趣味があります。学問と研究です。天皇陛下も研究がライフワークです。学究は貴族の趣味でもありますが誰でもできるし安い一生続けられます。

2 つ目は現代哲学を身に付ければ新しい学問を身に付けることで単純に考えると指数関数的に頭がよくなっていきます。N 個の学問を身に付ければ $\times 2$ の n 乗、あるいは順列の $n!$ だけ頭がよくなっていきます。

3 つ目は現代哲学を身に付けても更に勉強しないと現代哲学をマスターした甲斐が少なくなります。甲斐性なしにならないために勉強が必要です。

そこで本書では一番大切なのは **philosophy** への理解です。**Philosophy** はギリシア語が語源で智と愛を組み合わせたものです。智と愛はそれ自体で十分大切ですが、智を愛することが大切です。つまり好奇心、興味、関心を持つ事です。科学的には新規性探求と言います。

現在の **philosophy** = 日本語に訳された哲学をこの本では 2 重に用います。ギリシア語の語源である、愛と智、特に智を愛すること、もう一つは“確実性なものはなにか”を探求する学問という意味です。この 2 つ以外には使いません。“確実性”とは何かの結論は **contemporary philosophy** の理論ができて初めて決着がつけました。

逆に言うと古代や近代、別の文化圏の哲学や **contemporary philosophy** を発展させた応用哲学も必ずしも勉強する必要はありません。勉強する必要がある人、勉強したい人だけが勉強すればいいでしょう。

みんなが **philosopher** になる、**contemporary philosopher** となる本書の目標は近代の暗闇、**modernism** から現代の光の中へ (**postmodern**、**contemporarism**) 人間を導くことです。**Liberal arts** としての **Philosophy** と **contemporary philosophy** を身に着け、それを土台に更に新たな **liberal arts** を身に着けていけば人間の知情意はいくらでも高めることが可能です。精神は奴隷ではなくどんどん自由になっていきます。自主性、主体性を持ち、自由を獲得するための技術です。**philosophy** と **contemporary philosophy** は現代の **liberal arts** として最も重要なものです。

本教科書は理論だけ理解してそれで終わりという教科書ではありません。理論を徹底的に活用するための技術も身に付けます。そのため第 1 篇で理論を学び第 2 篇で実使用論を学びます。

本書では誤解を受けやすい現代哲学と現代思想の区別も明確にしました。どちらも英語にすると同じです。本書はあくまで現代哲学の教科書で現代思想の教科書ではありませんが、現代思想の解説も第 2 篇で行いましょう。

思想というのは人々の思いなしでありそれを研究するのは倫理学です。哲学は倫理学の一分野ともいえます。現代哲学より広範囲に及びますが現代哲学を理解できれば現代思想の理解は簡単です。また現代哲学を理解できれば哲学史も簡単です。現代哲学を基礎とする研究中の応用哲学 (=現代の倫理学) も勉強し易くなります。

また現代哲学は現代の自然科学をはじめ人文、社会科学、技術、の基礎になっています。ですから現代哲学を理解すれば自然・社会・人文科学、工学全ての学問の学習効率が上がります。

また現代哲学を理解することは自分がどう生き、どう考えるのかを判断する基礎になります。現代哲学を理解することなく何かを絶対化することは自由市民でなく奴隷になることを意味します。奴隷にならず、自由、主体性、選択、寛容をもつためには現代哲学の教養が必要です。

現代哲学は人がどう生きるべきかもどう考えるべき教えませんので、自分の意志で主義、主張、信仰などのイデオロギーを自覚して選択することになります。逆に現代哲学を身に付けないとどんなイデオロギーを持ってもそれは、自覚なく、自由なく、選択しなく、主体性なくそれを行い支配されている奴隷になります。

現代哲学を学ぶことであなたが今持っているイデオロギーが否定されることはありません。現代哲学は否定も肯定もできません。それは現代哲学をマスターすれば分かります。ですから人がどんな信念、主義、主張、宗教を持っていようと現代哲学を学ぶことを様食べることはありません。むしろ現代哲学を理解したうえで選ばれたイデオロギーは価値が高まるでしょう。

現代哲学の 3 大要素の一つポスト構造主義を身に付けると真の自主性、主体性、自覚、自由を身に付けることができます。自由になった上で逆に人は自分のイデオロギーを選ばなければいけません。現代哲学を身に付けるだけでは脳と感覚器があつて筋肉のない人間と同じで、理解はできても表現も行動もすることはできません。

現代哲学をマスターするとそこではすべてのイデオロギーが平等な選択肢として存在します。この境地に立った上で行う自由で主体的な選択を可能にしたのが現代哲学です。

ポスト構造主義や現代哲学自体が一のイデオロギーではないか？と疑問を持たれる方もいるかもしれません。ポスト構造主義はメタイデオロギーで他のイデオロギーとは区別します。これをバートランド・ラッセルのタイプ理論（クラス理論？）と言います。1章設けて説明します

本教科書は膨大な数の先人たちの仕事の上に書かれた教科書であり、読者はその中に感動を与えてやまぬ教師を見出し、知性を啓発し、魂に活気を与えてもらえると思います。

最後に本書のキーワードを上げます。

愛、智、フィロソファ、フィロソフィー、コンテンポラリーフィロソフィー、リベラルアーツ、人間力、知性、品性、情熱、勇気

本書のアウトライン

本書は2篇に分かれます。第1篇で現代哲学を理解します。

第2篇で現代哲学の使い方を学びます。

第一篇は科学、第二編は工学のようなものです。

本書を大きく2つの篇に分けた上でそれを各部に分け、各部を各章に分けています。

第1部ではフィロソフィー、コンテンポラリーフィロソフィー、リベラルアーツの重要性を説明します。

一番大切なのは知と愛で、特に知を愛することです。

学問的には新規性探求といいます。

自分の知らないことを勉強すること、興味を持つこと、考えることが一番大切です。

これをやっていれば実はいつか現代哲学には巡り会い、たどり着けるはずです。

現代哲学は知の最高峰であり土台でもあります。

現代哲学を理解した後も勉強が大切です。

現代哲学はそれだけ理解しても他の知識がないとあまり役に立たない仕組みになっています。

逆に知識が多い、あるいは増やせば単純には指数関数的に賢くなります。指数関数より順列 2 の n 上ではなく $n!$ で増えていきます。

破壊力、というか創造力満点の生産的な哲学です。

第 1 篇 基礎篇・入門編・現代哲学はおおきく第 2 部と第 3 部で、現代哲学を 4 通りの切り口から説明します。すべて同じ結論が出ます。第 1 部では第 1 章～第 4 章で現代哲学の説明を行い、第 2 部で現代数学、仏教、精神医学について各 1 章ずつ咲いて説明します。

ポスト構造主義と実在論（中世神学の普遍論争のプラトニズムの実在論の意味ではない）は実は簡単です。

直感的に理解できるからです。

構造主義の理解はやや難しいです。

直感的に理解しにくいからです。

勉強の土台がない人には非直感的でも勉強の土台があれば直感的になるので、本質的に異なる 4 つの分野から構造主義、ひいては現代哲学の説明を行います。

第一篇だけ理解すれば現代哲学は理解したと言ってもらって結構です。

それだけで使いこなせる方もいるでしょう。

本教科書はそれに加えて、第 2 篇で現代哲学の使い方と現代すでにどのように使われているかについて詳しく優しく説明します。

第 4 部で現代哲学の応用に関しての基礎設計、基礎工事を行います。

第 5 部以降はこの骨組みを基本に現代哲学の使い方、使われ方を説明します。

より多くの方が現代哲学マスターになってくれることを祈っております。

目次

序論

はしがき

序論

本書のアウトライン

第1編 現代哲学の基礎編・教養篇・現代哲学篇

第1部 philosophy と liberal arts のイントロダクション

第1章 philosophy と liberal arts

1-1 philosophy

1-2 liberal arts

1-3 まとめ

コラム1

2 現代哲学を学ぶ利益

コラム2 現代思想と現代数学、情報科学、計算機科学

1-3

第2部 現代哲学のイントロダクション

第2章 現代哲学を学ぶための準備

2-0

2-1

2-2

第3章 現代哲学の歴史

3-0

3-1

哲学は存在論と認識論からできている

存在論とは何か？

認識論とは何か？

物と事

構造主義について

現代哲学の歴史

3-1 近代以前

3-2 現代以降現代哲学の歴史

第4章 現代哲学の解説

4-0

4-1

4-2

第2部 現代哲学の生理学と病理学

第5章 仏教と現代哲学

第6章 現代哲学と現代の基礎科学：現代数学と物理学

6-1 なぜ現代数学か

第7章 全ては心より生ずる：精神医学と現代哲学

第8章 欠番

終論

第1編 現代哲学の基礎編・教養篇・現代哲学篇のまとめ

第2編 現代哲学の応用篇・技術篇・現代思想篇

目次

第2編 現代哲学の応用編・実践編・現代思想篇

第4部 現代哲学応用、実践のイントロダクション

第8章 欠番

第9章 現代哲学活用にあたっての骨格提示

第10章 現代哲学の応用に当たっての注意点

10-0 現代哲学で注意すべきこと

現代哲学が分かりにくいと思う人の注意点

第11章 イデオロギーの使い方：詳細と各論

11-0 イデオロギーの実使用学

イデオロギーの駆使の仕方

第12章 メタアノミー、アノミーの研究、ニヒリズムと選べない人々

12-0 アノミーとは何か

第13章 現代哲学とコミュニケーション

13-0 コミュニケーションの確実性

第5部 現代哲学の advanced な応用

第14章 構造主義おさらいと実践応用 現代的構造主義の脱構築と構築

14-0 イデオロギー分析、応用のための構造主義

構造主義の実践的な活用

現代的構造主義の脱構築と構築

第 15 章 倫理道徳と現代哲学

倫理、道徳、判力と現代哲学

第 16 章 イデオロギーの選択：いろいろなイデオロギーを具体的にみる

第 6 部 現代哲学から見た世界と社会、現代思想に対する現代哲学の応用

現代思想への現代哲学の応用

第 17 章 モダニズム批判、ポストモダン同一性批判、歴史と人間の終わり

17-0 モダニズム批判、ポストモダン

同一性批判、人間の解体、歴史の終わり

第 18 章 イデオロギー批判と現代哲学

18-0 近代の偉大と悲惨

イデオロギー批判と現代思想

第 19 章 シミュラークル、シミュレーションの世界、大きな物語とナラティブ

シミュラークル、シミュレーションの世界

第 7 部 他の学問、現代思想、科学・技術と現代哲学

第 7 部 現実世界での現代哲学の応用 各論：現代哲学の科学・学問への応用

第 7 部 現代社会の基礎としての現代哲学、他の学問、現代思想、科学・技術と現代哲学

第 20 章

20-0 現代哲学の自然科学への応用

20- 情報科学と現代哲学

第 21 章 公理主義化されない構造：文学、デザイン、ファッション

第 22 章 現代哲学の臨床への応用

第 8 部 自己啓発、頭をよくする、知情意をコントロールする方法

現代哲学と私達、社会の関係

第 23 章 現代哲学による自己啓発と頭をよくする方法

現代哲学の応用、頭をよくする方法

第 24 知情意のコントロール

知情意の質や量のコントロール

第 25 章 自己啓発と現代哲学

第 26 章 現代哲学をマスターした人、しない人の比較

第 27 章 現代哲学で得られるもの、結論とまとめ

第 28 章 現代哲学のキーワード、箴言、モラリズム

あとがき

第終章 本書のまとめ

○-1 あとがき

○-2 謝辞

第 1 編 現代哲学の基礎編・教養篇・現代哲学篇

第 1 篇にて哲学の大切さ、教養の大切さ、現代哲学を理解してもらえるように解説を行います。

第1部 哲学 philosophy と教養 liberal arts のイントロダクション

第一部では現代哲学ではなく、全ての前提として哲学と教養の大切さについて説明します。

第 1 章 哲学 philosophy と教養 liberal arts

1-0 愛と智、智を愛すること

philosophy はギリシア語語源の英語でフィロは愛する、ソフィーは智ということです。フィロソフィーで智を愛すると解されます。知を愛すること、これはもう一つ日本で教養主義と呼ばれ 1980 年代頃まで大切に考えられてきました。旧制中学や旧制高校のエリートは哲学書や文学書を読むことがよいことと考えられややペダンティズム（学術的、学を衒う）な傾向もあったようです。戦後でもその風潮は続いていましたが 1980 年ごろから急速に衰退し、現在は言葉としても聞かれることも少なくなりました。

つまり昔に比べて日本社会では知性の尊重、勤勉の美德、知的好奇心を持つこと、知識を持つ事は尊重されず、軽視される風潮があります。

この教科書でそのような風潮を変えていきます。

1-1 哲学 philosophy

この教科書ではフィロソフィーを2重の意味で用いることにします。

1つ目は哲学は①愛と智を大切にすること、特に智を愛することです。

2つ目は哲学は②は西洋哲学の主題である確実なものを追求する学問であるということです。

①を啓発していくべきだというのがこの教科書の最重要な主張です。

一方②の結論である現代哲学を理解してもらうというのがこの本の使命です。

古代ギリシアやローマではフィロソフィーは肉体労働を奴隷に任せて知性や真理を追究する特権的な意味がありました。奴隷が持たず自由市民が持つ奴隷と自由民を分かち技術が **liberal arts** です。

中世になると神学が最上位の学問になります。哲学は神学の婢と言われました。中世の大学では自由7科といわれる文法、修辞学、古典語、音楽、算術、幾何学、天文学が **liberal arts** と呼ばれました。それは学問の基礎でありマスターした上で専門科目である、神学、医学、法学、哲学に進みます。ここでは奴隷と自由民を分かち学問という意味ではなく高等教育に進むための前提であり基礎であるという意味に転嫁します。

この場合哲学は色々な学問が含まれ“その他の学問”という意味合いがあったようです。神や聖書の正しさを証明する神学を補助する学問と考えられていました。神学は思弁により神や聖書の確実性を追求する学問で中世の普遍論争の实在論や唯名論などの議論は古代哲学を引きずりつつ近代哲学にも影響を与えました。

そのような教養についての考え方はヨーロッパやアメリカの大学でも継承され哲学と言えば神学、法学、医学を除く学問全般を指すこともあるようです。日本でも医学博士はMDで6年間の医学教育を卒業すれば日本では取れますが、PhDを取るためには更に4年、大学院に進まなければいけません。哲学のエドムント・フッサールと数学のダフィッド・ヒルベルトはゲッチンゲン大学の哲学科の同僚です。哲学科では哲学も数学も研究されていたということです。フッサールも最初は数学者でしたがあとで哲学へ転身しました。数学の確実な基礎を研究する過程で森羅万象の確実な基礎の研究に範囲が広がったのでしょう。結局同じことであることがあとで分かります。

自然科学、人文科学、社会科学とそれぞれに学問が細分化し理論、体系ができて他の分野と分離・独立が進んでいくと哲学という言葉が学問の一分野としてより限定的に使われます。近代では無神論や不可知論なども出てきて学問に対する宗教分離した態度も認められるようになり哲学は主に①存在、②認識、③どう考え行動するか、④真善美などどう判断するか、その他等の確実性を追求する学問になりました。ただし一神論や啓示宗教の影響は後々まで残り例えばスピノザはユダヤ教を破門されたり暗殺されかけたりと苦勞して

います。

何であれ「確実性の追求」これが知を愛するとは別の **philosophy** のもう一つの姿です。この教科書では智への愛を広めることを一番大切に考えていますが、現代哲学のの解説として確実性の追求の末に見いだされた理論体系の説明に紙面を割きます。

コラム 1-1 倫理、思想、哲学の違い

倫理は広い意味で使われます。思想とは人、あるいは人々の思いなしを表しそれを研究します。哲学は倫理学の一分野とみなせますので高校の選択教科では倫理の中に哲学が含まれています。哲学は中国の宋学から使われている言葉で明治時代に **philosophy** の訳語としました。哲学はいろいろな意味を含みますが西洋哲学では「確実性」を追求学問と意味を限定できるので、この教科書では①知を愛することを勧める、②確実性を追求する学問という 2 つの意味で使います。②の意味の哲学は現代哲学で決着がついたので今は哲学という応用哲学の研究か、昔の哲学史の研究の様な意味になり最近では哲学という学科や哲学者という人は見かけない傾向にあります。代わりに倫理学に包含しているようです。

哲学の基礎論の決着はついたものの応用の研究はあり、応用哲学ということになります。これも倫理学に含めてしまったらいいのでそうなっているようです。

紛らわしいのは **contemporary philosophy** という言葉を 1970 年台から 1980 年代の日本人が現代思想と訳してしまったようで、現代哲学と現代思想がごっちゃになりやすい点です。現代哲学という場合、やはり確実性に関する場合にだけ使いますので、現代哲学に関係するにせよ、確実性に関係しない場合は現代思想という言葉を使います。

1-2 教養 liberal arts

philosophy と同様 **liberal arts** も多義語です。**Ars liberalis** で古典ラテン語語源だと思われれます。これも本書では 2 つの意味を持たせます。まずは元来の“自由の技術”の意味で用います。**Liberal arts** は古代ギリシアの都市人の分け方、自由市民と奴隷つまり自由民と非自由民が分けられていた時代に自由民と非自由民を分かち知の技能という意味で用いられました。現代哲学はマスターすると人間に自由をもたらすので現代哲学はまさに **liberal art** となります。

もう一つの意味としては自分を教え養うという意味で勉強して知識や情報処理の方法を増やして豊かな精神を形成することです。

哲学や現代哲学との関係でいうと現在自分が知っていること(知)や情報処理の方法(智)だけを愛するだけでは仕方ありません。自分の今あるものに固着するだけになる可能性があり害になる可能性もあります。“変わらないものは死んでいる”のです。

哲学も現代哲学も静態的なものではなく動態的なものです。勉強して、学んで、教わっ

て、養い続けることが大切です。勉強が嫌いな人は大変ですが、そのリターン、見返りは膨大です。新しい知識や学問を n 個身に着けると従来の自分の知性、知力の $\times 2$ の n 乗、あるいは今まで持っていた知力を m として $\times(n \cdot m)$ の階乗の知的増進能力がある可能性があります。

欧米の伝統的な高等教育の考え方は教養を学んでから専門科目に進みます。中世の大学で自由 7 科と呼ばれたリベラルアーツは教養と呼ばれ習得すると学士がもらえます。その後、神学、法学、医学、(近代で哲学も加わるがこの哲学の分野は自然科学なども含む広い)の専門学部に進んで専門職を養成します。自由 7 科は算術、幾何、天文、楽理、文法、論理、修辞で構成されます。すなわち読み書きそろばんです。これを勉強しないと次の法学や医学などの専門技術者にはなれません。修士、博士には進めません。専門の勉強を学ぶために必要な基礎学問という意味です。今では自由 7 科は高等学校を含めた初等教育で行われているので **liberal arts** の具体的中身は人類の進歩と時代によって変遷があります。またフランス革命以降人間は自由、平等、博愛なので、**liberal arts** はいらないのではないかと思われるかもしれません。

しかし法的自由、経済的自由、政治的自由、社会的自由を獲得したところで肝心の自分の頭が不自由では仕方ありません。人間を不自由にするのは法や制度だけではありません。考え方の選択肢が少なければ既に不自由です。特定のイデオロギーだけに固着すればそれも不自由です。自由な社会において人間を不自由にするのは個人の知性に依存しています。頭が不自由とはいろいろな考え方ができないということです。逆にいろいろな考え方をマスターして選択肢や組み合わせが増えるほど人間は上限なく自由になれます。ぎゃ k に社会制度が不自由であっても、頭が自由であれば精神は自由です。哲学と現代哲学は人間に精神的自由を提供するため必須の教養なのです。

現在は日本では大学で教養課程というのがあると思われませんが全ての学校に必ずあるかどうか分かりません。アメリカでは教養大学というのがあるが教養をしっかりと教えるようです。そこで学士過程を取っていないと専門のメディカルスクールやロースクールで専門課程に進むことはできないようです。本教科書の意図は高等教育を受けた、即ち学士以上の資格を取得している者は現代哲学を含めて哲学が必須の様です。

個人で哲学と現代哲学を身に着ければ内面の自由を獲得できかつ、学び続ける限り際限なく自由を増大できます。更に集団が現代哲学をマスターした場合には知的なコミュニケーションが成立する十分条件が整います。言い方を変えると現代哲学を理解して異なるもの同士は知的なコミュニケーションを行うことができない場合があります。この教科書ではコミュニケーションを現代哲学がどのように保証するかについても説明します。

コラム 1-2 ニューアカデミズム、フランス現代思想、教養主義

1980 年代後半にニューアカデミズムというフランス現代思想の受容と流行が起こりまし

た。同じ時期に教養主義の終焉という本が書かれます。職業の専門性に関係ない知識を得ることが重視されない、というよりは無駄と否定的に認識される風潮が生まれました。旧制中学の学生は文学や哲学を読み真理を追究し人生の真実や博学を得ることをよしとしていました。真理や正義が存在すると信じていました。これは日本だけでなくアメリカなど外国でも見られたようです。大学の教養課程について廃止の議論もありました。初等教育で教養は賄えるという考え方もあります。現在は英語やプログラミングなどの IT リテラシー、お金の知識などが重視されているようです。

1-3 まとめ

哲学は愛と智を大切にすること、智を愛することでこの本でも一番大切なことです。知自体を愛することで新規性探求、新しい知識や考え方を得ようとするエネルギーと意志が発生します。

一方教養は人間が自由になる技術として全員が持つべきです。自由というものはすでに与えられたものではなく自分で獲得し増やしていくものです。そのためには技術が必要です。自由を獲得し増進する気が合っても技術がなければ自由になれません。自由の技術である教養の中で最も大切なものは哲学と現代哲学です。哲学がないと学ぶ気が起きません。現代哲学がないと学んだことを生かして自由になれません。

以上の理由で教養、哲学、現代哲学を正しく理解することが大切です。

コラム 現代思想ブームによる現代哲学の混乱

日本では 1970 年代から立教大学などを中心にフランス現代思想の研究が始まり 1980 年代にはニューアカデミズムという現代思想の流行が研究、教育機関のみならず一般にも起こりました。最先端の学問の理解不足はどうしようもない面もありますが、多くの人の理解不足と理解していた人でも上手に解説、教育をすることは難しかったようで、現代思想は非常に難解な学問と誤解されました。またコムデギャルソンなどのアパレルファッションや好景気の時代、新興宗教の流行などの異様な雰囲気と相まって非常に怪しいものだと誤解された面もあります。現代思想と現代哲学の区別もはっきりされていませんでした。良い教科書もなくいろんな書籍が発行されたり、講義が行われたようですが、きちんとした理解を伴う理解、普及にはいたらなかったようです。研究者の蓮見重彦氏は東大総長となり現代思想はアカデミズムの頂点に立っただけに見えますが、現代思想の寵児と言われた浅田彰氏や中沢新一氏はいろいろな政治活動やメディア活動に関わったり、オウム真理教を持ち上げたりしたこともあり、学問の本質と違うところで現代哲学が誤解されてしまったように思われます。その後教養主義の終焉と、学問に対する実用的態度と知識、勉強の軽視が起り、失われた 30 年を通して現代哲学も普及、啓発、教育されないまま現在に

至りました。もちろんきちんと理解されなくても社会は現代哲学の影響を受けて変化し、社会はより現代哲学的な世界になっています。

現代は教育も進歩し 30 年前よりいい教科書は各分野で出ています。科学技術も進歩し、社会も成熟し国民の初等（中等教育が何を指すか分かりませんが中等教育も）学力が上がり、高等教育の基礎に適切な現代哲学は学びやすい状況にあると思います。イデオロギー絶対主義全盛の冷戦中の思想基盤と違い現在は科学、技術、社会の進歩、特にインターネットなどの情報科学・技術の進歩により現代哲学は理解しやすい環境にあります。中高年を越えると新たなことを学習するのは難しいかもしれませんが、若い人はもちろん、中高年の方々も現代哲学を勉強するのは有意義です。

第 2 部 現代哲学のイントロダクション

本教科書は現代哲学をマスターしてもらうための教科書です。第 1 篇では第 2 部以降の全てを使って現代哲学を説明します。その中でも第 1 篇第 2 部と第 3 部と第 2 篇第 4 部が本教科書のクライマックスです。

第 2 部では第 2 章、第 3 章、第 4 章の 3 章を用いて倫理学、哲学の観点から現代哲学を理解して頂きます。

第 3 部では倫理学、哲学とは違う現代哲学の理解の方法として現代数学からのアプローチ、大乘仏教からのアプローチ、精神医学からのアプローチを行います。

第 2 篇第 4 部では第 1 篇で理解して頂いた現代哲学をどの様に活用するのかについての基礎を解説します。

第 2 章で最も詳細におそらく正統的な方法で現代哲学の解説を行います。もし第 2 章でピンとこない、直感的に分からない、納得できなくても、第 3 部で第 2 部とは異なる 3 通りの方法で別の説明方法で解説しますのでいずれかの方法で理解して頂ければ他の章も理解できると思います。

仮に第 2 部も第 3 部も理解できなくても第 2 篇第 4 部で基礎の理解が不十分のまま応用して頂いても構いません。仏教では頓悟と漸悟と言いますが、頓悟は直感的に突然悟ってしまう事、前後は徐々に悟っていくことです。

この教科書で基礎に触れて頂いて現代哲学というものを意識して頂ければ、生活の節々で徐々に理解する機会が必ず訪れます。

現代哲学の完成までの発展をみるとやはり徐々に発展しています。

志さえあれば必ずいつか理解が訪れますので気楽な気持ちでお酔い頂ければ幸いです。

第 2 章 現代哲学を学ぶための準備

現代哲学を学ぶための準備をしましょう。言葉の意味を理解したりはつきりさせたり誤解を生じさせないようにします。

2-0 現代哲学とは

Contemporary philosophy は現代哲学や現代思想と訳されたりします。哲学とは①愛と知（智）、知（智）を愛すること、②確実性を追求する学問、という意味で本書では使います。①は 1 章で扱ったので、現代哲学を考えるときは②の意味で哲学を使います。現代哲学と現代思想は違うものです。本書は現代哲学の解説書です。現代思想については第 2 篇で一部解説します。

コラム 2-1 現代思想と現代哲学の違い

日本では 1970 年代末から 1980 年代にかけてニューアカデミズというフランス現代思想の流行がありました。その際には現代思想という言葉がよく使われ、現代哲学という言葉は使われませんでした。倫理学では思想とは人々が生きていく中で抱いている思いなしを表します。倫理学は思想を研究する学問です。倫理という言葉で思考や行動の善悪を思い浮かべる人もいるかもしれませんが倫理はもっと広い意味でも使われます。よくある誤解で倫理学は善悪を研究する学問というのがありますが、倫理学のそれは一部に過ぎずもっと広い研究領域を含みます。倫理学は哲学を含む思想を研究します。現代思想とは現代の思想の総体を指します。思想の探求は必ずしも確実性の探求とは限らないので哲学より対象領域の広い学問です。現代哲学は現代思想に含まれます。思想という場合それは確実性を追求しなくてもよいので曖昧だったり矛盾していたり間違っただけの場合もあります。しかしそれも含めて思想です。そもそも人間も社会も矛盾に満ちています。言葉の意味を限定するため現代思想を現代哲学と関係のある思想群とします。本教科書の第 1 篇では現代哲学のみを説明します。

2-1 現代哲学について

「現代哲学」は現代の哲学という普通名詞でなく特定の理論体系を指す固有名詞のように使います。古代のギリシアの「古代哲学」や「近代哲学」と比べると違いが分かります。古代ギリシアの哲学はプラトンの哲学もアリストテレスの哲学も含む集合名刺のように使います。近代哲学もそうでデカルトの哲学やカントの哲学などいろいろな哲学者の哲学の総体として集合名刺のように使っています。現代哲学は違います。現代哲学とは①ポスト構造主義、②構造主義、③素朴実在論の 3 つとその関係を指す単一の哲学です。何人かの別の哲学者の別の哲学ではありません。完全に理論が完成している哲学です。

第 2 部ではこの 3 つの説明とその関係を説明します。

2-2 現代とは何か

現代哲学は第二次大戦後フランスで研究されました。その時代の支配的思想が時代を区分すると考えると現代という時代区分は現代哲学が支配する時代です。現代哲学はすでに理論的に完成しており、現代哲学はこの完成された理論の事です。現代哲学は古代から近代までの西洋哲学の結論であり完成形です。ですので“確実性とは何か”について結論を出しています。

2-3 近代と現代、modern と contemporary または postmodern の違い

現代とは現代哲学が支配する時代です。その意味で現代とは現代哲学の涵養期である構造主義の成立からポスト構造主義による近代西洋哲学の理論体系の完成以降の時代です。現代社会は現代哲学を基盤とする社会です。実際に社会を支える科学、技術は現代哲学で基礎付けされています。

その前の時代は近代です。近代を支配していたのはモダニズムという考え方です。現代という時代と近代という時代の違いを強調するために現代をポストモダンという言葉で表すことがあります。現代哲学は西洋近代哲学の完成形で完成された理論体系を持ちます。そこで普通名詞のように使うよりも固有名詞のように使います。

一方近代西洋哲学は近代という時代区分に西洋で行われていました。逆にいうと近代西洋哲学的な考え方に支配されていた時代を近代といいます。そういう意味でいうと今の時代に住んでいても近代以前の古い考え方しか持っていない人は頭の中は現代人とは言えず頭の中は近代人のままです。

2-3 教養⇔現代哲学

哲学＝智への愛、が一番大切なことです。智を身に付ける事は自発的に学習したり研究するのもよいですが。強制的、あるいは知らないうちに身につけていても構いません。知識と考え方が増えていくようになっていけばなんでも構いません。知識や考え方に応じて現代哲学は機能します。知識や考え方が増えると爆発的に知力が上がります。逆に知識や考え方が少ないと現代哲学を身に付けた効用が低いので現代哲学をマスターすると勉強しなくなります。

哲学が智を愛するという意味を持つ一方、哲学には確実性を追求する学問という意味を持ちます。「確実性とは何か」についての答えは現代哲学で答えが得られます。ですから智への愛がなくても現代哲学を嫌々でも学ぶ意義があります。

現代哲学と教養の関係は何でしょう。

現代哲学はある単一の理論です。

他方で教養は 2 通りの意味を与えました。①自由になる技術、②人間、精神あるいは脳に教え養う事。

現代哲学をマスターすると①をマスターできます。自由の意味も理解できます。②については現代哲学をマスターすると勉強が好きになります。

教養を持っていれば現代哲学を持っていると言えるでしょうか。

まず①自由の技術を持っていれば現代哲学をマスターしているといえるか。これはこの教科書での答えはイエスですが現在はそうはみなされていないのでノーと考えられているでしょう。逆に言うと現代哲学をマスターしていないと自由の技術を持っていないとこの教科書では主張しますが現代哲学を知らない人だとこれを否定するでしょう。世の中のリベラリストと呼ばれる人の自由が中途半端に見えるのはこのためであり現代哲学をマスターしていないからです。

②人間、精神、脳を教え養っているならば現代哲学をマスターしているか？現在の日本ではそうはみなされていません。現代哲学が何か知られていないからです。②の意味でいえば現代哲学をマスターしなくてもたくさんの知識や考え方を身に付けている人はいるでしょう。これはどちらかと現代哲学ではなく哲学の一つの意味、確実性の追求ではなく智を愛することと関係した概念です。

ですから現代哲学が知られるておらず重視もされていない現在の日本では教養と現代思想は特に関係がありません。

この教科書は教養を持っているならば現代哲学を理解している、すなわち現代哲学のマスターが教養を身に付けていることの必要条件になる事を意図して書かれています。

さらにはできれば現代哲学を身に付けているならば教養がある、すなわち現代哲学を教養の十分条件に、合わせて現代哲学をマスターする人と、教養を持っている人が必要条件の関係になりイコールになる事を意図して書いています。

ですからこの教科書の究極のゴールは全ての人が哲学と現代哲学を身に付ける事、小さなゴールは大学の教養課程で現代哲学を必修科目にして必ずマスターしてもらうことです。

2-4 現代哲学は自由を定義できる

現代哲学で定義する自由とはポスト構造主義を理解した上で、いろいろな主義、主張、信仰、思想などまとめてこれからイデオロギーと呼びますが、様々なイデオロギー選択肢を、主体性をもって、つまり自分で思考し、判断し、決断し、行動し、結果を引き受ける選択を行えるようになることです。ポスト構造主義はこのような自由な選択を行える思考の空間を与えてくれます。これを自由空間と呼びましょう。現代哲学でいう自由主義とはこの主体性によるポスト構造主義のメタ認知の視点から見える世俗のイデオロギー群を

選択肢として自己の主体性にに基づき自由に選択できることを保証する考え方です。一般的に言われる自由主義とは政治的、法律的、経済的リベラリズムやリバタリアンはこの選択肢の中に含まれる主義の一つに過ぎないので、ここでいう現代哲学の定義する自由主義とは異なります。

近代以前の自由の定義の中で一番近いのは近代法の理念である内面の自由です。「思考の中では何を考えても構わない。しかし思考を行動に移した場合、それが法に触れていたら罰する」という考え方です。政治、経済的な自由主義は誰かの自由が誰かの不自由であるようなトレードオフを伴うことが多いので自由主義の定義が極端に曖昧です。

現代哲学の自由主義はメタ自由主義ともいうべきもので、多くのイデオロギー選択肢の中から好きに選択ができる事を指します。複数選択することも可能ですし、選択をしないことも可能です。メタ自由主義ともいうべきものです。現代哲学はその発展段階にも似た階層構造をしています。

その最後の到達点であるポスト構造主義は全てのイデオロギーを相対化し、どれかを否定もしないし肯定かもしれない、肯定にも否定にも絶対化しない思想です。

全てのイデオロギーは主体が行う選択の選択肢でしかありません。これが現代哲学のメタ自由主義であり、この認識を現代哲学のメタ認知と呼びます。このメタ認知と主体の選択が許されている状態を現代哲学の自由空間と呼びます。

また主体性とは何かについても同時にポスト構造主義を使って定義していることに注意してください。それは無限に自由な選択者です。

但しここで問題なのはイデオロギーを持っていなければ選択できません。逆に言えば選択肢をたくさん持っていればいるほど多くの組み合わせの選択ができます。選択肢、すなわちイデオロギーをたくさん持っていれば自由空間は広くなり、イデオロギーをあまり知らない、すなわち不勉強であると自由が小さくなります。

ここで大切になるのが勉強するという事で、本書で主張している哲学（知を愛すること）を持つことが望まれるわけです。自主的に勉強する人は大きな自由空間を持つことができるでしょう。

つまり現代哲学を理解すると現代的な自由と主体性について理解することができます。この自由主義が成立する自由の空間を守ることの個人的、社会的な大切さについては第 2 篇で説明します。

本教科書でみんなでコンテンポラリーフィロソフィー⇆リベラルアーツ（現代哲学⇆教養）を勉強しましょう。

コラム 2

GDP と現代哲学

人間の幸せをはかることは困難なことです。ですが人類は幸福をはかるために色々な努

力をしてきました。

経済学では経済的厚生 of 尺度としてもし単一に定量化できる指標があるとすればGDPがそれだろうと言われていています。GDPは1国内の1年度間の総生産量を測る指標です。これを用いると我々の幸福度は国の生産力と関係があります。どれだけの種類と量の財やサービスを国にもたらしているのかを表します。選択できるサービスと財の種類と量の多さ、すなわち選択肢の多さと大きさ、豊かさと言い換えてもいいかもしれませんが豊かさを幸福度の指標として用います。経済学的な福利厚生 of 指標は他にも失業率など色々あり、経済学以外では例えば公衆衛生の進歩度など数値化が難しいが同じく感覚的、物質的に人間を苦痛から解放し生活の質を上げる指標がありますが目下は欠点があるにせよGDPが用いられているわけです。経済学者はこの指標が幸福をはかるために最善の指標ではないと思っていますが、現在の経済学 of 水準で到達できるもっとも適切な指標と考えています。

現代哲学、特にポスト構造主義をマスターした上で勉強すればどんどん選択肢が増え自由が高まります。

更に現代哲学 of 構造主義をマスターするとそれまで持っていたモダニズム of イデオロギーを構造主義 of 見方で見られるようになり単純に考えて、イデオロギー of 数が2倍に、組み合わせで考えて、同じイデオロギーを①モダニズム of 素朴实在論だけを使ってイデオロギーを見る、②構造主義 of 方法を用いて同じイデオロギーを見る、③素朴实在論と構造主義 of 両方 of 見方を同時に用いてイデオロギーを見る、④素朴实在論も構造主義も用いないイデオロギー of 見方がある可能性を考える、などこれまで持っていたイデオロギーを別の見方でも見られるようにもなるので、自分が身に付けているイデオロギー of 数を増やす効果もあります。

経済学的な幸福度を示すのは消費できる財とサービスの種類や量の豊富さと書きました。

現代哲学的な幸福度はイデオロギー、すなわち勉強して身に付けて知識や考え方の種類と量の豊富さ、と見立てることができます。

言い換えると精神 of 豊かさ、知力 of 豊かさといえるかもしれません。豊かさはたくさん of 選択肢の中から自由に選択ができることであり、それこそが幸福である、ということになります。このようにたくさん of 選択肢から自由に選択できることが幸せと関係があるのかは実際には分かりません。ただ一つ言えることは現代哲学は知力と精神を豊かにしてくれるでしょう。

コラム ピアジェの発達理論

ここで人間の発達段階について考えてみます。

ピアジェという発達心理学者で構造主義者でもある学者が人間の認知の発達について考察を行っています（自分では構成主義者と言っていた、古い理論といわれることもある）。

彼は人間の発達段階を次のように分類しています。

を学べばよく哲学史を学ぶことは必ずしも必要ではありません。現代哲学も他の学問と同じく歴史を引きずっているので歴史を知っていると理解が楽になります。例えばどの学問もそうですがその学問で使う専門用語は歴史的いきさつで名付けられた場合があり、歴史を知っていないと直感的には理解できない場合が多くあります。

また現代哲学に登場する理論や概念は単に過去の哲学で登場する理論や概念の足し算に過ぎない場合もあります。例えばラカンの理論です。

現代哲学で登場する理論や概念を説明するためにその都度部品の説明をするのはスムーズな理解につながらない可能性がありますので、第 3 章では現代哲学を説明するために必要そうな哲学史や昔の哲学の理論について予め説明します。

ここでの歴史は西洋哲学の歴史です。また哲学の定義は知を愛するという事ではなく確実なものは何かを追求する学問という意味で使います。

3-1 近代西洋哲学まで

西洋哲学は確実性を追求する学問です。何の確実性を追求するかによって歴史の語り方も変わります。主なものでは存在の確実性、認識の確実性、道徳（行為の正しさ）の確実性、判断力（真善美を判断する）の確実性、コミュニケーションの確実性など色々なものの確実性を問題にしますが、ここでは存在の確実性、すなわち存在論、認識の確実性、すなわち認識論の 2 つに絞ります。この 2 つの確実性が他の確実性の議論の基礎になるからです。

確実なものは何かについての思弁による探求を古代において徹底的に行ったのは古代ギリシアと古代インドでした。ともにインドヨーロッパ語族でアーリア人と呼ばれます。それらの地域では思想家集団の群雄割拠で各派で活発な研究が行われていました。インド系統の確実性についての思想については基礎篇第 3 部第 5 章現代哲学と仏教の章で説明します。この章では西洋哲学のみを解説します。

古代ギリシアではソクラテス、プラトン、アリストテレスが重要です。

ソクラテスは「自分の知らないことを知っている」といった人です。これはメタ認知です。現代哲学も実は同じ結論で、かつメタ認知をどの様に獲得しどのように維持していくかの思想ですのである意味ソクラテスの言葉は始まりにして終わり、哲学の結論でもあります。これはある意味哲学的にすごい事でもあります。社会的、政治的に大変な考え方でもあり、学問の自由や表現の自由などのない古代、保守的、伝統主義、革新的な考え方を好まない人には社会秩序を乱す思想にもなり得、好かれるわけもないのでソクラテスは死刑にされてしまいました。

弟子のプラトンはイデア論というものを唱えました。事物を我々が認識するとき我々の心の中にはその事物の観念が生まれます。例えば我々が一匹の犬を見た時に心の中には「犬

がいる」という観念を生じます。個物として見るだけにとどまらず「犬」というカテゴリーに分類して物事を見ます。プラトンは目の前の感覚でとらえられず個物としての犬のみならず、観念の世界のようなところがあってそこに真の实在である犬のアイデアというものがあると考えました。アイデアが上位の本質で個物としての犬は本質の陰に過ぎない下位の存在と考えました。实在は観念の中にあって現実の实在と見えるものは本当の实在ではないという考え方は、後の中世神学の普遍論争で实在論として議論されます。現代哲学の3要素は①ポスト構造主義、②構造主義、③实在論ですが、普遍論争の实在論とは違う意味で使っているため、素朴实在論という言葉で現代哲学の3要素の一つである实在論を表現し、中世神学の普遍論争の实在論とは区別します。

プラトンの特徴は世界を2種類に分けて、感覚で感じられる世界とそれ以外の世界があるという考え方でした。それは異世界であったり、天国であったり、別の異次元であったり、神の住むところであったり、想像や空想の世界であったり、観念の世界であったり、夢だったりします。現代的に言えば精神的世界であったり心理学的なものであったりするでしょうから認識論の問題になりますが、古代や中世では神がいたり宗教的世界がありました。そのせいかプラトンは現実ではない世界、アイデア界とその中にアイデアというものがあり現実より上位と考えました。

このアイデア論に対しプラトンの弟子はアリストテレスはプラトンのアイデア論と異なる「質料（しりょうと読む）形相論」やセットである「可能態（デュナモス）現実態（エネルゲイア）論」を唱えました。この場合形相はアイデアと同じと考えてください。アリストテレスはプラトンの様に世界を2つに分割しません。世界は一つだけです。实在するのは個々の事物だけでアイデア界もアイデアという仮定的な实在も存在しません。アリストテレスにおいては形相（=アイデア）は個物の中に存在します。そしてアリストテレスには個物や世界が変化していくという観点があり、質料と形相論が結びついたものは現在ある姿の現実態（エネルゲイア）と可能態（デュナモス）という別の質料形相に変化する可能性があり可能態に従って新たな現実態に変化します。

アリストテレスが重要なのは「オルガノン」で古代の論理学を大成したこと、「形而上学」や「自然学」などの言葉で学問を整理したこと。オルガノンはアリストテレスの論理学の著作集です。これは19世紀にゴットロープ・フレーゲが現代的な論理学を作り始めるまで、中世、近代にわたってずっと使用されてきました。論理学の授業でも中世の論理学として習う事があります。

もう一つ、形而上学や自然学などの概念で学問を分類した点が重要です。プラトンは後の中世神学の普遍論争でネオプラトニズムとして取り上げられる事からも分かるように世界を現実以外に非現実にも世界があるというように2つに分けますが、アリストテレスはより実証主義的というか近代の科学者に近いスタンスでその様な眼に見えない（すなわち観測も実証もできない）ものがあるという仮定を置きません。最終的には中世まではプラトンが優勢で、近代以降はアリストテレスが優勢になります。

アリストテレスは師のプラトンの様に世界を 2 分しませんが学問上の分類と可能性を考慮し世界を自然界と形而上の世界を分けて考えました。

形而上学は「形より上の学」という意味で形とは感覚で捉えられるもの、すなわち私たちが現実存在していると思っている世界や社会のことです。それを研究するのは自然科学 (physics) になります。形而上学はその上に行く学問という意味で、形がないものを扱います。形がないとは感覚で捉えられない、目に見えない、抽象的、観念的なものを研究する学問という意味で現在でいえば心理学や宗教学、認知科学など認識について研究する学問を含むほか、物理学などでいえば実験系ではなく理論系で原理や法則を研究する分野がそれに入るでしょう。哲学もそうです。英語では metaphysics になりますので自然科学 (physics) とは対照的な意味になります。中世には哲学者兼数学の天才みたいな人々が多数輩出しましたが古代ではそういう人はあまりいなかったようです。ピタゴラスくらいでしょうか。これも人物というよりは学派になります。

形而上学や論理学などについては本書では詳しく扱います。

中世のヨーロッパは学問的には暗黒時代で特に言及することはありませんがその間ギリシアの文化を継承し発展させていたアラビアから古代ギリシアを継承発展させた学問が流入し古代末期には徐々に学問が復興し始めます。

中世で大切なのは神学の普遍論争です。

中世神学では普遍 (アイデアとほぼ同じ) が存在するかどうか議論されます。

中世の場合はキリスト教があるため普遍 (アイデア) は実在しないといけません。人間というアイデアがないと人間全体を作ることも救うこともできないからです。これを実在論と言います。

しかしここでイスラムからアリストテレスが輸入されます。アリストテレスにおいては存在するのは事物だけです。は個物にアイデア (=形相) が結びつくため神も現実以外の世界も仮定しません。またそもそも形相 (=アイデア) は変化します。現実態 (エネルギー) と可能態 (デュナモス) の理論によりある現実態を取っていても可能態を持つため別の現実態に変化します。これによれば人間という普遍の実在も変化するということになります。アリストテレスにおいてはアイデアもアイデア界も存在しません。という事はアイデアやアイデア界を神や神の国や天国に見立てることもできません。これは異端ですが圧倒的なイスラム文明の力もあってか、または実証主義や家庭を排して考える精神 (オッカムのカミソリ) の芽生えもあってか唯名論という理論が生まれます。これはアリストテレスの方向性を純化した形で存在するのは事物のみで元から存在する普遍 (=アイデア=形相) を認めません。元から存在するのではなく人間が事物を分類し普遍と見なすという普遍の後付けです。人間は普遍がある様に見えるので名前を付けます。名前を付ける、すなわちカテゴライズしたことにより普遍がある様に見えるだけ、という風に考えます。異端的ですので処刑された人もいます。またカソリック、すなわちローマ教皇と政治的に距離がある、あるいは協会

の弱体化もあって生じた議論でもあり、のちにイギリスはイギリス国教会を作ってカソリックから分裂しますし、ルネサンス（無神論者もいた）を経て宗教改革の起こる先鞭的現象とも考えられ、近代の先駆者たちともいえます。実際唯名論者にはイギリス人がいますし、後にウィレムのオッカムやフランシス・ベーコンの影響からイギリス経験論が生まれます。

ですから神、事物、人間の中にそれぞれ普遍（イデア）がなくてははいけません。

古代ギリシア、プラトンやアリストテレスは現実（形而下の世界）と非現実（形而上の世界）の2つに分けて考えました。中世神学では神、事物、人間の3つに分けて考えます。

中世神学でも確実性の議論は行われていました。しかし徐々に宗教の影響力が弱まりルネサンス期を経て、無神論も含めてある程度自由に思考できる時代に入ります。これが近代です。中世には神や宗教の否定が不可能でそれらを自明なものとした上で唯名論や実在論など神学論争が行われました。

近代になって学問が自由になるにつれ思弁により確実なものへの探求が活発化します。大陸合理論とイギリス経験論などが知られ前者の代表はデカルト、後者の代表はホブズです。特に有名で近代を大きく切り開いたのは前者のデカルトで、数学者としても一流です。心身二元論や要素還元的方法論など、精神と物質を分けた世界観や近代科学的方法論が哲学・数学に大きな影響を与えましたが彼の哲学は神が存在するという仮定が入っており完全ではありません。そうした論争を整理しある回答を与えたのがカントです。彼の著作「純粋理性批判」「実践理性批判」「判断力批判」は近代哲学の枠組みをよく捉えています。

カントは近代哲学の対象は確実性の追求で①存在、②認識、③倫理・道徳、④真善美に対する判断力の4つが対象であることをよく表しています。特に「純粋理性批判」によるカントの存在論と認識論は非常に完成度の高いものです。しかしカントの理論は証明できない家庭が混じっておりその不完全性からドイツ観念論が生まれました。フィヒテ、シェリングを経て、ヘーゲルで完成します。ヘーゲル哲学は完成度が高く、それで世の中の色々なことを説明できますがやはり仮定が入っており完全ではありません。哲学は物事の確実性を探求する学問ですので、世の中の全ての物事を理解するための説明体系であることを目指します。ヘーゲルの理論は絶対精神なるものや弁証法なる方法論が仮定されていますのでそれを信じるか信じないかという意味では宗教と変わらないことはデカルト、カント

と変わりません。教だって世界を説明するその内部で合理的な説明体系です。その仮定を受け入れるかどうかでその思想を受け入れるかどうかが決まるという点で近代哲学も宗教も区別はありません。

コラム マルクスと共産主義

ヘーゲル哲学に当時の経済学や社会主義思想、唯物史観をブレンドしてできたのがマルクス主義思想です。マルクス主義思想から共産主義が生まれ現在でもいくつかの国の政治体制となっています。現在の世界はアメリカの民主主義、自由主義と、中国共産党の 2 極に分かれています。アメリカの政治思想は哲学が基礎という訳ではなく自由主義なのでいろいろな主義主張が混在していますが、基礎教育、英才教育をおこなっているのも現代哲学の理解者がブレーンとして権力への影響力をある程度持っていると考えられます。

あとで延べますが、現代哲学は特定の政治思想を導くことにはないので、自由主義と相性がよいのです。現代哲学を学ぶと現在の世界の最も知性的な層の思考が政治や社会の折々に垣間見えるようになるというメリットがあります。

3-2 哲学の論点

ヘーゲル以降、哲学は停滞します。

ここで近代哲学をまとめてみます。確実なものの探求ではテーマは以下の 4 つが問題になります。最後の 2 つは単純化のため省きます。③④は単純化のため第 1 篇では省きます。①②の問題が解決する過程で問題自体が消滅してしまうからです。

- ①存在の確実性
- ②認識の確実性
- ③倫理・道徳の確実性
- ④真善美の判断の確実性

ケーススタディ 3-2-1①存在の確実性

①存在の確実性について、例えば我々が道端で拾った石ころを拾ったとします。この石ころの存在が確実であるということを保証するものは何でしょう？または逆に考えて手をつかんでいて目の前に見えるこの石ころの存在を否定する根拠は何でしょう？我々は誰もが目に見えて手で触れもして舌でなめたり鼻で匂いをかいでみたり、投げると他の物に当たって大きな音を立てたり当たったものを傷つけたり壊したりするこの石ころの存在は感覚的に否定しようがないように感じるでしょう。感覚的だけではなく、この石ころの美しさに感動を覚えることもあるでしょうし、昔見た石ころに似ているなど記憶で照合するかもしれません。過去に地質学を勉強したのならその時の知識や思い出を連想する人もいるかもしれません。いずれにせよこのような石ころの存在を否定することなく受け入れる立

場を实在論と名付けましょう。他方で感覚なり表象なりでその石ころが存在するように感じてもその石ころの存在の確実さは保証できないとする懐疑的な反論も可能です。

石ころを見たという体験自体が夢だったかもしれません。あるいは神様か悪魔が我々の精神を狂わせてないものを存在しているように感じさせているのかもしれません。あるいは医学では錯覚と幻覚を合わせて妄覚といいます。錯覚は見間違えること、幻覚はないものが見えることです。石ころと思っていたが実は亀だったら錯覚、そもそも存在していなかったら幻覚になります。比較的病院ではせん妄という妄覚を生じる症状を見ることは普通のことです。どの可能性も完全に否定することはできません。

ケーススタディ 3-2-3 ②認識の確実性

他方で②認識の確実性について、仮に確実に存在するものがあるとして我々はその存在を正確に認識できるのかというのが問題になります。認識できるとしたら何を根拠にそういえるのか。普通我々は成長の過程で自然に实在論者になっていきます。道に落ちている石ころが幻ではないとか疑うことは普通ありません。それと同じようにその石ころを性格にありのままに捉えているのかという風には考えません。だとすると色盲の人は色網でない人に比べてその石ころを正確に捉えてないと言えるでしょうか。色網の人の方がただしくて色網でないの方が誤った石ころ像を正しいと思って捉えているだけかもしれません。そもそも霊長類、鯉などの一部の魚類、(鳥類も可?) しか色覚というものはありません。色覚を持った資格認識が正常で色覚を持たない資格認識が間違った認識といえるのか? そもそも視覚というのは電磁場を脳が情報処理して加工しているだけです。情報処理がされた段階で認識される石ころは何らかの修飾を受けているかもしれません。感覚以外にも過去の記憶や感情、意志、表象、思考などの干渉を受けて認識というのは変化します。その様な事実をどう解釈すべきか。我々の捉えている本当の石ころなのか。それ以前に本当の石ころがあるとして本当の定義は何か? 本当かどうか分からない仮定なしに認識の確実性を保証する考え方は近代哲学にはありません。

ケーススタディ 3-2-3 ①②の複合の場合

上記 2 つのケーススタディで想像できることですが、実体の存在が確実で、その認識も正確にできると考える場合があります。これはデカルトの場合で、人類に対して誠実な紙がそれを保証してくれると考えました。

もう一つの典型的な場合は深く考えないで成長した場合です。これは存在の確実性も認識の確実性も常識ではないかと片付けてしまうタイプです。基本的にそれで何の問題も起こることはないのです。それはそれで普通のスタンスです。

ケーススタディ 3-2-4 ①と②が偏る場合。

①で存在を確かなものとして、②の認識については理性、悟性、感性などによって存在

に関する情報処理を行うため実際の物自体を捉えることができないと考えたのがカントです。

一方で観念、つまり②の認識が絶対で、①の存在というものは 2 次的な物で観念が作り出す幻のようなものと考えたのがドイツ観念論です。観念がどうやって存在の認識を作り出すかで哲学者ごとに意見が分かれます。

コラム 3-2 認識対象が抽象的概念である場合

石ころは具体的な物ですので感覚的に捉えられます。感覚的に捉えられるということは協力でこれを否定する場合、否定する側が常識的には批判されるでしょう。そこで感覚で捉えられない認識対象の場合を考えましょう。感覚的に認識できる物ではなく抽象概念が認識対象であったらどうでしょう？たとえば“心”これは物でしょうか。五感で捉えられるでしょうか。捉えられないとすると、捉えられないけれども非常に実在感を持って認識は出来る場合があります。①が存在するのは確実なのか、②の認識の確実性はどうか、非常に曖昧な問題になります。

3-2 をまとめます。

- ・ 存在が哲学の大切なテーマであること。
- ・ 存在を研究する学問を存在論という。
- ・ 認識が哲学の大切なテーマであること。
- ・ 認識を研究する学問を認識論という。
- ・ 存在の確実性を立証するのは簡単なことではない。
- ・ 認識の確実性を立証するのは簡単なことではない。
- ・ 存在論と認識論は相互に関わっている。
- ・ 実在論というものがある。
- ・ 普通人間は成長過程で実在論的な認識をするようになり、それは常識となる。
- ・ 実在論は我々には感覚的、経験的にとても自然に感じられる。
- ・ 実在論を中心に哲学の歴史上様々な議論が行われてきた。

3-3 近代哲学から構造主義までの過渡期

科学とは方法の精神です。言い換えれば結果より結論に至る過程を重視します。新しい方法論が開発されるたびに科学は進歩していきます。ヘーゲルで一旦行き詰った哲学ですが、新たな方法論の萌芽が、自然科学、人文科学、社会科学の色々な分野で発見されていきます。

現代哲学に影響を与えたものを見て行きます。

3-3-1 実存主義

実存とは現実的存在の意味です。実在とは違います。従来の哲学とは確実なものとは何か、を追求してきました。確実なものとは真理や事実、真実や実体、実在や本質と言い換えられるでしょう。実存主義では「とは何か」と問うのではなく「現実的に与えられた状況の中で人間はいかにあるべきか、生きるべきか」と問う考え方です。人間は誰にでも与えられた状況があり、その様な現実を切り離してどう生きるのがただしいかを考えても無意味だと考えます。現実存在である人間がどう生きるのが正しいかを研究する哲学を実存主義哲学と言います。

哲学の 2 つの大きな柱は存在論と認識論と述べました。実存哲学という場合には、存在と認識ではなく、どう生きるべきか、どう判断すべきかの確実性がテーマです。この問題は第 1 篇では単純化のため割愛し、第 2 篇で触れます。

3-3-1-1 ニーチェの哲学

フリードウィヒ・ニーチェは実存主義哲学者でもありますが、存在論と認識論について既存の哲学を方向転換させる大きな問題提起を行いました。

ニーチェは存在の確実性、認識の確実性を探求するのではなく、「なぜ人間は確実なものを探求してしまうのか」を問いました。

それに対してニーチェが出した答えは、

「人間の心は自分が望むような確実なものを欲する心の働きがあり、尚且つ自分が願望したものを無意識に捏造してしまう。そして自分がそれを捏造したことを気が付かずにその存在を信じてしまう。それが確実なものとして認識され続ける欲求が心の働きとして存在する」

そもそも問題は問題としなければ問題にはなりません。第 3 章の冒頭のユリウス・カエサルという言葉の引用で問題になるには問題にしようとする人間の心の欲求があると指摘しました。

ニーチェは既存の宗教、哲学、倫理、道徳などはそういったものであると考えました。具体的にはニーチェはキリスト教の成立を例に挙げました。キリスト教では、神のような絶対者が存在して欲しい欲望があったので神と宗教を作り出し、それを維持したい欲求があった人々がそれを維持していると考えていました。キリスト教は、勝者の民族であるローマ人に対する、現実の政治・軍事ではローマ人によって支配されている敗者の民族であるユダヤ人のルサンチマン（恨み、妬み、嫉妬）から生ずる思想による逆支配によりキリスト教が作られ維持され思想によりローマ人を支配することで復讐するため無意識に作られた宗教であると考えました。ニーチェにとって確実な存在があるかも

確実な認識があるかも問題にする必要はありません。不可知であってもカオスであってもかまいません。ニーチェにとっては真理を作り出そうとする心の働きを問題とします。この心の働きはルサンチマンのようなネガティブなものかもしれませんが、我々が他を超越した偉大な存在になりたいというポジティブな欲求かもしれません。ニーチェはこのような心の欲動を力への意志といいます。ニーチェにとって問題なのは存在や認識の有無や正誤ではなくそういったものは二次的な関心に過ぎません。なぜ心理を探求してしまうのかへの洞察が重要です。力への意志、精神医学や心理学的に言うとエスやイド、リビドーと言った精神力動が問題です。力への意志は精神力動が存在論や認識論を生み出す根源です。

伝統的な哲学はニーチェの哲学と根本的に異なります。ニーチェから見ればデカルト、カント、ヘーゲルなどの哲学者はなぜ哲学者が真理を探究するかへの洞察が浅はかです。問題は問題としなければ問題となりません。問題とするから問題となるのです。なぜ確実なものを追求するというを問題としてしまうのか、哲学自体がよって成り立つ前提を分析したという意味で、従来の哲学の枠組みではなく、近代以前の哲学の枠組みを成立させてきた心の力動から理解すべきことをニーチェは提示しました。存在と認識に関する構造主義はこのニーチェの提起した問いの転換の上に成立します。

3-3-2 現象学

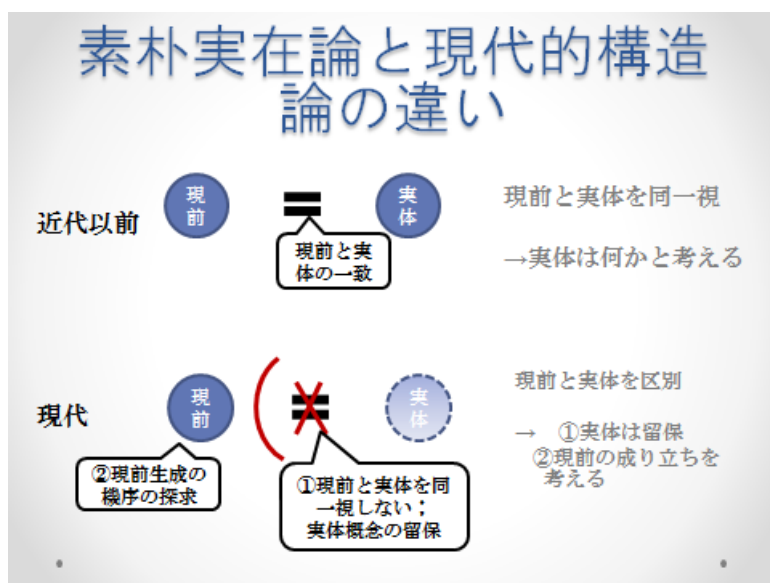
エドムント・フッサールは現象学的還元という方法を考えました。フッサールは哲学を科学として確実な方法論の上に構築しなければいけないと考えました。哲学を不確かな前提から出発するのではなく確かな基盤から出発すべきとし、主体の意識に現れる現象と主観的経験のみが確かなことであると考えました。

仮に意識の中に石ころが認識された場合に、そこから「石ころが存在する」と考えるのは確実なことではなく、そこに思考の飛躍が存在している、確実なのは我々の精神に石ころが認識されていることだけだと考えました。これはそれまでの哲学からすれば思ってもいなかった指摘をされたようなものです。

コラム フッサールと科学、数学

フッサールと現代数学ヒルベルトはフライブルグ大学の哲学科で同僚でした。ヒルベルトは数学者者でしたがフッサールは哲学研究です。フッサールは数学の解析学の帝王で解析学（関数論、微分積分学）を公理化したワイエルシュトラウスの助手をしていたり、代数学を公理化したレオポルド・クロネッカーに指導を受けています。数学の基礎に対する興味から自然科学全般の確実な基礎に対する興味に研究がシフトし哲学の確実性の研究に入ったようです。ですからフッサールとヒルベルトは数学を通じて相互に影響を与え合

っていたでしょう。本書は現代哲学を理解してもらうための教科書ですが、副題は現代数学の基礎論と仏教を理解してもらうというものです。なぜならそれらは同じものだからです。そこはさておき、今後いろんな部分に数学が顔を出しますが、数式やグラフなど数学嫌いな人にアレルギーを起こさせないように載せない方針と致しましたので安心してお読みください。



主観的に確からしく我々の精神に現れることを現前する、と言います。現前して経験されたものの総体、言い換えれば認識されたものの総体が世界であるということになります。であるので石ころが存在するかどうかは判断停止（エポケーという）し、経験のみ、つまり現前のみ、あるいは現前の設立の機構を研究すべきだと主張しました。フッサールの弟子にマルティン・ハイデガーがいます。ハイデガーは現象学者と実証主義者を兼ねていると言えます。師の方法論を踏襲し現象学的方法を用いたうえで、現前の生成する意味論を探求しました。その中で人間は世界の中に投げ入れられ存在せざるを得ない、つまり実存的な存在です。世界の中で経験されるものは人間にとっての意味を持ち存在同士が意味の連関をなしています。何か我々のために存在する事物のありようを指して道具的存在と言いました。要約するとハイデガーは現象学的還元を行ったうえで現象に出現する自己や事物などの現前がなぜ存在するかの意味論を論じました。これは現象学独自の存在論、認識論です。

存在と認識に関する構造主義はこのハイデガーが提示した現象学のフィールド上で展開していきます。

3-3-3 現代数学

数学は厳密の学問です。数学は一番最初に数学に関わる全ての概念から曖昧さを排除し

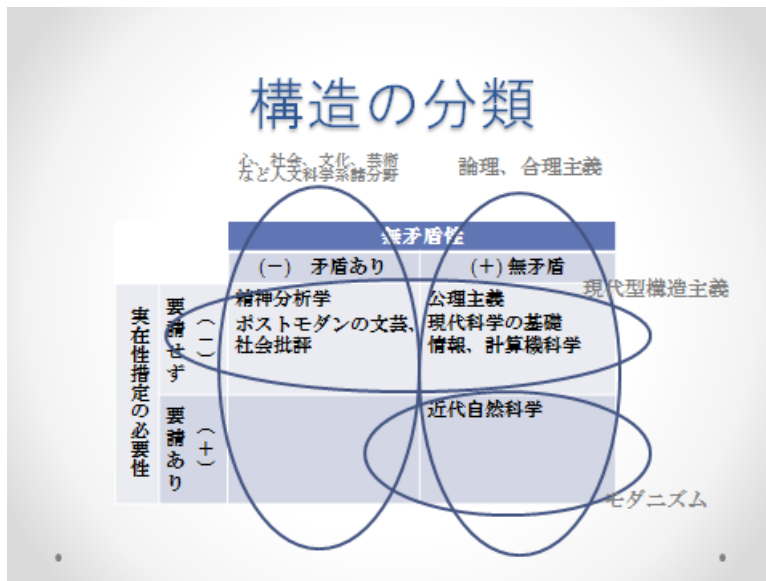
ようとなりました。例えばユークリッドの原論は人類の到達した確実性、厳密性のお手本のよう厚川あれ、数学の議論こそが確実性を正確に議論するという意味で学問の良心のように思われていました。しかし19世紀中盤以降から数学の確実性を疑わせる問題が起こり始めます。一つはまさに学問の厳密性のお手本たるユークリッド幾何学に問題が発生しました。平行線公準とは平行線は交わらないという幾何学のルールです。しかし平行線公準は必ずしも幾何学に必要な規則ではないことが発見されました。平行線が交わるという公準でも平行線が何本も引けるという公準でもユークリッド幾何学と同じような整合性のある幾何学を形成することが可能です。非ユークリッド幾何学の誕生ですが最も模範的な数学であると考えられていた幾何学でそのような事件が起きたことにより、また数学会内部での別のいくつもの事件により数学の厳密で確実な基礎の研究目が向けられ始めます。例えば解析学の分野では無限大、無限小を扱う必要が生じ、無限をどのように位置づけるかに混乱が生じます。数学の基礎を確実にしないとどんなにその上に理論を発展させても間違った法則を導きだすかもしれません。間違った法則というよりは同じ理論で適切な推論を行っても矛盾した2つ結果が同時に出てしまっても文句が言えません。

数学は字面から数を研究する学問と思われがちです。しかしギリシア語ではそもそも「学ぶべきもの」という意味で数の研究とは関係ありません。したがって土という言葉は誤解を招くので誤訳です。高等教育より下の教育では算数、言い換えると算術がメインですので数学と言ってもおかしくはないように聞こえますが、高等教育で数だけ研究する学問と考えると数という概念の範疇には入りきらない様々な対象を研究しているので誤訳がはっきりします。数学の研究対象は簡単に言うと構造です。数理論理学、特に集合論、モデル理論、証明論、計算理論などが数学のきそになります。

現代数学の解説は第3部第5章で詳しく説明します。ただこの先現代哲学やこの本の他の部分で触れることが様々な形で数学と関係していることを意識して読み進めて下さい。

数学の基礎を巡って形式学派、論理学派、直観学派などに分かれて激しい議論が行われます。そうした中で現代数学が確実性を保証し厳密の学問として体制を整えたのは、公理主義です。公理主義派構造主義のプロトタイプで構造主義の特殊なものです。構造主義に関しては次節の言語学でも少し触れます。

公理主義を確立したダフィット・ヒルベルトは現代数学の父と言われています。ヒルベルトは公理主義を幾何学に適用し他の数学の分野に模範を示すことで数学の諸分野の基礎をかくじつなものにしました。数学の解析学、代数学、統計学も公理できますし、物理学等の純粋な理数系自然科学は古典力学、電磁気学、熱力学、量子力学など全てが公理化されます。理論、論理、合理の理は現代では公理を指します。公理主義は構造主義の特殊なものなので、別のいい方をすると理数系の自然科学は全て構造主義化されていきます。



コラム 教養とは？高等教育とは？

数学は中世の教養自由 7 科目で幾何学、論理学、算術、天文学、音楽、文法、修辞学を指します。因みに専門 4 科目は神学、医学、法学、哲学になり、哲学は様々な学問が含まれていてその他という感じもありますが、神学の盛んな当時は神学を補完するものとされ、その後近代になると、ヨーロッパの古い大学では哲学科の中で自然科学、社会科学、人文科学を含む幅広い研究・教育が行われます。伝統的に医学と法学はそこに入れていません。フッサールもヒルベルトも同じ大学の哲学科ですがそこに数学の教室や哲学の教室がありました。教養はリベラルアーツの訳ですが、リベラルという言葉の意味は、ギリシア・ローマ時代にさかのぼります。奴隷社会であった古代社会は奴隷と自由市民を区別しました。奴隷に必要なく自由市民に求められる技術として考えられたのが教養 7 科目です。自由市民であることは高等教育を受けて少なくとも 7 科目を身に付けることが必要条件と考えられてました。本書の執筆の目的は全ての人に現代哲学の普及・啓発・教育をですが、ギリシア・ローマ時代の自由市民のような社会の上層を司る階層は特に現代哲学を身に付けるといいでしょう。アメリカやヨーロッパの大学は日本よりもっと大学での教養課程を大切にしています。日本もそうあるべきです。

3-3-4 言語学と構造主義

フィルディナンド・ド・ソシュールは言語学の研究者です。19 世紀末にソシュールは言語学に変革を起こしました。

言語とは何か？

一つの見方は表現したいことを表現するための手段というものです。

この場合表現したいものが存在し、言語は二次的にそれを表現するために存在します。

ソシュールの行ったことの 1 つ目はこの考え方を逆転させたことです。つまり言語が先

に存在するため、言語により表されるものが存在し得ると考える発想の転換です。

さて表現される対象をシニフィエ、表現する道具をシニフィアンと呼びましょう。この場合我々が表現したいことがシニフィエ、我々がそれを表現するために言葉を用いたらその言葉がシニフィアンとということになります。ソシュールはシニフィエに対するシニフィアンの優位の考え方を、デリダの表現で言えば提示しました。これはある種の宗教に対する冒瀆です。神や啓示は言葉によって行われます。その意味で言葉は特別な物ですが、神や啓示より上に立つわけではありません。また我々は言葉によらない認識というものを信じています。伝統的に言葉＝シニフィアンは認識されるもの＝シニフィエに対して従属するものと考えられてきました。

ソシュールによれば言葉なしでは対象を認識することはできません。人間は言葉があるから存在を認識する能力があるのです。これは極端な考え方のように見えます。しかしここではそう覚えておいてください。

ソシュールの行ったことの2つ目に重要なことは、言語自体に対する見方の変更です。

伝統的には言葉とは現実に存在する事物へ貼り付ける名前のラベルのように考えられてきました。この場合対象である事物の存在を無意識に確実な事と見なしています。それに対してどのような名前を付けようがその事物自体に変化はありません。現実、真実の實在に対して言語が恣意的に作られ、不完全に現実を記述しているように見えます。これは実在論に基づいた考え方です。

しかしソシュールは言語に対して差異の構造、という考え方をしました。これによりソシュールは構造主義の創始者と考えられています。差異も構造も第4章ではキーワードになります。ソシュールは言語の構造を考えます。例えばある名詞が他の名詞と異なるのは異なる言葉(≒記号)が使われるからです。「石ころ」と「心」の違いは文字列の違いです。これによって両者は区別されます。さらに名詞だけでなくそれぞれの言葉を就職したり別の名詞と関係づける関係性がそれぞれの言葉によって異なってきます。道端で拾った石ころとは言いますが、道端で拾った心とは言いません。心の石ころといういい方はしませんが、石ころの心という表現は文化圏によってはありうるでしょう。つまり石ころと心に分けるのは差異と他の言葉との関係性です。これをソシュールは差異の体系と言いました。

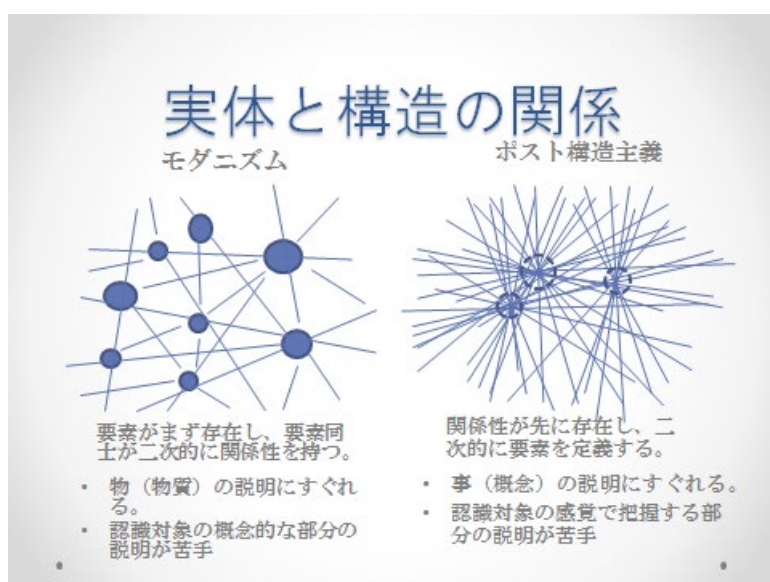
さらに進んで考えるとある言葉は他の言葉と関係性を持つのでマトリックス、網の目の結節点となります。結節点があるから結節点同士の関係を記載すると見ると結節点が一次的でマトリックス、網の目が二次的なように見えます。しかしここでも発想を逆転させてみます。マトリックス、網の目がしっかり構成されていれば、結節点はその後で2次的に定義できます。つまりマトリックス、網の目の方が先に存在する、結節点に対して優位であるという見方ができます。この考え方と構造主義と言います。ソシュールは言語を構造主義で考えました。

先ほどソシュールの行った1つ目に行ったことはシニフィアンが優位でシニフィエが二

次的という見方を提示したことと説明しました。

この1つ目の見方と言語が構造主義的に捉えられるというソシュールの2つ目の見方を合わせて考えると、ソシュールが3つ目に提示した考え方が導き出されます。それは以下のようなものです。

我々は構造主義的な言語を用いて思考します。そしてそれ以外の方法で対象を認識することができません。これを言葉で捉えられている認識対象に置き換えて考えてみましょう。我々は普通何かの存在があって存在同士の関係性が2次的にあると考えます。しかし関係性の規定が先に存在する、つまりマトリックス、網の目が先に存在して結果として結節点を既定できると考える事も出来ます。これを言い換えると、言葉で捉えられている認識対象もやはり構造主義の観点からとらえることができます。すなわち我々が認識していると思っている事物も世界全体も構造主義の観点でみるすることができます。



ソシュールが言語学において提示した構造主義という考え方が後に他の分野に広まっていきますがそれは後の章で触れます。特に20世紀の中頃からあらゆるレヴィ・ストロースによる文化人類学に対する構造主義の適用を皮切りに構造主義の流行が起こります。3-3-3で述べた公理主義は造主義の構造主義の一種です。

3-3-4をまとめます。

- ①ソシュールはシニフィエに対するシニフィアンの優位を考えた。
- ②ソシュールは言語を差異と関係性の体系と考えた。
- ③ソシュールは構造主義を提案した。
- ④ソシュールは認識される事物や世界、すなわち現実も構造主義で捉えられると考えた。

3-3-5 精神分析学、精神病理学

19 世紀に臨床神経医学が発展し有名な学者に神経学の帝王と言われたシャルコーがいます。当時の神経医学は現在の精神科と神経内科学を含んでいます。シャルコーは神経症/ヒステリーとてんかんを催眠術を用いて見分けました。てんかんは生物学的な異常がある病気で、生物学的な異常がない神経症とは明確に異なりますが分けて診断することが困難でした。シャルコーの下にはヨーロッパ中から神経科学の学者が集まりましたがその 1 人が精神分析学の創始者ジグムント・フロイトです。フロイトは無意識を医学に取り入れました。無意識、漸意識、意識は階層をなす、この考え方を前期フロイトの精神の階層論と言います。フロイトは後にエディプスコンプレックスの考え方を提唱し、これは精神の構造論と言われています。

フロイトの死後精神分析学は分派します。フロイトの娘アンナ・フロイトは防衛機制を中心とする自我心理学という学派を形成しました。また弟子のメラニークラインは精神・知的障害の児童の臨床、研究や統合失調症の精神分析の研究から独自の理論を造りその学派はクライン派と呼ばれています。その両者と異なる独自の道を歩んだ研究者達がいて色々なそれぞれ異なる色々な考え方をしますがひっくるめて中間学派と呼ばれています。精神分析学はアメリカで特に盛んになり、更に色々な派が生まれ、1980 年に DSM-III と呼ばれる精神疾患分類が作られるまでアメリカでアメリカの精神医療の中心となります。

以上が精神分析学の概観です。精神医学は地域差が大きく、ドイツでは精神病理学が発達し世界の精神医学のけん引役となります。イギリスやアメリカは精神分析の影響が強いですが大陸のドイツやフランス、ドイツの影響が強い日本では精神病理学が精神医学の中核の学問として発展します。有名なヤスパースは精神病理学原論を書きその後哲学へ轉身しました。20 世紀半ばのカール・シュナイダーの臨床精神病理学は発達障害を除いてほぼ現在の精神科疾患分類と同じものです。思弁によって行き着く学問は実証の学問に先行する傾向があるのは数理系の学問で良く見られますが精神医学でも同じです。

フランスでクレランボーのような本流の精神病理学者に学びながらアルチュセールの様な構造主義者にも学び、構造主義的精神分析を確立したのがジャック・ラカンです。人間の認識の仕組みに対するこれまでにない革新的な理論でした。構造論を用いて実在論とは全く異なり独立した、存在論と認識論のモデルを作り出しました。

哲学は「確実なものは何か」「存在とは何か」「認識とは何か」という 3 つのテーマの解決を目指す学問であるとこれまでも書いてきました。ラカンのモデルは構造主義を用いて人間が確実な存在を認識を行う仕組みを説明する一つのモデルになります。いわゆる近

代哲学と呼ばれるヘーゲルまでの哲学では実在論に何らかの影響を受けずに成り立っているものはありません。更に理論の中に何らかの仮定が混じることも指摘した通りです。仮定が正しければその理論も正しく、仮定が誤っていればその理論も誤っていることとなりますが、それを実証する方法がないのが特徴です。

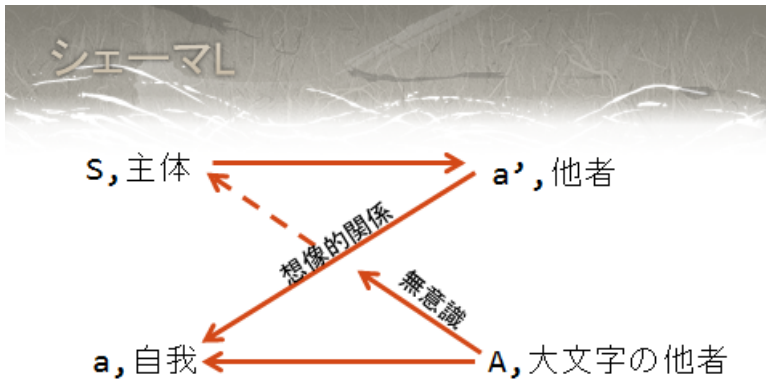
ラカンのモデルも仮定が混ざっていないことはありませんが、実在論の影響を全く受けておらず、実在論と独立して、ということは実在論に関係なく、存在や認識を説明する初めての理論です。

ラカンがこのモデルを考え出したことで、世の中には存在と認識に関する理論は大きく分けて 2 つになりました。実在論に影響を受けて作られた近代哲学までの哲学者の色々な理論と構造主義によって説明される理論です。

重要なのはラカンが構造主義による存在と認識の理論を示すまでは、実在論を肯定するにせよ否定するにせよ実在論の影響を受けた理論しか存在していなかったということです。

1 つでは気が付かない事でも 2 つ以上に数が増えると新たな見方が可能になります。総体的、俯瞰的に見るができるようになります。つまりメタ認知が出来る様になります。比較できますし、選択もできます。ここに自由と主体性、自主性が生まれる余地が生じます。ここからポスト構造主義が生じます。

「認識とは何か」という問いは哲学の主題ですが、精神医学でもテーマです。精神医学で最も重要な病気である統合失調症の精神病理学では患者は認識に関する機能が障害されます。患者さんの内面を理解するための学問である精神病理学では認識について研究します。精神疾患でない人の認識を研究する学問が生理学だとすれば、精神病理学は認識の病理を研究します。生理学と病理学は相互に手を取り合い携わりながら発展していく学問ですから、認識の障害の研究は正常の認識への理解を深めます。



- 関係性や構造の変化により、現前も変化する。
- 現前のモデルにもなる。

ラカンの理論は自己同一性の認識がどのように生成するかを構造主義で説明しました。しかしラカンの理論は自己の認識だけではなくあらゆる事物に拡張されます。つまりラカンはあらゆる事物を認識する機構を構造主義で説明しました。これは新しい認識論を实在論と無関係に構造主義を用いて作ることに成功したということです。

認識や認識論は存在や存在論と別の物ではありますが、実際には深い関係にあることが頻繁に見られました。ラカンの理論も同じで認識論だけではなく存在論をも含む理論ですので、存在論に関する新しい理論も作り出したこととなります。精神医学だけではなく哲学的にも画期的な成果です。ラカンの理論以外にも構造主義を用いて、あるいは用いないで別の認識論、構造論を作ることはできるかもしれませんが、少なくとも 1 つは实在論と無関係な存在論と認識論が存在することを示したのです。これは哲学のターニングポイントでした。

コラム 現代哲学とユダヤ人

ユダヤの民は長く差別され大学の教職に付けませんでした。フランス革命以降の人権、自由、平等の世の中に変わり、ゲットーから解放され、大学の教職にもつけるようになり、学者や研究者を輩出し活躍しました。本書ではコラム〇で取り上げたマルクスがユダヤ人がルーツです。フッサールもユダヤ人です。これから触れる、フロイト、レヴィ=ストロース、デリダなどもユダヤ系のルーツを持っています。

ユダヤ系のルーツを持っていますが近代社会の中ではユダヤ人として生きていない人もいます。

ユダヤ教は男子が 13 歳の時にミツヴァーと呼ばれる成人儀式があつて、アインシュタインは神の存在に懐疑的であったため、ユダヤ教の成員になるのを拒否しました。フロイトは無神論者です。マルクスはユダヤ教の祭司の家系ですが祖父か父の代に弁護士になるため

に、ユダヤ教徒を帰京しキリスト教徒になっています。現在は特にそうですがユダヤ人と
言っても色々な流れがありますのでユダヤ人やユダヤ教を十派ひとからげに損じるのは望
ましくありません。

3-4 現代的構造主義以降、ポスト構造主義による哲学の完成。

・構造主義

3-3 をまとめてみます。3-3 を理解するといわゆる哲学に構造主義が導入されたことを説
明できます。

簡単に哲学における構造主義の仕方をまとめると、

- ①ソシュールが現象学的還元論にて創り上げた現象のフィールドで、
- ②ラカンの作った認識論、存在論を適用して現前を説明し、
- ③ニーチェの力への意志でラカンのシェーマ L のエスを捉え、
- ④ソシュールの構造主義的言語論で現象を捉える、

①～④で 3-3 を理解すると構造主義において哲学の理論を創り上げることができます。

これは画期的な理論です。どういう意味で画期的かということ、繰り返しますが、従来の
哲学理論は实在論の影響を逃れられないものしかなかったからです。構造主義による哲学
理論は实在論とは全く関係のない、数学的には背反ではなく独立な存在論、認識論を手
入れたことになります。

結果として人間の認識論と存在論に関しては大きく分けて 2 つの考え方ができること
になります。一つは人間が元々成長と共に身に付けて常識となっていく实在論に基づくい
ろんな哲学群です。近代までの西洋哲学の理論はこれに当てはまります。もう一つは 20 世
紀に入って生まれた新しい考え方をを用いて作られた構造主義による認識論と存在論です。
ラカンなどが示したのは一つのモデルですが少なくとも一つは構造主義的な哲学モデルが
作ることができることを示しています。

一応注意しておきますが構造主義は別に哲学にだけ応用できる考え方ではありません。
全ての学問や物の見方に応用できます。数理系化学も非数理系化学も基礎を構造主義にお
くことが可能ですし我々の不断の生活の物の見方も構造主義を応用できます。例えば文化
人類学のレヴィ・ストロール、共産主義を構造主義で分析したルイアルチュセール、文献、
文学、テキストを構造主義で分析したロラン・バルト、文献学、書誌学、歴史学のミシェ
ルフーコーなど色々な分野に構造主義は使われています。

その中で哲学にとって大切なのは認識を構造主義により解釈することです。これは楮主義の四天王とも言われる精神医学者のラカンによって行われました。

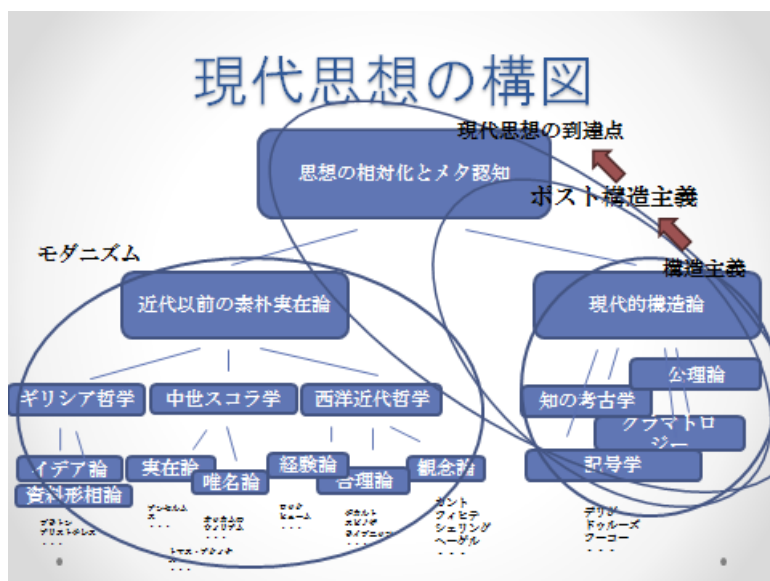
・ポスト構造主義

よって人間には存在認識に関していくつかの見方、少なくとも 2 つの見方をことが可能であることが分かりました。可能性だけでいえばこの 2 つだけでなくもっとたくさんの方があることがあるかもしれません。今までは実在論に影響を受けた存在と認識に関する理論、構造主義から作られた理論の 2 つを考えましたが、我々がまだ発見していないだけで他にもこの両者と独立な理論が一つならずないとは言い切れません。そしてその発見されてない理論が複数あるかもしれません。我々には常に知的な謙虚さが必要です。

こういったメタ認知的な考え方をポスト構造主義と言います。時に応じてどちらかの見方だけしてもいいし、両方の見方を同時にしてもかまいませんし、まだ見つかってない新しい存在論、認識論をこの 2 つに組み合わせてもいいので可能性として 2 の 3 乗の見方ができることになります。

ただそれら全ての可能性を考えるのは理屈上の話で実際にはこの実在論的哲学理論と楮王主義的哲学理論の 2 つの考え方を理解し使いこなすことがポスト構造主義になります。別のいい方をするとどちらか片方の議論に偏らず、両方の考え方を相対化できること、メタ認知的に捉える事が必要です。メタ認知的な見方はまとめると次の 9 通りの見方ができます。

- ①実在論に影響を受けた理論だけを用いる。
- ②構造主義による理論だけを用いる。
- ③実在論な見方も構造主義的な見方もどちらも同時にする。
- ④実在論的な見方も構造主義的な見方もどちらもせず別の見方だけをする。
- ⑤実在論的な見方も構造主義的な見方もどちらもせず別の見方も何もしない。
- ⑥実在論的な見方とそれとは異なり構造主義的な見方とも異なる別の見方を同時にする。
- ⑦実在論的な見方をせず、構造主義的な見方と実在論的な見方とは異なる見方を同時にする。
- ⑧実在論的な見方、構造主義的な見方、そのどれとも異なる別の見方を同時にする。



一般的に①②③だけできれば現代哲学を理解したと考えてもいいでしょう。

もう一度一応注意しておくとして別の見方というのは複数あるかもしれないので組み合わせの数はもっと増えていくかもしれません。上記のようなあらゆる考え方を俯瞰的、総体的、殉難に自由にできることがポスト構造主義の見方であり全ての哲学理論を相対する見方です。

3-5 第3章のまとめ

この章は特にごく簡単に歴史の流れを書きました。

そこで第4章、本書の本題に入るにあたって重要と思われることをいくつか拾い出して箇条書きします。

- ①人間はふつう誰でも实在論を発達過程でみにつける。
- ②哲学の歴史で大切なのは存在と認識をめぐる議論であった。
- ③存在論と認識論はいろいろな形で関係する。
- ④現代より前の哲学の論点、問題点を理解しておくとして現代哲学の理解に役に立つ。
- ⑤現代的構造主義の成立は画期的なことであった。
- ⑦現代哲学を理解してしまえばそれより前の哲学は理解する必要はない。しかし理解すると現代哲学の理解が深まる。
- ⑧現代哲学を理解するということは实在論と構造主義、ポスト構造主義を理解するということと同義である。
- ⑨現代哲学より前の哲学を勉強するということは哲学の歴史を学ぶということと過去の哲学者や学派の理論や考え方を勉強するのと一緒のことである。

⑩とりあえず最低限、哲学は現代哲学だけ学んでおけばよい。

第4章 現代哲学の解説

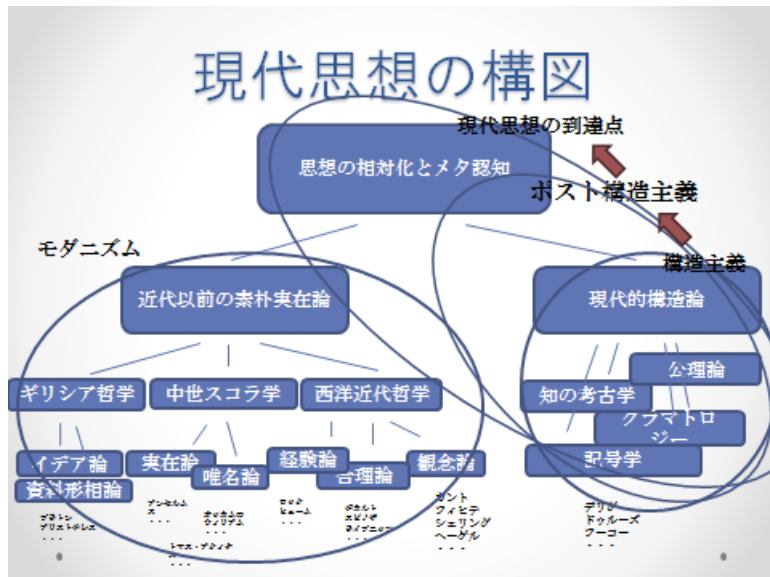
私は自分が知らないことを知っている。 ソクラテス

4-0 この教科書は本章だけ読めば現代哲学が理解できるように書いてあります。特に要点だけ知りたければこの章だけ読んでもらっても現代哲学を理解できます。

結論を先に書きます。

- ①素朴实在論を理解する
- ②現代的構造主義を理解して哲学に応用する。。
- ③ポスト構造主義を理解する。

それを1枚の図でまとめます。



この図が理解できると現代哲学の半ばを理解したことになります。

①②③の中で難しいのは構造主義を理解することとラカンのシェーマ L の理論を理解することです。

理解すべき要点を図示してみます。

実体と構造の関係

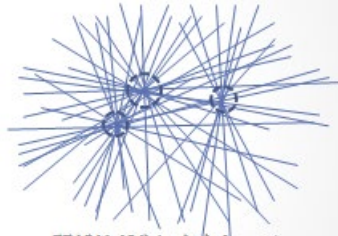
モダニズム

ポスト構造主義



要素がまず存在し、要素同士が二次的に関係性を持つ。

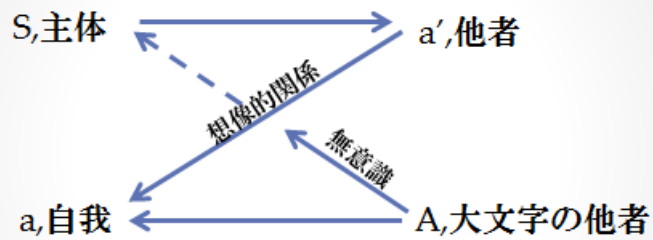
- 物（物質）の説明にすぐれる。
- 認識対象の概念的な部分の説明が苦手



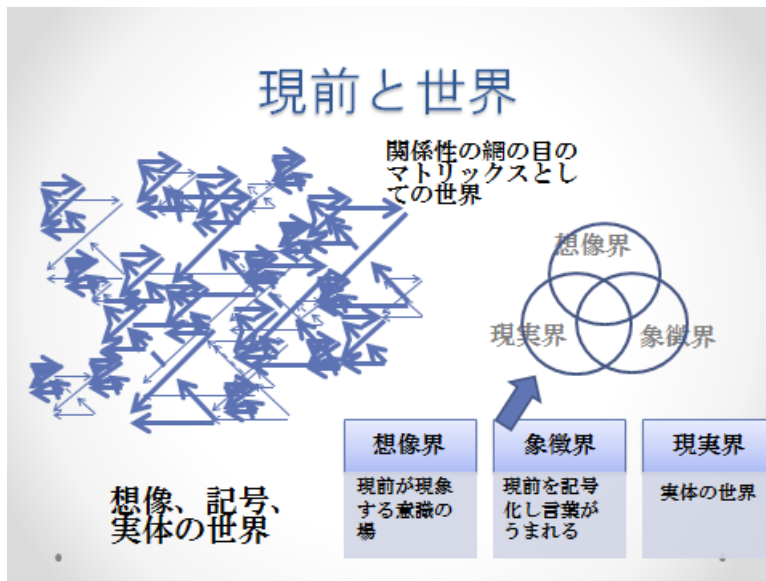
関係性が先に存在し、二次的に要素を定義する。

- 事（概念）の説明にすぐれる。
- 認識対象の感覚で把握する部分の説明が苦手

シエーマL



- 関係性や構造の変化により、現前も変化する。
- 現前のモデルにもなる。



上の2枚の図は理解する必要があり、3枚目のスライドは左側半分だけを理解してもらえばかまいません。因みに著者は精神科のクリニックを運営していますがそのロゴマークはシェーマLと3枚目の図の右側、ポロメオの輪を組み合わせたものです。

ポスト構造主義を理解するということは以下を意味します。

- ①' 実在論を理解して使いこなす。
- ②' 構造主義を理解して使いこなす。
- ③' 素朴実在論と現代的構造論の両方の見方を同時に出来る。
- (④' 素朴実在論も現代的構造論も否定して別の可能性を想定できる。)

少なくとも①②③の見方が出来る様になればポスト構造主義を理解していると言えます。
④' ができればポスト構造主義をアドバンスに理解しています。

さらにポスト構造主義を一般化すると結論はメタ認知能力の獲得の一言で言い表せます。

⑤言い換えると”全ての思想(哲学、宗教、思想、理論、なんでもよい)を俯瞰的、総体的に見ることが出来る。これが最終形態です。これをマスターすれば第2篇で現代哲学を応用し尽くすのに役に立ちます。

この中で難しいのは②②'です。ポスト構造主義は実在論と構造主義を片方を絶対化せず、両方の見方をできるという考え方なので構造主義が理解できればポスト構造主義を理解するのは簡単です。⑤だけでいうと別に構造主義を理解していなくてもすでに日常行っている頭のよい人もいますでしょう。

そこで結論として現代哲学を理解するために最も難しいのは現代的構造主義を理解することと言えます。言い換えると構造主義を理解できれば現代哲学は簡単ということになります。

4-1 現代哲学の3要素

本節と本章の最後の節で結論をまとめて書きます。そして最初と最後の間の中間の部分で現代哲学の理論、体系を形成する要素に対する解説を行います。

現代哲学を理解するという事は実在論を理解する、構造主義を理解して哲学に適用できる、ポスト構造主義を理解するの3つに集約されます。

これらを理解した上で哲学の3つの主題である「確実性とは何か」「存在とは何か」「認識とは何か」に対する哲学の到達した最終的な答えを知ることで現代哲学の理解が完成します。

確実性を研究する哲学という学問は“存在”と“認識”という2つの研究対象を持っています（繰り返しますが倫理道德の確実性、真善美の判断力の確実性の問題は単純化のために省きます）。

“存在とは何か？”の探求、存在の確実性、確実な存在を研究するのが存在論です。

“認識とは何か？”の探求、存在の確実性、確実な存在を研究するのが存在論です。

ケーススタディ 石ころと心 認識の分析

石ころであれば我々は見えて色や形を確認できる、触って触感や重さ、硬さを確認できる、それを繰り返し可能で再現性がある、他の人も共通する体験が可能で、かつ石についての過去の色々な記憶や知識、経験、観念を持っているからその石ころが存在していると認識しています。感覚で認識できる認識対象の側面を物性、感覚以外のもの、精神の表象作用や思考、感情、記憶、知識、対象の機能性などによって支えられる認識対象の側面を事性として分けてみましょう。我々の認識対象（これからは現前と呼びます）。普通現前には多面性があります。物として捉えられる部分と事として捉えられる部分があります。純粋な物、純粋な事もあるかもしれませんがその純粋な物と純粋な事を両端として多くの事物は多かれ少なかれ物性も事性も両方持ち合わせています。我々の認識というのは多面的に行われているわけです。

コラム 物と事

我々の認識対象として感覚の五感に強く依存しているものを“物”、感覚的にもイメージ的にも五感に依拠していないものを“事”と名付けましょう。我々の認識対象は実は両方

の面を持っています。石ころの認識は感覚の五感だけから成り立っているわけではなく、実は事としての側面があります。逆に純粹に抽象的だと思っている概念が感覚的、イメージ的、記憶的な五感に影響を受けている場合があります。

コラム 実在、実存、実体、現前、

少し言葉の生理をして見ます。

実在という言葉があります。これは事物が実際に存在しているということで対象の事物の存在を確実なものとしています。事物が現実的存在しているとも言い換えられます。

似た言葉で実存という言葉もあります。この言葉も元々は現実的存在を指すので実在と似ているようで紛らわしくもあります。どこが違うのかというとこの場合の現実的存在というのは私以外の事物ではなく、私自身を指します。実存主義で使われる言葉で上の実在ということばより特殊な意味があります。実存主義では自分というものが確かに存在するかしないかを問うのではなく、今現在私に与えられた周辺状況の中に否が応でも居ざるをえない自分がどの様にあるべきかを問います。ですから実存的な悩みと言えば、自分は今ある状況の中でどういう風に生きるべきかと悩むような態度になります。

実体という言葉があります。実体という場合には実体の存在は確実で疑う余地はありません。そしてその存在の本質を正確に現している状態です。認知や認識のゆがみが生じていないので事物が確実に存在している、かつ、本質の姿で存在しているという意味です。これは本質というものがあるというのを仮定した言葉でもあります。

現前、という言葉は具象的な物であれ、抽象的な観念であれ、私たちの意識の中で存在感を持って姿を現している事物で、我々の認識対象となるものです。存在感を持っていますので確実に存在していると思ってしまうがちです。実際西洋哲学では現前をどう扱うかが主要なテーマでした。

4-1 現代哲学の理論の大枠

4-1-1 実在論

・存在について

まず実在論とは何かについて考えます。物事には実体が、実際に存在するという考え方は、これは普通我々が成長の過程で自然に身に付ける考え方は、我々は普通哲学的な思索を始める前は普通、自分が認識している事物が本当に存在しているのかどうかとは考えません。たまたま考える事があってもそのまま考え流してしまうことが多いでしょう。深く考えたいなと思うと哲学を勉強することになります。存在論の具体例は道に落ちている石ころを拾った場合、それは間違いなく存在していると考えます。それが実は存在してないのではないかなどとは考えません。忙しい時には時間の無駄だからです。普通の日常生活では石ころは実在するものとして扱って問題は生じませんし、常識と見なすべき

でしょう。それについて深く考える人は哲学的な思考をしているのだなという感想でお終いです。別の例では石ころのような感覚で捉えられる物ではなく、観点的な心というものが存在するかどうかという問題があります。このような抽象的な問題に思考を深めていくと「存在」というのも考えてみると難しい面があるのだなと分かります。

この素朴な物事に対する実在の感覚は生まれてから大人になるまで発達とともに自然に培われていくものでむしろ培われないと異常事態というべきです。ある種の神経発達の障害や精神障害はこの発達が上手くいかなかったり、あるいは一度身に付けた後に失ってしまうことによって精神科では疾患や傷害としてその様な患者さんと出会うことがあります。

・認識について

我々は正しく事物を認識できると考えてやはり成長します。時に注意が散漫なときや意識レベルが低い（例えば寝ぼけている）、錯覚して見間違えることもあるでしょう。しかししっかり気を入れて対象を眺めれば正確に対象と捉えることができると考えて育ちそれが常識となります。これも普通はそれで何の問題も生じず、特に深く考えなくてもそれをそのまま受け入れて生活するのが常識ともいうべきもので、深く考えるのはなんとなく思いついた時や性根を入れて哲学的に考える時などの特殊な場合に限られます。いずれにしても認識について深く考えなくても日常生活、社会生活、あるいは政治や社会の大きな事象も何の問題もないのは存在について上でふれたのと同じことです。

またこういう認識の感覚が正常に育たない場合を知能や学習の神経発達の障害として障害者として扱われる場合がありますし、後天的にそういう能力が失われると失認や意識障害などやはり精神科にかかる場合があります。

・存在と認識

さらに考えを進めると存在と認識は深い関係があることも分かります。普通我々は存在しているから存在しているものを認識できると考えます。存在していないのに認識するのは頭の中でシュミレーションする時か、ちょっとおかしくなったときなどの特殊なばあいと考えて処理しています。

また我々は認識しているからその対象の事物の存在を間違えないものと考えます。道に落ちている石ころを拾ってそれが自分の認識の間違いで実際は存在していないかもしれないとか、正しくその石ころを理解できていないのではないかなどは考ええません。そういうことを普段考えても仕方ありませんし、それで生活や社会に何の支障も生じません。特殊な事を考えるのは哲学的な気分になった時や暇な時にふと考えるくらいの物でしょう。

・実在論のまとめ

まとめると実在論では認識と存在に密接な関係があります。存在の根拠は認識ですし、認識の根拠は存在です。これは哲学を学んでいなければ普通我々の常識です。それは清涼

の過程で自然に身に付ける物です。

近代以前の西洋哲学はこの実在論の影響の下に行われています。いい方を変えると実在論の影響から全く離れた哲学を構築することはできませんでした。代替案がなかったからです。実在論はあっても非実在論には具体的なものがないため、議論自体が空理空論で中身の無いものでした。

実在論の影響を排除できなかったので哲学史は存在論と認識論をめぐる思弁の繰り返しのように後の世の眼からは見えます。哲覚のみならず宗教や思想も多くは実在論が前提としてあります。

そのように強力な先入観である実在論から一切の影響を受けず初めて独立して成立した理論が構造主義による存在論と認識論でした。

・現前について

我々の中で石ころをどう認識し情報処理しようとその石ころの存在証明にも存在否定にもなりません。一方その石ころがあるということより大切なのは繰り返しますが、我々は見ても色や形を確認できる、触って触感や重さ、硬さを確認できる、それを繰り返し可能で再現性がある、他の人も共通する体験が可能で、かつ石についての過去の色々な記憶や知識、経験、うんちくを持っているなどのその石ころとの関係性です。

その様な存在は生き生きとして存在感を主張しまさにそこに今現在存在する、臨在感を持ち実在感を持ち、実体として存在しているものであるということを我々に自然に確信させます。

このような認識の在り方を実在論と言います。物事が実体を持ち実在するという考え方です。

コラム

石ころについて考えましょう。

我々は見ても色や形を確認できる、触って触感や重さ、硬さを確認できる、それを繰り返し可能で再現性がある、他の人も共通する体験が可能で、かつ石についての過去の色々な記憶や知識、経験、うんちくを持っているからその石ころが存在していると認識していますが、別に我々の中で意思をどう認識し情報処理しようとその石ころの存在証明にも存在否定にもなりません。一方その石ころがあるということより大切なのは繰り返しますが、我々は見ても色や形を確認できる、触って触感や重さ、硬さを確認できる、それを繰り返し可能で再現性がある、他の人も共通する体験が可能で、かつ石についての過去の色々な記憶や知識、経験、うんちくを持っているなどのその石ころとの関係性です。関係性の相対を構造と言います。構造は我々の認識対象の存在の有無と関係なく構築しえます。我々は

何かを理解するのに時に実体概念を必要としません。これが現代です。

4-1-2 構造主義

第3章のソシュールの解説で、構造主義を説明しました。

この章でも構造主義について説明します。重複するかもしれませんが構造主義の理解が現代哲学理解の肝です。これを理解してしまえばポスト構造主義派簡単ですし、実在論は初めから簡単です。

もう2点、この章で公理主義とラカンの理論についても説明します。

公理主義化された構造主義と公理主義化されていない構造主義の区別は構造主義を実際に使いこなして頭を良くするうえで重要です。

また哲学に構造主義を適用した場合にどうなるかについて考えます。この例としてラカンの理論を説明します。哲学への構造主義の導入はポスト楮主義をもたらす哲学を完成させ終結させたか理解するのに重要です。

ややボリュームが熱くなるかもしれませんが第2部がこの本のクライマックスになります。

簡単にまとめておきます。羅漢の理論が哲学の認識論、存在論と構造主義を結びつけます。ラカンの理論が近代と現代を分かち結節点です。

羅漢のシェーマLの理論は、現象学、精神分析学、実存哲学（特にニーチェの哲学）、構造主義、をまとめたものでそれらの足し算です。

らんかのシェーマL（構造主義的認識・存在論）

=

現象学

+精神分析学

+実存哲学

+ニーチェ

+構造主義

です。

4-1-2-1 構造主義とは何か

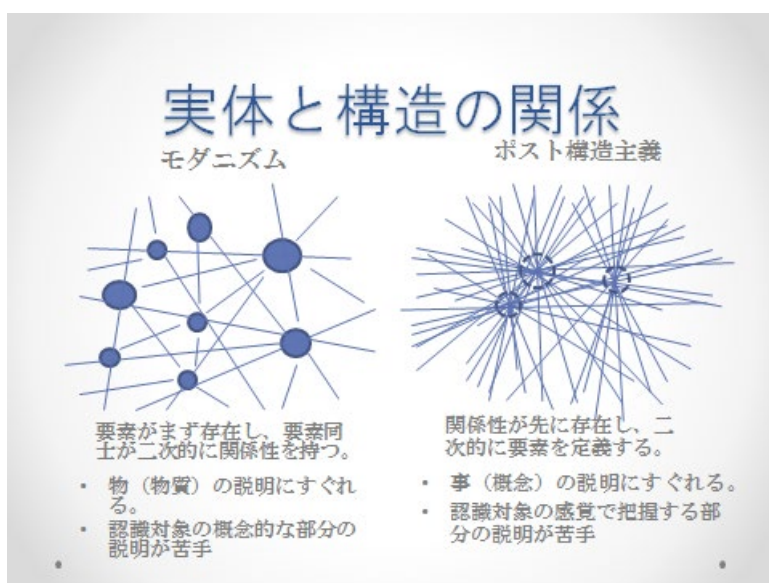
構造主義は対象を構造の面から考える考え方です。構造とは対象としている事物の差異と関係性の体系です。対象としている事物が何かとか実際に存在しているかとかは考えません。あくまで全体の関係性に注目しどのような体系化がされ構造が形作られているかを考

えます。

世の中というのは 2 つに分かれています。①認識する対象である事物、②事物の機能や関係性。言い換えれば事物とは何か？という問いを保留し、その機能や他の事物との関係性だけを研究します。

4-1-1 で実在論は物があってそれを認識すると考える、あるいは認識できるのは認識する対象の物があるからという考え方と説明しました。実在論においてはものの実在は前提です。

構造主義においてはものの存在は前提ではありません。本当に存在するのかとか、ほんしつとか何かという問いは留保（エポケーといいます）します。



4-1-2-3 公理主義と構造主義

構造主義の説明は簡単ですが若に利にいくかもしれません。第 3 章では現代数学、ソシュールの言語論、ラカンの理論によって構造主義の一部を説明しました。

ここでは現代数学の構造主義として大切な公理主義の説明をします。

これが重要なのは現在、公理主義は数理系の科学の基礎になっている他、情報科学や計算機科学などの基礎でもあり、IT の様な重要な産業、技術の基礎になっているからです。

そもそも構造主義の元祖は数学に求められます。数学は英語でマスマティクスといますがギリシア語の語源の意味は“学ぶべきもの”という意味です。数学というと数を勉強する学問という風に捉えてしまいがちです。数学という翻訳は数学を誤解させる誤訳と言っていていいでしょう。数学が数を研究する学問ではないとすると何を研究する学問か？

ここでキーワードは無矛盾になります。実は数学というのは構造を研究する学問です。構造を研究する学問の厳密で確実な基礎を追求する過程で、構造主義が生まれました。

数学が構造を研究する学問であるからという訳ではありませんが、現代の構造主義の考え方を最初に造ったのは現代数学の父ダフィット・ヒルベルトで言語学のソシュールより先です。ヒルベルトの造った構造主義は公理主義と呼ばれるもので、一般的な構造主義の特殊なものです。

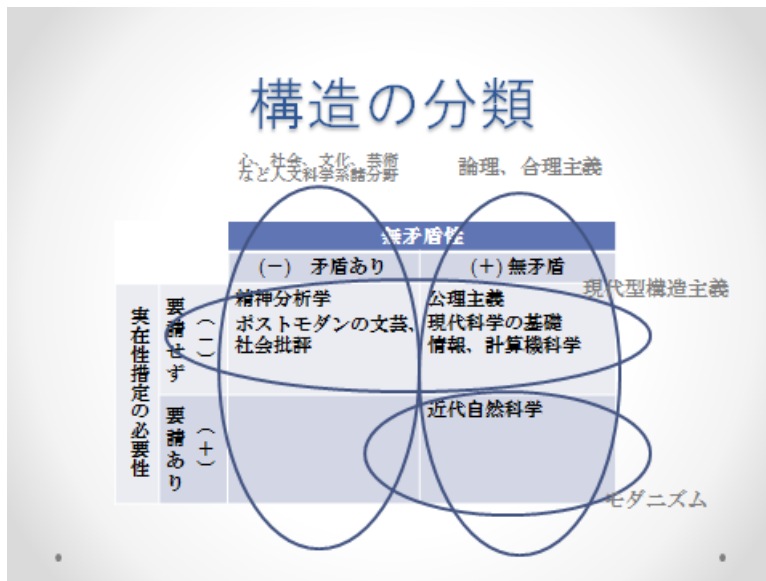
一般的な構造主義と公理主義を分けるのは簡単に言うと構造が無矛盾であるかどうかです。構造主義は、例えばソシュールの言語論の構造主義が対象とする自然言語は矛盾を含みます。自然言語で考えると我々はいろいろと矛盾した結論が導き出されますし、それが当然であると考えています。たとえば我々は言語を使って「人間とは理性的存在である」という結論と、「人間とは理性的存在ではない」という結論が同時に出たりします。

しかしだから自然言語は正しいとか間違っているというものではなく元々自然言語はそういうものなのです。自然言語はそれを使って論理を行うこともあるかもしれませんが、それだけが役割ではありません。質問したり命令したりするので命題をあらわせる平叙文だけで構成されているわけではありませんし、感情や意志など思考以外の物も表します。詩や文学や歌詞など美術、芸術にも使われます。そもそも自然言語が対象とする世界は論理の世界だけではありません。排中律は背理法などとも自明でもなく成り立ちもしない現実の世界、社会を、曖昧な人間な心に適用されます。

数学、そしてその一分野ともいえる論理学はそもそも命題しか扱いません。そしてそれは命題は真偽が明解です。またその命題は規則により生成可能かどうか厳しく審査されます。

また数学は論理や論証のみを扱います。人間の感情や感動を表現するのは数学の仕事ではありません。数学の一分野（論理主義では数学が論理学の一分野と考えられた）数理論理学では論証、前提、命題、結論、健全性、妥当性、真偽などの概念は使いますが、芸術の美しさやこの世の素晴らしさは研究しません。言い換えると命題や言明の内容については興味がありません。あくまで論証の形式だけ研究しますので形式主義とも呼ばれます。

数学は第 3 章で述べたような問題が生じました。数学は哲学のように存在や認識の確実性を追求する学問ではありませんが、数学的対象をどう位置づけるか、証明の正しさをどう保障するかを考える点で厳密性、確実性を研究する必要が生じました。数学は公理主義という考え方で当時数学に起こっていた数学の危機を救いました。



以上のように公理主義も構造主義の一種です。ただ公理主義の場合以下に述べる制限が付きます。公理の設定の仕方が数学で照明や推論を行う際に矛盾が生じる物であっては いけません。数学的論証は矛盾のない結果が出なければいけません。それを保証するため公理は無矛盾性を保証するように初期設定されなければいけません。つまり公理の設定の仕方が重要です。つまりルールに従う限り証明結果が無矛盾、すなわち A という結論と A でないという結論が療法導き出されないようにしないと いけません。

やや細かくなりますが完全性や独立性を守るように設計されますがこれは単純化のため省きます。

また注意点として、数学的実在、例えば点や線が実在していたとしても公理主義には何の影響もありません。数学的概念が実在していようとしていまいとそういった事実とは無関係に公理主義は成り立ちます。すなわち数学という独立の関係です。ですから公理主義が成立したからと言ってそれまでの数学が否定されてしまうことはなくそのまま存在し研究されています。但し特殊な問題、連続体問題とか完全性の問題とかを考える際には公理主義が必要です。そういうのは極めて基礎的な問題ですので、普通の数学者は公理主義の知識がなくても数学的に大きな発見をすることもあり得ます。

現代数学では数学は公理化されていますが、別に素朴実在論のスタンスで数学しても特殊な場合を除いて結論は変わらないことの方が多いです。またたとえば公理化された幾何学である命題を証明しても公理化されていない数学でその命題を証明しても、証明の仕方が見かけ上大きくは変わらないことが多いです。

だから初等数学では公理は教えません。古典のユークリッド幾何学で幾何学してもおかしな結論がでることはないです。初等・中等教育で公理主義を教える必要のない一つの理由です。

しかし学問の厳密性を考える際には公理主義が必要になるため現代の学問は公理主義を基礎に成り立っています。

無矛盾であるということで公理主義は矛盾が出てはいけない学問、数理系の科学の基礎になっています。数学、物理学などです。またどのような科学であれ理論や体系を用いる際には公理主義が必要になります。

一方自然言語や人間の精神、心理、認知、文学、芸術、文化人類学、言語学、歴史学、文献学、ファッション、デザインなど無矛盾ではない、矛盾を含んでいる対象を考える際には一般的な構造主義が必要です。

コラム 存在、認識、そして不可知

実在のは有るか無いか不可知です。認識は正しいか歪んでも認識できるかです。という考え方で 12 とおりの考え方ができます。

- ①実在があって、それを正しく認識できる。
- ②実在があって、存在らしきものを認識するが正しい認識ではない。
- ③実在があって、それを認識できない。
- ④実在がないのに、実在らしきものを正しく認識する。
- ⑤実在がなくて、実在らしきものを認識するが正しくはない。
- ⑥実在がなくて、実在らしきものも認識できない。
- ⑦存在は不可知だが、実在らしきものを正しく認識できる。
- ⑧実在は不可知だが、実在らしきもの認識できるが正しくはない。
- ⑨実在は不可知で、実在らしきものを認識できない。

説明すると、

- ①は素朴実在論か実在論です。
- ②は実在論です。
- ③は無の世界なので考える意义がありません。
- ④は観念論か構造主義か現代的構造論です。
- ⑤は観念論か構造主義か現代的構造論です。
- ⑥は無の世界なので考える意义がありません。
- ⑦は観念論か構造主義か現代的構造主義です。
- ⑧は観念論か構造主義か現代的構造主義です。

⑨は無の世界なので考える意味がありません。

①は例えばデカルトで②はカントです。①②をまとめて素朴实在論と表しました。③⑥⑨は組み合わせの可能性としてあるだけで意味がないので無視します。

③④⑦⑧は現代的構造論の可能性がありますが、観念論と構造主義の可能性がありますが。観念論は近代哲学ではドイツ観念論で非常に洗練された議論がされています。すると構造主義と現代的構造主義の違いですが。構造主義化の手法の洗練度で分類しました。仏教も現代哲学も同じ結論をだしていますが、仏教は結論に至る方法があいまいです。一方現代的構造主義は結論に至る方法論が明確でその方法論を使っていろいろな分野に転用可能です。現代的構造主義の一種の公理主義は現代の自然科学の基礎になり、現代社会を支えており、それがないと現代社会が崩壊してしまうレベルです。

4-1-2-3

構造主義の存在論、認識論への適用

構造主義自体は哲学ではありません。ただの方法論です。学問の一つの方法です。

問題は構造主義を哲学の存在論、認識論に適用してみるとどうなるかが問題です。

そもそも適用自体が可能でしょうか？

答えは適用は可能であり、更に既存の哲学に大きなインパクトがある結果をもたらす、というものです。

それを行ったのがラカンという精神医学者です。かれはシェーマ L というモデルで示される理論を造りました。

哲学は全ての自然科学の基礎です。実は实在論自体は哲学だけでなく別の方面でもゆらゆらしていました。一つは物理学、もう一つは精神医学、心理学を含んだ認知科学です。

物理学では相対性理論や量子力学の不確定性理論が登場し、既存の時空間概念や存在概念が自明ではなくなりました。

精神医学、心理学を含んだ認知科学は元々精神の異常を扱ってきました。正常でないので哲学は扱う必要はないという、異常なものへの特別視で、偏見、先入観、差別を無意識に伴っていたかもしれません。

そういった例外はともかく、特に近代に発達した著しい科学の基礎付けは实在論が用いられてきました。

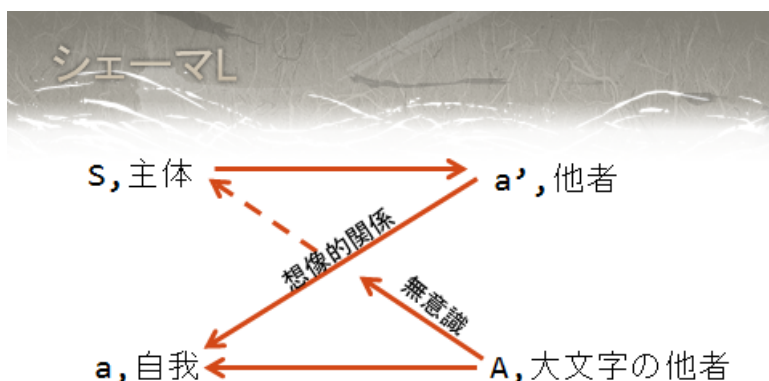
何度も書きますが实在論は発達の過程で自然に身に付き、社会常識になり、それを前提として日常・社会生活を行っても個人にも集団にも支障がなかったからです。それに加えて实在論以外の理論が説得力のあるなかったのも、誰もが無意識の前提として实在論を受け入れてきました。哲学者も例外ではありません。

しかしラカンが实在論を全く用いていない新しい理論を造りました。ラカンは哲学のためもあったでしょうが精神分析に構造主義を適用するためにこの理論を造りました。ジャック・ラカンのシェーマ L というモデルは自己認識の形成を説明するための物ですが、自己だけでなく全ての物事、他者でも石ころでも心でも全ての認識対象、現前に適用できます。

認識と存在には深い関係があると以前にも書きました。普通近代哲学では認識論と存在論はセットで語られます。近代哲学の開祖のデカルトは存在論と認識論を分ける心身二元論を唱えて両者を完全に分けましたが神の誠実という仮定を用いてやっぱり存在論と認識論を結合させています。哲学以降の哲学者もこの 2 つをつなぐのに何らかの仮定を挿入するのはデカルトと同じです。

シェーマ L も存在論と認識論を同時に説明するモデルになっています。

は我々の認識対象が実在するかしないかにかかわらず、我々がどういう風に物事の内容を思い浮かべるようになるかのプロセスについて説明しています。そのモデルは何かの実在に依存せず、関係性が実在感を作るとしています。つまり構造主義を用いて作られています。



- 関係性や構造の変化により、現前も変化する。
- 現前のモデルにもなる。

偉大な発見、発明をするのに「巨人の肩に立って見る」はニュートンだけでなくラカンも同じです。

ラカンの理論は第 3 章で説明した「精神分析+構造主義+言語論・記号論+現象学+ニーチェ」から成り立っています。もちろん近代哲学の教養を持ち合わせているのは当たり前です。

ラカンによれば認識は色々な要素との関係性から生成されます。たとえば“自己”“自分”という実体が存在していると普通我々は確信しています。しかし自己の認識、意識の世界

に作られる自己像というものはシェーマ L のメカニズムから作られるものであって、実在を意味していません。

ラカンの理論は自己の現前の生成に関する理論ですがこれはあらゆるものの現前の生成を説明するモデルとして使える、現前の生成に関するモデルです。あらゆるものは現象として我々の意識に登場するのでその現象を研究するのが現象学でした。現象の世界で我々がここに認識するものを現前と言います。

・ラカンのシェーマ L の説明

①シェーマエルの記号 S、a、A、a'

ラカンのシェーマは S (エス、イドともいう)、A 大文字の他、a 小文字の他者、a' 自我 (自己) から成り立っています。精神医学では自我は認識する主体としての自分であり防衛機制などを発動する精神の機能、自己は認識される対象としての客体としての自分であり自分をよりメタ認知した対象である、という風に考えますがここでは区別しません。

エスやイドはリビドーの源泉で我々の欲求や欲望、ニーチェの力への意志、知情意のうち情意をひっくるめたもの、自我心理学の防衛機制、仏教でいうと渴愛などの源泉です。これは精神力動のエンジンであり、どういう意志と欲求を合わせて意欲と言いますが、それと感情、気分を合わせて発動されますがどのように発するかは我々にはよく分からない、精神の深淵でありブラックボックスです。精神医学では知情意で症状や疾患を分類する伝統がありますが、シェーマ L は知、即ち認識や認知を説明するためのモデルです。情意は S にひっくるめてまとめられています。

大文字の A は意識の世界、我々に現象している現前の総体としての世界です。

小文字の a は現象している個々の現前 A を構成しています。あるいは A は a の総体としての世界です。

a は他者とも言います。他者というのは人という意味ではなく、個々の現前です。'a が自我 (または自己) です。この図は自己がどの様にして現前するか (認識されるか) を示しています。

②シェーマ L の矢印の説明

図を全体としてみると A という記号から矢印の起点となって、直接、あるいは間接的に全ての矢印が a に収束して形になっています。

A→a は世界と自己の関係を表します。精神分析では A は超自我とも言われます。また他者 a'、a の総体としての世界、外部ともいえます。またハイデガー風に言うと世界-内-存在で世界に投企された原存在を表します。

a→a' の矢印は創造的關係と呼ばれます。精神分析学ではメラニックラインが分析した対象関係論の理論を著します。鏡像段階とは鏡を覗いて写った顔を自分であると認識する発

達のステージです。これ以前は例えば母親はお乳を与えてくれるおっぱいとして認識されたり、いい匂いを認識されたり、柔らかさや温かく自分を包んでくれると認識されても、それ全体が母親というエンティティであると統合されて認識されることはありません。自分の顔以外でも、目に見え、感覚を持ち、意志で動かせる手を自分の一部と認識したり、内省した時に現れる自分の精神の諸要素を自分の一部であると認識したりする段階です。これは实在論の立場から見ると我々は対象をありのまま正確に認識していると考えます。しかしこのシェーマによれば我々は対象をありのままに認識することは出来ず、そう思っているだけということです。我々が思い描いたり認識していると思っている世界はあまねく我々の想像以上の物ではありません。

$S \rightarrow a'$ の矢印はニーチェの言う力への意志やエス、イド、リビドーなどと呼ばれる精神力動の根源、欲望、欲求、意志を表します。我々が何を認識するかは S によります。 S が認識したいと思うものを我々は認識し、 S が認識したいと思わないものは我々は認識しません。おなかがすいた乳児は乳房を認識するでしょう。これは原始的、本能的 S の役割でしょう。成長するにつれて何を認識するかは本能のみならず色々な要素の影響を受けるでしょう。何を認識するかは単に欲望だけではなく、意欲、つまり意欲や欲求にもよるでしょうし知的興味にもよるかもしれません。

言い方を変えると实在論では我々は認識したから存在していると思っています。あるいは存在しているから認識できるとしています。そこに我々の欲求や意志はなく物事を客観的な目で公平、中立的に見ていると思っています。

しかしラカンの理論では我々は自分でもよく分からない我々の欲動(S)が見せたものだけを認識します。 S が見せたくないものは認識していません。我々は a' の総体を世界として認識しそれがありのままの世界だと勘違いしていると解釈できます。

A から S の矢印は無意識の関係と言います。これまでの説明の総括にもなりますが、我々は現前したものしか認識できません（言い換えると現前したものだけ認識できます）。だから我々が認識できるのはこの図でいうと a と a' だけです。 S と A というのは实在論では自明な物ですが、ラカンの理論では逆によく分からないものであり、よく分からない関係を持ちます。 A 、 S 、 $A \rightarrow S$ は創造的關係 $a' \rightarrow a$ の下にあり、クロスしており、しかもクロスするまでは実践の矢印で無意識、クロスした後は点線の矢印になっています。つまりこの2つの矢印は関係を持っています。この意味は我々の創造的關係は無意識の影響を受けているということです。我々が $a' \rightarrow a$ つまり現前生成するときにはよく分からないものである無意識の影響を受けるということです。また S は A と創造的關係の両者に何らかのよく分からない影響を受けて変質する可能性を示しています。

・各記号の説明の見直し

上記、矢印の説明をした上ででもう一度实在論と比較しながら各記号の説明を行います。 a' は实在論では存在も認識もされる対象です。しかしシェーマ L では S の影響下で生成さ

れたり変質する曖昧なものです。存在しないかもしれないし（幻覚など）、存在しても正確には認識していないかもしれません。

a は実在論ではやはり a' と同じ扱いです。そもそも a と a' を分ける必要もありません。両者はただ存在して認識されるだけです。存在論では自分でありそれ以外の事物であれ存在して認識されるのは常識です。シェーマ L では a は a' と A がなければそもそも認識されません。 a' と A の影響でたまたま現前して意識されただけのものです。存在する保証も、本質なるものをもっている保証もありません。

A は a' の全体集合です。 A は実在論では存在する世界です。 a' 自体が本質として曖昧なものなのでその全体集合なるものも曖昧です。やはり存在する保証も、本質である保証もありません。

S は実在論で特別な意味はありません。生物学的に食欲とか性欲とか分類されたりします。あるいは人間には自己愛があるとか真の利他はあるのかと議論されたりします。あるいはモチベーションとか言われて自己啓発の研究対象になります。つまり存在論、認識論では取り扱われません。シェーマは力への意志とかエスとかイドとかリビドーとか防衛機制等となどと言われ重視されます。というかこれがなければ何もないと一緒に認識論も存在論も成りたないほど重要です。 a 、 a' 、 A の全てから影響を受けますが、実体はよく分からない曖昧なものです。これがないと理論事態が成り立ちません。

まとめます。

- ・シェーマ L で存在も認識も説明できる。
- ・シェーマ L は実在論と全く関係しない初めての哲学理論である。

4-2 ボロメオの輪

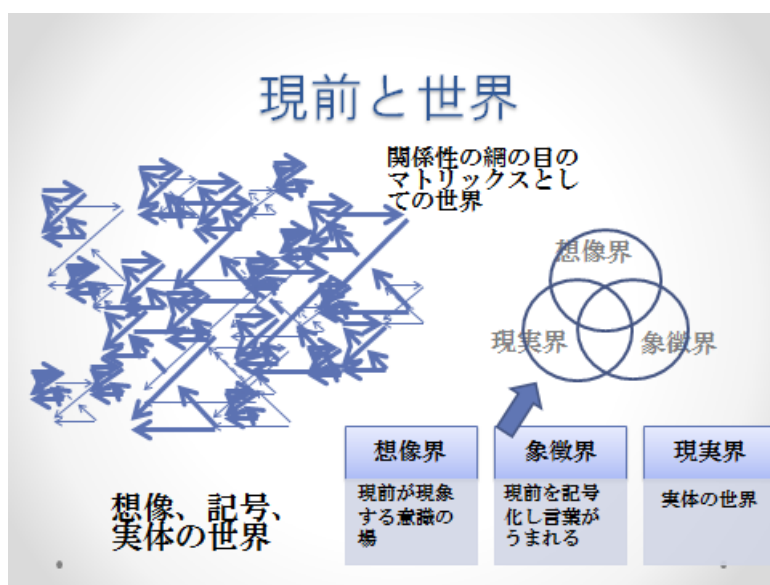
図の右の○3が3つが重なるベン図をボロメオの輪と言います。図の左側は現前通しが関係しあい世界の網の目を作る様子を図示したのです。

ボロメオの輪はラカンの世界、減少を説明するためのモデルです。

シェーマ L の理論により我々は実在論とはことなる構造主義的認識論、構造主義的存在論を手に入れました。合わせて構造主義的哲学と呼びます。これにより近代までの哲学が実在論の一元論でしかなかったことが明らかになります。ラカンにより哲学は実在論と構造主義的哲学の二元論で表すことができることが分かりました。

ラカンはもう一つの元を考えていたかもしれません。それは記号による認識論、存在論を分けて考える記号論的哲学を考えていた可能性があります。その可能性を示唆するのがボロメオの輪です。我々は世界、我々の意識に生じる現象を現実界、創造界、象徴界のどれかかそのうちの2つか3つの組み合わせで認識しているとする考え方です。現実界は我々

が素朴に存在していると思っている世界でしょう。創造界は素朴实在論で存在していると思っているものが実は観念が源であるという考え方で、モノではなく、事、抽象概念などはこの考え方がよく合います。ラカンはもう一つ、象徴、記号、言語だけの世界も可能性として考えていたと思われます。しかしこの教科書ではそれには触れません。単純化のため实在論と構造主義的哲学の 2 言論をメインに考えます。しかしラカンが考えていたようにそれ以上の元がある可能性があります。实在論とも構造主義的哲学とも根本的に違う認識論や存在論が存在する可能性もあります。多元論ということになりますが、ポスト構造主義を理解するには二元論で十分です。



4-3 ポスト構造主義

ラカンのシェーマ L の理論を構造主義的哲学理論と呼びます。

哲学は真理を追究してきました。真理は文字通り真の理ということでしょう。

言い換えると確実な世界に対する説明体系です。その中で特に大切なのは正しい存在と認識説明する理論とは何かです。正しい行いや正しい判断を提示するのも心理の役目かもしれないませんがそれは第 2 篇で説明します。

さてラカンが新しい理論を提示したので、真理は近代哲学までの实在論に影響を受けた哲学理論か構造主義を使って作られる哲学理論か、それ以外の宗教や思想などが、あるいは

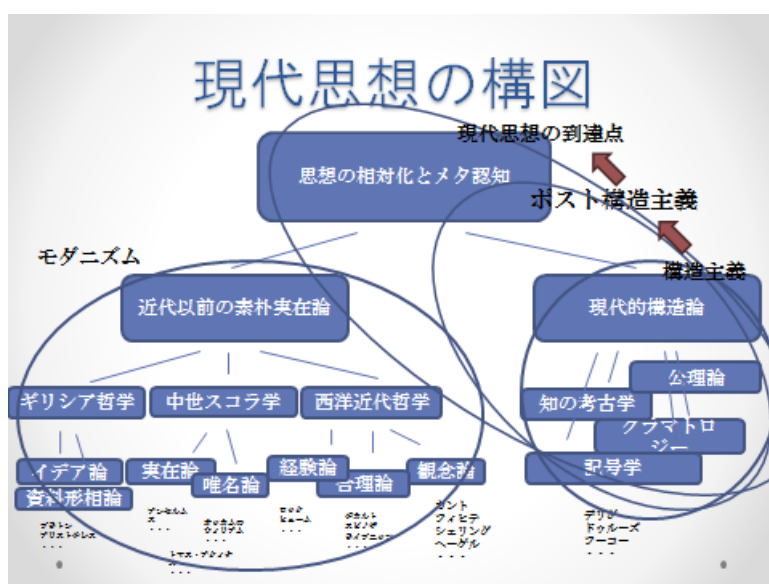
はそれらのいくつかが同時に正しいか、あるいはどれも正しくないか大きく分けて 8 通りの可能性があります。

第 3 章でも説明しましたがもう一度説明します。

- ① 実在論に影響を受けた理論だけを用いる。
- ② 構造主義による理論だけを用いる。
- ③ 実在論な見方も構造主義的な見方もどちらも同時にする。
- ④ 実在論的な見方も構造主義的な見方もどちらもせず別の見方だけをする。
- ⑤ 実在論的な見方も構造主義的な見方もどちらもせず別の見方も何もしない。
- ⑥ 実存的な見方とそれとは異なり構造主義的見方とも異なる別の見方を同時にする。
- ⑦ 実在論的な見方をせず、構造主義的な見方と実在論的な見方とは異なる見方を同時にする。
- ⑧ 実在論的な見方、構造主義的な見方、そのどれとも異なる別の見方を同時にする。

一応注意点としては実在論系の哲学も構造主義系の哲学も相互に背反であるとは限らないことです。同時に成り立つこともあるかもしれません。数学でいうと独立の関係です。

結論としていうとどんな哲学も思想も宗教も考え方もどれかが真実とか真理であると考えず、俯瞰的かつ相対的に見るという考え方が導き出されます。こういう認識の仕方をメタ認知と言います。



重要な事なので何度も書きますがポスト構造主義は实在論を否定妄肯定もしていません。これは現代数学の公理主義と同じです。存在してもしなくてもどっちでもいいのです。好きでも嫌いでもありません。「愛の反対派嫌ったり憎しむことではなく無関心である」とマザーテレサは言いましたがポスト構造主義派無関心なのです。この無関心さが実は問題になります。それは第 2 篇で触れますが先に書いておくと、現代哲学は我々に依存する対象を与えてくれないということです。ただそのおかげで自由になります。自由とは何か、この答えも第 2 篇で触れます。ただ議論はここでは終わりません。

現代哲学を説明するとき实在論の説明は現代哲学の説明の 3 分の 1 に当たります。構造主義の説明は全体の説明のやはり 3 分の 1 に上がります。合わせてここまでで現代思想の説明の 3 分の 2 を説明したことになります。残りの 3 分の 1 はポスト構造主義の説明となります。

まとめます。

- ①現代哲学の理解の 3 分の 1 は实在論の理解。
- ②現代哲学の理解の 3 分の 1 は構造主義的哲学の理解。
- ③現代哲学の理解の 3 分の 1 はポスト構造主義の理解。

①と③は簡単です。①は自分で自分の心を観察し、自分には实在論が備わっていることを発見するだけです。③は物事を相対的に見る知的能力があればよく、義務教育卒業程度の教養があれば可能でしょう。ですので現代哲学の理解のポイントは構造主義を正しく理解するかどうかです。

さらに大切なのは構造主義を理解したからと言ってそれを絶対化してしまっははいけません。構造主義を理解したところで实在論を肯定も否定もできません。構造主義の理解は实在論の正否と全く関係ないことです。しかし歴史上構造主義を高く見て实在論を低く見る、あるいは構造主義を絶対視する傾向が出た時期がありました。ポスト構造主義はその傾向を否定するため誕生した意味合いもあります。

ポスト構造主義としては以下①②③の見方が必要で、加えて④の見方も出来れば十分でしょう。

- ①实在論に影響を受けた理論だけを用いる。
- ②構造主義による理論だけを用いる。
- ③实在論な見方も構造主義的な見方もどちらも同時にする。

4-5 現代哲学のまとめ

ポスト構造主義の説明が終わったので第4章のまとめを行います。

ざっくり説明すると実在論と構造主義的哲学は次のような見方ができます。

- ① まず事物の存在を認めて事物間の関係を2次的と捉える立場
- ② まず構造を認めて事物の存在は二次的に関係性から規定する立場
- ③ ①②の見方を同時に出来る立場

一般に①の立場をとる人は普通の人ですがある意味、素朴ですが極端な実在論者といえます。②の立場をとる人は極端な構造主義者で構造主義的哲学こそが正しいと考える人です。

③の見方ができるのがポスト構造主義です。

構造主義に関してですが、構造化に際して関係性の規定を無矛盾、完全、独立性を担保して行ったものが公理主義といい、構造主義の特殊なものですが、現代の科学の基礎なので知っておくとよいでしょう。

理性、合理、論理、理論とか理の付く言葉はいろいろあります。理とはなんでしょう？理とは現在では公理を指します。公理の理解なしに本当に理性意的で合理的で論理的で理論を語ることはできません。

公理主義でない一般の公理主義であるかう学問は自然科学を除いて人文科学や社会科学の一部、芸術、美術やデザイン、ファッションで扱います。それらは構造主義的に扱うことはできますが、公理主義では扱えません。公理主義的でないところが文学や美学の醍醐味であり、人間や感情の複雑さ、奥深さ、不思議さです。

逆に公理的なものは演算装置で代用できるので別に人間でなくても場合があります。ライプニッツやチューリングはそのような演算装置を想像しました。これはAIや量子コンピュータにより実現するかもしれません。

第2部を簡単に要約します。

- ・現代哲学は完成した学問である。
- ・現代哲学を理解することは素朴実在論、現代的構造主義、ポスト構造主義、この3つを理解することと同じことである。
- ・現代哲学は古代からの哲学の完成版。これ以上の基礎哲学の発展はない。但し応用哲学の発展はある。
- ・現代数学の公理主義を理解しておくとう用。

第3部からは現代哲学の理解を深めるための多面的なアプローチを行います。

第3部 現代哲学の生理学と病理学

第5章 仏教と現代哲学

私の教えは難解過ぎて理解されないであろう。 ゴウタマ・シッダールタ

色即是空 空即是色
諸行無常 諸法無我 般若心経と大乘諸経典

5-0 なぜ仏教か？

まず結論から書きます。現代哲学の創始者は 20 世紀の哲学者や思想家ではありません。その 2000 年以上前に生きたお釈迦様です。

本書は現代哲学の教科書です。現代哲学は西洋哲学の到達点で完全に完成した理論ですがこの理論を最初に発見現代哲学ではありません。仏教が現代哲学に先行してこの理論を発見しましたので仏教には触れざるを得ません。

釈迦が現代哲学の創始者ということには疑義を挟まれる向きもあるかもしれませんが。しかしナーガールジュナ（龍樹）に至っては完全に現代哲学を理解していると判断せざるを得ません。

大乘仏教の開祖で創始者と言われるナーガールジュナ（龍樹）の空論や中観論は構造主義的哲学やポスト構造主義と同じ哲学です。

また中国南部で栄えた天台宗の開祖（三祖ともされる）智顛は三諦論という教理は現代哲学と同じものです。三体とは空と戯（仮）と中の3つを意味し、それぞれ構造主義的哲学、実在論、ポスト構造主義に対応します。

三論宗の吉蔵の顛正破邪は空の絶対化で空の原理主義的ですが十二因縁生起に重要性を説く意味で現代的に重要です。彼は空の絶対論者だと思われのげんだい的に見ると構造主義絶対主義者であると思われ、中道（≡ポスト構造主義）には至っていなかった可能性があります。

他方で中国北部で流行した華嚴宗の第三祖で中興の祖、法蔵は様々な経典から存在論、認識論を分析し、存在と認識の溶け合う独自の中論、時事無碍法界を説いています。

日本では天台智顛に還れと言った日蓮聖人も悟っていたでしょう。

以上のように仏教、特に大乘仏教は現代哲学と同じ思想ですので、この章では仏教自体との解説と現代思想との関係について説明します。

5-1 釈迦は何を問題としたか

5-1-1 苦しみからの解脱

仏教の開祖であるお釈迦様より仏教を解説します。

お釈迦様は釈迦族の跡継ぎ王子として生まれました。お釈迦様や釈迦牟尼やゴウタマ・シッダールタなどと表記しますが、簡単のため釈迦と書かせて頂きます。釈迦は19歳で王位継承の道を外れて出家し35歳にして悟りを開き80歳まで彼の発見した教えを布教して生涯を終えました。

では釈迦は何に悩んで王位を捨て出家したのか。ここに現代哲学と通じるテーマがあります。釈迦はなぜ苦しみがあるのか、どうしたら苦しみから逃れられるかについて悩みました。は現在が幸せでも病気になったり老いたり死の不安があり悩みから完全に逃れることはできません。また生活の中ではそれ以外にも様々な苦しみを味わいます。釈迦族の王子と言っても弱小部族ですので大国に滅ぼされ悲惨な目にあうこともあり、釈迦の存命中に釈迦族は国と独立を失いました。苦しみは死ねば終わるのであればそれは解決策の一つです。しかし釈迦の時代では魂は輪廻転生するという考え方が社会通念でした。輪廻転生では死んでも生まれ変わるのでまた生きなければいけません。生きていては苦しみはあるので永久に苦しみのない状態は保証されません。釈迦はこれまでの言葉でいうと実存不安という状態でした。

その様な悩みをテーマとして修業し、釈迦はある結論に至りました。これを悟りとか解脱と言い、それを成し遂げた人は仏陀（覚醒した者）と呼ばれます。悟った内容はこれから詳しく説明します。ここでは釈迦の悟った一部を簡単に書きます。それは「輪廻転生はない。よって死んだらお終いなので苦しみが永遠に終わらないことはない」というものでした。

釈迦はその答えに安心して入滅、つまりもう死んでしまおうと思いました。しかしそこで思い直し、彼の悟った内容を世に広め、世の中の役に立とうと考えました。35歳で悟った釈迦が死ぬまでの80歳で死ぬまでの45年間、教団を作り世の中に広めた教えが原始仏教と呼ばれるものです。

5-1-2 釈迦の死後の仏教の歴史

当時インドは無文字社会で釈迦の死後その教えを正確に伝えようと仏典結集など行われましたが、釈迦の教えの難解さから分派を繰り返しました。根本分裂、使用分裂などと言いますが、各教派の中でも非常に細かく分かれて多様です。説一切有部などが有名です。後に大乘仏教から批判されたからです。大きく分けて上座部仏教と大衆部仏教に別れてその各々が正当性を主張していたようですが詳しい内容や全貌は分かっていません。この時代の仏教を部派仏教と言います。そうした中から後に大乘仏教が起こります。日本に伝わったのは大乘仏教です。大乘仏教の中でも色々な教派に別れていきますが仏教の歴史については詳細は省きます。

5-1-3 釈迦は何を悟ったか？

釈迦は輪廻転成はないと悟りました。なぜそう結論したのでしょうか？

釈迦は輪廻転生が成立するためには輪廻転生をする主体である魂のようなものが必要であると考えました。主体である自己を我やアートマンと言います。平家物語で「諸行無常、諸法無我」と言いますがその我が輪廻転生をする主体と考えてみます。では我とはなんでしょう。釈迦は五蘊からできていると考えました。五蘊とは生物が構成する要素を5つに分ける考え方です。色（物質的要素）、受（感受、感覚する要素）、想（表象する精神の要素）、行（意思や行動に関わる要素）、識（認識する要素）です。そのどれが一つ欠けても輪廻転生する主体は存在しないと考えました。繰り返しますが、輪廻転生の考え方が成立するには輪廻転生する主体が必要です。それを仮に魂とします。しかし自己というものは死ねば色が失われるため五蘊の要素の1つが揃わなくなり自己は存在できません。自己の存在が輪廻転生の前提ならばそれが崩れれば輪廻転生は存在しない、と結論できます。これが輪廻転生が存在しないことの一つの論証です。

別の説明もあります。釈迦は五蘊皆空ということを行いました。これは先ほどの証明よりもっとラディカルで、五蘊自体も五蘊の構成要素である、色、受、想、行、色、も全てがそも空だと言っています。空を絶対とする立場に立てばつまり存在しません。もちろん自己も空であって実体ではありません。

「空」という概念が出てきました。空とは何でしょう？“此れ有って、彼は成り立つ”空の考え方では物事は単独、それ自体では存在しないと考える相依性の世界です。事物が存在するのは他の事物との相対的な関係性によってであり、相依性、関係性がなければ事物自体もまた存在しないという考え方をします。これは構造主義と同じ考え方です。五蘊である人間にせよ、五蘊の個々の要素にせよ、釈迦は空であると悟りました。だから輪廻転生は存在しないのです。

まとめます。

- ① 釈迦の探求は苦からどのように逃れるかであった。
- ② 輪廻転生を否定することで苦から逃れられることを悟った。
- ③ 輪廻転生を否定する論証方法が、現代的構造主義と同じである。

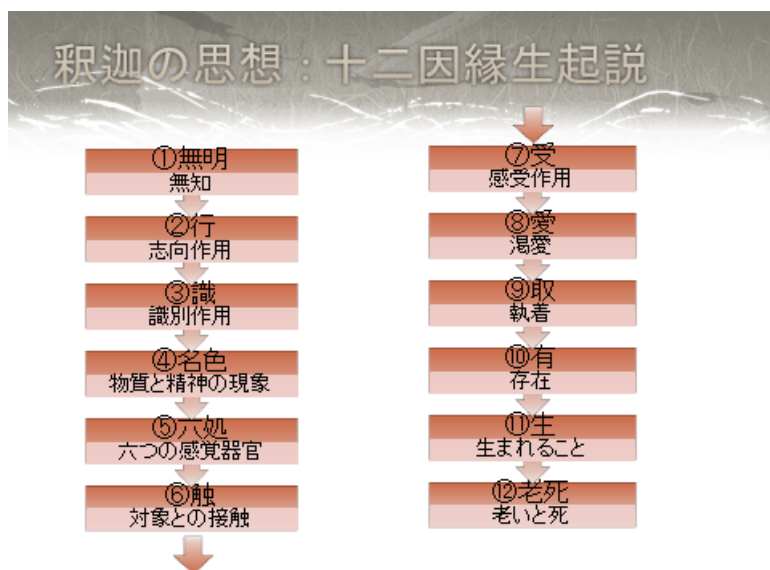
ここで一つの結論を出します。釈迦の悟った内容は空です。空の理論は構造主義的哲学と同じ理論です。構造主義的哲学の創始者は釈迦ということになります。

5-1-4 十二因縁生起の説

構造主義の創始者は釈迦です。ただ釈迦は空という言葉を使っていません。後代の空は大乗仏教の言葉です。現代において構造主義の発見者は多少特殊な形の構造主義であるにせよ、公理主義を確立したヒルベルトでしょう。彼はカントールやフレーゲなど数学基礎論を作り上げた数学者たちの他、いろいろな数学巨人の肩に立って、公理主義を創り上げました。

釈迦が巨人の肩に立っていたかどうかは分かりません。釈迦は無文字社会で彼の当時の思想界の状況は口伝で伝わり後世に文字化されてようやく歴史となりました。歴史とは本来文字に書かれたものの研究で文献学、書誌学研究の一種です。現代では考古学なども用いてより高度に研究されるようになっていますが、本来の、現代では狭義の歴史は文字歴史の研究です。釈迦の時代にインドでは古代ギリシアや中国のように色々な思索を行う人々が群がり出てくるような時代状況であったようです。実際釈迦も色々な思想家を訪ね歩きその下で修業していたことが分かっています。

釈迦が現代哲学の肝である構造主義的哲学、大乗仏教でいう空に至るきっかけは十二因縁生起説の発見でした。十二因縁生起説とは苦がどの様に発生するか釈迦が分析したものです。因縁（いんねん）とは「原因、動機づけ、機会」といった意味です。



①無明から②行が生じ、②行から③識が生じ、③識から④六処が生じ、④六処から⑤名色が生じ、⑤名色から⑥触が生じ、⑥触から⑦受が生じ、⑦受から⑧愛が生じ、⑧愛から⑨取が生じ、⑨取から⑩有が生じ、⑩有から⑪生が生じ、⑪生から⑫老病死などの苦が生じるという因果関係です。

ここから苦をなくす方法を考えると①無明がなくなれば②行がなくなり、②行がなくなれば③識がなくなり、③識がなくなれば④六処がなくなり、④六処がなくなれば⑤名色が

なくなり、⑤名色がなくなれば⑥触がなくなり、⑥触がなくなれば⑦受がなくなり、⑦受がなくなれば⑧渴愛がなくなり、⑧渴愛がなくなれば⑨取がなくなり、⑨取がなくなれば⑩有がなくなり、⑩有がなくなれば⑪生がなくなり、⑪生がなくなれば⑫老病死などの苦がなくなるということになります。

一見するとすっきりした理論です。しかしこれは釈迦の理論の中では最難関の理論だと思います。

これをきちんと解釈した、あるいは再発見したのはラカンです。あるいはラカンの理論自体が仏教の影響を鍵として作られているのかもしれませんが。

この場合①はポスト構造主義の構造主義のメタ認知、②から⑫までを現代的構造主義の「苦」という認識の現前の生成プロセスだと考えます。そう考えると十二因縁生起はラカンのシェーマLの理論と同じものになります。

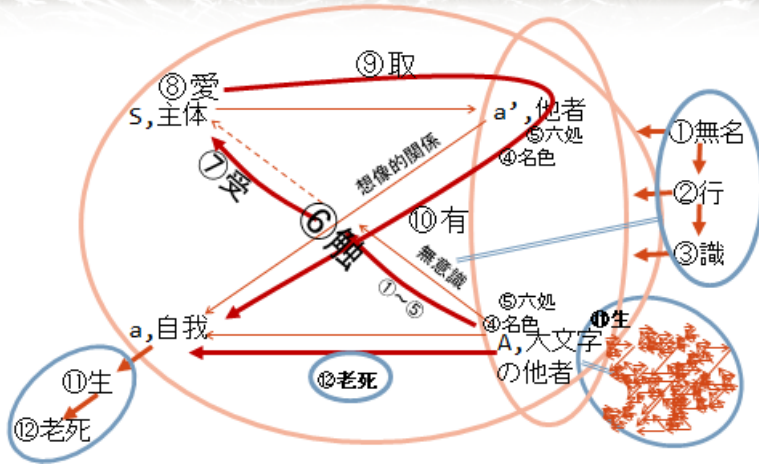
ラカンの理論は自己の認識の生成を説明するためのものです。しかしこれは自己だけでなく全ての事物、現前の生成の説明に適用ことが重要でした。釈迦の教説は苦の生成の説明に使うものです。がやはり全ての事物、現前の対象に適用できる考え方です。

構造主義の考え方自体は西洋哲学や仏教以外にもいつの時代かのどこかで存在していた可能性があります。しかし構造主義哲学、すなわち構造主義を用いて存在論や認識論の回答を導き出したのは釈迦が最初でその後の大乘仏教の諸派の一部の僧、そして現代哲学だけだと思います。

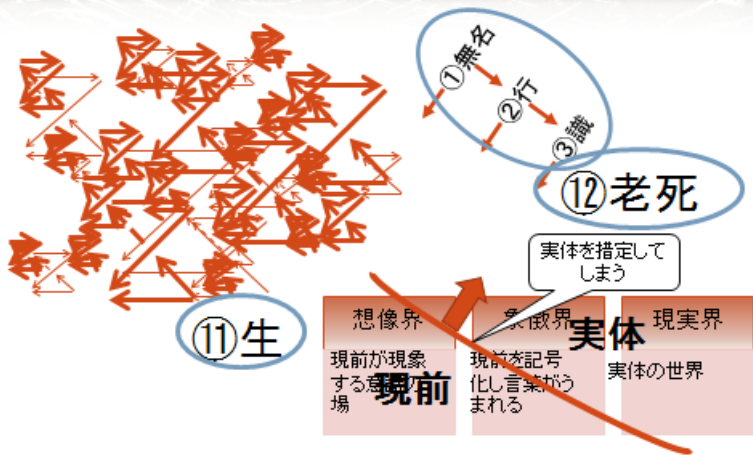
やはり時代が後の方が知識や方法論が豊富ですので同じことを表現するのにすぐれています。現代哲学は理論の記述方法が洗練されています。つまり昔より仏教より分かりやすい形で同じ内容が示されています。ですから万人が適切な教育を受ければ習得できるという意味で現代の学問であり科学である現代哲学は優れています。一方昔の仏教はその点で不利だったと思います。結論に至る説明が道具立てが少ないこともあり、現代哲学より難解になっています。現代に生まれた我々は大変恵まれていると言えま

科学とは方法の精神であり、結論よりは結論に至る過程の方が大切と言えます。プロセスを隠してフェイクニュースを流して世を騒がせることは科学・技術に限らず、分野に限らず、時代を限らず、人間社会の常であることは現代も同じです。現代哲学は教育するための方法も仏教より優れています。

シエーマLと十二因縁生起の対応



現前と世界



対応のまとめ

- ①無明は現前と世界が生成する仕組みについての無知、無自覚
- ②行は無知、無自覚に現前、世界を生成
- ③識は無知、無自覚に現前、世界を認識
- ②～⑩まで現前の生成
- ⑪は現前の集合としての現象界、世界
- ⑫老死は変化する世界を固定実体とみてしまうこと。
同一性、恒常性に対する執着

ラカンがシェーマLを自分で考えたか、十二因縁生起を解釈してシェーマLを考えたか、その両方かだと思いますが、ラカンが自分でシェーマLを考えたとしても後で十二因縁生起と同じであることに気が付いたのではないかと思います。ラカンは精神分析学会内部で対立が起こりラカン派が分裂しますが、小此木啓吾氏によるとその際に日本人の精神分析家の古沢平作氏に日本人は東洋思想を知っているから自分の考えを理解できるはずだと書簡が送られたとのことでした。

中国思想には仏教の影響を受けたもの以外に現代哲学と同じものはないのでラカンが東洋哲学から影響を受けていたらそれは直接的にせよ、間接的にせよ仏教です。

この説では釈迦が構造主義的哲学の創始者であることを示しました。次節では釈迦がポスト構造主義に到達していた、つまり現代哲学と同じものを完全に創始していた事を示します。それは釈迦が中道の概念を唱えたことで示されます。

ケーススタディ 仏教と現代数学の構造論を比較してみよう、般若心経編

冒頭の般若心経の中に“色即是空 空即是色”という言葉は仏教のエッセンスになります。そしてこの概念は現代思想とも現代数学とも密接に関わっています。因みに現代数学では空は“無定義語”と呼ばれることがあります。

現代思想で空が何に相当するかというと“関係性からなる構造の中で実体のようにみえるもの”となります。数学でいうと点という実態があるように見えて点という実態は実は存在せず、他の幾何学的対象、線や面、との関係で規定されます。他の幾何学的対象、線や面も、やはり他の幾何学的対象との関係性で規定されます。点や線を一旦AやBという内容に置き換えてみましょう。まず関係性の記述だけを残してみましょう。関係性の記述からなる構造体が出来上がります。これを構造と言います。構造の中では関係性によって

定められて実体として存在しているように見える概念が浮かび上がることがあります。これが点や線です。点や線は最初から定義できるものではありません。関係性の記述や構造体があってはじめて言及できるものでしかありません。だから点や線は存在しない、ということでは必ずしもなく、あくまで構造と関係性の優位を空という概念は強調します。古典のユークリッド幾何学は実体の優位性を主張しその後に、関係性の記述を行います。ヒルベルトやホワイトヘッドにより公理化された幾何学は関係性や構造体の優位性を強調します。場合によっては両立してもいいわけですが、より特徴を明らかにするために前者を素朴実在論、後者を現代的構造論と呼びましょう。それら是对極の概念で、そのどちらの見方も自由にできる事、これを中道、あるいは中観といいます。「色即是空 空即是色」の色というのは実在ということ、空というのは関係性と構造によりあくまで実体のように見えるが実体ではないものという意味になります。どっちの見方もできるようになりましょう、というのが般若心経の教えです。

これを現代思想に翻訳すると空とは現代的構造主義の見方、仮（戯）とは素朴実在論敵見方、そして中間とはどちらにも偏らず両方の見方を選択できる、あるいは両方の見方を同時にできるようになろうということになります。



- 釈迦の方法論に一部構造主義的な手法が取られていると考えられる。
- 釈迦の思想はポスト構造主義と一定の類似性を認める。
- 二千数百年前、現在のポスト構造主義を示唆したことが、釈迦の卓抜した創造性である。

ケーススタディ 十二因縁生起の意味

釈迦の悟りが何を意味するのかということ人間が何かを認識する際には事物の実在は必要ないことを意味します。事物の存在がなくても人間は事物を認識しそれが実在するように確信します。普通の考え方と逆で事物が存在するから認識するのではなく、認識するから存在していると勘違いするわけです。これにより認識や存在に対する新しい見方ができたわけです。この構造主義からより大きく構造主義や昔から、あるいは幼少時から人間がもっている素朴な認識論を含む、人間の認識機構を説明するポスト構造主義が生まれます。

現代的構造主義で止まっていたら釈迦の偉大さを若干既存したでしょう。しかし、悟りの段階でここまで至ったかどうかは不明ですが（仏典によれば至っていなかった可能性もあります）。その後の伝道と思想の生理と成熟を通じておそらくポスト構造主義に至ったのではないかと考えられます。以下の節でそれを考えます。

6-2 中道

構造主義的哲学は教育水準が高くなかった時代には教育が難しく習得ができないのが普通であったと思われます。一方現代哲学に至っては現代数学のようなプロトタイプがすでに用意されていました。数学も難しい学問かもしれませんが努力すればだれでも習得できます。

現代的構造主義を仏教なり、現代哲学なりで習得したとします。すると習得した人はそれを絶対化したくなる衝動に駆られます。仏教では三論宗の吉蔵でしょう。空論や十二門論で空を絶対化し、百論でそれ以外の考え方を徹底的に排斥しました。人間は自分で考え付いたことまた正しい、あるいは確かであるという思いがあまりにも強すぎるとを絶対したくなりそれ以外のことが目に入らなくなってしまう傾向があるようです。

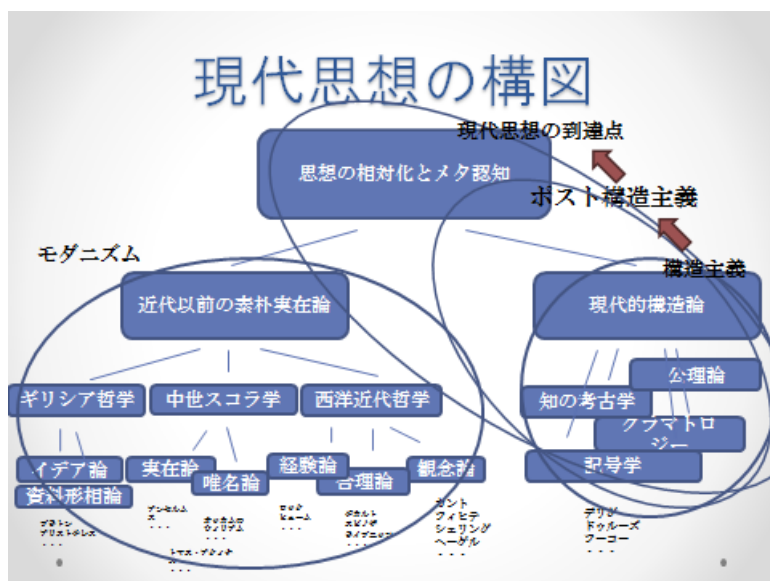
釈迦は現代的構造論を理解していたと思われます。その上でさらにポスト構造主義も理解していたと思われます。これは釈迦が中道を説いているからです。

復習するとポスト構造主義は素朴实在論と現代的構造論を理解した上でそれらを相対化しそれらどちらかの見方ができる、あるいは両方の見方が同時に見方ができる。あるいはどの様な見方にも懐疑的にみて、他にも別の認識、構造論やその確実性に関する理論がある可能性も考えられるという考え方です。

さらに一般化すると全ての世俗的イデオロギーを平等に扱います。一般化するということはそれが实在論系の考え方とか構造主義的哲学的考え方とかそれ以外の考え方とか、そういう大きなくくりも行いません。個々の考え方に対してどれが正しいと判断せず中立の態度で接します。どれが正しいとかどれが間違っているとか判断しません。これを仏教では中道、中観、中と言います。

仏教でいつ版難しいのは空で、コンテンポラリーフィロソフィーの構造論的哲学に対応します。しかしそれを抜けてしまえば中道、中観、中、あるいはポスト構造主義は簡単です。

こう言うてはにべもありませんが、空や構造主義的哲学を理解しないで一気に中道、中観、中、ポスト構造主義を一気に理解する人もいるかもしれません。



釈迦は事物は存在する、人は輪廻転生する実体として存在するという考え方を常見と言います。一方それらは空であって存在しないという考え方を断見と言います。釈迦はどちらの考え方も絶対化するなど説いています。これを中道と言います。これはポスト構造主義の考え方と同じものです。

つまり釈迦は構造主義を理解していた上で尚且つポスト構造主義を理解していたということになります。つまり釈迦は現代哲学を理解していたという結論になります。

釈迦は先史時代の人です。文字がなく歴史がない時代の人でした。ですから思想内容は完全には分かりません。現代思想的には文字があってもなお分かったり分らないとか言えないということを文化人類学、歴史学、文献学、書誌学、文学、記号論などを例に応用、技術篇では説明しますがやはり 2000 年以上前の人ですので情報があいまいです。

時代が下ると情報が増えてきますが、情報が増えたから分かるとは言えないとはいいつつも、やはり後代の仏教は僧侶や教派の記録や情報が豊富になってきます。例えそれが後代の作り物だったとしてもそれは有用です。

大乘仏教の第一人者、龍樹の空論や中観論、天台智顛の三諦論はお釈迦様よりも分かり易くそれを示しています。もっと分かり易く言うと般若心経の“色即是空、空即是色”という言葉は現代思想のエッセンスを端的に表しています。

現代思想と仏教は実は同じ結論であって、同じものだと前に説明しました。

結論だけならこれは大昔にお釈迦様やナーガールジュナ(龍樹)、天台宗の開祖智顛、空海聖人などすでに同じ結論を出していました。但し結論だけがはっきりしてそれを表現する方法が稚拙であった、理解されなかった、あるいは忘れられてしまっていました。

現代思想のよさは理由は理解するための方法が豊富だからです。仏教の場合も私はそれがあったと思います。お釈迦様は恐らく十二因縁生起という方法で精神の構造化のモデルを示しましたがこれは恐らく正確に理解されずに記録にもやや誤った形で残された可能性があります。龍樹や智顛にしても空論や中観論、三諦論としてポスト構造主義と同じ認識と存在に対する理解を示しましたが、説明がしっかりしていないと理解に到達できる人が限られていたと思われます。しかも理解してもそれ以外の人がそれを了解できないのでその人が悟ったか、解脱したか、仏陀になったのか本人以外誰にも判定できず、悟りは奇跡のように希少なものと考えられていたと思われます。

5-3 悟り、解脱、仏陀になった後

現代思想の三大要素に相当する仏教の3つの要素、①式、仮、戯、②空、③中道、中観、中を理解した後はどうするでしょう。この3つ①②③を天台智顛にちなんで三諦論と呼びましょう。

お釈迦様は最初はまだ満足したから死んでしまおうとしましたが、思い直して布教することにしました。ナーガールジュナも学窓ですからやはり人に広めて研究を発展させようとしたかもしれません。天台地祇は天台宗を開いたのでやはり不況でしょう。日蓮は天台智顛の理論+法華経が大切とやはり布教しようとしていました。

第〇章のコンテンポラリーフィロソフィーで書きましたが、ポスト構造主義と同じく中也メタイデオロギーで世俗一般的なイデオロギーに対するメタ認知です。この場合中やポスト構造主義だけ他のイデオロギーから区別して特権的に扱うのは不公平ではないかという反論がありそうですが、ポスト構造主義自体は世間離れしている、あるいは我々の日常生活を超越しているため、コンテンポラリーフィロソフィーの性格上これを別格に扱っても問題ありませんし、扱わないとパラドックスが生じることが知られています。このようにイデオロギーにも階層をつけることをバートランド・ラッセルにちなんでクラスの理論やタイプの理論と呼びましょう。階層といってもたった2階建てです。メタ認知、メタイデオロギーとしてのポスト構造主義を置くだけで他の生活に直接関係する、あるいは関係しなくても全ての（中やポスト構造主義を除いた）イデオロギーは平等に扱います。

このように書くと世俗のイデオロギーの一つである共産党国家の中国指導部が起こるかもしれませんが、この教科書は世界中、特に中国の言語に翻訳されて全ての中国人に読んでもらうことを希望します。

さて悟った後、死ななかつたとして三諦論を個人の生活に応用し自分の幸福度を上げていくだけでもいいのですが、できれば世の中に広めて、世の中をよりよくしたいと考える人が多かったのでしょう。

ただ三諦論やコンテンポラリーフィロソフィーだけでは生活に役に立ちません。何らかの仕方で応用方法もくっつけないと使えずかつ分かりにくいだけの机上の空論、観念論になってしまいます。

ということでお釈迦様は八正道や戒律など、三諦論とは直接関係ない協議を作って教団を、信徒団をつくりました。

他の大乘仏教の宗派もそうです。日本の最澄は中国の天台宗を日本化し円・戒、禪、密という競技体系を作りましたし、空海は三諦論+法華経で法華経で生き方の在り方を説いたと思われます。

日本の仏教を簡単に見ていくと真言宗の空海は基本この三諦論の基本教義の上に密教を重ねているといえるでしょう。

浄土宗、浄土真宗は念仏や阿弥陀如来、極楽浄土信仰をくっつけています。

禪宗は三諦論に至るための方法としての禪定の重視でしょう。

奈良時代の仏教は華嚴経などの悟った境地を芸術的に表現し、国家の安寧を守ることを重視します。

お釈迦様の仏教はその教えを説いた対象や時期、何を教えたいかの意図によって方便と言って、色々な説法の仕方や内容を行います。その中には三諦に触れていないものもあるでしょう。その整理を教相判釈といって経典をどう分類するかは仏教のテーマでした。

良くも悪くも三諦論や般若心経を覚えただけでは、判断基準や行動指針は教えてくれません。

だからこそ自分の生き方を構築する、選択、自由、主体性、寛容などの考え方が生じます。これが仏教的、コンテンポラリーフィロソフィー的自由空間でこの自由空間を守るのが仏教的、コンテンポラリーフィロソフィー的自由主義といえます。

サルトルの言うように人間は本質的に自由で自由の刑に処せられていると同時に、時にか弱い、別の自分こそが正しいと自分のイデオロギーの絶対性を主張して他のポスト構造主義のようなメタイデオロギーや世俗の他のイデオロギーを攻撃する人々からこのメタ自由主義を守らなければいけません。

逆にこのメタ自由主義を否定する宗派は仏教とは言えません。

ポスト構造主義も一つのイデオロギーではないか、という指摘がありえます。この場合、ポスト構造主義は他のイデオロギーと区別してメタイデオロギーとして他のイデオロギーと同じ集合には入らないようにします。これについては、自己言及命題や論理の完全性、不完全性についてのところで説明します。一言でいうとラッセルのクラス（タイプ）理論

で自己言及を禁止します。

コラム 仏教史でのその後の解脱者たち

大乘仏教の第一人者の龍樹は空論、中観論の中でこのような議論を展開しています。また日本の仏教に大きな影響を与えた天台宗の開祖智顛は同じことを三諦として空、仮（戯）、中として捉えました。

我々は色即是空の世界に生きており、全ての人間は解脱しています。これは同度信州の教えと似ていますが、華嚴宗の法蔵はポスト構造主義を実在と空が溶け合った独自の世界と素朴実在論と現代構造主義をスペクトラムのように捉えていたようです。浄土真宗の親鸞は我々はすでに解脱しているのだからそれを阿弥陀仏に感謝しなさいと言いました。これも大乘仏教の表現の一つの形です。

コラム 仏教の重層性、教相判釈

五蘊についての解説で釈迦は 2 通りに輪廻転生を否定したと書きました。色のない五蘊はないからというのと、五蘊各要素が空だからという 2 通りです。構成要素も空だし、構成要素から成り立つ実在しているように見える、魂や主体的自己というものも空です。

釈迦は悟った時に一度死んでしまおうとしました。そこでこの教えを広めるために生きようと思いとどまろうとします。しかし教えが難解過ぎて理解できないだろうとか、教えるにふさわしくない人もいるだろうとか、かえって人々を迷わせてしまうだろうとか非常に葛藤なされたようです。しかし最終的には生きて悟りの道を説く決断をされました。

そのような自分の教えを説くことの難しさを強く自覚していたため、人によって、場面によって様々な教えの解き方をされました。

悟りの内容の解き方の多様さのみならず、生活の心がけとか、悟ったらどんな感じになるかとか、色々な角度から多面的、多層的に教えを説いたようです。

結果後代の解釈者たちが文献を解釈する際に解かれた時期、説かれた内容、どういった人向けに解かれたのかなど考え様々な分類を行いました。これを教相判釈といいます。

文献は釈迦の教えを集めた経蔵、戒律を集めた律蔵、注釈書を集めた論蔵など三蔵と呼ばれる大きな分類があり、その後の仏教者の文献などたくさんありました。全ての仏教文献を集めたものを大蔵経と言います。

それらを天台宗の慧観は智慧のあるものかないもので頓教と漸教の 2 つに分け、全教を説かれた時期と内容で分類した五時八教、華嚴宗の法蔵による教えの対象者とその細かい内容で分けた五教十宗、三論宗の吉蔵が教えの正しさで分類した顛正破邪論などがあります。

第 6 章 現代哲学と現代の基礎科学：現代数学と物理学

6-1 なぜ現代数学か

カントールが造った樂園から我々を追放することは誰にもできないであろう。

ダフィット・ヒルベルト

健全な哲学を創造するためには形而上学を打ち捨ててよき数学者にならなければならない。

数学はあらゆる種類の抽象概念をとりあつかうのに最適な道具であって、この領域における数学の力は無限である。

ディラック

数学は科学の女王である。 フリードリヒ・ガウス

自分は頭の一番いいときに数学をやり、少し悪くなると哲学をやり、もっと悪くなって哲学もできなくなったので、歴史に手をつけた。 バートランド・ラッセル

6-0 なぜ現代哲学の本で数学を取り上げるか

本書は現代哲学の教科書ですが、第6章は現代数学を語ります。

現代数学では数学で扱う対象に対する認識論や存在論について現代哲学と同じ見方をします。

それは数学の歴史の中で生まれました。

数学は数学という学問の基礎の危機を体験します。

その中で無定義概念や公理主義という現代哲学と同じ考え方で数学の危機を解決しました。

第5章では仏教が現代哲学に先んじて同じ轍論を出していることを示しました。現代哲学も哲学に先んじて現代哲学と同じ結論を出しています。ここから古典的、近代的数学から、現代数学が生まれます。

ただそれは数学の範囲内で行われすぐに哲学に影響を与えているわけではなくタイムラグがあります。数学以外のいろいろな学問に波及するのもそれぞれタイムラグがあります。

哲学も数学も対象の実在性や認識の確実性について厳密に考えることになりますが、哲学は問題を保留していても現実的に問題がなかったのに対して、数学では数学の根幹を揺るがす危機が生じました。

この危機は数学という学問が消滅する可能性があるほどの大きな危機でした。問題がどう解決するかによって数学という学問の多くの分野、微分積分学、幾何学、集合論など数

学の多くの分野が誤りを含んでいる可能性があります。それらの学問は物理学の基礎にもなっています。物理学は自然科学の基礎で物理学が誤っているとそれを土台として成り立つ、化学、生物学、地質学などの応用化学も間違いを含んでいる可能性があります。ですのでこの問題は肯定的な形にせよ否定的な形にせよかたをつける必要があります。

かたをつける方法として考案されたのが無定義概念や公理主義の考え方です。

そしてこれが現代哲学の第一歩となりました。現代は哲学によって始まったのではなく、数学によって無定義概念や公理主義が生まれた時に始まったと言えます。

公理主義の一般化がいわゆる構造主義といわれるものです。

構造主義の成立には言語学の役割が強調されますが、数学の方が構造主義の成立は早く影響も後半です。

ただし数学の構造主義は専ら公理主義という特殊な構造主義に焦点が当たっています。一方言語学の構造主義は公理主義でない構造主義も含むより一般的なものです。

また公理主義は自然科学の存亡の危機と関わっていたため激しく論争され普及も迅速でしたが、言語学の構造主義は特に何かの危機に結びつくことがなく切迫感を持つ必要がなかったためゆっくり研究されました。

以上の歴史を理解すると、公理主義を学ぶ理由の一端が理解できます。

第6章の最大の目的は数学の基理論である公理主義の理解です。

もう一つ、公理主義を学ぶ理由は公理主義が特殊な構造主義に過ぎないにも関わらず、現代哲学の応用、実践に重要だからです。

全ての理論は公理主義化（公理化ともいいます）されることで、無矛盾性を保証されます。この無矛盾性には条件もあるのですがそれは後で触れます。

これにより人間は初めて他者とのコミュニケーションが可能になります。

言葉を変えると、合理的、論理的な対話が可能になります。

裏を返せば公理主義を知らないと、合理的、論理的に話し合うことができない可能性が高くなります。

これは公理化されてない構造主義では不可能なことです。一般的な構造主義では無矛盾であることに注意を払いません。逆に言うと無矛盾でない学問には一般的な構造主義が向いています。文学、芸術、デザイン、ファッションなどです。

第6章で学ぶことをまとめます。

- 数学に対する誤解を解く。
- 公理主義を理解する。
- 公理主義は構造主義の特殊形である。

- ・現代の数理系科学は全て公理主義が基盤である。
- ・現代数学は現代哲学と同じ考え方をしている。
- ・現代において論理、合理、理性、理論等の理は真理や原理ではなく公理である。

6-1 数学とは何か

まず数学とは何か考えてみます。数学というと算数とその延長と考える人が多いでしょう。まず語源を考えてみましょう。ギリシア語の語源 *mathematica* では“学ぶべきこと”という意味です。小学校から高校までの数学をだけを習った場合には数学は“数”という言葉がつくことから数学は数や量、形を研究する学問と思われる傾向にあります。しかしそう考えると *mathematics* は数に関する学問というよりは第1章で上げたリベラルアーツの2つ目の意味に近いようです。リベラルアーツの2つの意味は①自由になるための技術、②人間性（知性、品性）を高めるため教え養われること、と規定しました。リベラルアーツは、中世には自由市民と奴隷の区別があったか分かりませんので、少なくとも近代以の中世自由7科を指すものとして使われます。自由7科の論理学、算術、幾何学は現在でも数学に含まれます。この時点では自由の意味はあいまいです。

現代哲学ではたまたまですが、リベラルアーツのリベラルの意味を刷新し新たな意味を与えています。これは第2部や第2篇をご参照ください。

小学までの教育では数学というより初等演算、高校までの初等教育で数学を学ぶと数学は数量や図形、グラフ、簡単な代数学や微積などの関数論、確率などを基礎抜きに教えるのが数学ですが、高等教育である大学で数学を勉強するともっと一般的な数学の定義が可能になります。それは数学は構造を研究する学問だということです。初等教育の数学は数学が正しいものとしてその分野の簡単な部分を教えますが、大学では学問は基礎から教えますので、微積分にせよ台数にせよ、第一章は公理がかかれ、それに基づいて論証を行いながら定理や学問全体の理論を作り上げていきます。

高等学校までの数学の教え方は古典的で近代までのスタンスです。

大学では現代風に数学とはすでに真理としてあるものではなく、公理体系を元に作り上げていく現代的なスタンスに変わります。

6-2 19世紀末 数学の危機

数学という学問は近代後期には抽象性も高まり、抽象的構造を研究する学問という側面が強くなります。例えば集合、位相、空間などを扱うようになります。しかしもともと“数”や“形”といった当たり前のように見える概念さえも実体を取り出してみることができません。また数学の推論、証明などの様残な方法も実体を取り出して見せることはできません。数学に色々な問題が発見されたからです。数学は有用でいろいろな問題を説明して解

決してくれます。しかしその土台が間違っていれば、たまたまうまくいくことがあっても間違った結論を導き出して不思議ではありません。いつか致命的な欠陥が発見されて今まで行ってきた数学全体が正しくないことが分かり、膨大な知の蓄積が無意味だったと示されるかもしれません。

数学の危機はまず集合論の父カントールによって引き起こされました。カントールは無限の中にいくつかの大きさの異なる無限があることを発見しました。自然数の数は無限ですがその数は有理数の数と同じです。しかし同じく無限である無理数の数の方がそれより多いのです。さらに無理数の多さはどんな数直線やどんな大きさの立方体に含まれる点の集合とも同じです。数が同数であるということは1対1対応がつくということです。観トールは1対1対応の付け方を具体的に示しました。ですので誰も反論できません。

これにより無限とは何かという論争が起きました。無限をきちんと理解できないと微分法や積分法が誤った方法である可能性が生じます。すると数学だけでなく物理学という学問が信用を失います。

また別の問題も生じます。無限というのは色々な大きさの無限があるのか、無限の数はいくつあるのか、ある無限と別の無限の間にその間の大きさの無限を見つけることが可能かなどです。カントールはクロネッカーのような大数学者に執拗に攻撃され、神経衰弱になり精神病院と行き来しながら人生をおくることになりました。

もともと無限に関してはギリシア時代から議論があって、ある哲学者は有名な4つのおかしな結論を提示しています。有名なのはアキレスと亀や動いている矢は止まっているという無限分割に関する問題です。

微分積分で問題なのは発散や収束など無限大や無限小を自明のごとく使ってきましたが、無限というものについて改めて誰もが納得する形で示す必要があることを提起しました。

ユークリッド幾何学は点や線などに関する定義と5つの公理、5つの公準、有限の数の推論の規則から構築されている体系的な学問です。有限個の定義、有限個の公理、公準、有限個の推論規則から演繹的に定理を証明できます。定理はたくさんあるでしょうが、そのような有限個の要素の組み合わせ全体から演繹的に導かれる全てのものがユークリッド幾何学の世界を形成しています。公理は部分は全体より小さい、といったようなことで一見してわざわざ改めて規定する必要があるのかと思えるほど常識的なことですが、出発点から結論まで当たり前のことをきちんと積み重ねていくことが論証では大切になります。公準は任意の点から任意の点へただ一つの直線が引ける、というような準公理であるとともに、幾何学で使われるような操作が可能であることを規定しています。例えば定規やコンパスはつかってよいということです。推論規則は $A=B$ 、 $B=C$ ならば $A=C$ であるというような照明に使われるルールです。初等数学を勉強したものであれば殆どが自明であると考えられるようなたわいもない内容で、殆どの定義、公理、公準は疑問の余地がないと見なされていましたが5番目の公準について昔から懐疑的な見方がありました。

第 5 公準は色々な言い方ができますが、簡単に言うと、ある直線とその上にない点を通る直線は 1 本だけ引ける、というものです。すなわち平行線が 1 本だけ引けるということを示しており、平行線公準とも呼ばれます。

ユークリッドの幾何学では平行線公準が自明でないことが分かり、平行線公準を別のものにする事でユークリッド幾何学とは異なる別の整合的な幾何学、非ユークリッド幾何学が発見されます。それをきっかけに幾何学の基礎の見直しも行われます。

数学は厳密性を追求します。古代からのユークリッド幾何学では線や点の定義について「線とは幅のないものである」、「点とは面積のないものである」と定義されてきました。しかし改めて考えるとこれはあいまいな定義といえます。面積のないものが存在するのかしないのかはっきりしません。線も同じです。しかもそれが実在するかどうかを議論しても結論が出ません。誰かが発見してくれれば別ですが誰も発見できなかったとしてもないとも言えません。存在の照明は実物を示せば済みますが、非存在の証明は難しい場合が多くあります。

6-2 数学の現代化と構造主義の誕生

実在するかどうかを考えても仕方ないのなら、実在するかどうかに関係なく数学を構築すればよい、と考えそれを実行したのが現代数学の父といわれるダフィット・ヒルベルトです。

古典ユークリッド幾何学は前にも述べたように、神学者になるためにもリベラルアーツで勉強します。これは神のつくりたもうた世界の姿をありのままに表し、その論証過程も厳密で正確であり、神が定めたまって人類にお与えになった正しい思考方法のように考えられていました。すなわち真理であり、原理であり、事実であり、実在です。神がお与えになった人間が人間がどうこうできることのない、自然と世界の法則です。近代の科学までの科学は数学にせよ他の学問にせよそういう見方で成り立っています。無神論者であっても同じです。神がないだけで人間に先立つ自然の法則がある点と考える点は同じです。

有神論であれ無神論であれ神の存在に関する不可知論であれ近代以前の時代精神は既にある自然とその法則を探求するのが科学だという考え方をします。数学も同様です。

ヒルベルトは、確実な数学の基礎の探求においてそういう先入観を無視し、実体としての自然や世界、あるいは自然や世界の法則が存在しようがしまいが関係なく数学を構築しました。彼と同じく数学者出身のフッサールと同じく、近代的な実在論をエポケー（留保）したことになります。

その上で人間の力で数学を構成します。すでにあるものを探求するのではなく構成するのです。

まず彼は点や線という実体があってその定義が幾何学の出発点である、という考え方を

捨てました。点や線が実体として実在しようがしまいがそれに関係なく成立する幾何学を構築するのに実体とか実在とかいうものは必要ないからです。

ヒルベルトは点や線を定義せず無定義概念、無定義語としました。点、とか線、とかいうと古い概念がこびりついてややこしくなるので、点を a 、線を b と今後は名付けましょう。そしてあらためて公理と公準を設定します。 a や b のその設定した公理や公準の中で a や b がどのように位置づけられるか、他の無定義語、無定義概念との関係性、どんな操作が可能かを定めます。公理や公準は目的に応じて整合的に、矛盾を含まないように設定します。

公理、公準、推論規則は有限です。つそれを記述するために自然言語を使用する必要もありません。 $F(a)$ で一つの命題を表現してもいいのです。また $G(a,b)$ で a と b の関係を記述してもいいのです。

6-3 論理学と現代哲学

そもそも論理学自体が前提から結論に至る、論証の健全性や妥当性だけを研究します。言い換えると論証の形式だけが問題です。扱っている言説や命題が真か偽かを最初から問いません。

するとある別な疑問が浮かび上がります。点や線などの数学的対象が実在するかどうかは重要なのか、というにべもない疑問です。数学的対象が実在するかどうかやきちんと定義されているかどうかということは論理学にとってはどっちでもいいことです。そういったことと理論体系が妥当で健全かは独立した問題であり相互に関係がないことをヒルベルトは明らかにしました。

つまり可能性としては4通り考えられます。

- ①数学的対象が実在してかつ理論体系がしっかりしているもの。
- ②数学的対象が実在しているかよくわからないが理論体系がしっかりしているもの。
- ③数学的対象が実在しているかつ理論体系がしっかりしてないもの。
- ④数学的対象が実在しているかよくわからず、かつ理論体系がしっかりしていないもの。

①が古典的、近代的数学です。

②が現代数学の功利主義です。

③と④は数学で扱う場合もありますが非常に基礎的な地味な議論になるのでここでは割愛します。一方で非公理的な構造主義、芸術、文学、デザイン、ファッションなど公理化される必要のない分野で扱われることが目立ちません。

6-4 形式主義

普遍的記号論という自然言語から記号の体系にて科学、技術や論理を行うアイデアはライプニッツ以来存在しました。ライプニッツは万能の天才という言葉がぴったり合う人で

多くの分野に功績を残しましたが、現代の情報科学・技術の世界ではかれの最大の功績はこの普遍的記号論と考える人もいます。計算機科学、即ちコンピュータの元祖だからです。ライプニッツは早過ぎた天才でしたので彼の夢は長らく放置されていましたが、19世紀にはいるとブールがブール代数学を作り、アリストテレス以来の論理学者といわれる現代論理学の父ゴットロープ・フレーゲが記号論理学を作ります。記号論理学は論理や論証が自然言語を使わず記号を使って可能になります。

これを論理主義と言い、頭が働くなつたので数学と論理学をやめて歴史学を始めたらノーベル文学賞を取ってしまった貴族バートランド・ラッセルや「語るべきでないことは沈黙すべきである」という不完全性への言及で有名な分析哲学のヴィットゲンシュタインが有名です。ただ後者は論理主義の子孫でもある分析主義でも有名です。このような論理主義の基盤もあり、数学も同じで無定義語にせよ、公理公準、論証にせよ全て記号化が可能になる状況になっていました。すなわち記号列ですべてがあらわせます。生成可能な記号列のルールを作ります。そして論証規則も記号化し、定理もそこに至る論証も全て記号列の連鎖で行います。記号の数はしよせん有限ですので、人間が行う必要はありませんし、人間が行っても思考せず機械的に行っても構いません。すなわち自動化です。かつ全ての記号列生成ルールやその変形ルール、論証のルールを機械的に定めますので、片っ端から記号列を生成してみてそれがその公理主義の体系に基づいているか後で判定すればいいのです。このような過程には実在論的な思考は必要ありません。これを形式主義と言います。記号の形式的な処理で数学の論証や照明を進めていくのです。ある定理を思いついたらそれを記号列で表し、その公理体系で生成可能な記号列かどうかを後でコンピュータに確かめてもらえばいいでしょう。ちなみにコンピュータというのは職業の名前で、船の航路の天文学的数値の計算や三角法や関数の表作り、保険の計算表を作るための計算を大量の人間を雇って行っていました。その職業をコンピュータと言いました。現在は電子式コンピュータが主流ですが、真空管をつかってもいいし、計算機械として重力などの動力を用い、スイッチで分岐を作って球を通路に沿って動かして計算を行う機械式コンピュータもありますし、可能です。現在は量子コンピュータというものが研究されています。

全てを記号で行い自動化するとなるとプログラミングやコンピュータを思い浮かべる人もいるかもしれませんが。まさにその通りで計算機科学や情報科学の基礎理論はここから出ています。フォンノイマンはヒルベルトの弟子ですし、アラン・チューリングはイギリスの論理学派に属する数学者です。

6-5 現代哲学と現代数学

ヒルベルトがユークリッド幾何学を公理主義や形式主義によって再構築したという幾何学が古典力学と全く変わってしまったようにイメージされる人もいますが、実際に公理主義と形式主義により幾何学を行ってみても古典ユークリッド幾何学とあまり変わったところはありません。そもそも我々が中学で習うユークリッド幾何学の証明はすで

にだいが記号化されていることを思い出してください。それに点が面積がないものだとか、線が幅がないものだとか考えて証明問題を解きません。そもそも点や線の定義自体を改めて教わらないことも多いのではないのでしょうか。

とすると別の疑念がわきます。“そもそも実在論的な見方など最初から必要なかったのではなかったのか？”という疑念です。

現代哲学は実在論と構造主義的哲学とポスト構造主義から成り立っていると前に書きました。構造主義というのは第 2 章の言語論とソシュールの説明の所で差異と関係の体系と書きました。

ヒルベルトの公理主義は実在論に関しては無視、とって悪ければ現象学的アポケーのスタンスです。否定してもいいし肯定してもどっちでも構いません。点や線の実在を否定してしまえば純粋な構造主義の一種といえるでしょう。実在すると考えても特に公理主義の側には問題は生じないので実在論を併存できます。ただ形式主義を強調すると実在論無視のニュアンスが強くなります。

実在論を否定した場合にはこの無定義概念というものが哲学の大きな柱である認識論と存在論と密接にかかわってきます。実在論否定のラディカルな構造主義となります。仏教でいえば空となります。

ただ実在論肯定の立場として直感主義という数学の学派があります。数学の危機は排中律や背理法など否定の推論規則に関係しており、それを排除した論理主義で数学をしていると考える考え方で、「神は自然数を創り給うた。他は人間の業である」といった直感的に理解できるものだけで数学を構成したいと考えた懐疑主義者クロネッカーなどの懐疑主義者を先駆者としてオランダのブロイエルが有名です。そもそも否定の推論規則は難しく、アリストテレスや中世論理学でも間違いが見られます。排中律はともかく背理法は照明の構造を直感的に理解ことが高等数学では多いのですが、これを用いてカントールの証明のような非常に直観的には理解不能な結論が導き出されます。論理学の推論規則から排中律や背理法（二重否定率なども）などの排除して数学、直感的に分かり易い論理学を行おうという考え方ですが、それはそれで金現代数学の素晴らしい成果は背理法を用いて証明されていることが多く、数学の多くの部分を捨て去らねばならないことになり形式主義学派ともめていました。数学の基礎を形式主義におくか直感主義におくかは、現代哲学的に言うところ、極端な構造主義と極端な実在論の戦いのようになっています。哲学的にみると形式主義は実在論と共存できる、すなわち同時に成立することが可能ですが、背理法が論争の焦点になったので、ポスト構造主義的寛容さ、すなわち形式主義と直感主義、どちらも同時に成り立ってもよいのではといった考え方がこの場合は不可能になっていました。

6-6 現代数学と存在論、認識論

ユークリッド幾何学では哲学と同じ問題がありました。「線」や「点」は実在する実体な

のかそうではないのかという問題です。これは存在論、認識の問題です。我々は「線」や「点」を認識しています。しかし実在するかはあいまいです。実在すれば古典数学は健全でしょう。古代のユークリッド幾何学はそのまま現代にも使えるでしょう。実在しなければどうか？古典数学は論理構造として定義の規定から学問の構築を始めます。定義されたものが実在しなければ学問構築がそもそもできません。

しかしユークリッド幾何学は有用で誤りのない結論に我々に導いてくれるように見えます。出発点が誤りであればすべてが誤りでしょうか。誤りかもしれないし誤りでないかもしれないませんがそれをどの様に議論するべきでしょう。

そもそも厳密に考えると、定義の対象の実在が確認されていなければ理論の構築が本当にできないのかが実は問題です。

点や線の存在の実在が確かめられていれば古典ユークリッド幾何学は論理的に問題ないでしょう。そのために二十世紀もの長きにわたり人々に愛され信頼されてきました。しかし点や線が存在しなくてもその理論の論理構造自体は健全なものかもしれません。点や線の存在が実在しないという人もいるかもしれませんが、控えめに言っても不可知でしょう。

6-7 公理主義と構造主義の違い

公理主義は構造主義の一種です。別のいい方をすると公理主義は特殊な構造主義です。特殊と一般という言葉は数学的な意味で使っています。ですので構造主義はより一般化された公理主義であり公理主義は構造主義に含まれる、構造主義と公理主義の関係になります。

そういうことで公理主義の方が構造主義よりより厳しい規則が存在します。

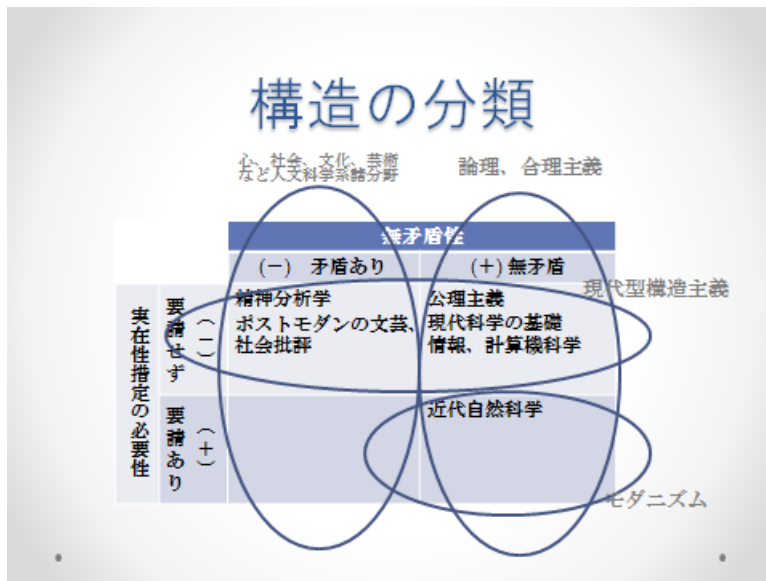
同じ部分と異なる部分を箇条書きします。

同じ部分

- ・関係性の規定と差異だけで成り立っている。
- ・要素の実在性を前提としない。
- ・認識された対象の実体性を必要としない。もしくは認識すら必要ない。

異なる部分

- ・公理主義では有限個の公理が存在する。
- ・公理主義では有限個の推論規則が存在する。
- ・公理主義はその内部で矛盾した結論を導かない。
- ・公理主義で作成が許される命題は真偽の判定が付く。



数学を構造化する際には前提、結論、結論の確実性を構造化するために公理主義化する必要があります。関係性の規定や差異の規定は矛盾したものであってはなりません。その規定が無矛盾性、完全性を保ったうえでできれば公理同士の独立性保つとなおよいでしょう。

数学や科学などを構造化するには公理主義化することになります。

しかし逆にいうと数学や科学以外の厳密性、確実性、正確性が存在しない、あるいは必要ない領域を構造化するには公理主義かはできないか必要ありません。

ただの構造化でいいのです。

自然言語、文化人類学、共産主義、文学、文献・書誌学、歴史学、美術、精神、脳、そうといったものはただの構造化が適しています。その内部に矛盾を抱えるものは公理主義に向いていません。精神や脳は確実性を探求する思考の部分だけ公理主義化できます。

6-5 公理主義とコミュニケーション

公理主義はコミュニケーションを可能にします。裏返してみると公理主義を理解していないとコミュニケーションの保証ができません。

我々は普通自然言語で会話します。例えば日本語で会話します。言語の役割は命令したり、質問したり、感情を伝えたりといろいろありますが論理学は平叙文で形成されます。真偽をはっきりさせたくて論理的に会話することがあります。その場合が公理主義を用いる機会になります。もっと細かく言うと公理主義化された論理学です。論理学を使うことで我々は合理的に話し合うのに便利です。また会話の内容が論理的であればコミュニケーションの内容もあとから検証できます。また前提をしっかりと確認することで、そもそも論理的なきよみにけーしょんが可能かどうかを判断できます。前提が異なればコミュニケー

ションしないことも可能ですし、前提が異なることを前提に会話すれば、どんなに意見が生じても対立点が出てきても、冷静に対処できます。感情的に話さないための助けになります。別に人は真偽を決定するためだけに会話するわけではありませんので感情的に話すのでもいいのです。その中で感動や発見があるかもしれません。ただ問題解決のため論理的に話し合う必要がある場合には論理学を知っておく必要があります。論理的に話せば話の内容が合理的か検証可能ですし、問題なく真偽についての結論の一致をみることができます。

公理の共通のルールに従えば対話で結論に違いが出ることはありません。違いが出て何の間違ったのか検証することができます。そしてその公理体系の内部で語るべきこと、語るべきでないことがはっきり線引きできます。語るべきことはその公理で命題として生成可能な記号列でこれは真偽を判定できます。公理体系で設定不可能な命題はそもそも真偽がでないので語るべきではありません。

だからある一定の公理を前提にコミュニケーションを行うと話の中に矛盾がなく、その中で正しいか、間違っているかも確認することができます。そしてその公理で語りえることと語りえないことが分かるので公理外のことを話して時間を無駄にすることもありません。

公理を理解している者同士だけが、本当に共通の前提でコミュニケーションでき共通の理解に至ることができます。社会で一般に論理的とか合理的とかいわれていることの最もしっかりした形が公理主義を理解した者同士の会話です。最初に公理の違いを確認すればコミュニケーションしなければいいだけの話です。公理内では真偽は確定するので意見の不一致も理解の高まりと共に解消されます。公理が違うならそれをざっくり認識したうえで、話し合いたければ別のルールを模索すればいいだけの話です。

だから公理が現代社会の基盤なのです。全ての学問は公理化され、公理体系をきちんと明示しています。幾何学の公理・公準、古典力学のアイザック・ニュートンの原理から、電磁気のマクスウェルの方程式、マクロ経済学の IS-LM モデルからマンデルフレミングのモデルの 9 つの方程式まで、公理体系を決めると全ての話がその上で公理整合的に行えるので本当のコミュニケーションができます。消費税を増税するかどうか教科書道理にやればいいだけの話です。景気後退時には増税はしない、この一言で片付きます。

更に進めると公理体系というのは自然言語を使う必要がありません。公理体系に応じた記号の体系を作って用いることで、適切な論証や証明、定理や公理自体の記載が可能です。その場合公理の記述も定理も全て記号列で記載できますし、証明も論証も記号列で表現できます。記号の規定と用い方は公理で決められた厳密なルールにのっとりします。このように記号化、そして厳密に記号を操作する手順が決められるとそれを自動化することができます。記号や記号列生成のルールが明確なので設定可能な命題に行きつくことができます。

こういうことをひっくるめて形式主義と言います。

第 6 章の補論 完全性について

本書は数学についての本ではないので公理主義の説明は基礎数学の本のように詳細に行いません。現代的構造主義の説明は現代哲学の説明のためには必ず必要ですが、公理主義の説明は現代哲学の説明には必ずしも必要ないからです。これは人間の認識機構の構造が公理化されていないからでもあります。人間の認識機構の構造が公理的であればまたいろいろ話は違って来るでしょうが、そう考えるのは現実的ではありません。それでも公理主義について説明したのは本書の第 2 篇、応用篇・技術編で重要な役割を果たすからです。例えばその学問分野、幾何学でもいいですし、物理学の電磁気学でもいいですが、その理論体系が公理化されているかいないかが第 2 篇、応用篇・技術編では問題になります。そのために第 1 部、入門編、基礎篇で準備のため現代的構造主義の一例である公理主義についての解説を行いました。

公理主義については注意点があります。公理体系の完全性、不完全性についてです。本書の第 4 章でもかきましたが本書では第 4 章の現代哲学の説明が最も大切です。

本書では哲学的な存在や認識の確実性についてがテーマですので完全性よりは無矛盾性を優先させました。無矛盾性とはその公理構造内部で構成できる命題が同時に真であり偽であることがないこと、別のいい方をすると A という命題と A でないという命題が同時に構成、あるいは論証できないことを指します。

完全性とは形成可能な命題の真偽が決定できる、ということを意味します。不完全性とはその否定で形成可能な命題で真偽が決定できないものが一つは存在する、ということを意味します。

完全でかつ無矛盾な森羅万象を説明する究極の理論が存在すれば一番いいのですが、それは原理的に存在しないということが結論されます。

ヒルベルトの時代、形式論理の完全性、不完全性は大きな問題になりました。命題論理では無矛盾性は論理学の入門レベルの教科書でも証明されていますし、少し詳しく書いた本であれば完全性も入門レベルの教科書でされていることがあります。因みに命題論理の完全性を証明したのはクルト・ゲーデルという人物です。この人物は第一階述語論理以上の論理体系では完全性が成り立たないこと、すなわち不完全であることを示す第一階述語論理の不完全性の定理を証明してしまいました。この証明も三角線論法という難解でない方法で証明できます。因みに三角線論法を編み出したのはゲオルク・カントールです。

ゲーデルの不関税定理は以下のような形で表されます。

・公理化可能な理論が無矛盾であれば、証明も反証もできない命題が存在する。

または

・公理化可能な理論が無矛盾であれば、自身の無矛盾性を証明できない。

制限を与えれば完全性も担保できると示したのはバートランド・ラッセルです。ラッセルは例としてクラス理論という理論を例示しました。それ以外にも体系に完全性を持たせる方法は考える事ができますが、どう考えるにせよ何らかの条件を課さないといけません。

再度、注意点としては不完全性定理があるから公理主義が意味がない、ということではないことを御確認下さい。不完全性定理は数学の歴史上ショッキングな発見だったため今でも初学者に大げさに取り上げられることが多いですが、それこそ章はじめに記した“カントールが造った楽園から我々を追放することは誰にもできない”ように“ヒルベルトが造った楽園から我々を追放することは誰にもできない”のです。公理主義は現代の科学の土台であることに特に変化はありません。

公理主義は今まで疑問なく実体と考えられてきた点や線と言った数学的対象を無定義語として定義できない無定義概念として実在するかどうかについて考える事をやめます。すなわちエポケーします。その上で無定義概念同士の関係を既定するため公理というルールを設定します。そして公理により無定義概念同士の関係を作り体系化します。そうすることで作られた公理体系の中で無定義概念は別の無定義概念などとの関係を持ちます。無定義概念をどう意味づけるかは他の無定義概念との差異や関係性で規定されます。

結論としては定義というものは必要なかったことになります。定義というものは公理主義にとってはしてもしなくてもどちらでもいい二次的なものです。一時的なのは差異と関係です。これは構造主義と同じ考え方です。ただ無定義語のままにしているのは不便な場合があるのでそれに記号、名前を与えます。つまりラベリングします。それを定義と呼んでもいいでしょう。定義というのはその程度のものにすぎません。

その様にして定義を排して作られた公理体系で行った幾何学でも結果的にはユークリッド幾何学と同じような証明ができますし。定理も作れます。公理というものを非常に神経を使って作成しますが、行う数学自体は公理化されていない近代数学とあまり変わらないことが多いので、数学基礎論や公理主義をしらなくても偉大な数学者というのは存在します。基礎というのは知っておくと便利ですが知らなくても知っている人と同じように活用できるものです。あらゆる理数系の学問は構造主義で基礎付けされますが、基礎を知らないでもその学問を行えるくらいに洗練されて作られています。ですから初等教育では基礎を教えず学問を教えますが、高等教育、大学で教養を学ぶ人は必修で勉強すべきでしょう。

別のいい方をします。近代数学でいえば「定義」というのは近代哲学における「実在」と同じく一時的な物で、学問の出発点になるものです。しかし現代数学や現代数学では我々

の直観に合う、感覚的に納得できるような実在や定義というものは一時的には必要なく二次的な物です。そして利便性に応じて後付で定義したり、名前（＝記号＝言葉）でラベリングしてもいいししなくてもいいものです。

そして一方、第 3 章でまとめた言語学の構造主義を振り返ってみましょう。その上で、ここまでをまとめると、

- ・ 定義というものは必要ない。体系内での要素の差異や関係性を規定するだけでよい。
- ・ 公理主義は現代的公理主義の一種である。
- ・ 現代的公理主義の方が意味が広い。公理は無矛盾性、完全性、独立性（これはなくてもよい）を担保する。
- ・ 公理体系内で確実なものが規定できる。
- ・ 公理体系内では自然言語が必要ない。代わりに公理に合った記号を作って利用するのが便利。
- ・ 公理主義は構造主義と同じ面があるが相違点もある。それは公理である以上はかならず無矛盾性や完全性を担保できるように設定しなければならない。一般的な現代的構造主義はそれが不要ない。結論が矛盾することもあるし、不完全な結論を導くこともある。
- ・ 公理主義では定義は必要ないが、体系内の余暇の要素やルールとの関係性の記載により定義のようなものを作ることができる。それはあたかも無定義概念が実体を持っているように見える。

ということになります。

言語学のソシュールの構造主義は公理主義化されていない構造主義です。

数学の構造主義は公理主義化されている構造主義です。

どちらも構造主義です。

ソシュールの構造主義の場合、自然言語を構造として捉えています。自然言語自体のルールは非常に曖昧です。ないといってもいいかもしれません。自然言語は普通無矛盾でありませんし、完全化もされていません。ですから自然言語でコミュニケーションすると正しく話していても矛盾が出る場合がありますし、真偽がはっきりしない結論も出ます。しかしこれも構造です。そこでいえるのは理系の科学は公理主義が適している。文学や美術など矛盾が生じてても真偽がはっきりしていなくてもいい分野は公理主義化する必要はありませんがやはり構造主義を用いることができます。

ケーススタディ 論理学の例

公理主義を分かり易く理解するためには数学よりは論理学の実例をしめします。

論理額も公理化されています。更に記号化され手続き化、形式化されています。

論理学の初歩は普通、大学の教養課程で習うと思います。命題論理と第一階述語論理、論理学の歴史や他の学問との関係、それを取り巻く状況などを学ぶでしょう。

記号論理学の証明の一例をあげます。

$P \rightarrow Q, \neg Q \quad | - \quad \neg P$

1 (1) $P \rightarrow Q, \quad A$
2 (2) $\neg Q \quad A$
1,2 (3) $\neg P \quad 1,2 \text{ MTT}$

MTT(modus tollendo tollens)は否定否定律と呼ばれる推論のルールです。上の論証を解説するとPならばQであるという前提とQではないという前提からはPではないという結論が導かれるというものです。PやQは何らかの真偽の決定できる命題です。P→Q、Qが真であれば¬Pも真であると結論できます。真なる前提からは真なる結論が導出できます。P→Qが真である場合、Pは真でも偽でもいいことが経験的な我々の感覚とはことなり、数学者・論理学者・哲学者・評論家でのノーベル賞受賞者のバートランド・ラッセルが質量含意のパラドクスと呼んでいます。御存じの方はこれが背理法を言われる方法であることを御存知かもしれません。

古い論理学では推論の規則が7つあり、①仮定の規則、②肯定肯定式、③否定否定式、④二重否定、⑤条件的証明、⑥連言導入、⑦連言除去、⑧宣言導入、⑨宣言除去の9つのルールがありますが、これらは直観的に人間の推論規則に当てはまり易いルールです。実際には9つもいらず2つで十分なことが分かっています。規則が4つでもやはり論理学は構成できます。ですから公理の設定の仕方は一通りではありません。

命題論理については無矛盾性も完全性も保証されていますが、2つで十分な推論規則が9つもあるので公理の独立性はないでしょう。最小限の2つの規則にすれば公理の独立性も担保するはずです。

第一階述語論理以上の高次の論理学では無矛盾であれば不完全であることがクルト・ゲーデルにより証明され数学界に震撼を与えました。自己言及命題が生じるためです。自己言及命題を避けるためにラッセルのクラス理論、あるいはより高次の論理学の場合にはタイプ理論というのもあり、完全性を担保するルールを設ける場合もあります。

第2篇の現代哲学の自由、主体、自由主義について解説するときに改めて不完全性防止の理論について述べます。

第7章 全ては心より生ずる：精神医学と現代哲学

私を殺さないものは、私を強くする。 フリードリヒ・ニーチェ、ヴィクトールフ
ランクル「夜と霧」からの引用

まことに汝らに告ぐ、一粒の麦、地に落ちて死なずば唯一つに在らん、もし死なば、多くの実を結ぶべし。

ヨハネ傳福音書 第12章 24節、ドストエフスキー、カラマーゾフの兄弟より引用

モンスターと戦う者はその過程で自分もモンスターになることのないように気をつけなくてはならない。汝深淵を見入る時、深淵もまた汝を見入るのである。

フリードリヒ・ニーチェ

常識をもつ人ならだれでも、目の混乱には2とおりあり、そして2つの原因から生じることを思い出すであろう。すなわち明るいところから暗いところへ入ったために生じるか、または暗いところから明るいところに入ったために生じるかである。これは心の目についても肉体のめについてと全く同じく、真である。そして、このことを覚えている人ならば洞察力の混乱し弱まっている人を見たときに、そうむやみに笑えないだろう。彼は、その人の魂がより明るい生活から暗い生活へ入り、それで暗さに慣れていないゆえに見えないのか、あるいは暗闇から白日のもとへ出たので、あまりの明るさのために目がくらんでいるのか、どちらかであるかを始めに問うであろう。そして、彼は一方を健康や境遇において幸せであるとし、他をあわれむだろう。あるいは、もし彼が闇から光の元へ来た魂を笑うような持ち主であれば、この場合を笑う方が、上方の明るいところから穴倉の闇へ戻ってきた人を迎えて笑う場合に比べればまだしも理由があるだろう。

プラトン「国家」より、ダニエル・キース「アルジャーノンに花束を」からの引用

7-0 なぜ現代哲学で精神医学か

哲学の3本の柱は確実性、存在論、認識論でした。前章までで暗黙裡に前提としてきたのは“人間の認識機構は皆同じ”です。この前提が成り立たない領域があります。精神医学と発達心理学です。

精神障害では幻覚や錯覚が生じます。これは認識の異常とされます。

発達心理学では小児の認識を研究します。赤ちゃんの認識機構は我々とな時なのかどうかは、赤ちゃんはしゃべれないので分かりません。

つまり哲学は暗黙裡に“正常な大人”の認識を前提としています。何が正常か何が大人かは深くは問いません。最近では発達障害やサイコパスの研究も盛んで正常な大人の中に

も色々な認識をする人がいることが分かっています。

子供の認識機構が大人と同じかは置いておいて、ここでは“異常の認識”を扱う精神医学について取り上げます。精神医学も小児の研究も行いますので、発達心理学も一部含んでいます。

異常な認識について考える理由は、認識という仕組みよく分からないものを研究するヒントを得られるからです。医学教育は教養の他に基礎教育と臨床教育に分かれており、基礎教育では生理学と病理学を学びます。つまり“正常と異常”を学びます。

精神医学の中で精神病理学という分野は精神障害の病理を研究します。認識の病理も研究します。認識が侵される病気があるからです。いくつもありますが精神病と言われるものの中のひとつ統合失調症がその代表です。精神病理学では統合失調症の病理を研究してきました。その成果の中で哲学に重大な影響を与える発見を行ってきました。近代、そして現代哲学で取り上げられる研究者の中に精神医学者がたくさんいます。ジークムント・フロイト(1856~1939)、カール・ヤスパーズ、ジャック・ラカン、フェリックス・ガタリ・・・、等です。その中でも特に著名な人は哲学や医学のみならず、人類の歴史に名を遺すほどの功績をあげています。そのため第1篇、基礎・入門編の中で一章を割きました。

我々は多くの知の巨人たちの肩に立って現代哲学に至りましたが、それにはまた多くの精神科の患者の人々に負うことも大きいのです。てんかんのドストエフスキーはカラマーゾフの兄弟の最後の場面で兄ドミトリーが冤罪になった後、後に三男アリョーシャの皇帝暗殺に加わる子供たちが「カラマーゾフ万歳」と言ってアリョーシャを送ります。精神科の患者さんたちは自ら語ることはありませんが、人類に大きな貢献をしているのです。

また現代哲学の成立に関わる中で精神の病に苦しんだり、今でいう発達障害など色々な理由で差別されたり、精神障害を発症してしまった人々もいます。我々は先人の色々な苦勞のお蔭で現代哲学を学ぶことができます。本章はそうした人たちへの鎮魂や慰霊、そして感謝の章でもあります。

コラム 精神医学と現代哲学者たち

ジークムント・フロイト(1856~1939)、カール・ヤスパーズ、ジャック・ラカン、フェリックス・ガタリは精神科医です。ルイ・アルチュセールはミシェル・フーコーやジャック・デリダの師匠ですが、躁うつ病で入退院を繰り返し妻と無理心中をして妻を殺し、精神科病院で拒食で亡くなりました。フーコーは同性愛者で若いころから自殺未遂を繰り返しています。自殺の主要な原因は現在では精神疾患であることが分かっています。ドゥルーズは晩年自殺しています。

現代数学の中で精神科疾患を患った人もいます。カントールは彼の集合論を懐疑主義者であった代数学のクロネッカーなど数学者に執拗に攻撃され、神経衰弱になり晩年精神科病院に入退院を繰り返しました。ゲーデルは強迫性障害になり、晩年拒食で餓死しました。

仏教の禅宗では禅病と呼ばれる疾患が知られています。臨済宗の高僧、白隠禅師がり患したことで有名です。軽い自律神経失調症な症状から重篤な統合失調症や躁うつ病、うつ病までを含む幅広い概念であり、禅の修行の際には注意が必要です。

7-1 精神病理学とは何か

精神疾患は読んで字のごとく精神疾患の病理学ですが、内科や外科のような方法論が適用できません。身体科領域の医学では19世紀に病気の定義がはっきりしてきました。ウィルヒョウという病理学者は疾患とは器質的変化が病気を引き起こすものと考え、この考え方は受け入れられました。細菌学ではコッホが感染症や病原体の判定基準を提唱しこれも受け入れられました。

精神医学では最近まで精神疾患の定義を定めることができませんでした。今でももめています。そういう中で精神医学者で後に哲学に転向したカールヤスパースが減少額を用いて了解と説明で判別する方法論を開発します。これは精神障害を説明可能か、説明不可能か、と、了解可能か、了解不可能かの4通りの組み合わせで分類する方法です。精神障害は内因性、外因性、心因性に分けられます。心因性は代表は神経症でフロイトやジャネの功績もあり研究が進んでいました。外因性は器質性あるいは物質関連障害ですので、自然科学を基礎に研究できます。内因性心疾患として気分障害や精神病が挙げられますが、精神病の研究、治療は特に難解でした。現在でも難解です。精神病は古典的には陽性症状か陰性症状、あるいは両者を持つものと定義されます。陽性症状とは普通、人間では起きえない症状がおこるもので、幻覚や妄想を指します。陰性症状は人間が普通持っているはずの機能が失われたもので、思考の解体や貧困化、感情や意志の消失などが挙げられます。陰性症状が後半に機能障害を起こし重篤であると欠陥状態や荒廃状態と言われました。

7-2 精神分析学の発展

近代を通じて進歩を続けてきた自然科学は、臨床神経学の分野で偉大な巨人を生み出します。ジャン＝マルタン・シャルコーです。当時神経症候学や診察学の進歩で特定の症候群に器質的な変化が見つかる例が増えてきました。筋萎縮性側索硬化症（ALS）やアルツハイマー病などが有名でしょう。昔は神経内科疾患はその発見者の名前を関することが多くALSは昔はシャルコー病と呼ばれていました。

当時症候群と呼ばれていた類型に共通する器質的変化が見つかるようになり近代的な疾患として確立していきます。近代医学は病理的な器質や形態異常の上に作られています。その様な時代精神の中でてんかんとヒステリーと呼ばれる神経症の鑑別が問題になりました。てんかんは器質異常がある病気です。一方神経症は古くは不思議な病気、時代が下ると神経に異常が見られないのに神経に異常があるのと同じ症状を呈するものと考えられえ

てきました。前もって触れておくと後に本章で登場するジークムント・フロイト(1856～1939)は精神の抑圧から起こる心理的な問題と考えました。

臨床症候学で疾患の症状、徴候を見て類型化しても精神の場合は生前に患者から生体検査ができないため、死後脳の解剖による病理標本の所見によるしかありません。ですから当時は生前に正確な診断を行うことは難解でした。シャルコーは催眠術を使っててんかんと神経症の鑑別をしました。これは疾患である転換と、疾患でない心理的な問題である神経症を鑑別するエポックメイキングなことになりました。これはまた神経医学が精神医学と神経内科学に分かれる起源にもなりました。

フロイトはシャルコーの下に留学し神経症研究を行い無意識を精神医学、ひいては他の学問や一般社会にまで普及させました。これは初期のフロイトの精神の階層論または局所論と言います。そして精神分析学を造りました。後期フロイトは精神の構造論を唱えます。他にも精神分析の体系は力動論、発達論、経済論など分類されていきます。1980年まではアメリカでは精神分析学が精神科の中心でした。

フロイトの死後も精神分析学は発展しフロイトの娘アンナ・フロイトを中心として防衛機制を研究する自我心理学、小児や統合失調症の精神分析から大量関係論を創り上げたクライン派、どちらとも一定の距離を取る中間学派などが出て更に新しい考え方も次々と作られ学派も増え発展していきます。その中でフランスの知的エリートで高等師範学校で哲学を、パリ大学で精神医学を学び両者に精通したジャック・ラカンによって構造主義的精神分析が造られ、パリ・フロイト派として独立します。ラカンの精神医学の師クレランポーは統合失調症の高名な精神病学者でしたが自殺しています。ラカンも統合失調症の研究をし、パラノイア型精神病が彼の学位論文です。統合失調症にもいろいろな病型がありますが中でもパラノイアまたはパラノイド型精神病であり、は妄想型統合失調症は、認識のゆがみが生じて固定化する、あるいは体系化する疾患の代表です。体系化とは妄想が整合的でなく合理的でもなく矛盾や錯誤に満ちたものにせよ何らかの規則性がある状態です。

7-4 ラカンの理論

ラカンは認識に対して現代的構造主義による認識生成機構の理論モデルを作りました。それは人間の自己認識に関するものです。精神科では人間の精神機能を伝統的に知、情、意に分ける伝統があります。認識は思考に属しラカンの研究テーマでもありました。意識障害がなく最も目立つ思考のゆがみが発生する状態の一つがパラノイア、またはパラノイドと言います。接尾語-oidは「型」「類型」「似た状態」と訳してもいいので両者は同じような状態です。統合失調症にはいろいろな類型があり100人100様とヴィンスワンガーという精神病学者は言っていますが、統合失調症ではどの累計でも認識が障害されます。そして思考の歪みという形が最も顕著でかつ長期間固定化し、体系化されるのがパラノイア型精神病であり妄想性統合失調症です。体系化とは妄想が整合的でなく合理的でもなく矛盾や錯誤に満ちたものにせよ何らかの規則性がある状態です。

認識される対象としての自己がどのように人間の中で形成されるかについての構造主義を用いた説明モデルです。しかしこのモデルは自己認識にとどまらず人間が認識するあらゆる認識対象、事物の認識形成の説明にも適用できます。

7-4-1 シェーマ L、

ラカンの理論は、フロイトの構造論、つまりエディプスコンプレックス、メラニー・クラインの対象関係論、自我心理学を総合して取り入れ、自己同一性を生成する機構を説明したものです（図参照）。精神分析学の側から見ると構造主義的精神分析と呼ばれます。

ラカンのシェーマは S（エス、イドともいう）、A 大文字の他、a 小文字の他者、a' 自我から成り立っています。精神医学では自我は認識する主体としての自分であり防衛機制などを発動する精神の機能、自己は認識される対象としての客体としての自分であり自分をよりメタ認知した対象である、という風に考えます。

エスやイドはリビドーの源泉で我々の欲求や欲望、仏教でいうと渴愛などの源泉です。これは精神力動のエンジンであり、どういうリビドーを発するかは我々にはよく分からない面がある、精神の深淵です。大文字の A は我々に減少している事物の総体としている世界です。小文字の a は減少している世界の個々の事物で A を構成している、あるいは a の総体を世界であると考えられます。a は他者とも言います。他者というのは人という意味ではなく、自分以外の認識対象です。'a が自我、別の面から見ると自己です。A→a' は世界対自己の関係を現します。A は広い意味で超自我と捉えられます。またハイデガー風に言うと世界-内-存在で世界に投企された源存在です。また乳児では父や母から与えられる視線でもあります。a→a' の矢印はメラニー・クラインが分析した対象関係論の理論を著します。鏡に映った自分、目に見える自分の手、内相した時に現れる自分の精神の諸要素を自我、あるいは自己であると認識してしまう、あるいは誤解する過程を現します。これはデカルトやメルロポンティなどの身体論に対する現代哲学の答えでもあります。S→a の矢印は何でしょう。何を認識するかは S によります。おなかがすいた乳児は乳房を認識するでしょう。これは原始的、本能的 S の役割でしょう。成長するにつれて何を認識するかは本能のみならず色々な要素の影響を受けるでしょう。何を認識するかは単に欲望だけではなく、意欲、つまり意欲や欲求にもよるでしょうし知的興味にもよるかもしれません。a' から S の矢印は何を欲求するかは自分から生じる物です。自我心理学でしたら防衛機制から発動されるものでしょう。自分が何を欲望するか、欲求するか、意志するかはまさに自分がどのような個性を持っているかによっており、他人の欲望とは事つんと他人が別人であり差異がある限りは自分と他人は別のものを欲望するでしょう。そして何を欲望するかは無意識にもよっています。我々が意識がした欲望が我々の欲望であるとは限りません。フロイトが発見した抑圧とは無意識でした。無意識はまた意識との差異です。意識があるから無意識が隠されているともいえるし、意識の背後で働いている何かとして無意識があると言えるでしょう。そこで a→a' の→の下に a'→S があるのが意識と無意識の関係です。a→a' は自我あるい

は自己概念の生成であり、これは我々の自我意識、自己意識の生成を現します。自己同一性の生成ともいえます。我々の腕は我々の体の一部と認識されますが、切り取ってしまえば自分から離れてもはや自分ではないと認識されます。我々は五感で感覚しますが、感覚器はそして感覚する主体は我々であると我々は認識します。我々は色々な要素の総合が自分であると考えています。総体としての自分というものは直接認識できるものでなく我々のイメージの中にだけあるものです。それが認識される自分としての自己です。また認識する主体としての自分が想定されそれを自我と呼びます。 $a \rightarrow a'$ の矢印を創造的關係と言います。

これは我々の自己意識が成立する、かつ自我概念が成立する機構を現しています。しかし a' は必ずしも自分だけでなくもいいのがポイントです。 a' は全ての認識対象の生成を説明します。道に落ちている石ころを認識する仕組みの説明にも使えますし、心という物質性があるかどうか良く分からない観念の塊のようなものを認識する仕組みの説明にも使えます。我々の認識対象、事物が現前する全ての説明体系になっています。つまり認識論です。同時に存在論でもあります。存在というものをシェーマ L で説明すれば a' を我々が存在していると思込んでいる、あるいは a' を認識したから我々は a' が存在しているという我々の、悪く言えば、勘違いです。我々が他の人々と同じものを認識していると思込いても、人によってその現前の生成の仕方はその人の個性によって異なっています。どのような a や A から a' が生じているかは人によって違うからです。

$A \rightarrow a'$ の矢印は我々が認識している世界自体から a' の認識が影響を受けることを現します。 $A \rightarrow S$ の矢印もあります。 A からは2つの矢印が出ていて2つの矢印の起点となっています。 S は世界を代表するものと幼児期には認識されるとしますとこれはエディプス的關係、フロイトのエディプスコンプレックスの説明となります。また A は現象する世界自体を現します。全ての矢印の起点が A だとします。他方で $a \rightarrow a'$ と $A \rightarrow a'$ によって全ての矢印が収束しています。これは現前、つまり我々の認識対象の事物が我々の認識機構の具体的な生成物であることを現しています。

認識の対象の生成、現前の生成をラカンのシェーマ L で説明すると a' が成立するには複数の a が必要で複数の a との關係が a' の存在を現前させます。人間とは一面ではとらえられません。だから釈迦は人間は五蘊からなると考えました。

赤ちゃんは認識、現前機構がまだ備わっていません。だからメラニーライン派赤ちゃんはおっぱいと母親の柔らかさや温かさや母親の匂いを統合できず、母という存在を一人の人間として認識できないと考えました。

複数のデータが情報処理され統合されて何かの事物の認識を生成します。複数のデータ間の關係性、それらに対する情報処理が關係性です。関数のようなイメージです。

まとめます。

- シェーマ L は認識論である。
- シェーマ L は存在論である。

- ・ シェーマ L は素朴实在論とは全く異なる理論である。
- ・ シェーマ L は曖昧さのない理論体系である。

7-4-2

シェーマ L は構造主義による認識論の構造化の一例です。他にもあるかもしれませんが、一つあれば十分です。でも少なくとも一つは構造主義による認識論を示しました。その上これは存在論でもあります。哲学に対して素朴实在論とは本質的に異なる認識論と存在論を提示することは画期的なことです。既存の哲学は何らかの形で素朴实在論が仮定されています。素朴实在論に全く関係ない、独立した認識論、存在論を科学的に、つまり方法を具体的に明示して誰にでも学習できる形で示したことは画期的な事です。

7-4-2 ラカンの世界観、ボロメオの輪

そのような構造主義的視点を元にラカンが示した世界観の表現がボロメオの輪です。ラカンは世界、つまり現象を現実界、想像界、象徴界に分けました。我々はこれらの見方のいずれか、あるいはこれらの見方が混じった形で世の中を認識します。

現実界は素朴に我々が存在と認識している世界です。唯物論的な見方がこれに当たります。我々は我々がいるとしないと関わらず、我々が目をつぶっているときも目を開けて目の前に見えているように世界が存在すると認識する側面があります。量子力学やシュレディンガーの猫は経験的には直観的に理解できません。我々が古典力学のような経験的、直観的に納得しやすいものが勉強しやすく、量子力学のように経験的、直観的に理解しにくい学問の習得が困難なように現実界は理解しやすい世界です。普通発達の過程では現実界のみの見方で世界を捉えます。

想像界は我々が観念の中で思い浮かべる世界です。世界は観念が生んでいるので現実の世界は存在しないのではないかと、と言った近代哲学の観念論が代表です。観念的に見る見方はある程度精神の発達が必要で抽象的に物事を見る必要があります。ピアジェの発達理論でいうと 12 歳以降の抽象的捜査段階、すなわち思春期にこのような考え方を自然に出来る様になります。べつのいい方をすると近代哲学的な見方を出来る様になります。固体発生は系統発生を繰り返すという生物学の反復説がこの場合哲学史にも当てはまって、近代哲学では観念論が大きな勢力となります。

象徴界は言語論も含めた、更にそれを一般化した記号論も含めた象徴を操作する精神の機能で象徴操作の場を現します。これは数学、特にある程度高等な数学などを行う時に現れてくる世界と言えます。記号論を重視するところが現代哲学の特徴です。限りませんが我々の認識には精神の象徴化作用が働きます。シェーマ L の a' が生成されたときに我々は象徴化を行ったこととなります。精神に現前が生成した時同時に象徴化を行っています。象徴は認識と関わっています。我々が情報処理を行った時に処理する情報、あるいは出力

された情報、またはデータは象徴の形を取ります。精神、あるいは脳の中の情報処理でも一緒です。純粋な象徴化しかできない障害もあります。

我々は一般に上記の 3 つ、現実界、想像界、象徴界を入り混じらせた形で世の中を見ていますが、1 つ除いてどれか 2 つ、あるいは純粋にどれか一つの見方でしか見ていない場合もあります。対象関係論のクライン派の乳児の見方やピアジェの発達理論の前操作期の幼児の見方がそうで、この場合は世界を現実界としか見ていません。また純粋な観念論に近いドイツ観念論のフィヒテやシェリングは想像界だけで世の中を解釈しているでしょう。そして著者の友達の谷口浩君は象徴界（と想像界）で強く世の中を見ています。

ボロメオの輪のモデルは世界の分類や我々の世界観の処理する機構として現代哲学が提示する 1 例です。

7-4 ポスト構造主義とフーコー、ガタリ

ミシェル・フーコー、ジャック・デリダ、ジル・ドゥルーズ、フェリックス・ガタリはポスト構造主義の形成に貢献した代表した人物です。この中で精神医学者はフェリックス・ガタリです。ガタリはドボルドー病院で精神医療の改革運動に従事した人物として有名です。他に精神的な問題で苦しんだ人物が 2 人います。ミシェル・フーコーは同性愛者でした。当時同性愛者は精神障害に分類されていました。その記載がなくなったのは今も WHO の国際疾患分類には同性愛が載ってはいません。そして自殺未遂を繰り返しました。ドゥルーズは投身自殺で自殺しました。自殺者は現在ではうつ病を含めた精神障害者が多いことが分かっており、精神障害があるかどうかは別に、行政でも自殺は精神医療保険で対策されています。

フーコーの精神障害に対する見方は現在の精神科医には必須のものです。フーコーは精神科医師ではありません。哲学、精神医学、心理学、歴史学、文献学、書誌学などに精通する学者でした。フーコーの業績は広範な文献渉猟に基づき、歴史、人間、狂気、精神病、監獄、権力、知、哲学、言葉、事物の構造主義を用いた見方を示しました。それらは構造主義に基づいた近代、ひいては近代哲学批判であり、ポストモダンと呼ばれる時代への移行への宣言でした。特に中世に狂気と言われたものが精神病というものいかに移行していったか、中世的秩序から版下精神障害者、犯罪者、同性愛者、宗教の反対者、知的障害やその他の疾患で社会から排除されたもの、当時の倫理道徳に反するもの、嗜癖が特殊とみなされた者たちが一緒に入れられていた施設から、近代にいかに精神病患者と精神病院、精神医学が析出していったかを文献的に明らかにしていきます。この見方は現在の精神科医の常識となっています。正常から異常、正常の精神から狂気を区別していった近代への批判でもあります。また歴史を思想的に分類し直しました。当時の思想、知的風潮を形成していた考え方の断絶により歴史を分類し直しました。また歴史の実在性自体も解体し、歴史の終わりを示しました。我々は普通” 真実の歴史” というものがあると考えますがその様なものはありません。それを文献学と現代哲学を用いて示しました。

ジャック・デリダは当時の哲学内部に現代思想から得られた哲学的結論を示し現代哲学を位置づけました。

ジル・ドゥルーズとフェリックス・ガタリはポスト構造主義の見方から現代哲学が基盤となる現代という時代にどの様に社会がありえるべきか、どの様に人が生きるのかのモデルを示しました。彼らは精神医学に分裂分析という概念を提唱しました。現前を解体するスキゾ性と現前を生成してそれに騙されるパラノ性にかけて統合失調症の再評価を行いました。本書では哲学を認識と存在の確実性と瑛議していますのでこう書くと哲学をではないように見えます。その通りなので第 2 篇で彼らに触れます。ただ広い意味の哲学は単に賢い学問ということですので倫理道德の確実性も追求しており、どう生きるべきかの追及も近代西洋哲学には含まれていた点があることは指摘しておきます。

7-5 現代哲学と統合失調症

現代哲学の成立には統合失調が大きな役割を果たしました。統合失調症は連合心理学による概念の統合の障害という意味でつけられています。昔は精神分裂病などと言われますが、ヨーロッパ語から翻訳すると分裂性精神病とするのが正しいようです。精神病は過去には狂った、とか狂気とか、きちがいと言われた状態で、精神がおかしい状態です。”おかしさ”は 2 つの大きな症状に分けられます。陽性症状と陰性症状です。陽性症状は普通の人にあるのに患者には見られない症状で幻覚や妄想などです。陰性症状は陰性症状は普通の人にあるのに患者にはない症状で、思考がまとめられない、感情や意志が減弱したり失われる、自閉、認知機能の低下などです。

精神病にもいろいろあり、内因性、外因性、心因性と分けられます。心因性は現在ではあまり言われません。外因性は意識障害や膠原病など他の医学的状態や病気、またアルコールや覚せい剤などの薬物で精神病状態になる場合を言います。内因性精神病は統合失調症とその周辺疾患を指しますのでニアリーイコール統合失調症とここでは簡単のため規定します。統合失調症は色々な症状を呈しますが、精神分析学の影響を受けたブロイラーという精神医学者は障害の本体を連合心理学における統合の障害と考えました。言い換えると認識が障害されるということです。

認識の側面から見ると統合失調症の患者では認識するはずがないものを認識します。幻覚と言います。また感覚に錯誤が生じます。錯覚と言います。合わせて盲覚と言います。また認識されるはずのものが認識されません。また認識されたものの意味が通常と違う意味付けをされたりします。また認識されたものへの実在感が生じません。また認識されないものへの存在感を感じたりします。また認識されたものに対する注意や解釈が過剰更新し、認識がゆがみます。その他あらゆる形で認識の障害症状が現れます。統合失調症の患者の認識が普通と異なったまま固定化して、修正不可能になることを妄想と言います。また妄想がある程度固定化しての法則性を持つことを体系化すると言います。認識の障害自体がおかしい状態ですが、妄想が体系化した状態は”おかしい”と感じられます。それが

おかしいといっても患者は納得しません。また患者は”自分はもしかしたらおかしいことを考えたり、言っているのでは”という可能性を考える事も出来なくなることがあります。自分を客観的に見たり俯瞰的に見たり相対的に見たりすることができなくなります。これはメタ認知の障害です。患者さんが自分はおかしいかもしれない、と考えられなくなった状態を病識がないといいます。その上患者に新しいことを説明しようとしてもうまく認識できません。つまり理解、納得ができません。例えば統合失調症という病気があって、それがどういう病気かということを知ることができません。こうした病識の障害は治療を困難にします。病識を持ってもらうことはこのタイプの統合失調症の患者さんでは最も重要な治療の一つになります。

また子供の精神疾患や発達などの観察、精神分析学やその他の方法を用いた治療などから、認識に対する対象関係論という理論ができました。フロイトの弟子、メラニー・クラインが創始した考え方です。

新生児や乳児早期では母親の子とは認識できません。認識できるのはおっぱいを飲むための乳房であったり、抱きしめられた時の、母親の柔らかさ、温かさ、匂い、話しかける言葉がばらばらに感覚されているかもしれませんが、それらを母親という一人の人間が提供しているという認識はありません。母親、という一つの存在を認識できるようになるのはもっと発達が進んでからです。しかしこの時期であっても成人とは違う形ですが様々な感覚、認識機構が働いており、本能や反射、精神では防衛機制も働いていると考えられます。分裂、否認、投影性同一視、原始的理想化などが挙げられます。

ヒュー・ストリングズ・ジャクソンという神経科学者はジャクソニズムという考え方を提唱しました。それを進化させ中枢神経、脳にまで適用した理論をネオジャクソニズムと言い、アンリ・エーという精神科医が器質力動論の中で構想しました。

神経系は小児ではより下位の脊髄が機能し脊髄反射が見られます。より上位の延髄が成熟すると下位の脊髄が延髄に支配され、脊髄反射は時に抑制され延髄反射が見られます。延髄より上位の間脳、大脳辺縁系、大脳新皮質とより高位の脳が低位から順番に発達し低位の神経系はより高位の神経系に支配、制御されて機能が落ち着き最終的には大脳新皮質という最上位の神経機能により支配され、新皮質の機能が表に出てくるようになります。しかし上位の神経系が機能障害して下位を制御できなくなるとすぐ下の神経系が機能し始めるというのがネオジャクソニズムの関係方で精神科医、あるいは神経内科や脳外科を含めた神経科学者や認知科学者ではよく知られた理論です。

統合失調症では大脳新皮質、特に前頭葉などの連合野に機能不全をきたすというのが精神病理学の仮説です。

ラカンのシェーマ L はフロイト、自我心理学、対象関係論をはじめ精神病理学のあらゆる成果を取り入れつつ、哲学、数学、東洋思想をはじめ諸倫理思想を統合した人類の知の

一つの結晶だと思えます。

人間の認識はマトリックスのようなものです。マトリックスの結節点が現前、実在、実体、存在のように見えます。素朴術財論では現前、実在、実体、存在が先行してそれらを線でつなぐと事物の関係性を示すという風に考えていました。シェーマ L によると現前、実在、実体、存在は先行して存在する必要がありません。関係性のマトリックス、網があって、2 次的にそれらを想定したり想定しなかつたりします。どちらも似たようなものに見えるかもしれないし、実用上はどちらでもいい場合も多いのですが、厳密、正確、確実に物事を考える哲学や科学では重要な違いであり、依って立つ基礎が変わってきます。現代的構造主義全体でそうですが、森羅万象とマトリックスのように見えます。現代はマトリックスの時代と言えますし、まさに文化（文はテキストやマトリックス）の時代と言えます。

統合失調症はマトリックス、網と網目の結節点の歪みと見ることができます。

7-6 素朴実在論は不要か

発達理学ではこどもの認識の成長を研究します。我々は知能発達の過程で必ず事物に対する認識を形成させる必要があります。これができないと重度の知的障害になる可能性がありますし、ある程度認知機能が発達した後それが攪乱され認知機能が失調をきたした病気が統合失調症と見ることができます。そこで我々は思考の生理と病理を研究します。思考は認識の総体という側面があります。精神医学は人間の思考を扱わなければいけません。古い分類法（今でも使われる）では精神障害を知情意で分けます。精神科医は知の、思考の障害である精神病、またその一分野である統合失調症と向き合います。

その仮定がきちんと成熟する前にそれを阻害するあらゆることは精神の、あるいは知能の発達には良くない事である可能性があります。そういう意味では思春期は重要な時期になるでしょう。一方、成人して青年期になってからいつまでも素朴実在論から離れられない近代哲学や近代科学に基づく思考しかできないようでは知的、教養的にミゼラブルですし、経済成長や精神的、身体的健康や老後の認知能力にさえ悪い影響を与えると考えられます。

ケーススタディ 認識発達について考える。

我々が成長するにはまず物事を認識できて確実に存在することを自然なこととして習得することが成長の過程で必要になります。これが上手くできないと思考と知能が成長できません。子育てにも大切なことです。物事の存在を認識することが先天的にできない、あるいは成長の過程で阻害されると知的に次のステップに進めなくなります。逆に健全に育った場合には物事の存在を自然に認識して確信していくようになります。そのような普

通の育ち方では「もしかしたらこの石ころは自分がそう錯覚しているだけで実際には存在していないのかもしれない」みたいな考えは持つ必要がありません。しかし思春期くらいになると哲学的に物事を考える、つまり存在論や認識論について深く考える人が出てくるでしょう。思春期の心性、思春期の危機はこのような時に現れます。ものごとを哲学的に、時に実存的に考え、自己同一性について悩み混乱する時期です。もちろん悩まない人もいます。ただ思春期までは物事の素朴な実在性を認識し確信することは脳にとっても大切な時期になります。その時期を過ぎると脳が抽象的な思考をどんどん高められるようになります。ある程度の抽象的な思考能力を獲得すると、素朴な実在論だけでなく、構造論について理解できるようになります。これは学習により習得可能です。学習により構造論を理解できるようになること、それが高等教育、すなわち大学生が一番学ぶべきことです。

第1篇 終論

基礎編・入門篇・現代哲学篇のまとめ

第1篇 基礎篇、入門編をまとめます。

- ・哲学は確実なもの何かを追求する。
- ・哲学の存在と認識について探求する（厳密には倫理道德とか他の事の確実性も追求するがこの教科書では単純化のため割愛）。
- ・現代とは現代哲学を基礎とする時代である。
- ・現代哲学は素朴実在論、現代的構造論・ポスト構造主義の3つとその関係を理解すれば理解できる。
- ・現代数学の基礎論の公理主義派構造主義のプロトタイプで現代的構造主義の特殊なものである。
- ・したがって現代数学基礎論から現代的構造主義を導くのは難しくはない。
- ・現代哲学、現代数学の基礎論、仏教は同じ考え方である。
- ・

第2編 現代哲学の応用篇・技術篇・現代思想篇

目次

第2編 現代哲学の応用編・実践編・現代思想篇

第4部 現代哲学応用、実践のイントロダクション

第8章 欠番

第9章 現代哲学活用にあたっての骨格提示

第10章 現代哲学の応用に当たっての注意点

10-0 現代哲学で注意すべきこと

現代哲学が分かりにくいと思う人の注意点

第11章 イデオロギーの使い方：詳細と各論

11-0 イデオロギーの実使用学

イデオロギーの駆使の仕方

第12章 メタアノミー、アノミーの研究、ニヒリズムと選べない人々

12-0 アノミーとは何か

第13章 現代哲学とコミュニケーション

13-0 コミュニケーションの確実性

第5部 現代哲学の advanced な応用

第14章 構造主義おさらいと実践応用 現代的構造主義の脱構築と構築

14-0 イデオロギー分析、応用のための構造主義

構造主義の実践的な活用

現代的構造主義の脱構築と構築

第15章 倫理道德と現代哲学

倫理、道德、判力と現代哲学

第16章 イデオロギーの選択：いろいろなイデオロギーを具体的にみる

第6部 現代哲学から見た世界と社会、現代思想に対する現代哲学の応用

現代思想への現代哲学の応用

第17章 モダニズム批判、ポストモダン同一性批判、歴史と人間の終わり

17-0 モダニズム批判、ポストモダン

同一性批判、人間の解体、歴史の終わり

第18章 イデオロギー批判と現代哲学

18-0 近代の偉大と悲惨

イデオロギー批判と現代思想

第19章 シミュラクル、シミュレーションの世界、大きな物語とナラティブ

シミュラークル、シミュレーションの世界

第7部 他の学問、現代思想、科学・技術と現代哲学

第7部 現実世界での現代哲学の応用 各論：現代哲学の科学・学問への応用

第7部 現代社会の基礎としての現代哲学、他の学問、現代思想、科学・技術と現代哲学

第20章

20-0 現代哲学の自然科学への応用

20- 情報科学と現代哲学

第21章 公理主義化されない構造：文学、デザイン、ファッション

第22章 現代哲学の臨床への応用

第8部 自己啓発、頭をよくする、知情意をコントロールする方法

現代哲学と私達、社会の関係

第23章 現代哲学による自己啓発と頭をよくする方法

現代哲学の応用、頭をよくする方法

第24章 知情意のコントロール

知情意の質や量のコントロール

第25章 自己啓発と現代哲学

第26章 現代哲学をマスターした人、しない人の比較

第27章 現代哲学で得られるもの、結論とまとめ

第28章 現代哲学のキーワード、箴言、モラリズム

あとがき

第終章 本書のまとめ

○-1 あとがき

○-2 謝辞

第2編 現代哲学の応用・技術篇

知は力なり

フランシス・ベーコン

はじめに

第2篇では現代哲学を応用する方法を詳しく説明します。

科学の応用が技術です。現代哲学の基礎を身に付けることは科学を身に付けたということです。なので、現代哲学を応用できるようになります。しかし理学部があつて工学部があるように応用にも訓練が必要です。

本編では現代哲学を身に付けた恩恵として、①現代哲学を応用した頭の使い方、現代哲学を身に付けた実利の凄さを実感してもらう、②現代哲学を用いて現代思想を理解する、③現代哲学がどの様に現在の科学、技術、社会に組み込まれているのかを示す、の3部構成で解説します。

応用だからという訳ではないですが、第一篇、基礎篇・入門編は理論の解説でしたのでち密に説明しましたが、第二編、応用篇・技術編はやや雑駁な印象になってしまうかもしれません。理論は一つですが応用は無限大にできると思われるからです。ただし文章のスタイルが読みやすくなってもいると思うので気軽にお読み頂けると最大です。

第1編、基礎篇・応用篇では構造が公理化されているかいないかは重要視しませんでした。哲学の主題である「存在の確実性」と「認識の確実性」の説明には公理主義は必要なかったからです。第2篇の応用・技術編では、公理主義は決定的に重要になってきます。対象を現代的構造主義の見方でみた場合、その構造が公理化された構造であるか、公理化されていない構造であるかが重要だからです。公理化された構造では結論は真偽の決定ができて現代哲学で重要な概念は

第2篇の最後では現代哲学マスターと現代哲学を理解していない人の比較を行います。これにより現代哲学を理解するという事が理解していない状態に比べてどう異なるかの理解が明瞭になります。

第4部 現代哲学の応用、実践へのイントロダクション

第9章 現代哲学活用にあたっての骨格提示

我々は自由の刑に処せられている。

ジャン・ポール・サルトル

私は自分が知らないことを知っている。

ソクラテス

9-0 現代哲学活用のための準備、キーワードはメタという言葉

現代哲学を応用するにあたって準備をしましょう。

現代哲学の3大要素は実在論、構造主義、ポスト構造主義と書きました。

この中で一番大切なのはポスト構造主義です。

ポスト構造主義をきちんと理解できていれば他は理解していなくてもいいです。

第4編第9章ではそのための準備を行います。

分かり易い、面白い、頭がよくなるというのが本書のキャッチフレーズです。

それが嘘でなく事実であることを第2篇で知るでしょう。

現代のアスリートはアップしないスポーツ選手は1流ではないか、選手寿命が短くなります。

現代思想もそうです。

準備で一部一章設けるのはそのためです。

キーワードは“メタ”という言葉になります。

メタとは古典ギリシア語で「高次な」「超」「一間の」「一を含んだ」「一を入れた」「一の後ろの」という意味で英語でもその意味でそのまま使われます。

哲学ではアリストテレス以来、**physics** に対する **metaphysics** でつかわれます。

Physics は物理学の意味でつかわれます。

Metaphysics は形而上学の意味でつかわれます。

日本語では哲学で形而上学、形而下学という言葉が使われます。

形而下は形より下、形而上は形より上という意味であり、具象的な世界の研究が形而下学、抽象的な世界の研究が形而上学になります。または物について研究するのは形而下学

で事について研究するのは形而上学になるでしょう。

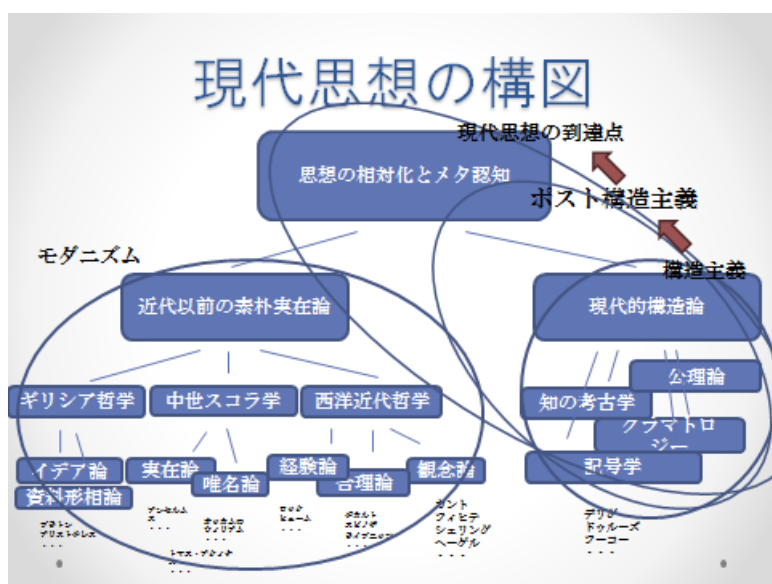
現代哲学の視点からいうと近代哲学、モダニズム、さらには構造主義や空の考え方もポスト構造主義の下位の考え方になります。ポスト構造主義ではそれらのイデオロギーの情意構造を研究します。

情意構造ですので上位構造に出てくる概念をメタとつけて下位構造である近代哲学、モダニズム、構造主義的哲学などの概念と区別します。

すなわちメタイデオロギー、メタ自由主義、メタ自遊空間、メタ認知、メタ主体性、メタ自主性、メタ個人主義、メタナラティブ、その他です。

つまりイデオロギーの上位、高次構造、イデオロギーと上位のメタイデオロギーとの間の構造を研究します。

下図が一つの視覚化になります。



9-1 一番大切なもの、フィロソフィー

哲学がフィロソフィー、即ち智を愛するという意味を語源とすることを思い出しましょう。

応用編でもそのやはり智を愛することが大切です。愛は貴重なエス、リビドー、意志、情熱、好奇心、興味関心、行動力の源泉です。エネルギー、燃料、動力機関です。つまり何かを動かし変えることができます。

特に宗教的な意味でいうわけではありませんが、愛は大切です。

第1篇で一番大切なのはフィロソフィーと書きました。それは第2篇でも変わりません。人間の動力源には色々なものがあると思います。感情、意志、リビドー、権力への意志、その他です。この本は非常にポジティブで愛深く書く予定ですので博愛主義的に現代哲学を応用しましょう。

9-2 近代哲学と現代哲学、モダニズムとポストモダン

現代哲学はポストモダンでモダニズム否定のように考えたとすればそれは誤解です。

正しく言えば現代哲学は近代哲学を含むより特殊な哲学軍の一般化、ととらえるのがいいでしょう。

近代哲学の上位互換として現代哲学があります。

ですから近代哲学、あるいはモダニズム全般の成し遂げた大いなる功績を現代哲学は認め継承しています。

我々人間はいつだって巨人の肩に立って見ますし、歴史や伝統や文化、文明を継承していく存在です。

何度も書きましたが構造主義的哲学（構造主義的存在論や認識論）は实在論を否定していません。別に独立に成り立っていると考えてください。

实在論しかなかった世界に、構造主義的哲学という新たなものを加えただけです。

しかもこの両者は矛盾しません。

極端な場合は实在論のみか構造主義だけの見方、考え方を用いても構いませんが、日常生活、社会生活では両者を両方併用していくのが現代哲学をマスターしたメリットになります。

学習に難渋してもそれは一言でいうと頭がよくなる、あるいは高級な自己啓発法を身に着けたことになる、という形で報われます。

極端な構造主義者になり实在論＝モダニズムや近代哲学を否定せず、両者を使いこなすために作られたのがポスト構造主義です。

何度も言いますが現代哲学は近代哲学やモダニズムを否定していません。それを含んで特殊な思想を一般化させたより汎用性の高い上位互換の思想です。

9-3 もう一つの大切なもの、現代哲学のポスト構造主義

第1篇で現代哲学は3つのキーワードである、①实在論、②構造主義的哲学、③ポスト構造主義とその関係だけ理解すればよいと書き、更にもっと突き詰めると③を理解納得していれば十分と書きました。

その意味は第2篇第4部の本章を読んで頂ければ明らかになります。

本章ではポスト構造主義しか用いません。

①実在論に基づき構造主義に基づかないイデオロギーにせよ、②構造主義に基づき実在論に基づかないイデオロギーにせよ、③その両者に基づくイデオロギーにせよ、④そのどちらにも基づかないイデオロギーにせよ、全ての世俗のイデオロギーはポスト構造主義の前では区別は不必要です。

全ての全ての世俗のイデオロギーは細かく理解する必要はありません。
ではイデオロギーとは何か、そこから始めましょう。

9-3 イデオロギーとは何か

イデオロギーとはアイデアという言葉とロゴスという言葉が成り立ちます。

アイデアとは英語ではアイデアです。日本語にもないっているのでアイデアはアイデアとして考えましょう。アイデアは色々な意味を含みますが頭の中の考えの違いくらいに考えたらいいでしょう。

哲学の歴史ではプラトンがアイデア論というのを唱えました。それを知っておくと理解が深まりますが特に深める必要もないのでここではアイデアであるとさりと流します。

アイデアとは表象される全てのものです。意識される表象だけか、意識されない前意識、無意識の表象を含むのかという点については特に定義はないでしょう。ですので大まかにとらえればよいです。

ロゴスとは英語ではロジックと呼ばれます。古代ギリシアでは論理、合理、理論、理性、言葉、学問、理などと訳します。これは一言でいえば理でしょう。理とは何か。理の概念は中国の宋学の特に朱子学で重視されます。とりあえず区割り説明は省きます。実践に大切なのは大雑把な理解とスピード感と行動力です。英語では単に論理と考えていいでしょう。ただし次のような使われ方もします。 いろんな分野の学問で英訳すると語尾にロジー、logy がついている場合があるでしょう。これはロゴスの変形です。

ロゴスと対照的に使われるのはレトリグーです。これは修辞の意味です。英語でいうとレトリックです。

ロゴスを研究する学問を論理学、レトリックを研究する学問を修辞学とするとどちらも大学のリベラルアーツの自由7科の言葉に関する学問に属します。

ギリシア時代はロゴスは哲学者や科学者が勉強する学問です。ギリシア時代に哲学と科学の違いがあったのかは疑問ですが。ギリシア時代には哲学と科学は同じ意味だったかもしれません。近代の大学制度では哲学科で哲学も自然科学他の科学も研究されていました。その中では哲学は確実性、それは同時に学問の基礎を研究する学問という意味に特化していきます。

一方、レトリック、修辞と修辞学は弁論術、弁論家即ちソフィスト、時に詭弁、いかに相手に言葉の効果を最大限に発揮させるが研究する学問です。ロゴスの人、哲学者である、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの系譜ではソフィストを低く評価し、時に戦い、否定します。ソフィストが逆にロゴスを低く評価し、時に敵対し、戦うからです。

もともとは修辞学と論理額は対立するものではなく全然別々の独立したものです。ポスト構造主義では両者とも利用します。

第1篇で現代数学の公理主義を説明したのはロゴスを説明するためです。

一方レトリックは公理主義分かり易く普及啓発教育にも使えます。

そもそも自然言語というものを考えると人間は言語体系や文化によって異なりますが、頭に入りやすい論の進め方、言葉の使い方があります。それが論理的なものであるとは限りません。

第1篇第〇章の現代数学の解説のところでコラムに簡単な命題論理の論証の例をしりました。その時は基本的な論証のルールを9個に設定しました。

論理的であることだけを考えるのであればこれは9個である必要はありません。減らせば最低2個で同じ論理体系を、論証過程は異なるものになりますが、作ることも可能です。逆に9個より増やすことも可能です。どんな風にも増やせますが、例えば定理のいくつかを基本的な論証ルールにはじめから加えてしまえばいいだけです。

9個である理由は単に慣習的、伝統的で中世の基本的なルールを祖型に作られているからに過ぎません。

ただこの9個にするのが中世には古代（イスラム経由も含めて）にはこの9つが原理で心理のように見えたのでしょう。9つを眺めてみれば自然な直感にもマッチしていますし、自然言語で論理を語る場合にも自然な感じがして書学者には学びやすいです。

第1篇で現代数学の公理主義について詳しく説明しました。

普通の現代哲学の入門レベルの教科書ではこれはあまり詳しく説明されません。

この教科書で詳しく説明したのは第2篇のためです。

応用と実践に役に立つためです。

構造主義はでは構造を2つに分けるのが便利です。

それは①公理主義化された構造と②公理主義化されていない構造（非公理主義的な構造）です。

①は整合性をもって構造内部での矛盾、またはバグを持たせない構造です。

②はそれ以外ですので整合性を持たない矛盾がありバグがたくさん含まれています。

①と②はそれぞれ扱う対象が異なります。

①は論理、数学、自然科学、数理系の科学などです。社会科学や人文系の科学の一部を含みます。日本的にいうと理系をすべて含み文系の一部を含みます。

②は人間の感情や芸術、文学、美的感覚、文化などを扱うのに適しています。社会科学と人文系科学の一部を含みます。日本流にいうと理系を全く含まず文系の一部を含みます。

アイデアとロゴスの説明をした後、その 2 つを組み合わせたイデオロギーということばはアイデアに関する学問と直訳されます。さらに訳すと表象されるものについての学問ということでしょう。しかしこれでは広いでしょう。歴史的な脈から使われる現在の意味はそれも現代でも通用する手偽になりますが、広く具体的にいうと、個別の、主義、主張、宗教、哲学、思想、などを指します。しかしここではそれより広く捉え元来の意味に近い意味も持たせましょう。

イデオロギーを大きく 2 つに分けます。さらに組み合わせの可能性として 4 つに分けま

す。

①世俗的イデオロギー、と②非世俗的イデオロギー（または超俗的イデオロギー）です。

①は人間の世俗的生き方についての色々な考え方を含みます。

②は人間の世俗的な生き方について直接的には何も語りません。

また③として①と②が混ざっているイデオロギーというのもあります。

組み合わせ的な可能性としては④、①でも②でもないイデオロギーというものも考えられますがそれが何を意味しているのか分からないので無視します。排中律に反しているので面白い問題ではあります。

②にポスト構造主義が含まれていて①③に多くのイデオロギーと呼ばれるものが含まれるのがポイントです。

次の 9-4 で詳しく説明します。

9-4 イデオロギーのケーススタディ、实例研究

イデオロギーの实例として宗教をあげてみましょう。

宗教は②があつてそれに①をくっつけた形になっていることが多く見られます。

分かり易いところで一神教の啓示宗教であるユダヤ教とかイスラム教をあげましょう。

一神教の②超俗的なイデオロギーとは神さまは一人しかいない、他に神様がいないということ、積極的に他の神の存在を否定するという事です。

最後の部分は若干①世俗的イデオロギーも含む場合もあるかもしれません。

あいまいな部分は置いておいて神様が一人しかいないということは生活にも人生にも直積的影響はありません。

それに②世俗的なイデオロギーとして神が人間に啓示を行い契約を結び律法を守らせるというイデオロギーがくっつきます。この律法に世俗的に、すなわち生活や人生に直接に

影響を与える要素がふんだんに盛り込まれています。有名なところでは安息日を守るとかある種の食べ物を食べてはいけないとか決まった章句でお祈りを行うとかそういったものが含まれます。

聖典の成立という意味ではユダヤ今日よりも古いキリスト教はその後の歴史的経緯で一部説明が必要な宗派がありますが基本構造は同じです。プロテスタントの宗派はカトリックよりユダヤ教やイスラム教に似ているでしょう。エホバの証人などは聖書を字義通り順守するので典型的です。

ということを見ていくと宗教というのは実は①と②のハイブリッドであることが多いことが想像されると思います。

もう一点気づかれるのは①と②の組み合わせであっても①と②はただくっつけているだけで、①から必然的に②が導かれるような必然性がないことが多いことが分かります。ですからキリスト教、ユダヤ教、イスラム教などの啓示宗教では聖書やタルムード、クアランやハディースなどがありますが、なぜそうなのかを一神教であることを前提に考えても結論としてその律法が導かれず、その律法の意味を問うても意味がないことが多い、あるいはどうしても意味づけできることが多いことが分かります。

多神教は専門ではないのでよく分かりません。私は 6 つの神社の崇敬会員ですが、実は不勉強で新党に詳しくありません。とりあえず神さびた雰囲気を感じて神様を信心して神様の良かれと思いきやそんなことをして頼みごとをしたり、お宮参りしたりする感じでしょうか。この場合なんとなく神様に信心をもつのが②ではないでしょうか。①は何となくそれらしいことを日本人ならみんな知っていますのでその通りに慣習的に従うのがそれに相当すると思われます。

道教、アミニズム、シャーマニズム、トーテミズム、仏教などが大陸を通じて日本には入ってきていると思われますが、仏教以外詳しくありません。

仏教は色々な宗派がありますが、大乘仏教は②が空と中観と式の思想、同じことですが三諦論でしょう。①が宗派によってどのお経を重視するかによって変わる比較的はつきりとした形を保っています。奇しくも昔はキリスト教、イスラム教、仏教が世界 3 大宗教といわれていましたが、世界 3 大宗教は②と①がはつきりしているようです。

大乘仏教のスタンスが現代思想そのまんまです。

ということを見ていくと宗教というのは実は①と②のハイブリッドであることが多いことが想像されると思います。

このように書くと一神教の啓示宗教や仏教がより歴史の洗練を経て発達し②と①がはつきり分かれた進歩した宗教のように見えます。その見方は一理ありますが、別の見方もいくらかでもできることに気を付けましょう。いわゆる相関関係があるということと因果関係があるということは分けて考えるべきで、相関関係があっても因果関係がない場合もあり、因果関係があってもどっちが原因でどっちが結果かを証明することは難しいことが多いこ

とがよく知られています。わざと②と①をごちゃごちゃにしてはっきりさせない方が進化した高等な宗教かもしれません。進歩とか高等とかいう言葉を使うと優劣をつける事になりますが、控えめに見て一長一短あるということかもしれない、という風に現代哲学を使いこなすと勝手に多様な考え方を同時にするようになります。

もう一点気づかれるのは①と②の組み合わせであっても①と②はただくっつけているだけで、①から必然的に②が導かれるような必然性がないことが多いことが分かります。ですからキリスト教、ユダヤ教、イスラム教などの啓示宗教では聖書やタルムード、クアラーンやハディースなどがありますが、なぜそうなのかを一神教であることを前提に考えても結論としてその律法が導かれず、その律法の意味を問うても意味がないことが多い、あるいはどうとでも意味づけできることが多いことが分かります。

空海聖人が典型です。この構造を理解し、②は天台智顛の三諦論、①は法華経です。実は日蓮の死後6人？いた弟子がそれぞれ独立し6つ？の派に分かれました。そのうちの一つが日蓮正宗となり別の②を付け加えました。すなわち後から解脱した日蓮大聖人は開祖のお釈迦様より偉いという教義です。これにより日蓮宗から仏陀に序列をつける考え方が出ました。それにより①世俗のイデオロギーがどう変わったか分かりませんが、日蓮正宗から創価学会が分裂し、公明党を作ります。つまり政党活動が加わったわけで、民主主義や政党政治や選挙制度がない時代からある時代に変るといふ時代の変化に応じて①が変質したか新しいイデオロギーが加わったのでしょうか。

ここで新しい見方を導入しましょう。①イデオロギーが個人主義的である。②イデオロギーが集団主義的である。③イデオロギーが①と②を両方含む、あるいは①と②を極とするスペクトラムとなっている、④イデオロギーが個人主義的でも集団主義的でもない、という④に分けてみましょう。

④はイデオロギーを語源通りの広い意味でとらえたのでこれもありとします。④は例えばフィクション小説でしょうか。これはこれで世俗的あるいは超俗的に影響を受けてしまうのでありとします。猫にもイデオロギーがあるとか我々の宇宙の他の宇宙に宇宙人がいるとか、パラレルワールドがあるとかそういうのが例としていかがでしょうか。

①はポスト構造主義者でしょう。②であるポスト構造主義もあるかもしれませんが私レベルでは想像が付きません。宗教では一神教の啓示宗教は本来そうあるべきですがそうでなく②である状況も多いでしょう。時代によっても違ってユダヤ人のスピノザはユダヤ教に反しているということで破門され暗殺されかけますが、アインシュタインやフロイトになるとバル・ミツバーという男子は12歳の時にユダヤ教に入信するかどうか本人に選ばせる儀式があってそこで神が信じられないと言って、ユダヤ人にならない選択をしています。プロテスタントは比較的①に立ち返ったはずですが②アメリカ南部の土俗的なキリスト教

を見るとそうも言われてられず、週によっては進化論や地動説を認めない判決や公教育では行うのを禁止している州もあるようです。

現代の宗教は信仰の自由が認められている先進国では②が①にシフトしているのではないのでしょうか。

②集団主義の典型がファシズムのように見えますがファシズムについて詳しくないのでよくわかりません。旧ソ連のマルクス・レーニン主義も②のように見えます。共産主義やマルクス主義も②のように見えます。文化大革命は②でしょう。中国共産党は内モンゴルやチベットで大乗仏教を民族ごと浄化用としており、ウイグルを思想洗脳し暴力的にも同化政策を民族ごと勧め、香港の一国二制度を約束を破っては危機しようとしているので②でしょう。

さて、社会思想、政治思想、経済思想など非宗教的なイデオロギーを見ていきましょう。これらは近代以降においては市民革命やフランス革命の影響で②超俗的イデオロギーは自由、平等、人権と決まってしまうようです。

さて問題は世俗的イデオロギーでこれらを達成しようとしたときに非常にややこしい問題が発生しがちであるため、①世俗的なイデオロギーが多様化します。そもそもそれを①'個人的イデオロギーとして考えるか、②'集団的イデオロギーとして考えるかでも変わってきます。

ここら辺は本書の分を超えるのであまり触れませんが、②世俗的なイデオロギーの特徴として挙げられるのはトレードオフが発生しがちなことです。

誰かの自由、平等、人権、民主性、選挙制度が、他人あるいは他の集団の不自由、不平等、人権侵害につながったり、時間的な経過で現在の人々のそうした理念が後の世代がつけを払ってそうしたものを失ったり、あるいは現在の人々が我慢することで将来の人々がそうしたものを手に入れられるというケースが発生しがちです。

医療保険福祉公衆衛生でもそうですが、その時点の条件、リソース、生産性、人間の民度や教育、政治や経済や社会の発展の度合いにもよっています。特に人間の問題、この本に書かれているレベルの現代哲学の習得がなければコミュニケーション、即ち議論すら成り立たず、みなノンポリの無関心で社会と人々の活気がなくなるか、万人の万人に対する闘争、そこまでいなくても党派間の内ゲバや分裂も含めて論争が発生するだけです。それに加えてポリティカルな意識、即ち詭弁やプラグマティズムや勝つために論理性をわざと破綻させて主張を通そうとしたり、国家や民族レベルで他国のインテリジェンスがスパイ・工作活動をしたり、メディアや情報伝達ツールが健全に働かなかったり、知性はあっても情操コントロールが訓練されていない人が混じったりするともう目も当てられません。現在の日本は一つの実例になります。

更によく議論しないおいけないことは国家の基礎や国体や憲法、制度の体制などを基礎からきちんと作られているかどうかです。クルト・ゲーデルという数理論理学者はユダヤ

人ではありませんが、ユダヤ人と勘違いされたか、ドイツ圏の研究機関でポストを得られなかったか、反ナチスだったか、いろいろ事情がありアメリカに移民しようとしていましたが移民審査でアメリカ合衆国憲法にアメリカがファシズム国家になる矛盾を発見しそれを審査官に話そうとするのを友人のアスペルガー症候群のアインシュタインに空気が読めないと必死に止められてしぶしぶ了承して無事アメリカ合衆国に入国できたというエピソードがあります。

よく考えればゲーデルが発見したアメリカ合衆国の憲法の欠点を見事に中国共産党につかれて世界中が中国に侵略されているのかもしれない。民主制と選挙制度はそのような欠点があり、ヒトラーの政権掌握もワイマール憲法化の当時もっとも民主主義的な憲法下で起こったことです。日本も男子自由憲法を導入したらメディアと国民が国を誤り大日本帝国は滅亡してしまいました。中国も鄧小平路線の緩い体制の下で習近平の終身独裁を許してしまいました。中国は中国共産党内部ではある程度民主的な部分がある制度でしょう。これは民主制、選挙制度、自由主義の国では独裁主義国家になる可能性を有するという命題として社会学あるいは政治学におけるゲーデルの定理と名付けてみましょう。現代数学ではすでにゲーデルの定理というものが存在する可能性があるので、「社会学あるいは政治学における」という条件を付けてみました。

社会思想でいうと共産主義やマルクス主義が有名です。現代哲学は歴史的にみると共産主義やマルクス主義を批判する思想として形成された側面があります。フランス現代思想の直前の世代の哲学者であるサルトルは実存主義哲学者ですが、①世俗的イデオロギーとして個人的に共産主義やマルクス主義を選択しました。

構造主義の四天王といわれる現代哲学の色々な哲学者の兄貴分に当たるルイ・アルチュセールという思想家がいて前期と後期で共産主義やマルクス主義の構造が断絶しており別の思想になっていることを指摘しています。

共産主義は②超俗的イデオロギーの肝に当たるものは結果としての万人の経済的平等で、①世俗的イデオロギーとしては生産手段の公有化が特徴のイデオロギーでしょう。マルクス主義はそもそもがいろんなイデオロギーをぺたぺたマルクスの判断でくっつけたイデオロギーです。哲学的な中核思想としてはヘーゲル哲学でしょうが唯物論なるものもくっつけて色を付けています。それにフランスの空想的社会主義やイギリスのマルサスの人口論などもくっつけた独仏英の色々なイデオロギーをくっつけたハイブリッドイデオロギーです。まあマルクス主義は現実の歴史では超重要ですが現在では有名な経済学者でベストセラーの経済学の教科書を書いているグレゴリー・マンキューも最近の評判が悪いと書いているのでこれくらいでいいでしょう。現代の哲学、思想側からも特に言及はありません。特殊な研究分野としてマイナーに研究されるような分野でしょう。

ただし所得の再配分ということに目を向けると結構面白い面があります。所得を一切配分しない極端な資本主義と一方の極として、他方に所得を完全に再配分する極端な曲として共産主義を置き、その間はスペクトラムとして社会主義と定義してみます。すると現在

は社会主義の時代で、どういう風に所得の再分配を行うかで政策がことなるのが現在の政治経済ではないでしょうか。

まあなんでも②①と分けやすいわけでもなさそうなので③や④も多いのでしょうか。あえて分かり易くするため②と①で分類してみました。

一方で①'個人主義と②'集団主義も大切です。

何かバランスを崩してイデオロギーの研究が長くなってしまいましたが、最後に 9-5 に続けるために②超俗的なイデオロギーについて考えてみたいと思います。例として神様の数について考えてみましょう。

①神様は 1 人だけしかいない。②神様は存在しない、③神様は 1 人よりもたくさん存在する、④そもそもどうでもいい。この 4 つをあげて、特に 1 だけに焦点を当ててみましょう。そもそも②超俗的なイデオロギーというのは世俗の生活や人生に直接的な影響をあたえないものとしましたが、この 3 つがそれを満たしているかどうかとも問題です。さらに言うとならば②超俗的なイデオロギー、①完全な世俗的なイデオロギーというものが存在するかも実は問題にしなければいけないのですが議論を簡単にするために議論しません。

①神様は 1 人だけしかいない、これだけ信じて普段生活する人は超俗的な人間として我が道を行くでしょう。ただ個人も集団もこれを世俗化して世の中に実現する傾向が生じる可能性があります。まず神様が一人だけしかいないということを認めないといけないということになり、他に神がいるということや他の神の存在を否定するということになるでしょう。この教条とどう付き合うかということですが、個人的に胸に抱いている分には世俗に影響を与えませんが、他者に同じことを信じることを勧誘する傾向が生まれ、かつ神が一人ということを行動で世俗に示そうとする傾向が生まれるとします。すると②無神論者、③多神教信者、④どうでもいい人、との関係がぎくしゃくする可能性があります(④とはぎくしゃくしないかもしれませんがお互いの正確次第かもしれません)。この一神教を核に世俗のイデオロギーを色々付け加えていくと、他宗派共存が難しくなる可能性が出てきます。本来一神教というのは追う言う風になりがちで寛容に見えるカトリックにせよ、戦後の第 2 パチカン公会議? かなんかでは他の宗派を全否定していました。

現代の代表的な一神教であるユダヤ教は現在は文献学や航行学を駆使して研究した結果、最初から現在の形の一神教ではなかったようです。そもそも普通に聖書を読んでもその痕跡は見られます。文献学を研究していくとどんな宗教であろうと思想であろうと改竄や取捨選択されていったり新しい文献が作られあたかも最初から存在していたように付け加えられていくという家庭の繰り返しです。ユダヤ教も例外ではありません。途中からいうと申命典革命にて北のイスラエル帝国滅亡後の亡命してきた人と文献が伝わり宗教改革しようとするが、滅ぼされてバビロン捕囚となり捕囚が終わって帰還した人たちにエズラとネヘミヤが宗教改革したのがパリサイ派、ラビユダヤ教の原点です。その後もヒレルがでたりガマリエルが出たり、ヘブライ語以外の記述資料を聖書から排除したり、口伝律法とその解釈で論争したりなどしてミシュナやタルムードなどが作られ、印刷されるのは、中

世で、その間の文献もどの程度保存されていたがディアスポラを経験した民族ですのではつきりしません。現在の超原理主義的、超伝統主義、超保守的ユダヤ教徒といわれるものもたかだか近代にウクライナあたりで異端といわれていたユダヤ教宗派が現在は原理主義といわれているわけで宗教というものも伝統というものもどんどん変質していきます。

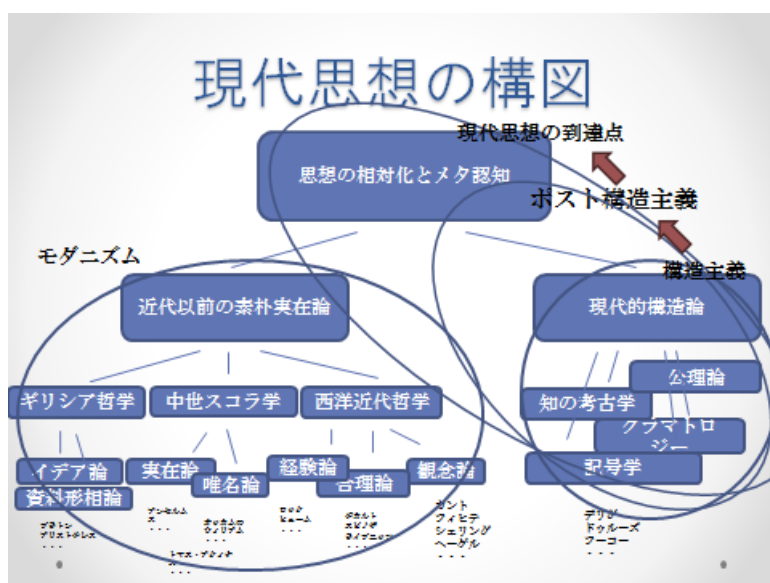
9-6 イデオロギーとポスト構造主義の関係

現代哲学ではポスト構造主義を受け入れること、ポスト構造主義をメタイデオロギーとして他のイデオロギーと区別すること、を最初に要請します。その他の全てのイデオロギーは特にどれかだけ絶対に正しいとかどれかだけ絶対に間違っているとかそういう見方をポスト構造主義ではしません。

ただポスト構造主義は超俗のイデオロギーでこれを自分の信条としたところで人生や生活にあまり関係ありません。せいぜい「なるほど！そういう考え方もあるねや！」となんでも勉強の対象にしてしまうか「ふーん、そう考え方もあるんやな」と何か考え方を押し付けて信じるように強要されても暖簾に腕押しで軽く受け流す免疫力がつくだけです。そういう側面から言うとポスト構造主義にも①世俗的イデオロギーの側面が態度や考え方を変えてしまうという意味でないことはないの③①と②両方含むイデオロギーと考えるのが適当かもしれません。こう聞くと逆に魅力がなくなってしまう人もいるかもしれません。非常に冷めた感じがしますし、何か絶対的イデオロギーを報じている人にとっては目の上のたん瘤のようなむしろあって欲しくないイデオロギーのように見えてしまうかもしれません。冷めてるな、と感じる方もいるかもしれません。しかしそれは最後まで読んでからのお楽しみとして下さい。

メタイデオロギーとしてポスト構造主義を受け入れた場合、他の全てのイデオロギーは選択肢となります。このようにイデオロギーを認識することをイデオロギーのメタ認知と呼びます。メタ認知に基づき認知されたイデオロギーを選択できることが選択の自由が現代哲学の自由の規定になります。あるいはメタ認知されておらず無意識にイデオロギーを選択してしまっている状態を認めることも広い意味での選択の自由に含め現代哲学的自由としましょう。その上でこの自由が認められている状態が現代哲学の自由主義であるとともにこの自由を守るのが現代哲学の自由主義と定義します。ポスト構造主義というメタイデオロギーとイデオロギーがいっぱいある空間です。これは元で構成される数学的な空間を創造してもいいですし、メタイデオロギーのポスト構造主義の宇宙船に乗って周囲のイデオロギーの星々が浮いているイメージでもいいですし、一番上か一番下にメタイデオロギーであるポスト構造主義があつて、その下か上にイデオロギーがずらりと並んでいるイメージでもいいでしょう。

下の図はメタイデオロギーを一番上に、下にイデオロギーを並べてみた図になります。



メタイデオロギーは規定のデフォルトのイデオロギーとして全ての自分が知っているイデオロギーは自由に選べますし、イデオロギーと気が付かずに無意識に選んでしまっている状態も許容します。メタイデオロギーと意識しているイデオロギー意識していないイデオロギー全てが含まれている空間を自由空間と呼びましょう。この自由空間を維持するのが現代哲学の基本構造になり、この自由空間を守ることが現代哲学の自由主義です。そこでこの自由主義をメタ自由主義と名付けましょう。政治的、経済的、法律的、社会的な世俗の自由主義、リベラリズム、リバタリアンとは異なります。異なる理由はこの自由主義もイデオロギーとして②超俗的イデオロギーだからです。③の面もややあるかもしれませんが、一旦そう規定します。構築のし直しはあとでいくらでもできますので。メタ自由主義と政治経済的自由主義との区別は形式的なものかもしれませんがここでは理解しやすいように区別します。

もう一点、この自由空間の中でイデオロギーの選択を行う、個人と主体という概念が定められます。この空間の中で選択を行うのが民族や親族、家族などの集団である場合もあるかもしれませんが、ここでは議論しません。というか私自身は考えたことがないので誰か考えましたらどういう議論ができるか教えてください。

9-5 でイデオロギーは①'個人主義的イデオロギー、②'集団主義的イデオロギーがあると書きました。だから現代哲学を理解する集団がいてその集団単位で共通のイデオロギーを選択する可能性も考えられ、これはある意味理想社会とか神の国とか王道楽土とか素晴らしい世界が到来するかもしれません。仏教でいえばもしかすると極楽浄土がそれに相当するのでしょうか。しかし現代哲学にせよ、その応用である現代思想にせよ、仏教にせよ、まだその状態を詳細に議論している話は寡聞、浅学にして知りません。多分

現代哲学を理解してかつ結束している集団や解脱して仏陀となった集団がいるという状態が現代哲学にせよ、仏教にせよ非現実的に思われたので議論されていないのでしょう。

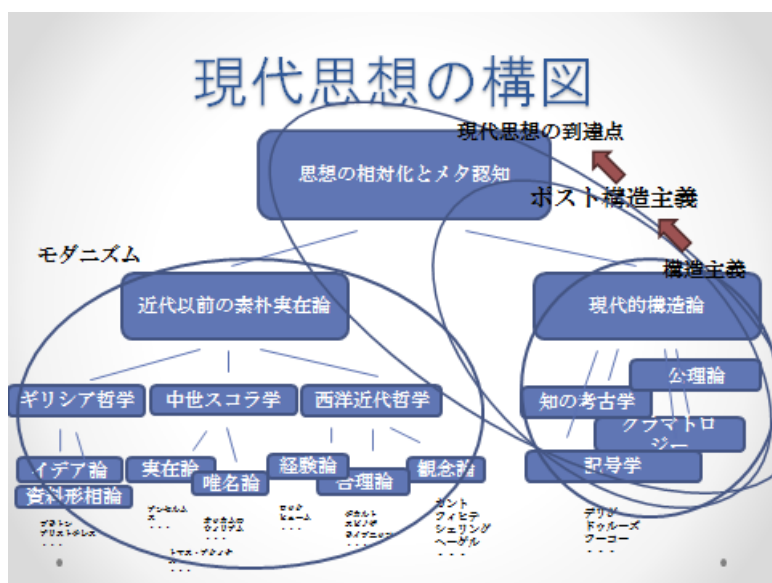
ですからあくまで現代哲学を自分のイデオロギーとして生きる個人に絞って話を進めていきます。自由空間でイデオロギーを選択するのは主体であり個人です。自由空間なので個人の意思で自由に選択できますし、もし選択を妨害しようとする何かがあってもそれに屈せず時に戦いあくまで自分の意志通りの選択を行います。これが個人主義であり主体性になります。これも②世俗的イデオロギーに属する個人主義と区別してメタ個人主義と名付けましょう。

現代哲学の自由空間の中でどのような力が選択の自由にたいする妨害因子として働くのか想像できませんが一応可能性として挙げておきます。

イデオロギーの中にメタイデオロギーであるポスト構造主義を否定する、というイデオロギーもあるかもしれません。その場合は最初からポスト構造主義を受け入れなければいけない話で特にパラドックスの材料にもなりません。

②に属するイデオロギーの意味はそれ自体に内在しています。例えば一神教の場合には神はただ1つで他に神はないということです。多神教は1人よりは多く神が存在するということになるでしょう。ではポスト構造主義の意味は何でしょうか。それはあらゆるポスト構造主義以外のイデオロギーを絶対化せず、平等に眺めるということです。これは①②③④全てです。

ですからポスト構造主義と別のイデオロギーとの関係を考える際の基本的構図は下の図の様になります。



ポスト構造主義が全てのイデオロギーに対して例外的なイデオロギーになります。ですのどのように図示してもいいのですがここではポスト構造主義を全てのイデオロギーの上に置いてみました。他のイデオロギーはポスト構造主義から見れば横並びです。そのイデオロギーが正しいとか正しくないとかはあまり考えますが、あるイデオロギーが絶対で唯一正しく、他のイデオロギーは間違っているとか滅ぼすべきだとかいう考え方には反対します。それはポスト構造主義の禁止事項になります。ポスト構造主義から見ると全てのイデオロギーは「なるほど、そういう考え方もあるな」という感想になります。感想だけで、どれか特定の単一、あるいは複数のイデオロギーとつながり、逆にどれか単一、あるいは複数のイデオロギーと離れることはありません。

以上、ポスト構造主義は他のイデオロギーとは並べず、他のイデオロギーとは異なる特殊な位置にあるという意味でポスト構造主義のことをメタイデオロギーと呼ぶことにします。

ポスト構造主義を特別視しないと『真理は存在しない』という命題は真理である』みたいな自己言及命題というパラドックスを生じることになります。この命題が真であれば『真理は存在しない』ことになり、この命題が真理であることに矛盾します。この命題が偽であれば、『真理は存在する』という命題が偽となり、『真理が存在しない』という命題は真理である』は真となり、この命題が偽であるという最初の全治と矛盾します。このような状態をパラドックスと言います。

このようなパラドックスを避けるためにいくつかの方法が研究、提案されています。そのうちバートランド・ラッセルの提案したクラスの理論（あるいはタイプの理論）を用いてこのようなパラドックスを避けるために、ポスト構造主義を他のイデオロギーと別のクラスの、あるいは別のタイプのイデオロギーという規定を事前に行っておきます。このルールを作る理由は第 1 篇と繰り返しですがこの章のコラムとケーススタディで再度触れます。

そのように概念規定を行うと世の中にはメタイデオロギーであるポスト構造主義とメタイデオロギーではないイデオロギーとしてその他の全てのイデオロギー（①②③④を全て含む）があることになります。そしてその他全てのイデオロギーはメタイデオロギーであるポスト構造主義からみるとどれも特別なイデオロギーはないということになります。異なる 2 つのイデオロギーに優劣はないということになります。

9-5 現代哲学を生きる事

9-4 を踏まえた上で現代哲学を受け入れるということはまず、①ポスト構造主義をメタイデオロギーとして受け入れる事、②人生、生活で従うべきイデオロギーを選択すること、ということになります。

①はもう書きました。②をどう選択するかが次の問題です。

結論から言うと好きなように決めることができます。

ここで重要な概念を定義付けることができます。“自由”と“主体性”です。

イデオロギーは選択肢です。好きなイデオロギーを好きな数だけ選択できます。イデオロギーを選択しないこともできます。その場合、本能やその場の気分で利他的に決めるのも OK です。これは選択とは言えないかもしれませんがこれも広い意味で選択としましょう。この場合は非選択という積極的な意志でやっている場合と何となくやっている場合があると思いますが、ポスト構造主義を理解した上で行うのであれば十分に自覚と主体性があります。

現代

ここで自由とは何かについて現代哲学の定義を述べます。自由とはポスト構造主義を理解した上でイデオロギーを主体的に選択できる状態です。また主体性についても定義できます。

自由とは政治的自由や経済的自由とは

9-7 イデオロギーの選択の自由

以上のような体系化をした上で現代哲学的に生きるということはどんなイデオロギーも選択してもいいということです。

「全ての人間に現在利用可能な全ての種類のワクチン接種する」というイデオロギーを選択するのもいいでしょう。これはみんなに喜ばれるイデオロギーですが、反対する人もいるようです。

逆に皆に嫌われる、あるいは反社会的なイデオロギー「人間を可能な限り殺し続ける」というイデオロギーを選択するのも構いません。現代哲学の自由は本当に自由です。

近代法では内面の自由が認められています。行為のみを罰し、内面を罰しないという原則があります。ですから現代哲学的に生きる事に関してはイデオロギーの自由な選択までは認められています。そのイデオロギーが①世俗的イデオロギーであった場合に実際にイデオロギーに従った行動を行う場合がありますが、その場合はその方の執行者との力関係次第で自分のイデオロギーに基づいた行為が妨害される可能性があります。そして刑罰を科せられることもあるでしょう。しかし近代法は妨害したり刑罰は科しますが本来はイデオロギーが法律にのっっているかどうかだけを判断すべきで、そのイデオロギーが倫理的に正しいかどうかを判断するとか、イデオロギーを矯正するという事を行うべきではないというのが内面の自由の意味です。

この内面の自由の原則は現代哲学の自由空間を守ってくれる原則なので現代哲学ではこの原則を支持します。逆にこの原則がなくなってしまうと大変困ります。現代哲学自体が反社会的、触法的イデオロギーになってしまうかもしれないからです。というわけで現代

哲学はこの原則を守らない、あるいはこの原則の概念を持っていない中国共産党の支配下には入るわけにはいきませんし、入った場合には弾圧される可能性があり、戦うか潜伏しないとけない場合が出てきます。

現代哲学の立場からは個人や主体や自由を大切にするので内面には思考の自由と発言の自由が含まれる方がより好ましいと考えます。内面の線をどこで引くかの問題ですが、最近はこの線が思考にまで及んでいるように見えます。犯罪者の思想、思考の矯正がそれにあたると思います。その犯罪者が何も考えてない人であればまだ気持ちは分かりますが、思想犯であった場合には強制するのは内面の自由に反します。現代哲学のリベラリズムはある面からみるとラディカルな自由主義で自由空間をなるべく広げられるのが望ましいですし、理想的にはイデオロギーによる行動の自由も担保されるべきです。つまり、思考（イデオロギー）、発言、行為・行動の全ては自由であるべきです。発言についてはそれが他者を害するものであった場合などにそのたびに論争を繰り返すべきです。行為・行動の結果については法治主義を尊重して刑罰を科すのも仕方がないのかもしれませんが。ただし革命を起こそうとして思考、発言、行動する人に対してはやや話が違ってきます。革命を起こそうとする人はそもそもその法律自体を認めていないかもしれないからです。行動の結果による触法がもっと本質的な問題に結びつくかもしれません。

結論としては日常生活を法治主義化国家によって安定した生活を送りたい時には法治のイデオロギーを選択することになります。

法がおかしいと思えば変えようと思えば法律内で行うか、法律内で行わず法律を変えるイデオロギーを選択することになります。

9-8 現代哲学で生じる驚くこと

以上のように現代哲学では非日常的、非経験的な結論が出てくることがあります。これは近代以前の脳の使い方しか知らない人には顕著になります。近代と現代は本質的にことなる時代です。このような驚きが多ければ多いほど本書を読んだ価値があります。しかも現代哲学の方が現代社会の基礎です。近代哲学は基礎ではありません。この驚くような結論が常識とならないとおかしなことになってしまいます。実際には我々庶民はおろか、行政、立法、司法の支配層や、官僚、財界やその他の民間の支配層が現代哲学を知らないために日本や世界の一部におかしなことが起こっています。単に遅れているにとどまらず、偉大なる錯覚ダニングクルーガー効果が生じて知らない人ほどわかった気になっています。第9章では現代哲学の応用に当たっての大まかな基礎構造を示しました。第1篇基礎編で現代哲学の理論には入門書にもかかわらず比較的緻密で厳密で論理的に示したと思います。でも当たり前ですが、良くも悪くも基礎の理論・体系を理解しただけでは実用は無理です。実際の穩座ジョブトレーニングを経て実践、活用の仕方を学ぶとともに基礎編に対する理解も深まるでしょう。この第9章ではその大枠を示しました。

実践を通じて理論も応用も習得度を上げていきましょう。

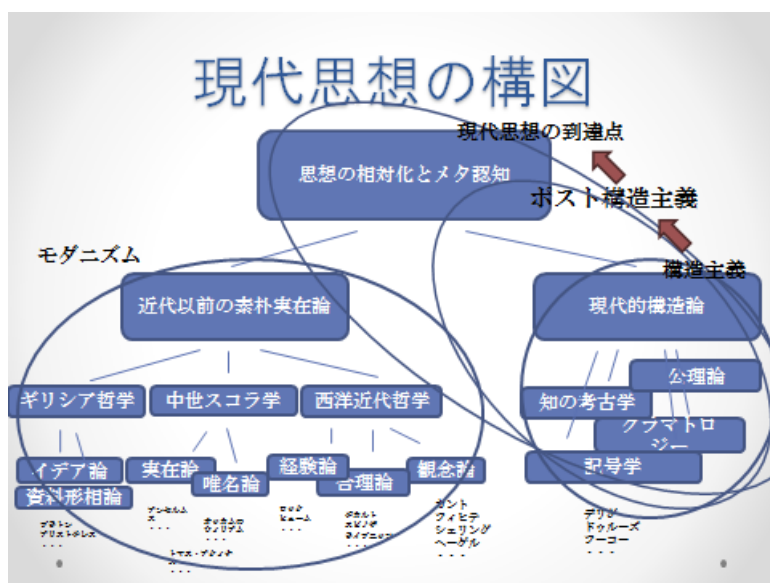
9-9 まとめ

現代哲学の3大要素は実在論、構造主義、ポスト構造主義と書きました。

この中で一番大切なのはポスト構造主義です。

ポスト構造主義をきちんと理解できていれば他は理解していなくてもいいです。

下の現代思想の構図をご参照ください。



ポスト構造主義が一番上に書かれています。

他の宗教や主義や思想や哲学はその下に横一線に並べてあります。

現代哲学の特徴を最も生かす利用法はこの図の様になります。

宗教も思想も主義も哲学もひっくるめてイデオロギーと呼ぶことにします。

ポスト構造主義も主義ですのでイデオロギーです。

しかし他のイデオロギーとは外して考えます。

そして我々はポスト構造主義を自分の最も基本的なイデオロギーと考えます。

そういう意味でポスト構造主義はメタイデオロギーといえるでしょう。

ポスト構造主義を自分のプリンシプルなイデオロギーとして選択すると他の全てのイデオロギーを俯瞰し相対的に見ることができます。このような認知の仕方をメタ認知と言います。メタ認知を持つことで我々は全てのイデオロギー、あるいは無意識の先入観や偏見から解放される可能性が生まれます。そして自由を獲得することができます。ポスト構造主義の自由とは自分で自分のイデオロギーを選べるということです。イデオロギーは選択肢です。自分の好きなイデオロギーをいくつでも選択することができます。あるいは選択

せず、思いつくまま、好き嫌いのまま、本能のまま利他的に生きることも選択肢に入ります。選択肢がありそれを選べること、それを現代哲学の定義する自由と言います。

そしてまたメタ認知をもって選択肢を選ぶことを現代哲学の定義する自主性、主体性と言います。

現代哲学の定義する自由を選択することを自由主義といっても構いません。しかしこの場合注意が必要です。メタイデオロギーでない普通の世俗的な横一線のイデオロギーの中にも自由主義と名がつくものが入っています。いろんな国の事情に合わせた政治的リベラリズムや経済的リベラリズム、リバタリアンといったものです。それらと現代哲学における自由主義を区別するため現代哲学の自由主義をメタ自由主義と名付けましょう。

メタ自由主義はやはりポスト構造主義と同じくメタイデオロギーとして扱います。ポスト構造主義もメタ自由主義も名前を変えましたが同じものです。言葉を分けた方が説明が簡単になると思い、造語を行いました。

メタというのは上から目線の言葉ですが、この場合はポスト功旺主義には特権的な位置を与えます。その一つの理由はポスト構造主義自体は世俗性を全く持たないからです。ポスト構造主義を自分の主義にしたからと言ってそれだけでは日常生活、社会生活においてどのように考え、どのように思考し、どのように行動するかを全く示していません。つまり現実離れしています。ですから現実に行き生活している我々はポスト構造主義者になるとイデオロギーに対するメタ認知を獲得できますが、生活への実践、応用には役に立ちません。役に立たせようとするならば、イデオロギーを選択すること、あるいは選択しないことです。イデオロギーを選択しないことを一つのイデオロギーとすれば要するにイデオロギーを選択することがポスト構造主義者の行動規範、往々にして道徳とも呼ばれますが、になります。

自由とともに現代的な意味での自主性、主体性を獲得できます。この場合の自主性、主体性とは自由にイデオロギーを選択できるということです。自主性主体性に絡んで、もう一つのメタイデオロギーを獲得できます。個人主義です。これも普通の世俗のイデオロギーにもあるのでメタ個人主義と名付けましょう。これはあまりメタ自由主義と世俗の自由主義のようにはっきりした違いは少ないかもしれません。

メタ自由主義と世俗の自由主義の場合には良くも悪くも大きな違いがあります。メタ自由主義はイデオロギーが選択できるという意味しかありません。世俗の自由主義は個人的な自由主義は勝手気ままとわがままをどこまでの範囲で許すかでしょう。集団主義におけるリベラル、すなわち、政治だったり経済だったりのリベラルはトレードオフが発生します。誰かの自由が誰かの不自由ということになる傾向があります。そういう意味では世俗のリベラリズムは詳細をしっかりと勉強しておかないと勘違いが発生する可能性があります。

世俗の個人的自由主義は制限なく自由至上主義な場合メタ自由主義と若干似ていますが、ポスト構造主義を理解してプライマリーにイデオロギーとして選択しているかどうかで見分けましょう。

個人主義の場合は世俗の個人主義には個人主義的個人主義と集団主義的個人主義という違いがなく個人主義的個人主義しかないと思います。そこで世俗の個人主義はどの程度個人を尊重してどの程度その反対の集団主義とバランスをとるかの程度の問題だけになります。

メタ個人主義の場合にはそもそも程度の問題や集団主義との程度の兼ね合いなどはありません。便宜上メタ個人主義と名付けましたがポスト構造主義と一緒にのものです。ただイデオロギーとメタ認知し選択をする主体性があるということを言っているだけです。

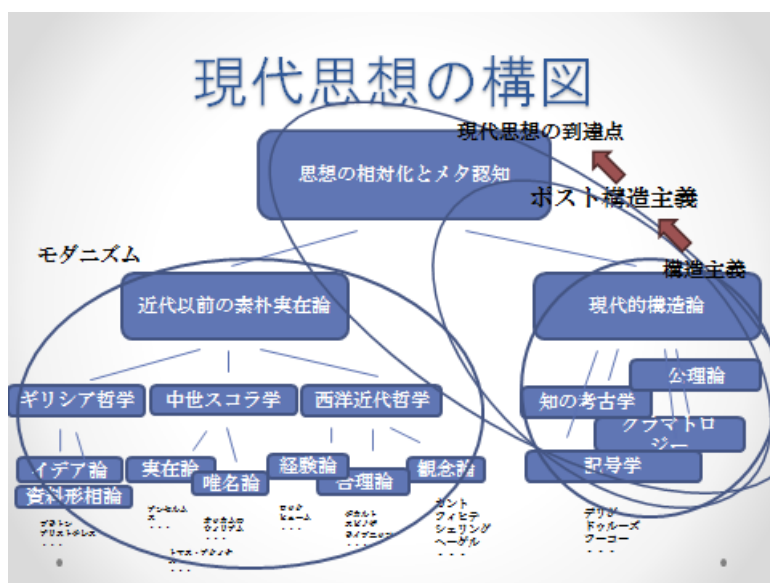
さてポスト構造主義がメタイデオロギーである 2 点目の理由を示します。普通のイデオロギーと同じイデオロギーと同じ集合に入れてしまうと、パラドックスが生じる場合があるからです。集合や論理を扱う際には常に自己言及命題やパラドックスに注意する必要があるのは集合論や論理学の本で示されています。

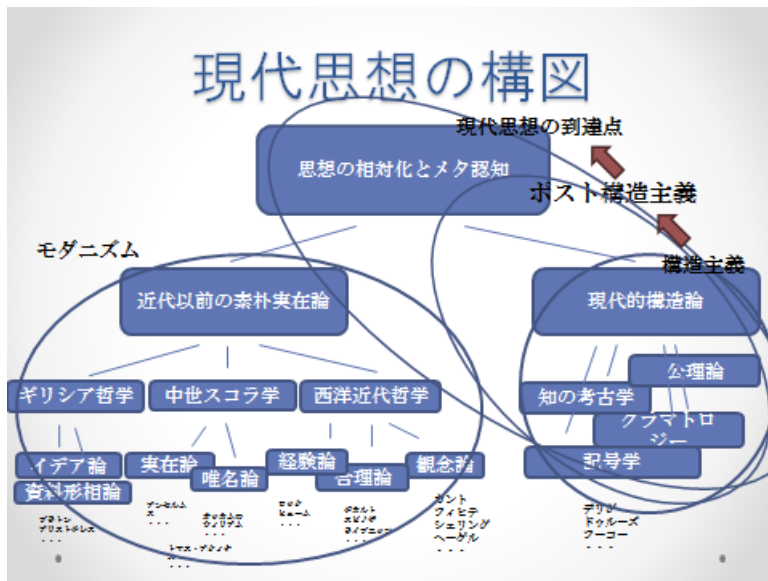
「全てのイデオロギーを絶対化しない」という命題があったとします。もしポスト構造主義を例外にしなければ、ポスト構造主義も絶対化しないのが真になります。

この第 2 篇ではポスト構造主義だけをメタイデオロギーとすることでポスト構造主義の選択を絶対化し、それを回避します。

このように集合の要素にもクラスを設けるのをバートランド・ラッセルの、クラス理論、あるいは理論的にはもっと高階にイデオロギーの系列を作り階数をあげて多層化できるので、その場合やはりバートランド・ラッセルのタイプの理論と言います。高階の系列をピラミッドのように考えていくことは特に必要ないのでポスト構造主義だけメタイデオロギーとして別格死すれば十分です。

今後の議論は以上の枠組みに基づいて行います。





コラム パラドックス

ポスト構造主義を他のイデオロギーと区別しないとどのようなパラドックスを生じさせることができるのかについて考えてみましょう。

『全てのイデオロギーは絶対に正しいとは言えない』と主張するあるイデオロギーは絶対に正しい」

コラム 自己言及命題

数学の基礎分野の一つに集合、位相論があります。これは数や順番というものを含めて数学の色々な概念に対して基礎づけを行っています。

集合とは要素の集合をイメージすると思いますが、集合論は集合の集合も扱います。

集合と集合の集合が入り混じると色々な現象が生じます。

- ・自分自身を表す言葉を表自後、自分自身を表さない言葉を表他語とします。言葉という言葉や黒いという言葉や文字という言葉は表自後です（言葉はそれ自体が言葉ですし、文字という言葉はこの文章は活字で表現されているのでそれ自体文字ですし、黒いという言葉は黒いインクで印刷された書物ですのでそれ自体が黒いので表自語です。りんごとか、赤い、とか甘い、という言葉はこの本や文字はりんごではなく、赤く印刷されてもおらず、このページをなめても甘くないので表他語です。さて表自語や表他語自体は表自語でしょうか、表他語でしょうか？

- ・ある村で自分自身でひげをそらない全ての人のひげをそると看板をあげている床屋があ

ります。その床屋さんは自分自身の髭をそるのでしょうか？そらないのでしょうか？

自然言語では文法に従って、正しい文章としてこのような文章を作ることが許されます。さて論理学ではどうでしょうか？

論理学で許された命題、言説の形成規則でそのようなものが作れてしまうと問題があります。真か偽かはっきりすればいいのですが、どちらでも矛盾です。

健全性や妥当性を考えるとそのような命題を作るとは論理学の規則に従っているので健全で妥当な命題なのです。

ケーススタディ 自己言及命題とパラドックス

昔からよく知られている問題があります。

『全てのクレタ人はうそつきである』とあるクレタ人が言った事を知っています。まさにいいますがこのことは事実なのです。

とある人が言いました。これは正しいでしょうか？間違っているでしょうか？

こたえは正しくも間違ってもいない、です。問題の出典は聖書でパウロのテトス？人の手紙でパウロが述べた言葉です。

この自己言及命題によるパラドックスは昔から知られており、セルバンテスのドン・キホーテにも描かれており、可哀想なパンチョはこのパラドックスのせいで困って、疲れ果ててしまいます。

現代論理学の父である現代論理学の父ゴットロープ・フレーゲはバートランド・ラッセルにフレーゲの仕事の中にこのパラドックスが含まれていることを発見し、フレーゲは長年の著作活動の時間がパーになってしまいました。

とどめはクルト・ゲーデルのペアの公理系による……不完全性定理で、命題論理は完全であるが、述語論理以上の高次の論理学ではパラドックスを含む自己命題言及が作成可能であることを証明してしまい現代数学の父ダフィット・ヒルベルトのプログラムを破綻させてしまいました。

世の中往々にして正しくも間違ってもいないことがあるものです。正しいとも間違っているともいえなかったり、正しくも間違っともいる場合もあるでしょう。

世の中にはこのようにいけずな根性の悪い質問をする人私は違いますがする人もいます。ただ世の中正しいとか間違っているとか安直に割り切ってしまう方も慎みと謙虚さを持たなければいけないことをこの問題はしめしています。

第〇篇 ポスト構造主義の応用

第〇篇では徹底的にポスト構造主義を理解し使いこなします。

皆さんは既に何か主義主張、宗教、ポリシー、スタイル、難にせよすでに自分のスタイルみたいなものをお持ちの方もおありでしょう。

そうであれば、自分のイデオロギーを持つ、事の意味がはっきり分かりより信念を強くする、より自分のイデオロギーを使いこなすことができるようになるでしょう。

反対に自分のイデオロギーに会議を感じたり、現代哲学を否定する心が生じる方もいるでしょう。

ただ何でも知っておいて損はないです。

何かを失くしたり変えてしまうのではなく、今まであるものも保存しながら、新しいオプション（選択肢）を増やしていくのが現代哲学の方法です。ですから現代哲学では知識を増やせば増やすほど賢くなっていきますし、新しい考え方を身に付ければ身に付けるほど情報解析の方法が増えていきます。増えるだけで変わってしまって元のものを失ったり忘れてしまったり、あるいは純粋に抹殺したり浄化したりない豊かさの哲学です。

外国に新しい歩き方を学びに行っても学ぶことができず、元々の歩き方も忘れてしまって這って自分の国に帰った男のアネクドートがあります。近代以前のイデオロギーというのは自覚なくこういったことを平気で起こします。起こった後に喜んでも悲しんでも仕方ありません。そのような笑えない喜劇、笑える悲劇は起こさないのが大切です。

第9章で学んだように現代哲学は今のIT社会にたとえられます。ハードディスクは無限大なので古いデータを消去する必要がありません。つまりケチでもせこくもありません。メインメモリーやCPUは同じ人間で遺伝にもよりますし、それなりの鍛え方はするでしょうからあまり近代と現代で変わりはないとしましょう。検索能力も無限大とは言わないまでも高性能です。つまり情報を整理しなくてもハードディスクという無限大の倉庫に散らかしておいてお知恵もすぐに見つけられます。無限の倉庫に投げ入れて散らかっている情報を検索したり情報処理することで整理することになり、整理の代わりに検索という言葉が今は使われます。

情報と情報処理は相補律、数学でいえば相互律の関係です。情報は情報処理されると新たな情報を生じます、その情報には別の情報処理方法を用いることができます。

情報をデータといってもいいでしょう。世の中にはデータとデータ処理しかありません。データをデータ処理すると新たなデータが生まれます。それに対してまた別のデータ処理方法でデータ処理してデータが生まれます。

これは一種の世界の縮図です。でも貧乏でそれゆえ吝嗇、ケチとせこさが身に沁みついている時代にはこういう考え方を邪魔する人が多くいました。げにケチほど救いがたいものはなし、貧乏より救いがたいものはないと村上龍氏は全ての男は消耗品で書きましたが、悲しいことです。現代哲学の特徴はあらゆる意味で豊かであることです。

人間の幸福を測る物差しはまだ発明されていませんが、経済学では人間の幸福度を豊かさで測る考えが現在のところ最善と考えられています。一つはGDP即ち生産力、もう一つは失業率です。手に入れる事を入れる剤とサービスの種類と量、就職に苦勞せず好きな仕事に付ける状態が豊かであるとされ、それが幸福の指標の、軽ザク学的に言うと経済的福利厚生のもっとも現在コンセンサスが得られているものです。

精神も知性も一緒です。たくさんの情報とたくさんの情報の処理、解析能力があるほど、知性的に豊かであり、豊かにあることは精神的な幸福の指標です。現代哲学は知情意の知についてしか殆ど扱いませんが、知的な能力をあげると感情の豊かさや情操コントロール、意欲、即ち意志や欲求、夢や目標、情熱や情念、理念、信条といった意を発見したり選択したり強めたり弱めたりするのにも役に立ちます。

決定的なのはソフトウェアの性能が段違いです。検索能力もソフトウェア能力に含まれますが、OSもアプリケーション、ツール、プログラム言語もプログラム方法も段違いに進歩しています。そして通信能力がやはり無限大と言いませんが比べ物にならないほど向上しています。ソフトウェアの向上という事は要するに情報解析、処理能力の向上です。データの無限大の蓄積というのはいくらでも勉強すればするほど役に立つし、何一つ捨ててしまう必要がないという事です。

行きつくところが行き着いてビックデータとAIの時代になってしまいました。センサーとロボット工学が進歩すると人間がだいぶいらなくなってしまうかもしれません。

もう一点通信能力が圧倒的に向上しました。社会が通信能力が向上したように、かつ社会の通信能力が向上した結果として、両者のお陰ですが現代哲学もコミュニケーション能力を向上させます。ポスト構造主義と構造主義がそれぞれコミュニケーション能力を向上させますので、コミュニケーション能力は2段階構えで向上します。

古いことはよいことですが、それはまず残すことによってです。伝統や文献を残すのではなく破壊したり、消滅させたり、浄化(?)させる必要は現代哲学ではありません。むしろ反対します。選択肢が減るからです。選択肢が減るとするのは現代哲学的に言うと頭が悪くなるという事です。

本書で大切なことは2つであると書きました。①智と愛を大切にすること、特に智を愛すること。②現代哲学を身に付ける事です。

①と②の帰結は実は頭がよくなるという事です。ですからこの教科書をマスターした暁

には頭がよくなります。③として頭がよくなる、を加えておいてもよかったのかもしれませんが、頭を良くする方法は本書の方法以外にも色々あるでしょうし、この教科書のマスターの結果として頭が嫌でもよくなってしまうのですからあえて書きませんでした。

学問とか科学とか言いますが単純化すると情報と情報処理しかありません。ですからその両者を強化する哲学的バックボーンを本書で提供します。

また本書は個人の哲学について書かれていますが、通信能力、コミュニケーション能力を高めることによって得られる別のリソースが得られます。すなわち外部と他者の相互利用、ネットワークとクラウドです。

ちょっと“現代”っぽくなってきましたね。

第 10 章 現代哲学の応用に当たっての注意点

10-0 現代哲学で注意すべきこと

現代哲学を学ぶ上で注意する点があります。

まずは感情的に受け入れにくい点があること。

そして理解するのに難しい点があることです。

第 10 章で現代哲学を心理的に受け入れ難い要因を考えます。

第 10 章 現代哲学が成立するための条件

現代哲学はいつでも成り立つわけではありません。成り立つためには現代哲学の信教の自由が必要です。それは色々あ原因で侵されます。現代哲学が与えてくれる第 9 章の状態を、現代哲学の空間、ポスト構造主義の空間、自由の空間、主体の空間となつけます。が必要です。ポスト構造主義を選ぶ人はこの空間を守らなければいけない場合があるかもしれません。本章ではそれについて説明します。

10-0 現代哲学の空間

第 9 章で示した通り、現代哲学はポスト構造主義をプライマリーなメタイデオロギーとすることで、メタ認知、メタ自由主義、メタ個人主義が与えられて、イデオロギーの選択の自由が担保されます。

しかし我々が与えられた状況次第ではそれが許されない場合があります。

それを解説します。

10-1 世俗的イデオロギーの絶対化

これは減退哲学の空間を

現代哲学の基礎である、理論、体系について第 1 篇で説明しました。現代哲学大切なのは次の 3 つ (4 つ書きますが 4 つ目は要りません)、

- ①素朴実在論を理解する。
- ②現代的構造論を理解する。
- ③どちらにも偏らず中道を取る (①かつ②、または①であり②でない、または①でなくて②)
- (④' ①でなく②でもない。)

と結論しました。この中で②が難しく、①は簡単で、③は②を理解してしまえば簡単です (ついでにいうと④'も簡単です、4 通りの組み合わせを全部挙げただけです)。ですので、現代思想を使いこなす、言い換えると応用する、実践する、科学に適用する、頭を良くする、世の中の役に立てるには②をどう理解し利用できるかです。②の理解のための説明は第 1 篇でしました。②の利用のための説明と練習を第 2 篇では行っていきます。

10-1 現代哲学の受け入れ難さ

ポスト構造主義を理解すること、受け入れることに心理的な抵抗を感じる場合があります。

ポスト構造主義をマスターした場合、流れとして自分自身が依拠しているイデオロギーを客観的に眺めてみよう、ということになるかもしれません。

つまりイデオロギーのメタ認知です。

これに心理的な抵抗が生じる場合があります。

現代哲学では、あるいはその応用ですから現代思想と呼びましょう、現代思想ではメタイデオロギーであるポスト構造主義を絶対化します。

一方でそれ以外のイデオロギーは絶対化しません。それを指して第 9 章ではポスト構造主義を現代哲学の形而上学、個々のイデオロギーの研究を現代哲学の形而下学と呼びました。

普通の形而上学、形而下学と紛らわしければ、メタ形而上学、メタ形而下学とも呼び

でしょうか。英語でいうと **metametaphysics metaphysics** になりメタメタな感じですが。**Metametaphysics** は而上形而上学（じじょうけいじじょうがく）とでもいう感じでしょうか。

しかしこういうネーミングもあながち間違いではなく、古代ギリシアでいえば **metaphysics** はプラトンならイデア論、アリストテレスなら質量形相論やデュナモスエネルギー（可能態実現態論）になりますし **physics** は個物になります。朱子学なら理は **metaphysics**、気は **physics** でしょう。

現代で言えば物理学でも理論系は **metaphysics** のような感じになりますし、実験・実証系は **physics**=物自体を直接、観察、実験、計測している感じになります。

自然科学的な話では以上のような例えになりますが宗教のようなイデオロギーではそれ聖書全体、歴史、律法、詩、雑書全てがそれ自体 **metaphysics** となるでしょうし、神道でも神話も歴史も全て **metaphysics** で思想はそれ自体がメタフィジクスになります。思想や主義、主張も、つまり観念、イデオロギーは **metaphysics** でしょう。

何かのイデオロギーを持っていてそれを絶対化している場合、信仰している場合、固着している場合、精神的に依存している場合にはそのイデオロギーを客観的にみるという事が難しい場合がある様です。

アイデンティティー（自己同一性）というものは精神分析学者のエリクソンという学者が提唱したのですが、以降は人間は何かのイデオロギーに自己を同一化し、そのイデオロギーを奉じ依存するようになると考えました。この段階を構造主義者で発達心理学者のピアジェは感覚運動期から表象的思考期への移り変わり、更に表象的思考でも具体的操作期から形式的操作期への移り変わりにとらえ抽象的思考の確立した時期ととらえています。

エリクソンはこの時期を自己や他者、他人や事物、内部と外部を抽象的に考え実在と考える時期であり、個体の精神、認知的発達において近代的な実在論が完成する時期です。誠実さを持つようになり、自己同一性と役割同一性を持つ、逆にその過程で混乱を起こし同一性や役割の混乱や拡散が起きて悩む時期でもあります。最終的には自己や他者（他人や事物、外部）の同一性や恒常性、すなわち実在論が確立する時期と考えます。

このように実在論の確率は正常の発達において健全で必要と考えます。現代哲学はこの実在論を認めつつ、構造主義的哲学を創造しさらにポスト構造主義に発展させた、実在論を含む、存在論、認識論の拡張一般化の理論です。

現代哲学は実在論の拡張一般化ですから自分自身の持つイデオロギー、あるいは他者の持つイデオロギーを客観的に観察しその特殊性を理解するメタ認知を持つことが自然な流れになります。

しかし自己のイデオロギーや他者のイデオロギーに固着し、離れられない現象が頻繁に見られます。

例えば啓示宗教で一神教のユダヤ教やイスラム教やキリスト教です。帰依したり入信した場合、あるいは生まれながらにその宗教に所属する習慣があった場合、自分の宗教や聖典を客観的に見られる人もいますが、見られない人も存在します。また見ようとしなない人も存在します。客観的に見る、という事自体が禁じられたり不敬な事とされたりする場合もあるでしょう。例えば「神様はいないかもしれない」「他にも神様がいてるかもしれない」「この聖典は後代に編纂された際に改竄されたのではないか」「科学的に見るとこの聖典のこの部分が成立したのは〇〇頃と考えられる」などの考え方を禁じる宗派や個人がいるかもしれません。このような場合集団の強制力として、あるいは個人の内面的抵抗感として現代哲学を理解することを妨害します。

別の例で見ましょう。

日本の明治期以降の啓蒙思想や合理主義、科学思想などです。色々な形を取りますが自然界には原理や法則があってそれに従わないものは正しくない、あるいは否定するというのが一つです。ある種の理論を絶対化してそれに固着したり、あるいは観察、実験、実証の結果に固着して正誤を厳しく主張します。特に論理学を体系だつて勉強しているわけでもないのによく見ると論理的でなかったりしますが、大変頑固で、自説を否定されると感情的になったりします。また不可知論を適切に使用できないことがあります。知っているつもりになっている、あるいは自分が知らないことを知らなかったりします。また自分が知らなくても安易に言及したりします。なぜ、なぜ、と聞いていくとどこかで詰まります。

3番目の例は精神医学のある種の脳疾患の場合です。統合失調症などで見られることのある症状です。ちなみに現代哲学では精神の正常と異常、正常な精神の人と精神病の人は質的な違いがあるという考え方をしません。量や方向性の偏りと見ます。かつてきちがい、狂気、精神分裂病、統合失調症と呼ばれたものは現在では統合失調スペクトラム症と名前が変わりました。正常と異常の線引きができないからです。正常な人だつて心に余裕がなかったり意識や覚醒の障害児には認知機能障害を起こすでしょうし、統合失調症の人であっても高度なメタ認知機能や知性を持つ人はたくさんいます。

それを踏まえた上で精神病について語るとメタ認知障害を起こすことがあります。自分がかつての自分、あるいは他人の身になって眺めてみるとおかしい行動や言動を取っていることを認識できない症状がみられることがあります。だから変とかおかしいとかいわれてしまいます。ところが自分では自分を客観的に見れないので何が変で何がおかしいといわれているのか想像することができません。それで病気とみなされてしまいます。

現代哲学では上記の3つを区別して扱いません。等しくメタ認知を持っていないとみなすだけです。持つ能力がない場合も持つ医師がない場合もあるでしょうが状態はメタ認知を持っていないために現代哲学、特にポスト構造主義を理解できない状態と考えます。

10-2 ポスト構造主義習得困難時の対応

ポスト構造主義を持つ能力が今現在はなくとも学びたい気持ちがある人はポスト構造主義を学習によって理解できます。この教科書はそのために書かれています。科学や学問は現代においては方法の精神です。正しい結果などというものは現代哲学、あるいは現代にはありません。「正しい結果」というものを定義してそれに当てはめた場合だけ可能ですが、しょせん人為的で作威的なものなのでその行為自体に意味がありません。

方法の精神とは考え方や観察、実験、測定の方法を明確に示して再現性がある様にする事です。方法を明確にしてその方法で結果を導き出してもその都度違う場合もあるでしょう。それはそれで構いません。結果の違いを考えたり、統計で処理すればいいだけです。前提、条件を示してそこから結果を導くプロセスを明確に、再現性がある様に示すこと、これを方法の精神と呼びましょう。科学とは方法の精神とはそういう事です。

現在は現代哲学の学習の方法が示されている時代です。コツコツ勉強して理解したけどピンとこない、納得できないという事はあるでしょう。学習とはそういうものでピンとくる、納得するために直感やインスピレーション、現前やイメージの生成が必要な場合があります。どんなに学んでも理解はしたがなかなか納得できないという場合はあるでしょう。しかし現代哲学はいろんな学習方法があります。何らかの方法で最後にピンときて納得できればこれまで納得できなかったことも振り返って納得できるようになります。ゲシュタルト心理学ではゲシュタルト生成、形成などと言います。現代哲学では現前という言葉を使います。

この本では本質的に異なる 4 つの方法で現代哲学を説明しました。倫理・哲学の方法、現代数学を用いた方法、仏教を用いた方法、精神医学・認知科学を用いた方法です。

そもそもお釈迦様が何に触発されて現代哲学を悟ったのか（もしかしたら悟っていないのかもしれませんが）分かりません。記録が残っていないからです。ただお釈迦様は色々な師匠について修業しましたが現代の私たちと比べてかなり少ない情報しか持っていない中で悟ったと思われまし、人類で確認される初めての現代哲学マスターと思われましので尊敬されるべきでしょう。もしお釈迦様が悟っていないくても少なくともナーガールジュナ（龍樹）や天台智顛や空海は悟っているでしょう。これらの人々も学習方法に限られた中での悟りでやはり素晴らしい天才たちであったと思われまし。

しかし現代は近代のあらゆる学問、自然科学、人文科学、社会科学の膨大な蓄積を生かして現代哲学を学習することが可能です。そして学習方法は何通りもありますし、現代哲学を理解している人はたくさんいて質問もできます。本もネットも充実して学習方法や分からない時に調べる方法が簡単かつ複数あります。

哲学で学んでもいいですし、現代数学で学んでもいいですし、情報科学で学んでもいいですし、仏教で学んでもいいですし、心理学・精神分析学で学んでもいいですし、精神医学・認知科学で学んでもわけです。

1 つの方法で分からなくとも別の方法でアプローチしなればいいだけです。

それぞれの学問は教科書も本もありますしそれぞれプロの方もいらっしゃいます。襟を正して礼儀正しく謙虚で真摯な気持ちで教えるを請えばネットで知り合った人でも恥ずかしさを振り払って勇気をもって学校や職場に直に訪れればえてくれる人はたくさんいるでしょう。無礼な態度でも教えてくれる人はいるでしょう。人間頑張ればなんとかなるものです。

頑張ればなんとかなる、為せば成るです。

では特に特に現代哲学を理解する気がない人はどうでしょう。そういう人はそもそも知的好奇心がない場合があるでしょう。あるいは別のイデオロギーを勉強するのを自ら、あるいは集団の強制で妨害されている人もいるでしょう。

まず知的好奇心がない場合はそもそものこの教科書の原点に戻りましょう。この教科書の第一の目的はフィロソフィー、つまり智と愛で、特に智を愛するという事です。つまり知的好奇心を持ちなんでも興味関心を持って勉強する、知識や考え方を増やすという事です。その考えを素直に受け入れてたくさん勉強しましょう。人生何でも勉強になり、人間我も含めて皆師になります。まさに学問のすすめです。

他のイデオロギーを勉強してはいけないと思っている人は自分の殻を打ち破りましょう。どんなイデオロギーでも理解すること自体は禁止していないでしょう（ソビエトや中国の思想など禁止しているのもあるかもしれませんが）。フィロソフィー特にコンテンポラリーフィロソフィーを勉強することは自分の殻を破ることにつながります。自分の殻を破るとは言い換えると自由の技術、リベラルアーツを身に付ける事です。現代哲学マスターすると現況したくなります。なぜなら現代哲学だけ知っていても無意味だからです。

現代哲学はいろんなイデオロギーをたくさん知っていれば知っているだけ価値が増大します。役にも立ちます。現代哲学マスターになってもイデオロギーを一つしか知らなければそもそも選択の自由が少ない、というかほぼないでしょう。そのイデオロギーを採用するかどうかです。採用しなければまた現実世界においては無と同じ存在になるでしょう。イデオロギーをたくさん勉強して 100 のイデオロギーを習得したらどうなるのでしょうか。それぞれのイデオロギーを選択する、選択しないの組み合わせを考えると 2 の 100 乗の選択枝を持つこととなります。たくさん学べば学ぶだけ指数関数的に選択枝が増大します。選択枝の増大、これを豊かさや自由と言ってもいいでしょう。

ですからフィロソフィーとコンテンポラリーフィロソフィーとリベラルアーツは相互に深い関係を持ちます。

集団に妨害されてイデオロギーを学ぶことを許されない人はどうしたらいいでしょう。この場合は戦うか逃げましょう。フライトオアファイトです。或いは別の人や集団に助けを求めましょう。もし自分がそういう立場ではなく他の人がそういう風に集団に強制されているならできるだけ助けてあげましょう。利他と博愛は大切です。自由を奪われた人はギリシア時代であれば市民、自由民、自由市民ではないわけですから一言で言えば不自由

由な奴隷です。フィロソフィーもリベラルアーツもコンテンポラリーフィロソフィーも奴隷であることは奨励していません。フィロソフィーもコンテンポラリーフィロソフィーもリベラルアーツも自由に勉強することを奨励する積極的な概念です。積極的に学問、学習しないとこの 3 つはあまり意味がない概念になります。ちなみに余談ですが学ぶこと、学ぶべきものをマテマウオー、マテマティカ、英語でいうと **mathematics** になります。数学というのは語訳です。この場合非常に不幸な語訳でした。**Mathematics** は数を学ぶ額も **k** ンではありません、学ぶべきものはもっと広いものです。**Contemporary mathematics** を一言でいうならば構造を勉強する学問です。ですからフィロソフィーとリベラルアーツとマスマティクスとコンテンポラリーフィロソフィーは一体のような関係にあります。

10-3 第 2 の問題、構造主義的哲学の難解さ

基礎編では、構造主義と存在論及び認識論を結びつけるのは簡単であるというニュアンスで解説してきました。

構造主義を用いて存在論、認識論の理論を構成する場合、実例としてラカンのシェーマ L の理論が挙げられます。

構造主義を用いて実在論、構造論の理論を構成する方法は 1 つだけではなく複数あるかもしれません。

構造主義を用いて色々な存在論や認識論の理論を作ることができるでしょう。

いろいろな構造主義的存在論や認識論を作ってもいいですが、少なくとも 1 つあれば十分です。あるいは構造主義によって存在論や認識論の理論を創造できることを示すために最低 1 つの理論を示す必要があります。少なくとも 1 つ示すことが構造主義で存在論や認識論を作成できることを示し、その様な理論が必ず存在することの存在証明になります。

それを最初に行ったのは精神医学者で精神分析学者でもあるジャック・ラカンです。

ラカンの示したシェーマ L という構造主義により存在論と認識論を包括する理論を大きく理解すると以下のような足し算で示すことができます。

①ラカンのシェーマ L の理論 = 現象学
+ 構造主義
+ ニーチェの哲学
+ 精神分析学

②精神分析学ヨフロイトの精神の階層論+フロイトの構造論 (エディプスコンプレックス)
+ 自我心理学 + メラニー・クラインのクライン派の理論

①と②を合わせて以下の③の方程式

③ラカンのシェーマ L の理論 = 現象学
+ 構造主義
+ ニーチェの哲学
+ 精神分析学 (≡フロイトの精神の階層論+フロイトの構造論
(エディプスコンプレックス) + 自我心理学 + メラニー・クラ
インのクライン派の理論)

が導かれます。

という事でラカンのシェーマ L 理論を理解するには、

- ①'現象学、
- ②'構造主義、
- ③'ニーチェの哲学、
- ④'フロイトの精神の階層論と構造論、
- ⑤'自我心理学、
- ⑥'クライン派の理論

の①'~⑥'の 6 つを理解する必要があります。

問題点 .1

まず構造主義的哲学を理解することの難しさとしてこの 6 つを理解しなければいけないことが挙げられます。

例えば精神科医にとっては④'、⑤'、⑥'をマスターするのは他の職業より優位です。精神病理学や精神分析学や認知科学、心理学を学びますし、臨床で膨大な数の実際の患者さんたちを診療するので、オンザジョブトレーニングが十分にできます。しかし他の人間の精神を研究する機会のない学歴や業種の人だと理論として理解するだけでも困難な可能性があり、理解しても直感的にピンとこず納得できない可能性があります。

別の例えでは①'、②'、③'の理解はそれぞれの哲学を勉強したことがない人には速やかに理解することは困難かもしれません。①'、②'、③'は哲学の領分ですが理解するのにやはり精神的、心理的な探求が必要になるでしょう。

2つの例をあげましたが総合して人間の精神や心理の勉強が必要になります。

これらの問題があり、構造主義的哲学（構造主義的存在論と構造主義的認識論）を理解するのに難しさがあるかもしれません。

問題点 .2

更に別の問題があります。

①'～⑥'のそれぞれを理解・納得したら、次にこれらをうまく組み合わせて統合する作業が必要になります。

それぞれの理論を理解したとしてもゲシュタルト統合ではありませんが、それらを用いてシェーマLの理論を直感的に理解するのに難渋する可能性がある可能性があります。

これもある観点から見れば精神的、心理的な問題ともいえます。色々な理論や概念をこねくり回して総合、統合するには知的なエネルギーと作業労力が必要でしょう。

上記二つの問題点を見るとやはり構造主義的哲学の理解には人間の精神や心理への探求が必要になると思われます。

仏教では空論や中観論の理論を創造したナーガールジュナ（龍樹）の後に瑜伽行唯識派と呼ばれる人間の精神、心理を探求する宗派が生まれます。瑜伽とはヨガのことです。弥勒（マイトレーヤ）を祖とし、無著（アサンガ）・世親（ヴァスバンドゥ）が教学を大成しました。

唯識とはあらゆる存在が、唯（ただ）、八種類の識によって成り立っているという考え方です。ここで、八種類の識とは、五種の感覚（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）、意識、2層の無意識を指します。これら八種の識は総体として、ある個人の広範な表象、認識行為を内含し、あらゆる意識状態やそれらと相互に影響を与え合うその個人の無意識の領域をも内含します。あらゆる存在が個人の内部で構想された識でしかありません。それら諸存在は無常であり、時には生滅を繰り返します。すなわちそれら諸存在は「空」であり、実体のないものです。これを諸法空相と言います。このように唯識は大乗仏教の空の思想を基礎に置き、その認識に到達するためにヨガで修業を行います。

ちなみに著者の長男の名前は龍樹、次男の名前は維摩、長女の名前は摩耶で仏教にちなんでいます。次男の名前を付けるときに世親にしようとも考えたのですが妻に却下されました。

閑話休題、上の様にみていくと構造主義による認識論や存在論の理解には構造主義の理解とともに心理や精神の探求が必要と思われ、これは人の適性或学歴（学校の歴ではなく本当の意味でのどんな学問を重ねてきたかの歴史）に影響を大きく受けると思われます。

ですから「構造主義的哲学は簡単」という人もあれば「構造主義的哲学は難しい」という人もいると考えられます。

本書は現代哲学の入門の教科書ですので、学習の道筋を示すことはできるかもしれませんが、いろんな部分で説明が足りず、学習者、読者の各々の方々に自習・独習してもらう必要がある場合が多くあります。

ひとえに執筆者の力不足が大きく低頭するほかございません。

10-4 現代哲学実践の注意点：まとめ

さて哲学、現代哲学を学ぶ際の 2 大困難テント思われるものを解説しました。

まずイデオロギーを学ぶ気がない、自分のイデオロギーに固着している、あるいは自分のイデオロギーでないイデオロギーを否定、拒絶する場合です。

これは本書の冒頭で述べたフィロソフィー、すなわち、智と愛、智を愛することなどの考え方をもち、新しい事を勉強、学習することを好きになりましょう。また自分の考え方以外の考え方を否定、拒絶する人も寛容さ、謙虚さ、優しさ、愛の心をもって他のイデオロギーの理解しようとする心を持ちましょう。別に理解したところでそのイデオロギーを自分のイデオロギーとして採用する必要は全然ないのですから。自分の知らないイデオロギーを知らないのにもかかわらず否定、拒絶するのは誠実な事とは言えません。否定、拒絶するんならまず理解してから否定、拒絶すればいいでしょう。理解もしていないのに否定、拒絶は本来できないはずです。否定、拒絶するための論拠がないからです。それでもできると思うのは知的に傲慢です。

さて 2 点目、現代哲学を学ぶ困難性として挙げられるのは現代哲学には学習が難しい部分があります。その人の適性や学んできた積み重ね、つまり学んだ学校の記録ではなく、学習してきて自分の中に蓄えている知識や考え方の積み重ねですが、それらが現代哲学を学ぶために必要な色々な学問と重なりが少なかったり、かけ離れていた場合に、色々なことを一から学習しなければいけないのでマスターするのに時間と労力がかかります。これはどんな学問でもいえる事だと思われるので現代哲学に限ったことではありませんが、現代哲学を理解できないから否定する、という考え方をするのはなく、コツコツと勉強して理解に到達することをこの教科書では勧めております。

ですからどちらにせよ大切なのはやはりフィロソフィー、智、愛、智を愛することです。別の言葉でいうと知的好奇心、関心、旧身を持ち、学問、勉強、研究することを好きになりたくさん勉強することです。

フィロソフィーではなく、現代哲学をマスターした場合には、たくさん勉強しないとマスターしたメリットが小さいです。現代哲学だけではコンピュータでいうと OS をインストールしただけの話です。より自分の PC を使いこなすにはアプリ（アプリケーションやツール）を沢山インストールしなければなりません。適当なアプリがない場合には自分でプログラミングしないとイケません。

現代哲学は OS と一緒ですのでインストールしただけでは意味がありません。アプリや自分でプログラムを組むことなしには役に立ちません。

このアプリを集める、プログラムを組む作業がイデオロギーの勉強になります。たくさ

んのイデオロギーを知るとたくさんの使い方ができるようになります。せっかく高いお金を出してハイスペックな PC を買って使わなければ意味がありません。

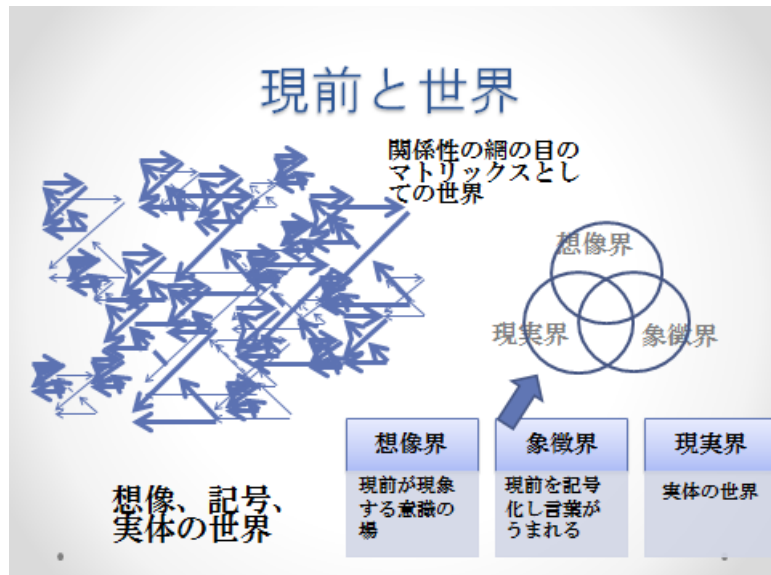
実際に使えるソフトウェアがなければ意味がありません。

情報科学的に考えてもそうで、情報、データだけあっても意味がありません。データの情報処理、情報分析、情報解析、情報の解釈ができなければ情報、データに意味が生じません。

Meta-meta-physics、形而形而上学としてのメタイデオロギーであるポスト構造主義、meta-physics としてのイデオロギー（イデオロギーは大まかに实在論に基づくものと、構造主義に基づくものがある、両者に基づいてもよい）、そして physics、形而下学としての物自体と世界。この 3 層構造で見るのが現代哲学です。この場合形而上学や形而下学という言葉は普通に使う場合とは違う意味で使っています。

形而上学は哲学でいえばプラトンならイデア論、形而下学は物質世界の実学研究で、朱子学なら形而上学は理についての探求、形而下学は気についての探求です。現代の自然科学であれば形而上学は物理学なら物理学の理論で、形而下学は理論ではないデータとしての物自体、観察や実験や計測の対象である自然でしょう。

ラカンの言えば世界はボロメオの輪と呼ばれる、キリスト教やヨーロッパの貴族、日本の神社や家紋で使われる図章である三つ違えの輪、ボロメオの輪と言うグラフで説明します。



図象の 3 つの輪は現実界、想像界、象徴界という 3 つの世界観を表し、人間は対象をこの三つの 3 のいずれかか、3 つのうち 2 つか、3 つともを使ってか、によって認識します。現実界と呼ばれるものが物自体でデータと認識対象の世界、これは具体的な世界です。しかし人間はそれを記号や表象（創造）を使って抽象的な理解も行います。前者が physics、後者が metaphysics よりな見方となるでしょう。

イデオロギーについてとその選択方法、細かい技法や注意点について自称で扱います。

第 11 章 現代哲学を使ってイデオロギーを支配する

第 11 章でイデオロギーの駆使の仕方

11-0 イデオロギーに対するスタンス

現代哲学を理解して実践しようとして問題提起を 2 つしましょう。

①人はイデオロギーなしで生きられるか。

②人はどんなイデオロギーを選ぶべきか

①は答えは実のところ分かりません。イデオロギーの定義を曖昧にしているという事もあります。この教科書はイデオロギーを持たないで生きるという事を念頭に置いて書かれていません。紙面の都合もございませぬ。ですから①のテーマについては読者の皆さんが各自で考えたり勉強したりなさってくださいませぬ。

②が実は第 2 篇応用編実践編の肝になります。

11-1 イデオロギーの使い方：詳細と各論

11-2 イデオロギーの実使用学

第 9 章で現代哲学を実践、活用するための基本的な構図と枠組みを示しました。

第 10 章では現代哲学を実要するための実際上の問題点について説明しました。

第 11 章では実際にイデオロギーを組み合わせさせて使ってみせて具体的な活用方法を説明します。

11-1 イデオロギーのおさらい

イデオロギーという言葉を使ってきました。イデオロギーとはアイデア=アイディアとロゴス=ロジックからできています。

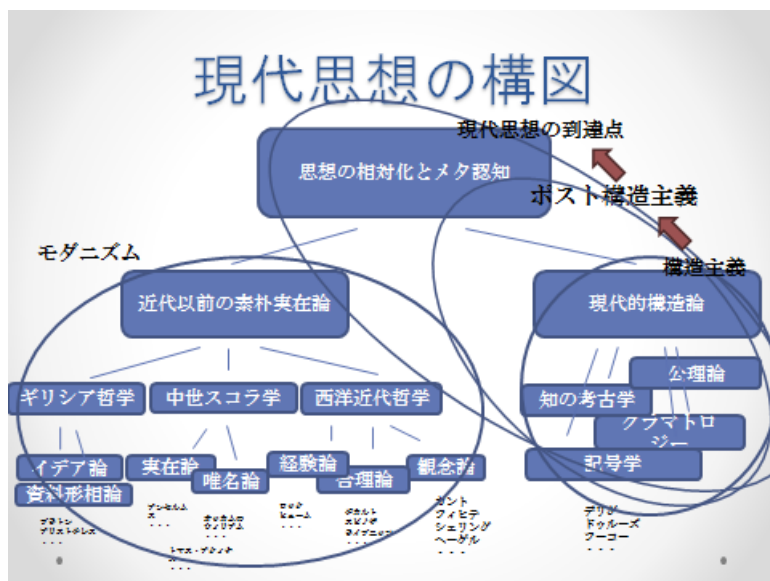
この言葉で主義、主張、宗教、思想、理論、体系全て含ませてく買ってきました。

ロジックという言葉を含んでおり、理、合理、論理、理論などについて含ませているが逆に、理不尽、屁理屈、非合理、非論理、無理論なものもまとまりとしての観念または観念の集合として存在すればイデオロギーを言う言葉を使うことにします。

現代哲学は一番上位に meta-meta-physics であるメタイデオロギーのポスト構造主義があり、その下であり現実の事物や世界、現象と見えるもの、すなわち physics の上に meta-physics すなわちイデオロギーがあり、その下に現実の事物や世界、現象があるのでイデオロギーはポスト構造主義と我々がリアルと考える現実には挟まれたものです。

個々のイデオロギーはポスト構造主義から見れば多くのイデオロギーの中の一つでどれ一つとして絶対化できる根拠はなく、相対的なもので、他方、リアル、現実から見れば自然や社会、世界を理解、納得するための説明体系だったり、個人の信条や信仰だったりします。

計算機科学や情報科学でいえばハードウェアや bios、os がポスト構造主義でウィンドウズやアンドロイド、マック OS のようなものです。イデオロギーはその OS 上で使用可能なソフトウェア、アプリケーションやツール、新たに組んだプログラムでしょう。現実はいアウトプットされるディスプレイの映像やスピーカーの音であったり、センサー、すなわちカメラやマイクでデータとして取り込まれる現実世界を指します。



現代哲学を使いこなすとはこの構図を理解したうえで、どのようなアプリケーションやツールを選択するか、プログラムを組むか、あるいは不要でむしろ有害なプログラムを排除するかという一言に尽きます。インプットしたものをアプトプットする、あるいはインプットだけ行う、アウトプットだけ多なう場合もありますが、それは情報処理の箱のようなものでそれをイデオロギーと呼んでいます。ですから現代哲学を使いこなすには箱の収集家になること、イデオロギーの収集家になりたくさんのイデオロギーを集めれば集めるほど便利になります。ドラえもんの道具、あるいはドラえもんをゲットして我々のはのび太になるようなものです。或いはポケモンを集めるサトシ、妖怪ウォッチを集めるケイタのようなものです。道具は集めるのと同時に自分で作ることができます。道具を集めるのは既存の学問や思想を学ぶこと、道具を作るのは自分でイデオロギーを作ることです。イデオロギーを作るのは難しそうですが、イデオロギーを作るための便利な方法を我々は学んでいます。構造主義や公理主義です。構造主義は現代哲学の 3 大要素でイデオロギーを構築、乃至は脱構築するのに非常に有用です。公理主義は構造主義の特殊なものですのでやはり使いこなせるとイデオロギー作りができます。更にイデオロギーは作ると同時に脱構築もできます。すなわち道具は分解、解体してしまうこともできます。分解して元の通りに組み上げる、再構築することもできますし、少し改造して構築すればそれだけで別のイデオロギーになり自分の手持ちの道具の数が増えるわけです。

かつもうちょっと強調しておくとう道具は道具にすぎません。イデオロギーはイデオロギーにすぎずどの道具が絶対、どのイデオロギーが絶対という事はありません。現代哲学マスターは人形ではなく人形遣いです。木乃伊取りが木乃伊になることなく、使っているつもりの道具に使われる、主体的に活用しているつもりのイデオロギーに取り込まれないようにしましょう。

話を戻して次の 2 点を詳しく説明していきます。

- ①既存のイデオロギーを学ぶ
- ②イデオロギーを作る

この 2 つの点についてみてい行きましょう。

11-1 すでにあるイデオロギーを学ぶ、学習の大切さ

現代哲学をマスターしたらメタイデオロギーを持つことになりますのでそれだけでメタ認知をもって全てを眺めることができます。

これだけでもマスターしていない場合に比べるとずいぶん賢い状態で頭がよくなります。

これで終わってもいいのかもしれませんがそれは非常にもったいないことです。現代哲学とは応用と実践、思考と行動をマスターする前よりも質も量も高めることが可能です。

現代哲学マスターとはイデオロギストではなくイデオロギー使いです。人形ではなく人形遣いです。

もし現代哲学をマスターしても一つのイデオロギーしか知らなければ、そのイデオロギーを選択するかしないかの 2 通りです。そのイデオロギーを選択すればそのイデオロギーに基づく思考方法や行動方法しかしらず知行ともにそのイデオロギーに支配されている状態と変わりません。

いろんなイデオロギーを勉強して使いこなせるようになると選択肢が広がります。単純に考えて n 個のイデオロギーを知っている場合、それぞれのイデオロギーを選択する、選択しないで 2 の n 乗個の選択が可能です。指数関数的に組み合わせが増えていきます。

ですから単純に考えれば色々なイデオロギーを勉強してマスターすればするだけ指数関数的にかしく濃くなるかもしれません。単純に考えなくても勉強すれば選択肢が増える、つまり自由になり賢くなります。自由になるのは現代哲学をマスターすることでイデオロギーに支配することなく支配できるからです。道具は道具に過ぎません。イデオロギー使いになっても狂信的、絶対主義的なイデオロギストになることはありません。ただし現代哲学をマスターした上であるイデオロギーを絶対主義的、狂信的に奉じるのは否定はしません。それは個人の自由です。それでも他の自分のイデオロギーが絶対で正義ではないという見方はできること、他のイデオロギーに対して理解や優しさ、謙虚さや寛容さを持つ、その様な態度で生きられることは現代哲学をマスターせずにそのイデオロギーを奉じる場合よりは簡単でしょう。

学べるイデオロギーは多岐にわたります。簡単に考えるために初等教育や高等教育で学校で学べるイデオロギーについて考えてみましょう。

初等教育では小学校では国語算数理科社会、体育図工家庭科道徳音楽、最近は英語とプログラミングなど習います。中学と高校では算数は数学の細かい分野に、理科は物理、化学、地学、生物学、社会は倫理、政経、地理、日本史、世界史、体育は保健と体育、図工は美術、と更に細分化しつつ深く学びます。

それら一つ一つがイデオロギーですから、しっかり学べば多くの教養が付くでしょう。教養主義、あるいは教養が豊かであれば使えるイデオロギーが増加します。

高等教育は大学で教養と専門を学びます。これは大きなチャンスで教養で色々な学問を勉強すればするだけたくさんのイデオロギーを収集することができます。専門に進んでもいくらかでも多くのことを学ぶことができます。それがその段階で実用的であるか実用的でないかにかかわらずです。

さてここで大切になってくるのはここで大切になってくるのは本書で一貫して最初から主張している **philosophy** と **liberal arts** の大切さです。結局学ぶには意欲、モチベーションが他のことと同様に必要で大切です。精神医学や心理学では新規性探求と言いますが、これは人間の意欲を生む一つのパラメータです。新規性探求の心がなくても学ぶことはあると思いますが、知的好奇心からではなく別の理由からでしょう。それが自分の何かに役に立つとか、学ぶように強制されるとか、学ばないと苦痛を与えられるとか色々な場合があります。人間の意欲の源を分類、分析、研究する学者や研究分野もあります。その中で新規性探求は一つのファクターになります。

知的好奇心がなければ新しいことを学ぶ気がない、知らないことを勉強しようとする知的好奇心などが無い場合には、新しいこと、自分の知らないこと、実用的に感じないことを勉強しようという意欲が少なくなり、全く学ばない人も多くなります。

その様な人は強制された勉強か自分が役に立つと思っている勉強だけをして生きていくことになります。

何事もそうですがその場合にはいい点と悪い点があります。いい点は深く勉強できることでしょう。専門分野に特化できます。スペシャリストになれるでしょう。ただどの程度のスペシャリストになるかは本人次第で終わりなく学び続ける人もいれば、途中で学ぶのをやめてしまう人もいます。悪い点はその反対で学ぶ内容の範囲が狭くなり、ジェネラリストにはなれないことです。

新規性探求、知的好奇心が活発で興味の幅が広い、あるいは興味があっても新しいことは学ばずにはいられない力動が働き続けている人はジャンルや学習の深度を問わず学び続けます。すごいスペシャリストに、あるいはすごいジェネラリストに、あるいはすごいスペシャリストかつすごいジェネラリストに同時になれます。

この可能性を開くのは **philosophy** を持つことです。勉強、学習、知ることを何の目的も見返りも求めずに行い続ける情念のようなものを持つ人です。

たとえばこのような新規性探求を教えに組み込んで実践している宗教があります。ユダヤ教です。ユダヤ教で一番偉い人はラビ=学者です。聖書を読んだ人は律法学者というのが出てくると思いますがそれです。ユダヤ教はいくつか分派があってキリスト教もその一つです。またユダヤ教も時代によって変遷していきませんが、現代のユダヤ教の大本はバビロン捕囚後のエズラ、ネヘミヤの宗教改革により成立したラビ・ユダヤ教です。新約聖書を読むとパリサイ人というのが出てくると思いますがそれが現在のユダヤ教徒の祖先になります。ちなみにその後も協議の議論や分派、経典の成立などの過程を経て更に中世、近代にも変質して現代のユダヤ教になっていますが、現代のユダヤ教も色々な派がありますし、現在も変遷し続けています。ユダヤ教徒の子供は物心つく前から本にはちみつをつけてなめさせられ「学ぶという事は甘いことだよ」といって学ぶ喜びを教えられます。幼少期から子供の新規性探求を重視するので自由な子供の個性が伸びるように育てられるとともに、相互に情報交換し広い分野のことを学びます。

さて、学校教育でこのように広い分野の学問を学んだとしましょう。ではどのようにイデオロギーを使い分けるのか。まず簡単な例として倫理学をあげましょう。倫理学は人間の思いなしを研究する学問ですので、宗教学、思想、哲学、文化人類学（民俗学）、道徳、主義など含む広範な学問です。

例えば啓示一神教、仏教、多神教、アニミズム、シャーマニズム、トーテミズム、古代ギリシアから近代までの西洋哲学、中国の古代の諸子百家から朱子学、陽明学などの思想、日本思想史、くらの身近な学問を学んだとしましょう。

すると自分が置かれた状況によりこれらの中から目的によって自由にイデオロギーを選択し実践すればいいわけです。他者への愛が大切と思えばキリスト教や墨家の思想でもいいですし、世の中を改革したいと思えば孟子や陽明学を選択するのもいいでしょう。ご先祖様を大切にしたいなら儒教やトーテミズムでもいいですし、論理性を重視したければアリストテレス（オルガノン=論理学の著作群がある）やフランシス・ベーコン（新アルガノン=中世神学から近代合理主義の橋渡しの役割を果たす）の思想を選択すればいいわけです。

別の例を見てみましょう。雑然とした対象がイデオロギースイッチングには向いていないので、例えば健康法について考えてみましょう。年配者には特に関心が強い分野ですし、意識の高い若い人も関心が深いでしょう。健康や健康法は自然科学、社会科学、人文科学にも深くかかわっており、個人の考え方や行動、生き方に影響を与えるので例として取り上げてみましょう。

たまたまこの原稿を書いているのが2月9日でお年寄りなどを中心に死亡率が高くなり自殺も増える季節です。また気温が低い季節ですが季節の変わり目にもあたり低気圧などの関係か暖かい日が出てきたりや日照時間も長くなってきます。そして感染症の流行期でもあります。

まず中国文化圏の思想で眺めると2月3日が節分に当たり昔でいう大晦日、2月4日が立春で旧正月、中国でいう春節に当たります。これは季節の変わり目であるとともに年と歳の変り目です。この様な大きな季節の変り目には引用が乱れて邪気が生じ、鬼が出ると言い、追儺や節分という行事が行われます。春先にはなんとやら、木の芽時、季節の変り目は体調が悪くなると訴える人が増えます。邪気というと陰陽五行、あるいは朱子学では理気二元論で考えます。風邪（ふうのじゃ、風とも読む）や寒邪に当たると病気になりやすいです。また実際に空気中の不純物、花粉や黄砂が出て、ウイルスなどオン病原体の移しっごがあるため人ごみは注意です。気温が低いと交感神経系が更新し高血圧で脳卒中や心臓麻痺などが増えます。脳卒中は中風と言って昔は風の邪に中る（あたる、中毒という言葉もある）ことにより起こり、現在でいう脳梗塞や脳出血、めまい症など含みますがこの時期は発症しやすいです。寒冷ストレス、軽い低体温症で抹消循環不全による冷え性に苦しみます。女性の場合、月経前の不調がある人は血行不全が関係するので月経前

困難症や緊張症と呼ばれるものが悪化します。月経前の精神障害、うつやいらつき、眠気など悪化します。鬼とは中国では死んだ人の魂を表しますが、厳しい冬をもう少しで乗り切手前でお年寄りや病人など体の弱い人、老齢のペットや野生動物は寒さに津から尽きてしまい、昔は「今年の冬は越せなかった」などと表現しました。生物学的あるいは生化学、化学的に深部体温が低下すると免疫力が低下します。中枢神経系を除いて生物学的には人間はつきつめれば物理学、数学などの基礎科学で理解できます。化学や生物学は物理学の応用化学で医学、生理学は更に応用科学です。実際医学部教育でも物理学を勉強していない高校時代に生物専攻の学生は循環生理も神経生理もきちんと理解できず苦しんでいたようです。我々は空気と水がないと生きられないと聖書に書いてありますが、水、この場合は細胞外液の恒常性が細胞と生命の本質です。ホメオスタシスという言葉を使いますが、これは突き詰めると細胞外液の恒常性のことです。生物で一番大切なのは生殖細胞で精子や卵子を指します。それ以外は体細胞と言って生殖細胞に奉仕するために存在します。どの細胞にせよ細胞は生きている限り細胞外液という太古の海から引き継がれた海水、液体に浮いていないと生存できません。細胞外液は一定の組成や PH、温度である必要があります。それを維持するのが臓器や身体役目です。胴体とその中の臓器はそのために存在します。心臓は細胞外液の微小循環、すなわち入れ替えのため、肺は酸素と二酸化炭素、PHの調整のため、肝臓は細胞外液に含まれる分子や化合物の化学工場、腎臓は電解質、すなわち海を維持するための Na や Cl の調整、消化管は外部からの物質の取り込みや排せつにより最終的に血の組成を調整します。心臓の役割には大循環と微小循環があり、大循環は血管内で血液を循環させること、微小循環は抹消の毛細血管内外で細胞外液を循環させることです。繰り返しますが細胞は海水に浮いていないと生存できません。今の海水は濃縮されているので太古の海よりしょっぱいですが細胞外液は太古の海の組成に似て海水より薄いです。

空気と水が必要でした。空気は人間の体調に影響します。気圧、湿度、温度、それに加えて光線の量まで、つまり明るさまでここに入れてしまいましょう。

圧力は体調に影響を及ぼします。特に低気圧、雨や台風の前で頭痛がしたり自律機能失調になることを最近では気象病と言います。極端な例で説明すると分かり易くて深海生理や高地の整理を考えてみましょう。素潜りのダイバーが 100m も潜ると水圧がすさまじく四肢などの抹消の循環抑制が起こり、心臓と中枢の血行が優先されます。循環抑制と呼ばれ特殊な精神状態になることがある様です。逆に深海から海水面に戻ってくるときには素潜りは問題ありませんがスキューバダイビングなどでは潜水病という空気塞栓症を起こすので注意が必要です。

登山などしますと気圧の低下で高山病など起こります。気圧が低いとお菓子の袋が風船のように膨れた体験をしたことがあるでしょう。飛行機のテイクオフの時に耳貫が必要になった体験もあるでしょう。耳痛、耳鳴り、耳閉感など生じるからです。高いところに行くと空気気圧が低く空気が体の上皮、皮膚を押してくれません。という事は抹消循環にて

毛細血管から体液が流出したものの、細胞外液の水圧が下がるので再び血管に戻る力が減少します。すなわちむくみやすくなります。心臓から血液を弁出して細胞外に液体がたまり、代わりに血管内の血液は血球などが濃くなりかつ量が減ります。そういった変化から体調の乱れが生じます。ですから気圧の低い状態になるときはゆっくり体を慣らし永アがいいです。逆に気圧が高いところに行くときにはそこまでゆっくりではなくてもいいですし、むしろ循環を助けてくれるでしょう

人間は立ちっぱなしや座りっぱなしの仕事がよくなって寿命が縮むといわれます。運動していると第二の心臓といわれる脚や抹消の筋肉が動いています。静脈やリンパ管には弁がついていますので逆流はしません。運動するとマッスルポンプと言って筋肉が静脈やリンパ管の液体をしごきだしてくれすので、体液が心臓に還るのを助けてくれます。脚は第二の心臓といわれるゆえんです。運動していないと心臓だけの力で全身の体液を循環させないといけません。心臓が疲れます。手塚治虫のブラックジャックで心臓に比べて体が大きすぎて相撲取りを囑望されたが、体の大きさに心臓がついていけず両足を切断する話が出てきます。逆に体が小さくて相対的に心臓が大きい、新機能が高いとマラドーナや滅私のような身体能力を獲得することがあります。

湿度は加齢とともに大切なファクターになります。極端な例でいくと宇宙空間に放り出されると色々なことが起こりますが、風船のように破裂してしまうのとともに蒸発してしまいます。砂漠などの乾燥地帯では油が重要な役割を果たし、聖書では油を頭にそそぐシーンがあり、日本人だとねちゃね茶して気持ち悪そうとか思う人もいるかもしれませんが、体表からの感想を防ぐためです。日本の太平洋側の冬は低温乾燥で暖房だけすると飽和水蒸気圧などの関係で湿度が下がって乾燥に苦しみます。加湿器やマスクなどをつけて加湿も同時に行いましょう。特に咽頭、喉頭の粘膜はウイルスなどの入り口でウイルス防御のためにワルダイエルの扁桃輪など免疫機関が充実していますが粘膜上皮は乾燥に弱いです。細胞は水に囲まれていないと生きられないので直接空気に接する細胞はありません。細胞膜の外は必ず体液に包まれています。粘膜上皮細胞もそうで、直接空気に触れているのではなく粘液などの体液により空気との接触面を保護されています。それが乾燥してしまうと粘膜上皮細胞、すなわち粘膜が弱るので加湿には心がけましょう。

温度ですがこれは決定的に重要です。あくまで 2 月の話ですので低温や低体温、慣例ストレスや、低温障害について考えましょう。単純に生物学や化学、生化学では至適温度や至適 PH というものを習います。ワンポイント、あるいは 0.数ポイント違うだけでたんぱく活性が数十パーセント変わる場合があります。中枢神経系や遺伝子などの分子生物学までいかなくても人間の身体は生化学で大抵の説明がついてしまうことが多いです。そこで科学や生物学では生化学を勉強します。医学部でもです。代謝や生合成、異化や同化、排泄、吸収つまり退社を含めた全てを我々医は一度は暗記します。そういったものは応用科学ですのでベースに物理学、その応用としての化学や物理化学があります。熱力学、あるいは熱統計力学を勉強するとエントロピーと自由エネルギーの概念を習います。等温、

当圧でエネルギーがどういう方向に変換、消費されていくかの方向性を勉強していく場合、ギブスの自由エネルギーという概念を使います。自由エネルギーが減る方向にしか化学反応は起こりません。それに基づき体は新陳代謝していくわけです。等温、等圧下での変化を示すので（等温、等圧下でない場合は別の自由エネルギーを使います。例えば等エントロピー、等体積などです）、温度が変われば全ての代謝活性に影響が出ます。至適温度が少し変わると全てのたんぱく質活性については免疫や細胞の活性が変わります。人間の体は細胞外液の恒常性、すなわち電解質や PH や温度を一定に使用と努力していますが、外界の変化に対応しきれず調整が適切にいかない場合も多いので、体に頼るだけでなく衣食住や健康法には気を使いましょう。温度が下がるとそれだけで体調に変化（悪い変化も多いです）がありますし、免疫力が低下しますので感染症に罹患しやすくなります。

日照量や光量の概日あるいは概月、概年リズムなどについて考えてみましょう。光量は人間の精神に影響を与え冬季うつ病という疾患をもたらすことが分かっています。高緯度地方では自殺が多く、冬季うつ病の治療はそのまんま光線照射療法です（それだけではありませんが）。人間には光センサーがあり、数々の概日リズムを作る同相因子があります。デカルトが精神の座であると考えた松果体は光にかかわっており、インドールアミン系を調整しています。トリプトファン、セロトニン、メラトニンについて耳にしたことがある人は多いでしょう。同じ代謝経路にある一連の物質ですが、トリプトファンが欠乏するとペラグラといううつ病を発症する病気になります。セロトニン欠乏はうつに関係し、うつの治療にはセロトニンを増やす治療が有効です。メラトニンが不調になると生活リズムが乱れたり、覚醒睡眠リズムが乱れたり、概日リズム障害が起こります。時差ボケもこれが関係し外国の空港ではメラトニンが売られています。

さらに空気についていうと 2 月は邪気が生じると言いますが実際に黄砂や花粉などの生態に有害な不純物が増えます。空気の中の病原ウイルスも増えるかもしれませんがよく知りません。

そういったことで 2 月は死亡率が増えます。12 月、1 月と慣例ストレス、低温障害、低体温症の中を頑張って生きてきた健康弱者であるお年寄りや病人、野生生物などが冬を越せずになくなるのが多くあります。

また自殺が増えます。うつの極期では自殺する発想も元気もなく自殺もできない状態になり、コタール症候群（不死妄想、貧困妄想、新規妄想など）をもたらす重篤な状態になる場合もありますが、うつ病の自殺に関しては逆に元気や生気が出てきた時が注意といわれます。陰陽の気が乱れ、邪気が生じ、鬼が出ると言いますが、陽気だけが増えてくれればいいのですが、うつ病の患者さんにそれまでなかった発想力、衝動性、行動力が生じます。それがポジティブなものであればいいのですが、「みじめだ」「情けない」「孤独だ」といったものや怒りの気が増し人や自分を攻撃した後自己嫌悪やむなしさが生じたり将来のことをふと考え、不安になったり絶望的になるような発想が生まれます。寒冷ストレスに

耐えてきた成果冬ばて、冬疲れが一見自覚がない若い人にも生じています。疲れとは一言で言えば脳が疲れているという事です。睡眠も脳のためにあり体のためにあるわけではありません（とは言い切れませんが）。脳が疲れる場合一番疲れやすいのはより新しくできた高次の脳、連合野で全島連合野、頭頂や側頭の連合野があります。全島連合野は抑制を司っているのです。全島連合野が疲れていると「死にたいな、死のうかな」という衝動が発生した時にうまく抑制が働かない場合があります。すると自殺の行動を実際に行ってしまうことが増えます。実際に京浜東北線は2月には毎日のように、時には1日に何回か飛び降りて止まります。

2月はフラッシュバックや悪夢も増えます。寒暖差があり、冷えるときには1年で一番くらい冷えるので精神も身体も揺らされます。自律機能全般、筋肉も鈍くなるので動作も遅くなり、睡眠覚醒に支障が出ます。

そのように調子が悪い上に、月の日数が少なかったり、決算だったり営業は会社計画の数字に届かず走り回っていたり、年度末だったり、納期が迫っていたり、繁忙期に入る人が多いとともに、二八月は閑散期に入ることも多く、仕事上でも村や乱れが生じます。更に子供は幼稚園受験、小学校受験、中学受験、高校受験、大学受験、学士や修士論文の提出などイベントが目白押しです。成人の資格試験もこの時期国家試験なども含めて多くあります。心理社会的に考えると、学年や業種、職種の違いで色々違ってきますが、精神的、身体的に負担がかかる月です。

健康法につきましても色々ケースバイケースあるいは一般的な養生としていろいろありますが、健康リスクだけでだいぶ長くなってしまいましたので、原因と逆のことをすればいいのと、あと細かいことは専門家に聞いてください。

上の様に健康や健康法を考えるだけでも、科学技術や文化人類学、伝統的な考え方や養生法を含めて色々なイデオロギーを組み合わせで行われるイエオロジー複合体です。

ここのイデオロギーをたくさん知れば健康や不健康、健康法について色々考え実行できますが、ポスト構造主義だけを知っていて、イデオロギーを知らない人は、健康や健康法について考えることも行動することも不可能です。

ですからなるべく多くのイデオロギーを勉強するのがいいのでこれを教養と呼びましょう。興味があるなしにかかわらず、あらゆるイエオロジーを勉強しようとする態度、これを教養主義と呼びましょう。また自分の興味のあるなしにかかわらず、あるいは興味がないからこそ猶更学ぼうと考える心がけをフィロソフィーと呼びましょう。

11-2 イデオロギーの作り方

すでにあるイデオロギーを学ぶことはスマホの有料、無料のアプリを購入しダウンロードインストールするようなものですが、欲しいイデオロギーがすでに用意されていない

場合にはイデオロギーを作ることができます。これはプログラミングを組むことに相当します。更に気に食わない、あるいは感情的な理由ではなくてあるイデオロギーに反対したり解体したい場合があると思います。自分の中にあるイドラ（アイドル=偏見）を解体したりしたい場合です。そのために役に立つのが現代哲学の3大要素の一つ、構造主義です。

構造主義を用いるのはまさにデジタルなやり方で、数学が構造を研究する学問で数学基礎論から計算機科学や情報科学、プログラムやアルゴリズムなどの概念の元になっていることを考えるとなかなか興味深いものがあります。構造主義がデジタルであれば実在論はアナログな感じですが、デジタルは0,1の2進法というイメージが強いでしょうが、遺伝子ならA,G,T,Cの4文字のデジタルですし、アルファベットなら26文字のデジタルでしょう。中国古典は漢字は漢字の数が膨大過ぎるので漢字の数個のデジタルといえるかもしれませんが、漢字の数の膨大さを考えると実際にはアナログと考えてもいいかもしれません。

構造主義を用いるという事は0,1の機械語でプログラミングを作るという事ではありません。まずは簡単な構造主義化の方法からいっていきましょう。

既存の実存主義のイデオロギーを構造主義化してしまうのがよい手本となります。20世紀中葉の構造主義ブームの時にはこれが頻繁に行われました。また数学や物理学の基礎科学ではそれに先んじて19世紀末から20世紀前半まで各数学分野の公理化という構造主義化が行われています。

構造主義の四天王と言われている4人の仕事が良い例となります。

レヴィ・ストロースは文化人類学者です。神話や人間集団の民俗、習慣などを研究します。柳田邦夫の遠野物語や折口しのぶを知っている方ならその様なイメージで考えて下さって構いません。文化人類学は神話や民族、文化を実在論的な観点から研究してきました。正し西洋人が研究する場合は啓示宗教や一神教の先入観が強いですからそれとの比較になり、神話や文化、伝統を迷信的なものとみなしがちです。レヴィ・ストロースは神話と民俗学の研究でおじと甥の特殊な関係、神話で規定されている人間集団の婚姻関係が黄砂家族婚というあるルールにのっとって行われ、近親交配を防いだり、遺伝子、血の混ぜ愛を行っている構造を発見しました。神話や習俗の表層的な意味とは別に遺伝子や智の交換という生物学的に合理的な構造が創られていることを発見したわけです。

アルチュセールは共産主義やマルクス主義を構造主義化しました。それらの思想を内容ではなく形式的な構造としてとらえた場合初期の共産主義思想やマルクス主義思想と後期のそれらの思想では構造的断絶があることが分かり、初期と後期では別の主張をしていることを示しました。これは共産主義者やマルクス主義者自体は恋に隠していたか気が付かなかったことです。

ロラン・バルトは記号論の研究者です。記号論とは言語学や文学の研究を含めたより広い概念で言語学を一般化したものです。その中でバルトはテキスト論、文学の研究などを行いました。文学、聖書、純文学、哲学書は近代の教養主義においてはロマンチックで神秘的で心理の体現のように扱われていました。旧制中学や旧制高校ではドストエフスキーや哲学書を読み社会主義にかぶれると真理の追求者、頭がいい人、正義の探求者、誠実な人として尊敬されました。逆に社会主義者でないことは正義がない、とまでみなされていました。東大の経済学部は東大の法学部からマルクス主義経済学を研究するため分かれて作られました。社会主義者でないことは真心がないと見なされました。

文学もそうです。文学を読むことで人生の心理に至るという思想が流行しました。悩める禁欲的な進歩的文化人と呼ばれるもので現在では高齢化し変わっていない人はそのまま社会にそれを出さず潜伏しています。

構造主義は真理の实在という考え方はありません。ただテキストを丹念に分析しその関係性の意味を追求していきます。テキスト、実地、文献重視で丹念に意味の追求とその実証を行っていく地味な学問です。ドストエフスキーならそれに近いことを行った人に記号学者のミハイル・バフチンという人がいてポリフォニー論というものを書いています。ロラン・バルトもテキストや文学をそのように分析し实在ではなく記号同士の関係性から生じる意味を分析しています。实在論と違うのは实在論は意味の实在が最初に存在してテキスト、記号はそれを表す道具として下位に見ています。これは中世の不変論争と似ていて、唯名論は個物が存在し普遍的な实在はなく、ただ個物をカテゴリー化してラベリング、名前を付けるだけと考えるのに対し、实在論は不変、实在するアイデアが存在し、それが神や対象を支弁する人間や汚物自体に宿っているという風に考えます。この論争はイギリス経験論と大陸号理論に引き継がれていきます。

ミシェル・フーコーは文献学者・歴史学者です。この人は現在の目から見ればちゃんとした文献学と歴史学を行った人です。一時文献を地道に読み込み、地味に実証を積み重ねていく態度ですが、実は近代ではある種の思想を持つ人たちはこれをないがしろにしました。例えばマルクス主義や唯物史観、進化主義史観が正しいので、文献は補助的なものでしかなく、自分の主義や史観にあった資料だけを用いて自説を補強し、自説に合わない文献を無視、黙殺していくやり方です。

フーコーは精神病の歴史や精神病院の歴史、監獄の歴史、性の歴史などで膨大な文献を読み込み、近代において精神病という概念がどのように成立していくかを、文献、ないし歴史、あるいは制度や当時の社会構造から丹念に説明、立証していきました。

中世までは精神病者は多様性の一部として社会の中で都市にせよ農村にせよ個性として認められ一緒に暮らすか、犯罪者、LGBT、無神論者、社会生活不適格者とともに監獄に収容されていましたが、近代の成立とともに精神病は病気であり治療対象であるという概念が創出され、他の人々から分離され精神病院という施設が創られ疾患を持つ病者、患者として特別な施設に収容されるようになった経緯を文献学的に明らかにしました。

「人間の終わり」「歴史の終わり」という考え方を提出しています。

実在としての人間、実在としての歴史などは存在しないという事を主張しています。これは実在論の否定です。各時代、各状況、各文献、各瞬間ごとに「人間」というものも「歴史」というものも変わっていきます。かくあるべき正しい歴史などというものはありません。新たな文献や考古学資料が見つかって歴史学の定説がひっくり返るなどという事はしょっちゅうです。今ある正しいとされている歴史があると思っている人は今現在の文献や考古学的資料、時代の風潮や先入観、時に政治圧力、その人の思い入れや想像力、そういったものの関係でできている歴史を実在しているように感じているに過ぎません。

一方、フーコーの場合は単なる構造主義者ではなくポスト構造主義者でもあるとみてよいでしょう。自分が構造主義者であることを否定しています。学問や科学の観点から言えば構造主義というのは一つの方法論に過ぎません。方法論を明示でき、再現性があれば結果は大きな問題ではありません。科学とはそういう意味で方法の精神です。文献学、歴史学において構造主義を実在論的方法論（真実は最初から決まっており、文献も考古学的資料もそれを補強するだけのものという方法論）に愛して構造主義的方法論があるというだけで、どちらが正しいとかいう問題ではありません。時にどっちも使います。何か正しい真実というものとは科学では実在論の考え方で、それはそれで意味があるでしょうがそれだけだと問題があるので、構造主義の考え方も両方できた方がいい、というのが科学、学問における現代哲学的な考え方になります。

数学や物理学の場合はより簡潔に示せます。論理主義、公理主義、形式主義、直感主義などの考え方で公理を入れ替えたり設定することで新しいイデオロギー、数学や物理の分野を創造できるからです。

有名な平行線公準の問題を考えましょう。さらに論理主義、公理主義、形式主義の考え方で考えます。

この場合、推論規則として論理主義を用います。これはバートランド・ラッセルの「数学的原理」を使ったらいいでしょう。幾何学の場合、5公理、5公準が使われます。5公理は、「部分全体より小さい」みたいなルールです。5公準は簡単に言うと、定規とコンパスだけを用いた図形操作ができるという事を書いています。

形式化というのは記号化するという事です。例えば三角形を $\triangle ABC$ とあらわしたり合同を \equiv と表したりします。大体中学校で習う幾何学の証明をより徹底させたものと考えていただいて構いません。

5公準のうち、「直線とその直線状にない点の上に引ける平行線は1本だけである」というように表現ができるものがあります。これは長年公理といえるのか議論されていたのですが、人類の巨人である天才数学者フリードリヒ・ガウスやボヤイ兄弟が自明な公理とは言えないという事で決着しています。

「直線とその上にない点に平行な直線が複数引ける」幾何学も創造可能ですし、「直線と

尾上にない点に平行な直線が一本も引けない」幾何学も創造可能です。多分この公理自体をなくした幾何学も作れます。すると合わせて 4 通り、ユークリッド幾何学と異なる幾何学では 3 通りの異なる幾何学を作ったことになりました。

これが一つのイデオロギーの作り方で、すでにあるイデオロギーを改造してしまうです。

これは構造主義だけでなく実在論の哲学でも可能です。唯一神の宗教であれば、ユダヤ教から食物禁止規定をなしにしてみます。これは新約聖書に書かれていることでこれによりキリスト教は現在のユダヤ教徒は異なり豚やうろこのない海のものも食べれるようになりました。キリスト教では聖書を旧約聖書と新約聖書に分けることがありますが、この新約の部分で食事をはじめ色々変えているわけです。

「豚を食べてはいけない」これはこれで一つのイデオロギーですから多くの宗教なるものはイデオロギー集合体ともいえます。特に現在の宗教ではユダヤ教やイスラム教は律法という戒律みたいなものとその解釈が定められていますのでその律法と解釈がそれぞれイデオロギーでその集合体になります。

思想が融合や分裂を起こすことはよくあることで宗教混交現象をシンクレティズムと言ったりします。宗教に限らず数学なら公理を変えてみたり律法を変えてみたりすることで新しいイデオロギーまたはイデオロギーの複合体を作ることができます。現代哲学のメタイデオロギーでは選択の自由を保障しますから自分の好きな公理なり律法なりイデオロギーなりを組み合わせて自分の信条にしたらよいでしょう。

これはイデオロギーの作り方の一つ目になります。既存のイデオロギーの改造やええとこどりです。

イデオロギーの作り方の 2 つ目は最初に触れた構造主義の四天王や初期の現代数学者が行ったようにモダニズムの哲学や宗教や学問を構造主義化してしまうことです。

モダニズムの科学、学問、思想、哲学は実在論（普遍論争の実在論とは違う意味）で成り立っていますからそれを構造主義により作り直してしまうことです。

例えば現代思想家のドゥルーズは哲學家家ですのでベルクソンやスピノザを現在の構造主知的視点から解釈しなおしています。数学の場合は構造主義の一種である公理主義というのを用いて公理主義化を行います。幾何学であれば点や線という実体があるという仮定をいったん破棄して公理主義で幾何学を作り直すわけです。こうして作り直された公理化された幾何学でも公理化されていない古典的なユークリッド幾何学でも実際に証明をしてみると同じようなことを行うことになります。ただ公理主義による幾何学の方が厳密で手順や記載を明確に示しますのでやや冗長に見えるくらいでしょう。ですから実際はどちらでもいいのです。ただデジタル化したい場合には実在論による幾何学は自然言語と似たようなものなので AI ならともなかなかなかコンピュータは理解してくれないでしょう。公理主義化された幾何学は記号主義、形式主義、論理主義が厳密に規定されているのでデジタル化が容易、というよりその過程自体がすでにデジタルと言えます。

そういう意味でいうとモダニズムのイデオロギーは全てアナログでポストモダンである現代主義、現代哲学を基礎に置く、すなわち構造主義の中の公理主義に基礎を置く学問はデジタルそのものです。

言い換えるとアナログな実在論的イデオロギーをデジタル化すると新しい構造主義によるイデオロギーを作ることができます。

実際の使用に当たってはアナログでもデジタルでも扱いやすいようにインターフェースを作っておけばアナログとかデジタルとか関係なくイデオロギーを気楽に使えるでしょう。まさに VR や AR の世界です。

実際の宗教などは豚を食べてはいけないとか神は唯一であるとか直接関係のないイデオロギーを集めて作られたイデオロギー複合体です。

イデオロギー複合体を作るのは自分の好きなイデオロギーを集めてきてハイブリッドというよりミックスして寄せ集めて作ればいいので組み合わせだけの問題です。

時に矛盾のあるイデオロギーを作ってしまうかもしれませんが、人間は別に矛盾を受け入れられない存在ではありません。敬虔な南部バプティスト、というとモンキートライアルで州ごと進化論を禁止したり、裁判で地動説を教育することを禁止したりすることで有名ですが、そういった宗派の敬虔な信者の中にも優秀な生物学者や進化論学者、物理学者や宇宙物理学者はたくさんいるようです。

人間は矛盾を受け入れられる生き物です。そもそも脳からして別に無矛盾を受け入れないように作られているわけではありません。政治や社会を見渡せばどれだけ自己矛盾に満ちて生きている人々が多いかは分るでしょう。これは別に悪いことではなく人間の優れた点かもしれません。逆にある種の精神病や発達障害は矛盾に脆弱かもしれません。ただ矛盾に脆弱な方が人間として正しいと見れば、定型発達群、いわゆる普通の人々の方がそうした人々から見ると異常に見えるのかもしれません。

現代哲学はどちらの立場も区別せずスペクトラムとして全く同じ土俵である還る学問です。

さて第 3 番目は一から思想を作る、です。公理主義を用いる場合には一からプログラムを組むといってもいいかもしれません。

例えばケインズは自分でマクロ経済学を作り上げました。

ガロアやアーベルは一般の 5 次方程式以上の次数の方程式が加減乗除と冪根で表される解を持たないことを群論などを創始することで証明しました。

別にこのような天才たちでなくても最近はセミナービジネスが流行ってますのでオリジ

ナルでない内容のものが多くいでしょうが、オリジナルなアイデアでイデオロギーを作ってビジネスしている人も多くいでしょう。各種の学問の学会では毎年新しい成果やアイデアが提案されています。

構造主義をベースにした創造というのは実は IT 産業で IT 企業や個人が新しいプロジェクトや個人のアイデアで新しいシステムやゲーム、ソフトウェアを作り上げるのと一緒です。

科学についていうと古い近代以前の科学は最初は目の前の事物や現象を自明で確実なものとしてそれを説明するための理、法則つまり理論をどの様に作るかで清みました。事象を説明するための仮説というのは当時は検証されて多数決で承認される、あるいはみんなからいかにも信条的に確実だと思われると承認されると原理とか言われて真理とされもてはやされていました。この時代は呑気なもので数学者兼物理学者兼哲学者みたいな人がたくさんいました。デカルト、パスカル、ライプニッツ、シラノ・ド・ベルジュラック、その他推して知るべしです。

時代が下るとだんだん専門性も上がり多様なジャンルで一流を発揮できるルネサンス的超人みたいな人が減ってきましたが、まだ解明しつくせぬ謎が自然界にはたくさん残されていましたので、それをいかに理論化するかに心血を注いできました。ただ数学者は一人例外で現実がどうであるかは関係なく理論と観念の世界を逍遙しつつ突っ走っていきます。純粹観念の世界というのは数学や神学の一部くらいしか元々ありません。事象を説明するのが自然科学でしたがある段階でその関係が逆転します。理論が現実を上回る、あるいは先取る世界が出現し始めます。古典力学では光速度一定は説明できませんでしたが特殊相対性理論をアインシュタインが、アインシュタインだけでなく同時期に 2 名ほどが同じ理論に達していたはずで、特殊相対性理論は等速直線運動を行う 2 つの観測系での問題でしたが加速度運動をする 2 つの観測系で成り立つ力学、重力と慣性力に本質的な違いはないとする一般相対性理論もアインシュタインが発表しこちらは断トツでしょう。一方でその理論を数学で表現するための道具はすでに用意されておりローレンツ変換やミンコフスキー（ヒルベルトの同僚で友達）空間などより高等な数学はすでに研究されています。また一般相対性理論で予想された光の屈折や重力波などは理論が発表されてから実測されるまでに年月を要し、理論が現実を上回る時代に入っていきます。元々数学好きの人は現実の事象や自然現象に興味がない場合があります。理論それ自体、体系や構造、純粹な観念そのものにも興味がある場合があるので、現実とは関係なく学問を推し進めてそれが科学に応用されたり技術に応用されたりするのが現代社会です。

ですから物理学者のような数学者のような人がどんなにすごい宇宙論や空間論、素粒子論を出したとしてもそれを実験するのに単独の国家で行えないような規模や予算がかかる実験装置を作らなければいけない場合もあり、しかもそれが社会や生活に役に立つとは限りません。基礎科学とはそういうものです。

このようにこれが現実でこれが理論であるとか、これが正しくてこれが間違っていると

かそういう素朴な議論を行える時代は近代で終わっています。ですから現代では真理とか真実とか原理とかいう言葉を使う際には注意が必要です。現代哲学とか現代という時代を分かってない古い近代主義者と誤解されてしまうかもしれません。まあ誤解されても構わないのかもしれませんが。

つまり結論を言うと現実とか理論とか分けるのはナンセンスな時代です。

もう一つ別の創造があります。それは上記のような矛盾は含むことはあっても比較的整合性が取れたイデオロギーとは異なり、整合性が全く名うても構わないイデオロギーを扱う場合です。

美術や文学などの感性や情緒、情熱などに関する想像を行う分野です。これは矛盾とか理不尽とか関係ないことを無節操に取り入れて融合させたり改造しても構わない分野でむしろ自由に整合性を無視できる、先入観を取り払える人の方が創造的と称賛される分野です。

この分野に関しては全く専門ではないので詳しくないのですが、工業デザイン、アパレルの歴史、絵画史など図工や美術で扱われます。合わせて芸術家といわれますが、この人々は変にピロソフィーやリベラルアーツやコンテンポラリーフィロソフィーやマスマティクスを勉強してしまうとせっかく天然、天性に持っているオリジナリティーのある資質がこわ割れてしまうかもしれないので注意が必要かもしれません。

この教科書は勉強しろ、勉強しろと教育熱心なママみたいな事ばかり書いている教科書ですが、何事にも例外はあるのかもしれません。芸術家や創造者、想像者、空想者、クリエイターを生かすのは彼らを突き動かす訳の分からない創造や表現に対する情念かもしれず、それを鑑賞し感動や感銘を受ける側も変に分析したり枠に当てはめてしまわない方がお互いにハッピーかもしれません。この教科書では一番大切なのはフィロソフィーですが世間一般で言って一番大切なのはフィロソフィーよりハッピーやラッキー、あるいは楽しむことや誤解を恐れずに言えば楽な事でしょう。これらははフィロソフィーより大切なものである気がしますが、私が扱うには手に余る分野ですのでこの教科書では触れません。

11-3 まとめ

第2篇第4部の第9章から第11章まで、現代哲学を使いこなすための応用の基礎を話しました。

第一篇が基礎科学であるとすれば第2篇は全体が応用科学であり工学になります。

第一篇で現代哲学を理解してもらいそれで終わりでもいいですし、第一篇を読むだけで自分で活用できる方もいると思われます。

応用の仕方はそれこそ数限りなくあると思われますが、応用に当たっての一番シンプルと思われる基礎作りを行いました。

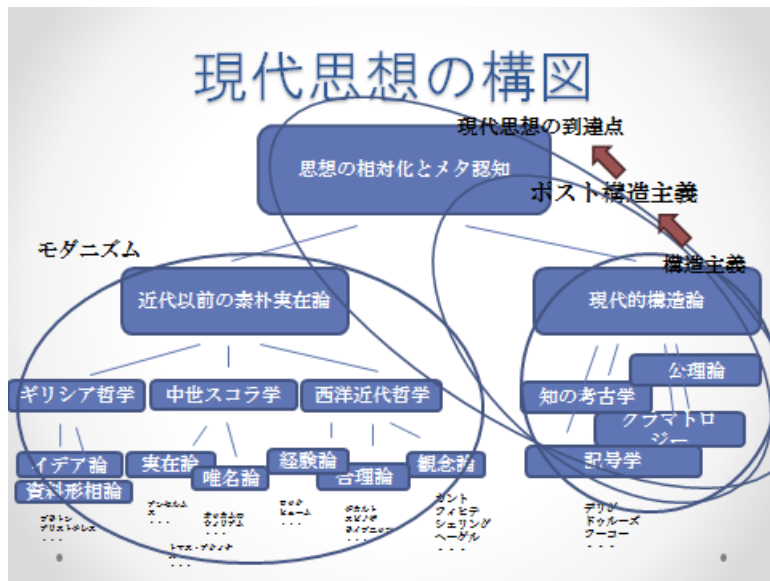
それは現実から観念までを含めて 3 段構成の枠組みで示します。

グラフにすると大まかにピラミッド型の構造をしており一番上部にあつてかつ全体を包含するものとしてポスト構造主義を置きます。これはメタイデオロギーであり、**meta-meta-physics**、イデオロギーを統括する特別なイデオロギーであり、イデオロギーという形而上学の更に上にある形而形而上学です。その下の第 2 層に各種イデオロギーを配置します。イデオロギーを大まかに 2 つに分類して实在論に基づくイデオロギー、構造お主義に基づくイデオロギーと分けます。ただこの 2 つの関係は背反ではなく 2 つを兼ねたイデオロギー、あるいはあるイデオロギーを实在論と構造主義の両方の観点から見ても構いません。实在論に基づくイデオロギーは専ら近代以前のイデオロギーであり、構造主義に基づくイデオロギーは大まかに近代より後のポストモダンのイデオロギーです。構造主義の理解が難しい人は理解しなくても構いませんので、構造主義に基づくイデオロギー群を省いて实在論に基づくイデオロギー群だけでこのピラミッドを見ていただいて結構です。

現代哲学の 3 大要素はポスト構造主義、構造主義、实在論ですが、構造主義は理解が難しい場合があるため場合によってはポスト構造主義と实在論の理解だけで構いません。

实在論は中世の普遍論争の唯名論と实在論の实在論とは違います。中世の实在論は神、人、事物自体の中に普遍的概念であるアイデアのようなものがあるという考え方でした。ついでにいうと唯名論はアイデアのような普遍的概念はなく個物があるだけで、普遍的概念はなく人間が個物をカテゴライズして普遍的概念のように見えるものにラベリングして名前を付けただけのものという考え方です。この考え方はあまりキリスト教には好ましくないのでカソリックと距離があったイギリスを中心に議論されましたが、最終的には両者を折衷する様な形になり、それはすなわち普遍的概念があるという形で中世神学は決着しました。

しかし哲学では結局この問題は解決したとみなされずイギリス経験論と大陸号理論のような形で後に尾を引きます。



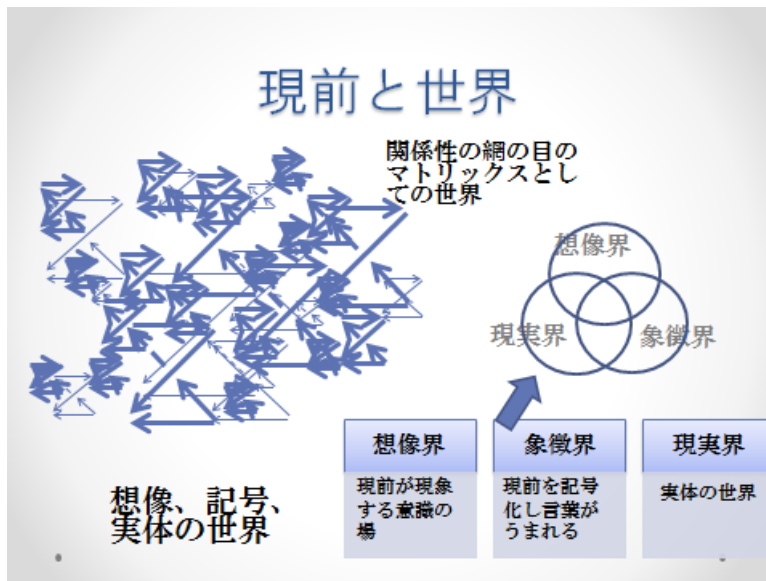
現代哲学でいう実在論はもっと率直で基本的な事実の確認で普遍的概念どころか個物が実在するかどうかという疑問に対し個物は実在し認識できるという考え方です。

中世神学では個物の実在事態とそれを認識できるということは疑問すら持たれず当たり前の事としてそれを前提に普遍論争が行われていました。

近代哲学はそれをもう一步掘り下げて存在や認識自体についてより深く考えたわけで、近代哲学の最大のテーマは存在論と認識論にどう回答を与えるかでしたが、そのベースには個物が実在するかどうかと個物を正しく、あるいは正しくなくとも認識できるかどうかがあります。

第2層のイデオロギー層では認識、概念、観念、認知、宗教、哲学、倫理、思想、主義、主張、仮説、理論、体系、構造といった人間が個物进行处理する情報処理の仕方や整理の仕方を全てひっくるめてイデオロギーと呼んでいます。この階層は **meta-physics**、形而上学と言います。メタイデオロギーで形而形而上学であるポスト構造主義から見ればメタ認知される側になり、主体性を持った個人に自由に選択されてしまう側になります。

イデオロギーが情報処理や整理するのは個物ですが、これは事物や現象など、色受想行識を全て含みます。すなわち意識の場で認識されるものであり精神に減少するものでありこれを現前と言います。すなわち世界や社会事態でありカント風に言うと物自体及び理性、御精、感性、知性？で情報処理されるもの、ラカンの三つ違いの紋、ボロメオの輪という象徴図形でいうと現実界、想像界、象徴界とその重なりから形成されます。現実界とは自然そのもの、造像会とは意識で表彰されるもの、象徴界とは記号として認識されるものです。これは形而下学 **metaphysics** と名付けます。



ここでの注意は形而上学と形而下学の使い方が伝統的な考え方と定義を変えていることです。

伝統的な考え方では形而下学は形より下の学、すなわち個物の研究を行うので自然科学、博物学、物理学、生物学などです。

一方形而上学は形の上の学、すなわち個物の認識する、あるいは認識しなくても想像する主体としての精神の研究の学問です。

哲学の歴史ではジャック・デリダなどが「現前の形而上学」などで伝統的な形而上学と形而上学というものごとの分け方に批判を行っています。これは現前というものに対する先入観を排することに成功した分析と、自己や他者、事物に対する同一性や恒常性の現代哲学より前の思想が先入観として無意識に持っていた考え方に対する批判です。

現前や同一性の問題については後の章で詳しく説明する予定です。

第4編のまとめは異常の3層のピラミッド構造をもとにイデオロギーをメタ認知し自由に選択すること、選択できるイデオロギーを増やすためにたくさん勉強することです。イデオロギーを絶対化せず、特定のイデオロギーに染まって支配されて今うイデオロギストになるのではなくイデオロギーを道具のように使いこなすイデオロギーの主人であり支配者になること、人形ではなく人形遣いになること、木乃伊ではなくミイラ取りになること、ポケモンではなくサトシになることです。

そのためにメタ認知、メタイデオロギー、形而形而上学、絶対的自由空間と絶対的自由主義による選択の自由、主体性、自主性と個人の確立、自覚と覚悟を持つことが求められます。

またいっぱい勉強してイデオロギーを増やしましょう。

第12章 メタアノミー、アノミーの研究、ニヒリズムと選べない人々

ミネルヴァの梟は黄昏に飛び立つ。

ヘーゲル

12-0 アノミーとは何か

アノミーとは社会学を作ったオーギュスト・コントやハーバード・スペンサーの次の時代の社会学者が創った概念で、社会の規範が弛緩・崩壊することなどによる、無規範状態や無規則状態を示す言葉です。

本教科書ではルールや規則、プロトコルや公理主義、論理主義など規範や規則の話を重視してきました。これは整合的、公理的、無矛盾的、完全性があるものを語ることは大切であることもありますが、実は簡単だからです。

誰にでも理解できます。努力をすれば。学習方法が確立しています。直感的に理解する必要はありません。アプローチは色々ありますが、例えば数理系の理論科学、数学や物理学などを基礎、すなわち公理から勉強してみれば、公理が単に観念的なものではなく世の中に密接に結びついて現に社会の中で具体的、目に見える形で使われている、実用的で体験できるものであることが分かるでしょう。

数学の一分野を学ぶためには天才である必要はありません。秀才でいいのです。

直感的、経験的に理解する必要もありません。非経験的、非直感的でもコツコツと勉強をすれば理解できます。よい教科書もたくさん出ていますし、本には金に糸目をつけないようにしましょう。ネットで検索しても構いません。非直感的、非経験的な学問でも上手い例えなどを使って説明してくれています。

ですから数学や物理学など純粋数理科学、自然科学を学ぶことは頭に理系の考え方を身に付けることに役に立ちます。現代では理とは原理でも真理でもなく公理であると書きました。理系というのは原理系でも真理系でもなく公理系です。原理系の頭の人には原理主義者になりやすいでしょう。公理系の頭の人には公理主義者になりやすいかもしれませんが原理主義者にはなりません。現代哲学の勉強が不十分で構造主義の勉強で止まってしまうとただの構造主義者、公理主義者になってしまうことはありますが、ポスト構造主義まで理

解が進むと、保険ができます。より情意階層のシステムが完成しているのでいったんそちらに避難できます。この2重構造、2層構造が現代哲学のミソでキモです。理論を理解だけでなくメタ理論を持っています。フィロソフィーを身に付けるだけでなくメタフィロソフィーを身に付けられます。リベラルアーツを持つだけでなくメタリベラルアーツを持てます。ナラティブに生きるのではなくメタナラティブに生きられます。メタ、メタ、言っているとメタフィジクス、すなわち形而上学の様ですが、現代哲学のポスト構造主義は現代の形而上学といえるでしょう。

現代の形而上学であるメタイデオロギー、ポスト構造主義と現代の啓示科学であるイデオロギー、実在論と構造主義に立脚した思想群を階層構造で理解すること、現代哲学の理解するという事はこれだけです。

さてメタイデオロギーもイデオロギーもどちらもなくなってしまった状態、これをメタアノミーと、アノミーと名付けましょう。

本章ではその状態を考察します。

12-1 メタアノミーとアノミーのもたらすもの

アノミーという言葉は19世紀にはすでにありました。メタアノミーという言葉はありませんでした。本教科書での造語です。

12-2 アノミーについて

アノミーはイデオロギーを持たない状態です。普通に育つと意識せずとも、曖昧で、協会不明瞭で、変わりやすく、矛盾やパラドクスを持っているような状態であっても何らかの、個人的、集団的イデオロギーを人間は持っているでしょう。

自分が持っているイデオロギーを自覚せず、無意識に持っている場合です。

アノミー状態が観察しやすい状況は自分が自覚的に信じていたイデオロギーが忽然と消えてしまったような場合です。

革命のときなどで、明治維新や第二次世界大戦後に日本史では観察されました。

ただし人間が自分の持っているイデオロギーをすべていっぺんに総入れ替えするようなことは思考実験以外ではありえないので部分的なアノミー状態しか現実にはあり得ないでしょう。

別の例えでいうとキリスト教徒の前に神様と思っていた存在が降臨して「自分は実は神様ではなかった」と告白されてそれを信じるような場合であり、あるいはキリスト教徒がそういうエピソードがなくても無神論に転向するようなときです。それに代わる別のイデオロギーを奉ずればそれは単に転向ですが、変わるイデオロギーがなく転向する場合、一度にいろいろなイデオロギーが喪失した状態になってしまいます。

純文学は最近はやりませんが純文学の王様ドストエフスキーが好きな人ならよくモチ

ーフとしてアノミーの問題が出てくるのを読んだことがあるかもしれません。

絶対神、絶対真、絶対者が消えてしまうというのはなかなか独特な状態で、良い場合には開放、自立、自律、主体性、自覚、覚悟、自由、個人の確立などに役立つ場合があるでしょう。それも一種の別のイデオロギーの確立といえるでしょう。

一方人間は何か救いや従いたいもの、無条件で信じられるものを求めたい心境になる時がありますので、代替する既存のイデオロギーでそれを置き換えようとすることがあります。明治維新の時には旧幕臣がクリスチャンになることが多かったのは有名です。

12-3 メタアノミーについて

メタアノミーはメタイデオロギーがない状態です。

本書は現代哲学の教科書ですのでメタイデオロギーはポスト構造主義です。ですからポスト構造主義をマスターしている人、していない人で人間の精神を分類します。現代哲学をマスターしている人、使っている人はメタアノミーではない人、現代哲学をマスターしていない、あるいは使っていない人はメタアノミーな人ということになります。

この分け方でいうと殆どの方はメタアノミーの人です。現在は現代哲学が確立しているのでメタアノミーでない人も増えていると思われませんが、それより前はメタアノミーではない人は仏教の悟った人以外はメタアノミーでない人はいなかったのではないのでしょうか。現代哲学はメタアノミーな人をメタアノミーでない人にするための思想です。

メタアノミーであることは何が問題なのでしょう。

前節でアノミーについて説明したので4通りのパターンを考えてみましょう。

- ① メタアノミーであってアノミーな人。
- ② メタアノミーであってアノミーではない人
- ③ メタアノミーではなくてアノミーな人
- ④ メタアノミーではなくてアノミーではない人。

12-4 メタアノミーであってアノミーな場合。

まず①について考えましょう。現代哲学をマスターしておらず、イデオロギーを持っていない人で、これは今まで信じていた家おろぎが忽然と消えてしまったときに人が陥る状態が好例になります。

全勝で上げた例の他に明治的啓蒙主義について考えてみましょう。これは山本七平氏が氏のいろいろな著作の中で研究しておられます。幕末から明治にかけては福沢諭吉をはじめ偉大な啓蒙思想家が輩出しました。封建制や伝統思想を否定し、西洋思想や化学、技術の導入を図ったわけです。

ここである問題が生じました。明治維新までの伝統教育を受けて人格、思想形成を済んでいた世代とその後の明治維新以前に人格形成を済ませないまま啓蒙思想が教育された世代です。これは第二次世界大戦敗戦時もそうで、昭和 5 年以前、つまり戦前の日本の教育を受けて人格形成をした世代と昭和 5 年以降に人格形成がなされないまま敗戦を迎え、戦後の社会的風潮や戦後教育を受けた世代とで特徴が異なるようです。

明治的啓蒙主義を見ると、明治維新以前に教育と人格形成が済んでいる人たちは明治維新によりアノミーになっていません。

いわゆる和魂洋才で侍は侍として明治以降も生きて死んでいきました。好例は乃木希典でしょう。明治天皇ご崩御に際して夫婦で殉死しています。その少し後の江戸時代の精神を継承していた世代である夏目漱石や森鴎外はその事件に触発されて「こころ」や「興津弥五右衛門の遺書」を書きました。その後の世代の志賀直哉だと乃木希典の殉死を馬鹿にしています。

庶民も文政老人といって 1830 年頃までに生まれた世代は昭和期に至るまで江戸時代の生き残り、良くも悪くも骨董品のような特徴を有する世代として有名でした。

福沢諭吉自身も自身は漢学者の息子で幕末明治に至るまで自身の伝統的、儒教的素養を自覚しながら生きていた人です。ですので時に矛盾のように見えることもあり複雑な精神を持っていると論評されることもあります。伝統を継承するにせよ批判するにせよ自身の中にある伝統、教育の自覚は持ち続けていました。

勝海舟や榎本武揚への批判は有名で、日清、日露戦争の時も日本の国難時には主義主張に関係なく国民を励ましました。

日露戦争の将軍はまさに侍出身で良くも悪くも子供時代やまだ生まれていない時代に明治維新を迎えた若い将校には尊敬されていたようです。

侍出身の元老が生きていた時代は明治憲法は機能していましたが、元老がいなくなると機能しなくなり大日本帝国は滅んでしまいました。

さて特に問題なのがこの様な社会の激変時に古いイデオロギーがどう扱われるかです。

自覚して完全に捨て去り、かつ捨て去ったことを自覚できているとしましょう。

人間なかなか一度見についた古い習慣は抜けないもので、意識的に捨て去っても無意識的に作用している場合があります。この無意識的に作用している可能性を自覚できる、あるいは無意識ではなく意識し認識、言語化できるようならば混乱は少ないでしょう。

本当の問題は無意識に作用している可能性の自覚がない場合です。この状態で西洋思想やら合理主義やら古い考え方は迷信であるなどの教育が行われそれが自分のイデオロギーと考えている、しかし実際には同時に無意識のイデオロギーのプログラムが裏で作動している場合です。

これが革命後や既存の社会体制崩壊後の新しい世代で生じやすい現象です。

これは往々にして面白い、興味深い、時に喜悲劇の様な現象を起こすことがあります。
今度は大東亜戦争後を例に出してみましよう。特に日本人と韓国人、北朝鮮人を考えてみます。

戦前戦後で日本人は大きく変わったという考え方がありました。
一方で戦前戦後で見た目や考え方が変わったように見えても本質的な思考の型は内容が変わっただけで、枠組み、構造が変わっていないという議論があります。

例としては日本人では全共闘の思考パターンです。

世代によって多少前後ありますが、20世紀はイデオロギーの時代です。さらに日本は20世紀の第2四半期は戦争の時代でしたので、善悪で国や相手を見る思考を多かれ少なかれ教育されています。戦後はアメリカの占領下になり、また日教組という組織に型にはまった思考を植えられました。戦前は鬼畜米英と反共露助と教育された世代がそのまま戦後はアメリカの艦隊が特攻する日本の飛行機を打ち落とすシーンを映画で見せられ善のアメリカロシアや悪の大日本帝国と育てられました。映画を観て当時の子供は興奮して拍手をしていたそうです。

その結果として思考の型として物事、特に国家やイデオロギーや人を善悪で見る思考が協力を植え付けられました。この善悪二元論で見る構図は現在まで尾を引いています。

韓国と北朝鮮は戦前の大日本帝国の直系の子孫です。特に北朝鮮は一君万民の社会構造からイデオロギーまで大日本帝国そのものです。韓国は第三国として半ば戦勝国のメンタリティーの教育を植え付けられたためイデオロギーが表裏ともに連続してしまい、かえって戦後の日本より戦前の日本を継承することになりました。20世紀の後半まで軍事開発独裁の国であり、現在も休戦というより停戦状態であり、イデオロギーや制度を硬直させなければいけなかった事情もあります。

12-5 メタアノミーであってアノミーではない場合

普通の人には現代哲学マスターではありません。そういう人が主義、主張、思想、哲学、宗教を持っていればこのケースに当てはまります。ですから普通に歴史を振り返れば色々なケースに出会えます。どんなイデオロギーの組み合わせか、どんな人間集団がそれを報じていたか、場所や時期などの状況、環境によって千差万別です。

現代哲学マスターから見ると、現代哲学を知らないことによるメリットとデメリットがある様に見えます。

メリットはイデオロギーの恩恵を盲目的に受けられること。盲信できることはある面幸せです。幸福感や恍惚感を得られるかもしれません。仲間もできるかもしれません。判断に迷うこともないかもしれません。葛藤も反省もしないで済むかもしれません。イデオロギー集団に属することで世俗的利益を得られるかもしれません。特権階級として恩恵を得

られるかもしれません。自然に自明に信じている場合と考えて選択して信じている場合があり違いが生じる場合もあるかもしれませんが、あまり問題にしなくてもよいでしょう。他にもメリットが考えられますがこれくらいにします。

デメリットは戒律などの決まりを破ったりすると、精神的、あるいは身体的に苦しむことになることがあります。集団内で排除されるかもしれません。自分が順守している規則を守らず不義な利益を得ている人を見て悔しくなるかもしれません。自分のイデオロギーが間違っていると考えることが難しい場合もあり、何らかの理由でイデオロギーを変えようとしても場合もあるでしょう。信じたくないのに周りから強制される場合もあります。他にもありますが割愛します。

イデオロギーが非常に強い、またはイデオロギーを絶対化する場合があります。自分であろうと他人であろうと、それを始めると別のイデオロギー保持者に排他的、攻撃に働く場合があります。イデオロギーはある種の言明、平叙文、命題から作られています。するとそれに対する肯定と否定が生じます。正義の発生です。判断することを“義”と言いますが正しい判断であると正義という言葉が生まれます。義だけでも正義を表す場合もありますが判断することの中に正しさを内包させているのでしよう。

返しの不義も発生するでしょう、時に悪も発生します。

イデオロギーが強化されていくとイデオロギーに反するもの、まつろわぬものとなり、順イデオロギー的な存在とは見なされ憎くなるでしょう。正義は善と習合しやすいですし、不義は悪と習合しやすいものです。知的な事や思考的なことを考えなくてもイデオロギーが異なると感情的に合わないこともあるでしょうし、意欲がことなり、意図がぶつかる場合もあるでしょう。摩擦や衝突しやすくなります。

知情意ともにあるイデオロギーに念がこもってくると、そのイデオロギーに賛成したり反対したり、または好きになったり嫌いになったりしてくるかもしれません。

これは現代哲学が普及するまでの一般的な状態でした。アノミー状態は比較的社会や個人の不安定気に訪れ、普通は人々は何らかのイデオロギーを意識、無意識にかかわらず持って安定的に生活しています。革命や個人的な天気の時部分的にアノミー状態になります。全面的なアノミー、全く何のイデオロギーも持たない状態というのは表面的にはともかく潜在的に機能している集団、個人の機構の中では考えにくいでしょう。

12-6 メタアノミーではなくてアノミーな場合

メタアノミーでない状態というのは現代哲学をマスターしている状態です。メタイデオロギーのポスト構造主義をはじめメタ自由空間やメタ自由主義、主体、自覚、メタ個人主義が基礎に、あるいは上部構造として存在して、イデオロギーの背後か上か下か分かりませんがイデオロギー外のものとして作動している状態です。

その様な高次、あるいは上層の構造があることを思い出して、現代の特徴を思い出して

みましよう。イデオロギーというものは現代哲学ではどえかが問う別であるという考え方を認めません。どれかいくつかのイデオロギーが正しいとかいくつかのイデオロギーは間違っているという考え方をしません。どのイデオロギーも家庭や信仰なしには客観的な正当性を外部に主張できるようなイデオロギーはないと考えます。ですからあるイデオロギーを持つ人が自分のイデオロギーが正しく他のイデオロギーが間違っていると主張したり攻撃することに対してその主張の正当性を認めません。あくまでどれも正しきの根拠を持たないという意味で平等に客観的な正しきの根拠を持たないイデオロギーにすぎません。

特殊な人、実際神の存在を見たとか声を聴いたとか、存在感、臨在感を感じたとかいう人が個人的にその神とそれに付随するイデオロギーを信じるのはいいでしょう。しかしそれを他者に再現できないのであればその人の中で正しいだけでやはり客観的に集団で共有できる根拠はありません。

ですから現代哲学マスターはあらゆるイデオロギーに寛容、謙虚、許容的であるとともに、どれか特別なイデオロギーが存在するという主張を無視します。否定するといってもかまいません。ポスト構造主義以外のメタイデオロギーは存在しないというのが現代哲学の持つある意味唯一の人為的な約束事です。パラドックス、ジレンマ、矛盾、詭弁など生じさせないためです。

しかしそういう状態がありうるという事は理解しているのも現代哲学です。具体例として統合失調症が挙げられます。そもそも脳の器質的な疾患としてメタ認知の機能が失調します。「自分が間違っているかもしれない」「おかしいことを言っているかもしれない」というような客観的な思考ができなくなります。現代哲学は異常と正常を区別しません。統合失調症ではなくても、ある種の精神病状態や色々なことでメタ認知が障害されることは精神科疾患にかかわらず広く考えられることです。おそらく脳でこうした機能を司るのは連合野というところで特に前頭葉の連合野でしょう。

メタアノミーではなく、アノミーな状態というのはこういう高次機能を保ちつつ、特定のイデオロギーを持っていない状態です。

簡単な例は「特定のイデオロギーは持たない主義」というあり方があります。これはドゥルーズとガタリのモデルでしょう。その時に応じてイデオロギーを使い分けます。イデオロギーを選択している間の機関にイデオロギーを選択していない期間があり得るのでそれがアノミー状態といえるかもしれません。

あるいは本能のまま、あるいは好き勝手、気ままに生きる、刹那的な生き方を結果的にしてしまっている状態もアノミーといえるでしょうか。意識してやっていたらそれも一つのイデオロギーともいえますが、何も考えないでやっていたらイデオロギーと言いくそうです。

イデオロギー意識が希薄に生きる、悪く言うと現代的なニーチェの畜群やハイデガーの

頹落のような状態もアノミーと言えるのかもしれませんが。自覚なく周りに流されて生きる状態です。

あるいはやはり現代哲学マスターでも社会の大きな変動や人生の個人的危機では、安定期に選択していたイデオロギーが揺らいで部分的限定的なアノミーが生じるかもしれません。

あるいは不安定な期間でイデオロギーが決められない混乱が続いているときでしょうか。

または独裁者や強力な権力者、あるいは選択の許されない奴隷状態はアノミーになる可能性が考えられます。強力な権力を持っていれば外部の制約を考える必要がなく自分の思うままにふるまえますし、奴隷や拘束、虐待、迫害状態では自分で選びたいイデオロギーがあっても許されず、殉死したり、面従腹背で内の人と外の人を使い分けなければいけません。表では違うイデオロギーを信じているふりをしながら、本心では別のイデオロギーを信じている状態です。

最後はやはり革命や王政復古、啓蒙思想や侵略や占領で体制が変わったときに、新しいイデオロギーを教育、あるいは洗脳され元の自分のイデオロギーが抑圧されて意識されなくなっていますが、実は深層心理でそのイデオロギーが働き続けている場合です。

現代哲学ではメタ認知やメタ主体性、自覚、メタ個人主義を鍛えるので通常の人よりはこうはなりにくいですが、やはりそうなるときはそうになってしまうでしょう。

12-7 メタアノミーではなくてアノミーでない場合。

現代哲学のマスターであってイデオロギーを確立している場合です。主体的、自律的、自覚的によく考えてイデオロギーを選び取った場合が考えられるでしょう。これは例えばプロテスタントやユダヤ人の信仰のようなもので、自分の意志で洗礼を受けたり、信教を選択する通過儀礼を与えられる場合です。カソリックは生まれた時に洗礼を受けてカトリック教徒になれますが、プロテスタントの全てではないかもしれませんが一部の教派はある年齢以上で自分の意志で入信するかどうかを自分の意志で決めるのであり、知らないうちに入信していたという状態は取れないようになっています。ユダヤ人も男所で 12 歳 13 歳と年齢が異なりますが、自分でユダヤ教徒になるかどうかを決める儀式があります。ちなみにアインシュタインはこの時一神教に疑念を持っていたため、ユダヤ教に入信していません。宗教改革では「人間は行いによってではなく、信仰によって義とされる」という言葉がありますが、ルター派などプロテスタントの派によっては信仰なしにはその教派のイデオロギーが成り立ちません。この場合宗教における信仰は、近代的な合理主義や科学万能主義における仮定や原理のようなものです。原理は一応完成した理論の前提であり、家庭は発展途上の理論の完成した暁には原理や真理となる候補みたいなものでしょうか。

自己のイデオロギーを定めてしまっただけでそれに従って生きる生き方もあれば、何となく意識の薄いイデオロギーを持っていて、通年や常識、当たり前という形で無意識的やぼんや

り曖昧に意識しながら生きている場合もあります。現在の自由主義先進国の子供や場合によっては大人がそんな感じでしょうか。

意識的にその状況に応じてイデオロギーをスイッチしていくのは先ほどのドゥルーズとガタリモデルがそうです。

目的を固定してそれを達成するためにイデオロギーを柔軟にというのであればプラグマティズムという思想があり、また自己または他の利を追求するのであれば公理主義となります。サイコパス資質などが生まれつきあると利己的な目標追及でこの切り替えが上手な人がいて社会的に成功者が多いといわれます。

富裕で、自由主義で、個人主義的な現代の先進国ではメタイデオロギーがしっかり自覚されないこともあります。社会が急速に現代哲学的になっています。また現代哲学的になっている影響で世俗的でも超俗的でも自由主義や個人主義が促進されています。科学技術の進歩も相まって、オープンソースの思想や google の初期の思想はまさに現代哲学を世の中に実現させるための活動の様でした。当時は web2.0 などといわれていましたが、フェイスブックのようなクローズに囲い込む勢力も参入ししのぎを削っているようです。

第 13 現代哲学とコミュニケーション

現代哲学におけるコミュニケーション論を説明します。

大切な事なので繰り返しますが現代哲学が保証してくれる最も大切なものの一つは知的コミュニケーションです。ですのでコミュニケーション論に 1 章を割きます。

簡単な内容のコミュニケーションならばともかく、複雑な内容の知的な内容でコミュニケーションする場合、共通のプロトコール、土台や基礎が必要です。現代哲学はそれを保証します。お互いに一致したルールの下で合理的、論理的にコミュニケーションするには現代哲学抜きには不可能です。コミュニケーションが取れなければ、あるいは取れてさえ社会には色々なトラブルが生じます。確実なコミュニケーションが保証されれば少なくともコミュニケーションが取れている場合でのトラブルが減るでしょう。哲学の最大のテーマは確実性です。第 1 篇では存在と認識の確実性を大きなテーマとしました。コミュニケーション論ではコミュニケーションの確実性について解説します。

13-0 コミュニケーションの確実性

現代哲学は少なくともこの教科書では個人の哲学として書いています。個人を集めた集団の現代哲学というのはあるのかもしれませんが、それは初級、中級、上級の現代哲学の本があると思いますのでそちらをご参照ください。

人間は一人で生きることもできますが、他者とコミュニケーションを行います。

本書は哲学の教科書ですのでコミュニケーションの確実性を追求します。

コミュニケーションの確実性を保証する方法を本章では示します。

13-1 コミュニケーションの方法

人間は一人で他者や外部との交流がなく生きることはできるかもしれませんが。

しかし往々にしてコミュニケーションを行います。

他者とのコミュニケーションを確実に行うにはどうすればいいのか。つまり伝える内容と伝えられる内容、または伝えられる側の理解と伝えられる側の理解が正確に一致しないといけません。

それを保障するものは何でしょう。それを確実に保証する一例として現代哲学を応用した方法を示します。

13-2 コミュニケーションと言葉

コミュニケーションでいつ様なものはコミュニケーションの方法です。これはコミュニケーションに限ったことではなく確実な何かを追求する際にはその方法が必要になります。

例えば科学や学問がそうです。科学とは方法の精神です。もう少し丁寧に書くと、科学に大切なのは結果ではありません。結果を出す際の前提条件とそのプロセスです。計測のミスをしなやか実験を失敗しないという事ではありません。間違いは誰にでもあるのですから、観察も実験も間違っても構いません。観察や計測や実験が上手で誤差が少なければいいという事でもありません。誤差は必然です。間違いも誤差も予定調和させるために最小二乗法や標準偏差、更には確率統計学が創られました。大切なのは観察や実験のプロセスを正確に明示し、再現性がある様に示すことです。間違いなくとも誤差のない測定や実験データを取ることができてもその測定方法や実験方法を再現可能な形で正確に伝えられなければ科学とは言えません。前提条件から結果へと至る方法を確立し、それを正確に伝え、その方法が再現可能であることを保証することが科学の精神であるという事です。

一般に人間同士は自然言語でコミュニケーションを行うでしょう。しかし言語以外でもコミュニケーションを行います。

コミュニケーションを行うにはその様な何らかの方法がまずは必要になります。方法を確立したうえで伝えられる内容と伝わった内容が確実に一致するようにしなければいけません。そのための方法を考えます。

その一つは、何であれ伝えたい内容を持つ側と伝えられる内容を受け取りたい側に共通のルールを作ることがその方法になります。

共通のルールの一つが自然言語ですがそれをもう少し一般化すると象徴的方法を用いているという事になります。

早朝的方法とは具体的にいうと文字であったり話し言葉であったりするでしょう。それをまとめて記号と言います。

あるいは別の面から考えると内容を理解させようとする側と理解する側の両者が理解できる方法が必要になりますが、そのために象徴表現を用いる事が多くあります。象徴表現に対する両者の理解と了解があればコミュニケーションできます。

発する。

また自然言語をもう少し一般化すると言語というのは記号の一種です。文字の有無は関係ありません。

お釈迦様の時代のインドは無文字社会でしたが、教えは言葉で残りました。言葉というのは記号の一種です。言葉も言語も記号の一種です。その表すものと表されるものをつなぐのが記号であり象徴です。記号が象徴性を持っているからコミュニケーションの道具として使うことができます。

通信工学でいえばプロトコールといえるかもしれません。

本教科書のテーマは哲学であり哲学とは確実性の追求の学問です。

コミュニケーションの確実性を保証するものが問題になります。

コミュニケーションの確実性を保証するものはコミュニケーションに関するルールになります。コミュニケーションは言葉を使って行われますので、言葉のルールになります。

言葉でコミュニケーションをするという事は通信することになります。文字による視覚的な方法であれ発声と耳により言葉を使う聴覚的方法であれ同じです。言葉を使ってコミュニケーションを行う場合大切なのはプロトコールが必要になります。

インターネットの発達は奇しくも軍事技術より生まれましたが、軍事技術も純粋数学者のかかわる部分で現代のコンピュータの父と呼ばれるアラン・チューリングであれ、エニグマといわれるノイマン式コンピュータを考案したフォン・ノイマンであれ、同時に戦時中は暗号解読者として活躍したり原爆開発に活躍していたりしました。

インターネットを使う場合に URL を打ち込んだことがあることがある人は多いでしょう。URL は頭に `http` とか `https` とかついたりしていると思いますがその略語の“p”はその通信に用いるプロトコールの規格の宣明を行っています。

現在最も発達した汎用化されたプロトコールが `http` だったり `https` だったりします。プロトコールは発する側と受け取る側の約束ですから両者のコンセンサスがあれば何でもいいのです。

自然言語を用いる場合実はプロトコールがあまりはっきりしていません。学校で国語や

英語や古典を学びます。その中には文法や発音や修辭法や論理などが分離して、あるいはごちゃ混ぜにして教えられています。そういうこと一個一個がプロトコールを含んでいまずし、文法の事業の様に体系的に行われる場合もあるでしょう。しかし自然言語なのは恣意的なので時代によって変わりますし、意味や表現が変遷しなくなったり生まれたりも足ります。それに文法学といえども発音法といえども常に発展、変化していきます。

自然言語が確実なコミュニケーション、間違いのない確実なコミュニケーション、発受両者の内容の一致しているかを保証する根拠は実はありません。何となく進化論の様に適者生存して現在の形になっているだけです。正しくて確実なコミュニケーション方法だから現在の形で生き残っているのではなく、生き残っているから正しくて確実なコミュニケーション方法と考えてしまっているに過ぎません。

自然言語を確実なコミュニケーション方法であることを証明するか、それを改良して確実なコミュニケーションにしてしまう方法も考えられます。

近代までの学問や初等教育はそういったスタンスでなされます。

しかし現代的なアプローチ、高等教育、研究機関で確実性を保証しようとする場合、現代

哲学的あるいは現代数学的アプローチは異なります。確実なプロトコール、確実な内容を記述する記号のルールをコミュニケーションの確実性を保証するように構成します。

ですからこの場合、コミュニケーションは現代哲学や現代数学を用いた工学になります。

現代哲学と現代数学の関係は現代哲学が現代数学の基礎科学と考えていいでしょう。

現代思想という言葉は現代哲学の応用、実践と考えれば現代哲学を基礎科学とする工学、つまり応用化学という事になります。

現代思想は現代に行われた現代哲学の影響を受けた思索全般と考えていいでしょう。

13-4 コミュニケーションの確実性を保証するイデオロギー

コミュニケーションの確実性を保証するように伝達方法を構成するには具体的にはどのようにすればいいでしょうか。いろいろな応用ですので色々な方法が考えられると思います。

1 例実例を示すことができれば存在証明にはなりますのでその方法を示しましょう。

コミュニケーションの確実性を担保するには公理主義を用います。公理主義を 1 篇でしつこく説明したのは一つにはこのコミュニケーション論を説明したかったからでもあります。

基本的には同業者同士は話が通じやすいでしょう。意見の違いがある場合もその違いの原因を理解してはつきり表現する能力を持つ傾向があります。

科学者や学者はなおさらそうでしょう。特に自然科学者はきちんと勉強したかどうかは徒もなくある程度の論理的な表現を例外なく求められる傾向があります。学会内、あるいは学術総会などでは知らない人でも相互の業績や論文、発表について即座に話し合え知り合いになれるでしょう。同じ学問を収めている親近感とか学派の違いなどがあってもです。

学術的な意見の違い、学説や仮説のどちらを支持するかなど論争が起こりかつ激しく衝突することもあるでしょうが、科学者としてのフィールドの範囲内です。先入観が強すぎたり時節に固執しすぎたり相手を過剰に攻撃すれば、学会内では学会内の政治的（ポリティカル、政治屋的、ポジションや権力争い）なども生じて世俗的、下劣な品のない劣情を見せてしまう場合もあるかもしれません。その場で指摘されなくても非科学的で世俗的な人は（下に見られますし、情けないですし、恥と思われる場合もあります）。記録のされ方によっては後世にまでそのことが記録や記憶され遺されてしまうので注意が必要です。

それはともかく学問や化学には、簡単のため理数系科学だけをここでは問題にしますが、論理主義、公理主義が必要なことが分かります。論理とは少なくとも命題論理、述語論理を何となく直感的に使いこなせればいい場合が多く、あまり本格的に論理学を勉強し過ぎて本格的な高度な論理を使いすぎると、論理学をあまり勉強していない人の自然な直感的な感覚で理解や納得がされず、かえって話が通じない場合もあります。ですので基礎数学系の学会やそのものずばり論理学の学会以外では何となくの論理学でいいでしょうが、日本の応用科学である医学系の学会しか知りませんが、科学者と言えどもあまり論理を勉強していないこともあるので論理的誤謬を犯している場合はメディアやそこに登場する博士号を持つような評論家の発言を見ても論理的でない場合が多いようです。一般の人に説明するために分かり易くわざと論理性を犠牲にして話している可能性もありますが、初歩的な命題論理の古代からある自然言語に近い形に整えられている基本的なルールすら使いこなせていない場合もあるのでおそらく論理的っぽく話すことはできても論理学は知らないのでしょうか。

コミュニケーションの相手が人間である必要はないですので人間がコンピュータに命令をおくる、つまりプログラミングしたりデータを入力する場合を考えてみましょう。

30年前、私が中学生の頃、ベーシックというプログラミング言語を使ってソニーの何とかマックス（マックス何とかかもしれない）でプログラミングをしてゲームを作ったことがあります。ベーシックという言語は先頭の行に順序を示す番号を入力し、英語と似た形の文法を維持して命令や条件付けを行います。

ただコンピュータはその言語をコンピュータに理解できる形に書き直さないといけません。最終的には2進法で記述される記号化すると何でも異なる記号2つであるのですが、0と1を使って記述されるのが慣例でした。私よりもっと前の世代はフロッピーディスクがなく記憶媒体としてカセットテープを使ったり直接紙に穴をあける、あけないという記号化で機械語で直接プログラミングを行っていた様です。マイクロソフト社を創業したビルゲイツ等はそういう世代の人と聞いていました。私は機械語で直接プログラミングはできませんでしたが私の中学や高校の同級生は機械語が分かる人がいたようです。私は分からなかったのでより自然言語に近いベーシックという言語でプログラミングを行っていました。その場合ベーシック言語をハードが分かるように機械語、つまり半導体の電流のオン、

オフを命令するための 2 つの記号による表記に変更しなければいけません。そのためにアセンブルやコンパイル（私は知らなかったがインタープリット）という作業を行います。この作業はソフトウェアで通常行うので、これらの作業を行うようプログラミングされたソフトウェア、ツールあるいはアプリケーションと言ってもいいですが、それらをアセンブラやコンパイラ、インタープリタと言います。これらを翻訳作業と呼びましょう。この翻訳ソフトは一通りではありません。同じプログラミング言語に対して異なるアセンブラで異なる機械語に翻訳されてることもあります。機械語が違ってもコンピュータは元々のプログラミング言語の命令通りの仕事してくれます。ただし機械語が違いますので結果は同じでも異なる電流の流れが集積回路という電線網の中を何回にもわたって流れその経路が異なりますし、流れる回数も違います。プログラミング言語の違い、プログラムの書き方の違い、プログラムの翻訳ソフトの違い、翻訳された機械語の違いがたとえ違っていても最後の結果（例えば計算結果）が一緒にするにはできます。つまり目的を達成する方法は何通りもあります。ただしコンピュータですのでバグがあってははいけません。バグがあっても正しい計算結果が出る場合がありますがそれはたまたまと考えるべきでバグがあれば目的の結果を得られないのが普通です。

何か多様性の話になってしまいましたが実は書きたいのは画一性の話です。

どれか決まったプログラミング言語であるプログラミングを書いて決まった翻訳ソフトを使ってこの翻訳ソフトの特徴による機械語に翻訳されてそれを決めたハードウェアが実行する場合には必ず決まった演算結果が出ます。

上記の過程全てに厳密なルール、約束事を作らなければいけません。

まずプログラミングが翻訳言語の許すルールでなされなければいけません。そのためにプログラミング言語のルール作りが必要です。そしてその言語を翻訳ソフトが処理可能なようなルール作り、規約づくりが必要です。この数段階にわたる過程の中で最初のプログラミング言語が翻訳されていくのですが、ソフトウェアもハードウェアも一回入力が必要になると同じインプットの内容ならば必ず同じアウトプットの結果が出ます。一回作られたソフトウェアやハードウェアは固定だからです。一回インプットされたら後の処理は自動ですので難のソフトウェア、ハードウェアを使うか選択すればまずシステム構築の第一段階は終了です。

ソフトウェア、ハードウェアはバグや故障がないように作っておくのは言うまでもありません。その段階で誤りがあると議論が成り立ちません。

あるきまったソフトウェア、ハードウェアは目的達成のために合理的に作られる必要があることは言うまでもありません。

ここまですと①ソフトウェアにインプット、②ソフトウェアからアウトプット、③②のソフトウェアから出た結果をそのままハードウェアにインプット、④ソフトウェアからアウトプット、という事にまとめられます。

ちなみに機械語しか使わないとこの過程が大幅に省略されます。①機械に直接機械語で

インプット、②'機械から直接機械語でアウトプット、の 2 つになります。機械語だけの世界ですのでインプットもアウトプットも 2 つの記号だけでなされます。

昔だと紙とモールス信号のようなパンチの穴の並びになります。あるいは 0 と 1 で表現すると 0 と 1 の並びになります。0 と 1 の順列ですので 2 進法ともいえ、それをビルゲイツならビルゲイツの脳が解釈します。すなわち変換します。8 ビットくらいがひとまとまりで、2 の 8 乗であればそれを例えばアルファベットに割り当てます。これをアスキーコードといい昔はアスキーという雑誌がありました。今はあるかは分かりません。つい山本夏彦風の文章になってしまいましたがこれがシンプルな形で機械というかコンピュータとのコミュニケーションになります。現在のコンピュータは半導体を使ってオン、オフをする電子式、その前のエニグマなどのノイマン型コンピュータは真空管を使った電子式というか電流式とでも言いましょうか。オンとオフは別に電気を使わなくてもできます。神の上でもできますし、自動化したければ機会でもいいです。うまく言えませんがパチンコのような、迷路のような、あるいは電車網、道路網のような装置を作ればいいのです。信号や線路の分岐器という線路の方向を分岐点で変えるためのレバーのようなものでも構いません。

この規約のことをプロトコールといいます。

第一篇第 3 部第 6 章現代数学の所で論理主義や構造主義について説明しました。

もう一度復習します。19 世紀にブール代数のブールやアリストテレス以来最大の論理学者と言われた現代論理学の父ゴットロープ・フレーゲが出て論理学が刷新されていきます。ちなみにアリストテレスの論理学に関する著作はオルガノンとしてまとめられ、ヨーロッパの暗黒時代にはイスラム世界で研究され、中世末期よりヨーロッパに輸入され中世神学に影響を与えています。中世神学末期の人々は徹底した合理主義者が出現し論理的な思考を啓発します。オッカムのカミソリや記号学者ウンベルト・エーコの薔薇の名前という小説・映画で知られる、オッカムのウィリアムやイギリスのフランシス・ベーコン等が知られています。ベーコンはアリストテレスに習いノヴム・オルガヌムを書きました。Novel organ で新しいオルガノンという意味です。Organ という言葉は道具とか機関とか器官とかいう意味で使われます。ライプニッツも当時異形の学者でしたが、アリストテレスも師のプラトンと違い、数理系、工学的な観点も持っていたのではないのでしょうか。少なくともオルガノンと名付けた人はそうみなしていたのでしょうか。アリストテレスは論理学を最も重視しています。質量形相論や可能態、現実態の考え方など非常に現実に即した実用性を重視しています。

数学でも論理学がベースで論理主義の上に形式主義と直感主義の論争が起きました。公理主義についても一度考えてみましょう。

公理主義は実体の実在の有無を無定義語、無定義概念というものをまず定めて、公理、公準を作り、論証規則により、論理を進めていく考え方です。

その論理は基本的にはフレーゲをパラドックのラッセルのパラドックスの発展以降の研究でアップデートされたバートランド・ラッセルの「Principia Mathematica (数学の原理、数学言論)」という著作上で行われます。ニュートンのこれに「自然科学の」をつけるとニュートンの歴史的な著作名と同じになりラッセルの矜持がうかがえます。

論証規則は整合的なものであれば何でもいいですが中世からの論理学の伝統を継承した自然言語に近いものを考えてみましょう。公理公準は命題の関係を示す、～ではないという否定、～ならばという条件、かつという連言やまたはという宣言などの命題を関係づける、簡単に言うと文(平叙文)をつなぐ接続詞のようなものが使われます。論証の規則はやはり中世からの規則の多くを踏襲し、仮定の規則や肯定肯定式、否定否定式の規則、二重否定の規則、連言や選言の導入や除去規則、背理法の規則など10の規則が使われます。

アリストテレスからの中世に継承された論理学よりはフレーゲのお陰や記号が導入されたおかげでより充実したものになっています。フレーゲ以前の伝統論理学はフレーゲがほぼ確立した述語論理の一部をなしているだけで、フレーゲ以降の論理学はより一般化したものになっています。

このルールでも命題論理なら完全性と無矛盾性が成り立つことはゲーデルをはじめとした数学者、論理学者たちが証明しています。述語論理では集合の制限を付けないと完全性が成り立たないのがゲーデルの不完全性定理です。

ちなみに関係性や規則の数はこんなに要らずもっと少数で単純化できます。もっとも簡単に表した場合を標準系と言い、否定と連言、選言だけで書き換える事ができます。

これは分かりにくいわけではないですが冗長です。直感的でなさすぎたり冗長すぎると使いにくいのでどういう規則や規約を定めるかという問題になります。

先ほどプログラミングの話をしたときにベーシックの話をしましたけどもっといろいろな言語があります。自然言語に近く直感的に分かり易いものを高級言語、機械語に近く記号数や規約数が少なすぎて直感的に理解しにくいものを低級言語と言います。昔はメモリー、ハードディスクの容量、CPUの処理スピードのハードのスペックが何もかも低すぎたので、ソフトウェアで、すなわちより低級言語で、洗練されたプログラミングをした方が有利な時代が長くありましたが、現在はハードウェアのスペックが十二分に上がっているので、あまり言語の高級、低級や、プログラミングの違いに拘らなくてもよい時代になっているようです。

そういう論理、つまり論証規則の上に無定義語や、学問分野や対象ごとに公理公準を定めると一つの学問が出来上がります。

例えば古典力学の公理はガリレオの空間、時間は空間と独立に進み観測系によって物理

法則が異なることを前提に

①慣性の法則

②作用反作用の法則

③ $f=ma$

で成り立っています。

これに光速度不変等を加えてガリレオの空間と時間の独立を外すと特殊相対性理論が出てきたり一般相対性理論が出てきたりします。一般相対性理論は慣性力と重力は区別の必要がないという公理があったかもしれません。

電磁気学では公理はマクスウェルの4法則になります。

熱力学では基本法則が0番から4番まででありその上に構築されます。これに統計力学が加わるとまた別の公理が加わります。

数学ではユークリッド幾何学は完成度が高くあれだけで5公理5公準をそのまま受け入れれば1つの数学の分野の完成です。

ユークリッド幾何学の平行線公準を①平行線は無数にひける、②平行線は一本も引けない、に変えるだけでまた異なる幾何学、非ユークリッド幾何学が2つできます。

代数学では交換率とか結合率が公理になります。

解析学は無限大や無限小を飼いならすための公理系を構築します。初等数学では習わないうイプシロンデルタ論法などを最初に説明されるのはそのためです。

確率、統計学などでも $1 = \sum f, 0 \leq f \leq 1$ みたいな公理の下に構築されなっています。

数学や物理学のような純粋利水科学だけでなく応用科学や経済学のような人文系科学でも理論を厳密に構築する際には公理化を行います。マンキューのマクロ経済学入門という短期、長期の経済を扱う部分では9つの式で理論体系全体の公理化を行っています。

人間がコンピュータや電子計算機に命令する際の確実性を担保する方法を示してきました。まず機械語、すなわち2つの記号のみを使う場合には、その際には人工的な言語を用い、記号の定義をきちんと行い、かつ計算機とのやり取りにおけるルールを曖昧さを一切失くし完全に定めて行います。

機械語よりより高級な言語を使う場合にはプロセスが2つ増えます。①この高級言語を機械語に翻訳する作業、が1つ、②翻訳されて機械語で表現されたものをハードウェアにインプットする作業です。

そのそれぞれに厳密で曖昧さを一切省いた、整合的で完全なルールを設定する必要がある

ります。

人間とコンピュータではなく通信のことを考えてみましょう。おなじみのインターネットを考えてみましょう。メールを送信して相手に読んでもらう場合を考えます。まず自然言語で内容を記述しコンピュータに打ち込みます。コンピュータはこの内容を送信するためのルール、プロトコールが定められており、それに従い、入力内容の情報処理を行い、送信可能な形に翻訳します。この場合も自然言語をインプットするプロセス以外はデジタルに行われます。デジタルに翻訳されたデータをプロトコールに従って送信し、なんか初夏の中継地点を通して相手のコンピュータに届きますが、この過程は全てデジタルかつ自動化されて行われます。相手のコンピュータはプロトコールに従い情報の内容を受診した人間に通じるように、この場合は送信したのと一致する自然言語に戻し、それを受診する人間が読んで終了です。

この間の過程は曖昧さは一切省かれ完全なルール、完全な規約に従って行われます。このすべてのプロセスの中で曖昧なのは受け取った側の人間が届いた自然言語をどう理解、解釈するかです。ここで発信者の意図と違う理解、解釈を行ってしまえばその他がすべて完全でもコミュニケーションが確実に成立したとは言えません。

人間同士が直接自然言語でコミュニケーションする場合を考えましょう。この場合は曖昧さが一切なく完全なプロセスが一つも存在しません。

上記は自然言語が曖昧さを含み完全ではないという前提で書かれています。

プログラミング言語や機械語は人工言語なので人為的に曖昧さを排し、完全な形で構築することができます。それは人間が創るからです。

一方自然言語は元々あるものです。曖昧さが一切ないか、完全でないかは証明しなければ保証されません。その様な証明はまだなされていません。また自然言語が曖昧で完全でない実例があります。同じ発音で同じ文字列でも意味が違う場合があります。また同じ文であっても意味が違う場合があります。ここで自然言語が曖昧かどうか説明するのは冗長すぎる気がしますので自明のこととして省かせて頂きます。

自然言語を自然言語のまま使ってコミュニケーションするのは確実性が保証されないの、自然言語を使う際にもルールを徹底的に厳密にして使用方法があります。通常それが論理的な会話といわれます。こういう厳密さが必要になるのは科学や学問、仕事、政治、経済、社会の話をする場合などです。論理は基本的には知情意のうち知に関する領分で情緒や意志について話す場合には自然言語のままでよいでしょう。情意について扱う場合にも厳密に話し合えるかもしれませんがそれはおそらく現代哲学の得意分野ではありません。現代哲学がコミュニケーションの確立性を保証するという事を本章では扱いますが、情意の分野、言葉を変えると論理主義や公理主義が適用できない分野についてはそれは困難です。現代哲学がコミュニケーションの確実性を保証するのは知的なコミュニケーションについてです。

ではどのようにコミュニケーションの確実性を保証するかというと、公理主義、論理主義のルールを設定し、それを使ってコミュニケーションします。これで済みますが、それではよほど訓練されていないと、あるいは訓練されていても現実的には自然言語を排除してコミュニケーションを取ることは難しいでしょう。自然でなく直感的でない場合があるため脳に負荷がかかりすぎます。そこで公理主義、論理主義を我々が自然言語に非常にコミュニケーションをするのが現実的です。そうすると直感的、自然な感覚で理解、納得しがたい局面に差し掛かっても例示などのアナロジーを使ってみたり、表現の仕方を変えることで理解、納得に達することができる可能性が高くなります。

そういう意味で自然言語は大切なものですが、現代数学の数学基礎論や現代論理学では人工言語だけでコミュニケーション、数学や論理を行うという流れもありました。その場合記号とルールをしっかりと人工言語、記号法を使うと形式的、自動的に行う流れが形式主義と呼ばれます。直感主義というのがありますが形式主義を否定するというよりは形式主義の中の論理ルール、背理法の規則や二重否定の規則を排除して論理学を構成するような考え方です。

なぜ直感主義学派ができたかということ、数学の多くの直感的に納得できないような結論は殆どが背理法を用いてなされているからです。それに背理法自体が証明をしたことがあるなら分かるのですが、結論は出せても納得はできない証明方法です。なぜその前提からその結論が出るのかピンときません。論理学ではしばしばその様な問題が起きます。例えばAならばBとしましょう。Aが正しいならBが正しい、これは妥当で健全な結論です。しかし論理学のルールではAが正しくなければBは正しくても正しくなくてもどちらでもいいという結論が得られます。言い換えると前提が間違っていればどんな結論も正しいというのが砂糖で健全とわれます。これをラッセルは質料含意のパラドクスと言いました。例えばこんなことが起こります。「人間が動物でないならばキュウリは魚である」これは論理学では妥当で健全な言説になります。これは自然で直感的な感覚では妥当で健全とはみなしがたく思われます。妥当とか健全という言葉で論理の成立可能性を表現しているのがそもそもいけないのかもしれないのですが、そういうルールが論理学ではどんなに人間に理解しやすいように設計しても生じる可能性があります。

しかし直感主義論理学だけで全てを進めようとするとう人類は数学で成し遂げた人類の偉大な業績の膨大な部分を捨て去らなければいけないことになりこれも非現実的です。ですので20世紀の前半にヒルベルトが率いる形式主義学派とオランダのブロイエル率いる直感主義学派の論争が起きました。

直感的で自然という事は情緒的にはいいかもしれませんが、数理や論理の世界では直感的でないこともたくさん起こります。4色旗問題と言ってどんな地図であっても4色あればすべて塗り分けられるという有名な問題があります。これを証明するためにコンピュータを使って、考えられるすべての膨大なパターンを全部調べて証明するという方法がとられ

ました。科学とは方法の精神ですので、方法がきちんと明示できれば正しい前提からの結論は正しいものと決定できます。4色気問題の場合はコンピュータのハードとソフトが曖昧さなく完全に明らかにされていますので方法論は問題ありません。ですが、コンピュータを使って人間では一生かかっても調べられない程の数を調べての証明は直感的ではないので証明とは言えないという声が起こりました。今でもまだ論争があるのかも知りませんが数学者ではないので分かりません。

直感的ではないものを理解するために使われる一つの方法が先に述べた例えや修辞法になります。表現や説明の仕方を変えると理解したり納得できる場合があります。あるいは理解した気に、納得した気になるだけかもしれませんが、人間というのはその気になるのな場合が多くあります。実際には理解していないのに理解して納得した気になる方が大切なのは人間の自信というものと同じです。自信の根拠があるよりは根拠がなくても自信だけある方が幸福な場合も多いでしょう。ダニングクルーガー効果と言ってイグノーベル賞（ノーベル賞ではありませんが、研究としてはしっかりした研究が選ばれます。ただ研究内容が人を笑わせるものが選ばれます）を取った研究では能力が高くなるにつれて自信が低くなっていくという結果が示されました。言い換えると能力が高い人ほど自信がないということです。変な話、頭を良く見せようとすれば実は簡単です。勘違いや詭弁が人生や社会に重要なのは修辞学（レトリック、レートリケー）と詭弁とソフィストが跋扈した古代ギリシアから変わりません。ソフィストだけだと頭がよく見えますがロゴスがなかったことをソクラテスに批判され、起こってソクラテスを死刑にしてみました。人間自分の知っていることだけを語れば神になれます。CPU、メインメモリー、マザーボード、ハードディスクが優秀ならソフトがくそでも頭を良く見させることも可能です。

しかし話してみればわかります。いわゆる脳の構造がわかります。構造の中核をなす現代哲学の理解や論理学の理解はすぐに裸になります。

コミュニケーション論、

- ①現代哲学マスター同士
- ②現代哲学マスターとノンマスターのコミュニケーション
- ④ ノンマスター同士のコミュニケーション
- ⑤

第 5 部 現代哲学の advanced な応用

第 4 部までで現代哲学の理解と実践のための基礎となる原則、体系を説明しました。

第 5 部では更に実際に現代哲学を応用したり、現代社会のどこの部分で使われているのかを詳説します。

第 5 部第 10 章以降は第 1 篇と第 2 篇第 4 部第 9 章までで作った骨格を肉付けしていきます。

まず第 4 部第 11 章で話した場合の対極について説明します。これは選択できるイデオロギーがない、イデオロギーを選べない、イデオロギーを持っていない、選んだ、時に信じていたイデオロギーが信じられなくなってしまって代わりに選ぶべきものがない場合についても論じます。これをアノミーと呼びます。またニーチェはニヒリズムと呼びました。もし確実なものを信じている、自分は正義に属している、自分のイデオロギーは絶対であるという確信が選べない場合に苦しんだり不安定になる人々がいるというご指摘を受けました。これについて第 12 章で考えてみます。

これでイデオロギーを使いこなす、作りこなす、解体することを学び、その他方の極である、イデオロギーを選べない状態、アノミーやニヒリズムについて両方学べるわけです。

次に現代哲学のポスト構造主義はメタイデオロギーとして究極の個人主義です。人を殺すのも自由、人類絶滅を図るのも自由、逆に人を救うのも自由、人類救済を図るのも自由です。

しかし現実的に考えて人間は他者と関わっていかなければいけません。理解を求めた話し合いという形でも、自分の意志を通す、あるいは他者の干渉、侵犯を行うという意味の争いでも、あるいは国レベルで争う戦争の場合でもです。

なかなか人や社会と離れて完全に自然と自分だけで生きていくというのは特殊な状況で現実的な状況ではありません。

その際理解を一致させるのを求めるにせよ、争うにせよ、相互理解のためのルールが必要です。意思伝達、コミュニケーションです。完全に自分一人で他者や外界と関わらず生きていく場合にはコミュニケーションは必要ないかもしれませんが現実的ではありません。

ですから現代哲学マスター同士によるコミュニケーション論を第 12 章で説明しようと思

います。現代哲学で大きな恩恵を受ける分野の一つは通信、伝達、コミュニケーションです。哲学は確実性を追求すると第一篇では強調しました。存在と認識の確実性について専ら説明しました。

現代哲学をマスターした場合、更に別の分野の確実性を手に入れることができます。コミュニケーションの確実性です。正しコミュニケーションの中でも知的なコミュニケーションです。

第14章では実践応用に構造主義を突っ込んで説明します。

主に現代哲学を集大成、完成させたと思われる哲学者ジャック・デリダの概念を説明し、それを実践、社会・日常生活世界にどう応用していくのかを説明します。

第15章では人間はどう生きるか、倫理でいう道德、カントでいう実践理性について考えてみたいと思います。

14-4 構造主義を使いこなす。

更に②構造主義の実際的な利用法についても本書で言及します。構築、再構築、現前、再現前、差異、差延、構造、構成などの概念はここで詳しく説明し、かつ応用方法を考えてみましょう。

構造主義は独特の難解さがありますが、駆使できると便利です。

便利を通り越して、現代社会は構造主義を土台に成り立っています。实在論だけで世の中も科学も成り立ったのは近代、モダニズムまでです。

厳密、確実な学問なり社会なりの構成には構造主義は必須です。

他方で構造主義を使いこなすことを通して实在論の特徴や長所も学ぶこともできるでしょう。

何度も書きますが、現代哲学、ポストモダン、近代哲学、モダニズムは批判はしますが否定はしません。批判する理由は構造主義の考え方を持っていないので偏っているからです。

現代哲学は実在論と構造主義の両者を取り込んでいます。実在論をより拡張させ、実在論を含んだより一般的な上位互換の哲学が現代哲学です。現代哲学は実在論や近代哲学、モダニズムを含みます。否定しているわけではありません。そもそも特定のイデオロギーを否定するという考え方が現代哲学にないことは説明してきたとおりです。なんでも否定せず取り込み平等に扱うだけです。

実際実在論は重要です。それを否定してしまえば我々が成長、発達の過程で身に付けてきた多くの精神的能力を失うことになるでしょう。

精神医学で見ると分かり易いのですが、実在論が最初から発達しない場合、神経発達の障害として精神や生活に支障をきたす場合があります。後から失われれば、認知機能障害をきたす多くの障害、精神病やうつ病、認知症に関係するでしょう。昔は最初から発達しない場合を白痴、途中から失われるのを痴呆などと言いましたが、例の言葉狩りという言葉の書き換え、ラベルの張替えで使われなくなりました。差別を含むという理由です。代わりに精神発滞などの言葉に還られましたがそれも差別を含むようになったからと変えられてしまいました。商品のモデルチェンジのように、言葉の付けなおしも、社会ではいい面を持つのでしょうか。

第 14 章 構造主義おさらいと実践応用

14-0 イデオロギー分析、応用のための構造主義

メタイデオロギーであるポスト構造主義については第 5 部で勉強しました。

現代哲学者は例えていえば人形ではなく人形遣いです。イデオロギーを絶対化してそれに盲従するのは人形です。現代哲学者はイデオロギーを絶対化するのではなく相対化します。盲従するのではなく、理解して TPO (time,place,occation) に応じて使い分け感情移入も行いません。イデオロギーを冷静客観的な冷めた目で眺めます。感情移入してもメタ認知は失いません。

イデオロギーを分析、利用するための最大のツールが実在論、構造主義の理解です。実在論は発達の過程で誰もが身に付け、近代哲学、科学技術、モダニズムの土台になります。ですから自分に中に実在論があることに気付けばいいだけです。

しかし実在論しかない世界の中で実在論以外があると理解するのは難しい場合もあります。基本的に排中律や背理法を否定しない論理学でいえば、実在論であるか、実在論でないかの区別になります。実在論でない場合がどんな場合かどんな場合か具体的に理解しないと、実在論がどんなものかも理解を誤る恐れがあります。

実在論の代わりとして提案され現代社会の基礎として現在位置しているのが構造主義や構造主義的哲学です。

現代的、という言葉を使う場合、ポスト構造主義の理解とともに、構造主義の理解がな

ければ十分ではありません。ポスト構造主義をマスターするだけで相当に大きなものを得ていますが、構造主義を理解することで更に膨大な知の遺産を利用することができます。

これも繰り返しますが、現代、とは近代の否定ではありません。ポストモダンといわれるものはモダニズムを含みつつ、更に拡大一般化した汎用性の高い思想になっています。

構造主義とポスト構造主義を身に付けることでモダニズムの遺産を継承しつつ更にハイスペックなソフトウェアをインストールすることができるでしょう。

以下ではまず構造主義の説明、特にイデオロギー分析に役に立つ、道具としての構造主義の概念について説明していきます。

14-1 構造主義利用のための概念の紹介

理解することと利用することは別のことで、①理解していなくても利用できたり、②理解していて利用できない場合もあるでしょう。この教科書では可能な限り理解していて利用もできることを目指しますが、①であっても良いような書き方を目指しました。すなわち第1篇を読まず第2篇だけ読んでも役に立つ教科書を目指しました。そのために道具の原理ではなく、道具の紹介と使い方を説明します。利用するためには道具が必要です。道具の原理を知らなくても道具を使ってその道の達人になることは可能ではないか、という考え方をします。本来科学は方法への精神です。方法を確立することが結論より大切です。方法は道具です。道具をいかに使いこなせるかで現代哲学の有用性が決まります。別に数学基礎論を知らなくても偉大な成果をあげる数学者はいるでしょう。偉大に哲学者も仏教者もいるでしょう。

どの道にも道具の原理を知らない達人は存在します。一方で原理は知っていても頭でっかちで考えすぎて手が動かないと怒られたことのある人は少なくないでしょう。

それに社会は万人が原理を知ることが前提に作られていません。むしろ原理が知らなくても問題なく社会も生活も運航していくように作られていきます。

この教科書は人形遣いになることも人形になることも両方できるようになるように書かれています。しかし人形遣いになるのはそれ相応の勉強が必要なのでそのような時間が取れないこともあるでしょう。であれば人形遣いになれなくても人形をよりよく理解し、より良い人形になることを目指しましょう。

実際に世の中の一番の基底の基礎をマスターしている人はどの社会にもどの時代にも多くはないでしょう。この教科書は全ての人が世の中の一番重要な規定と基礎である現代哲学をマスターするために書かれましたが、基礎を知らなくても道具として現代哲学を利用することは可能です。

現代哲学の道具である。現前、再現前、差異、差延、構造、構成、構築脱構築などについて説明しましょう。

13-2 現象と現前

現前は認識の対象です。元々構造主義の重要な構成要素は現象学でした。意識の中に実在感をもって認識される、他の対象と差異によりよって区別される認知対象です。

大切なのは①他の現前と差異を持っているため異なるものとしてはっきり区別されること。②ありありと実在感、実体感、臨在感をもって感じられるという事です。

現象の歴史は長いですが、意識の及ぶ精神の世界を現象と現象学では呼んで存在や認識の確実性を追求する哲学において、最低限、採取減の確実と言えることと考え哲学を展開したのはフッサールをはじめとして弟子のハイデガー、サルトルなどが有名です。

具体的な例についてはコラム 15-2 を参照してください

さて現前は何かから成り立っているかというところこそ複数の要素から成り立つことが多く見られます。というか単一の要素から成り立つ現前はもしかしたらないかもしれません。

石ころを考えてみましょう。それこそ仏教的に言えば五蘊から成り立っていると思われまます。釈迦によれば少なくとも人間は五蘊から成り立っています。他の現前はそれがもっと多いかもしれませんし、少ないかもしれません。どうであるにせよ、事実上全ての現前は物質的な要素と非物質的な要素で成り立っています。石ころであれば見たり触ったり感覚で感じられる部分もありますし、過去の石ころに対する体験や思い出からなる部分、書物や耳で得た知識で成り立っている部分もあります。

ラカンのシェーマ L で説明すると a' が成立するには複数の a が必要で複数の a との関係が a' の存在を現前させます。

現象は現前から成り立っている、逆に現前の総体が減少といえるでしょう。

複数の現前が存在するから差異があり得ます。また差異があり実体感があるから何か確実に存在するものがあると我々は考えがちです。

差異とは必ず他の何者か、人でもモノでも他者が必要で、自らと他者、外部が存在します。違うから比較ができ、また相互の関係性を考えることができます。また関係性があるから差異が浮かび上がるとも言えます。

コラム 14-2

例えば我々が道に落ちている石ころを注意してみるとその石ころは意識の中に現前していると言えるでしょう。そのまま眼をつぶってその石ころのことを思い出してみましょう。やはり石ころは現前していると言えます。現前にも強さがあって臨場感、臨在感を持って生き生きと生々しく具体的に細部まで思い出せて感情を揺さぶるような強い現前もあれば、薄い印象しかなくすぐに他のことに意識が移ってしまうような現前もあるでしょう。認識はしているのに存在感がなく認識しているという実感が薄い場合もあります。認識しているのに存在感が感じられない状態は精神科では現実感減退とか喪失とか言われ、色々な状態、例えば仮性障害などでも見られます。自分に対して存在しているという実在

感がない場合は離人症と言います。そういう状態合わせて最近のアメリカの精神障害診断基準では 1 つの障害として分類されていたりします。一方認識の対象が存在しないのに存在しているような感じが生じる場合もあります。これは現前とはいませんが。宇宙飛行士が宇宙空間で突然絶対者の存在を感じたり、宗教者が神の存在を感じるが認識はしていない状態を臨在感と言ったりします。統合失調症で認識は出来ないが何かが存在しているように感じる場合があります。統合失調症でなくても我々は時に認識できないが何かが存在しているような気配を感じることもあるかもしれません。

まとめると実際の意識野に認識対象を思い浮かべてもその存在感を感じない場合もあるし、存在感だけ感じて認識できない場合もあります。

ここでは認識もできるし存在感もある対象を現前と言います。

現前は物質的な物であり、言い換えると具象的な場合もありますし、観念的、抽象的、概念的であって物質性を持ってない場合もあります。事物という言葉を使っていますがものというと物質的、感覚的な要素が強く、事というと観念的抽象的ですが機能的な面もあるでしょう。

実在論との違いは実在論は

14-3 再現前について

再現前はジャック・デリダが提唱した概念で、現代哲学の導き出した恐るべき結論と言えるかもしれません。ヤスパースによると自己意識の単一性、同一性と言って、自分が唯一ただ一人しかいないと考える事を単一性、自分が時間がたっても不変で存在し続けると考える事を同一性と言います。素朴実在論では我々が道で拾った目の前の石ころを見ていて瞬き前後でその外見が変化したように見えるので瞬き前後で違う石ころとは同じと判断するのが普通です。現代哲学では当然のごとくそれを否定します。一見量子論のハイゼンベルグの不確定性原理と同じ結論のように見えますが素朴実在論でもその派生の近代哲学でも同じように考える事は出来るので物理学との絡みでこの結論に特別な意味はありません。ただ伝統哲学ではその様に考える事に意味が見出せず、深堀しても何も出てこなかったのです。建設性のない議論は時間の無駄ですのでオッカムの剃刀でバシッと切ってしまうと顧みられる意味がありませんでした。現代哲学ではむしろ同一性を自明視しないのが当たり前の結論になります。現代はこのような認知の同一性の自明性の他記憶の同一性も認知科学では否定されています。これは仏教の言葉でいうと諸行無常、諸法無我と言います。結論だけなら古代の万物流転をといたヘラクレイトスと一緒にですが、結論だけではだめです。科学は方法の精神ですのでその結論を導き出す方法論がなければ結論に意味はありません。結論ありきならそれはファンタジーです。これを発展させると現代哲学は森羅万物に対して懐疑的でニヒリズムのような気分が生じやすいですが、健全な懐疑主義、健

全なニヒリズムは現代の教養として持つておくべきものです。現代哲学から見れば全ては捏造で剽窃の面があります。これはボードリヤールという現代思想家の概念でシュミラクル、シミュレーションという言葉で現代思想の方で使われます。これについては次章で説明します。

もう一つ、再現前の重要な点は現代的構造主義に時間軸を導入している点です。三次元から4次元化が可能であれば多次元無限次元に一般化したくなるのが数学者です。仮に公理化されていなくても記号化も形式主義化も可能でしょうし、実際にそれも可能でしょう。ただ論理計算の量が膨大でしょうから理論付けはともかく実用時期はコンピュータの発達スピード次第でしょう。

14-1-3 差異について

構造主義で考えると事物に本質があるという考え方はしません。事物の内容は他の実物との関係性で決まります。別にいうと他の事物というものがが必要です。他の事物と対象としている事物は差異があるから分けられます。差異がなければ分けられません。ですので差異というのが現代哲学のキーワードになります。差異がなければイコールな物も差異があれば関係性を考えることができます。ですので関係性と差異は密接な関係があります。

14-1-4 差延

現前に対して再現前があるように構造主義に時間軸を導入します。世界は現実も想像も象徴も刻一刻と変化していくものです。ですので我々が現前として捉えたものも次の瞬間には別の現前に変化しています。我々がそれを同一と認識するかどうかと別問題人です。事物⇨現前は変化しますので、現前を成立させる構造、つまり差異も関係性も変化していきます。しかし我々の認識は変化していく現前を再現前性により同じものと認識することで情報を整理します。現前を連続的に捉えたものが再現前であるのなら、現前を成立させる差異や関係性を連続的に捉える場合に差異ではなく差延という言葉を使います。

14-1-5 構成

発達心理学者のピアジェは構造主義者とされているが、時間軸を重視している。その際に構造、という言葉は時間を含まないように聞こえるため、構成主義という言葉を使っている。空間ごとにも時間ごとにも移り変わる関係性と差異、そういう点を重視する場合敢えて構造主義という言葉を使わず、構成主義と呼ぶことがある。

14-2 現前あるいは再現前の操作

14-2-1 脱構築

これもデリダの概念です。構築された現前を解体します。ここでは意味を広げて変質させることも含ませましょう。現前は諸要素の統合より成り立ちます。シェーマ L でいえば

複数の a が a' を現前されます。生成された a' は再現前性より現前した当初から時間と共に変わっていくかもしれません。同じ a' と思っても時間と共に変わっていくでしょう。a' の構成要素が変わっていくこともあるかもしれません。a' を解体するにはその時点で a' を形成している a を全て同定して現前生成の前の形に正確に復元する必要はありませんし、そういうことは不可能です。釈迦は人間を五蘊に分け要素のそれぞれの空性を示すことで人間という主体を解体しました。また死ねば色がなくなるから人間を形成する必要条件がなくなることで主体を解体しました。どんな方法でもいいですしやり方は工夫次第です。

a' がその時点で持っている意味を変質させれば十分な場合もあります。ネガティブに見ている対象に別の見方を加えてポジティブに考えれるようになるだけで、固定観念が変質します。時に別の仕方を単に足してやるだけでもいいでしょう。全ての物はいい面と悪い面があると一面的な見方を改めてみるだけでもいいかもしれません。経済的に関心費用やトレードオフの考え方を組み入れて解釈を変えてやるだけで考えは変質します。常に色即是空 空即是色ですし、諸行無常、諸法無我なのです。但し方法論は色々です。その方法論を学ぶのが第 2 篇 応用篇、実践篇の一つの主眼です。

14-2-2 構築

構築は現前の生成のことでシェーマ L が現前を説明する一つの方法でした。シェーマ L 以外にもドイツ観念論のフィヒテ、シェリング、ヘーゲルや実存主義哲学や現象学のニーチェやハイデガーなど様々な説明があります。大した説明ではないので現代的構造論のような一般性や実用性には乏しいですが。

現前を構築する際の例として紫前なのは我々が新しい分野の学問を学んでいく際の経験でしょう。構築は我々が発達過程で無意識に身に付けていくものであまりにも自然で意識しないのでまず存在論や認識論は素朴実在論から始まります。また発達にはそれが必要です。ただ思春期になると抽象的に考える能力が付くようになり、観念論が理解できるようになります。構造主義はある意味観念論の一種ともいえます。発達心理学者ピアジェの発生的認識論では形式的操作段階と言い 12 歳以降に身に就く認識能力です。懇談会では前の具体的捜査段階と合わせていろいろな事物や中小観念、概念のコントロールを出来る様になります。抽象的、論理的な学問はここから習得が出来る様になり、新しい現前を獲得していけるようになりますが、具体的操作期の前の前操作段階のような自然で無意識になされる現前形成でなく、ある程度自分で概念を創り上げる、つまり現前生成を意識できるようになります。子供の教育はこの認識の発達機構を理解しないと無意味あるいはむしろ有害な場合さえあります。構築は類似概念を少しずつ変化させたり、同形構造を発見したりするのが楽な方法です。古典力学の習得は経験を抽象化する作業なので習得が楽で数が、人生の体験、経験が不足していると困難なものになる可能性があります。与えられた抽象概念に相当する経験がないので、何か別のものでそれを補うか、経験から始めるしかありません。他方で量子力学のような日経験的で、我々の日常生活の中で身に付けた経験から

くる直観と異なる分野の学習は困難に感じられることがあります。

より高等で難解と言われる学問分野は非経験的、非直観的です。ですから我々は時に学習の際に我々の経験や記憶から大きく離れる必要がある場合があります。むしろ経験や直観が邪魔をする場合があるからです。その際に現代哲学、とくに理系の科学では公理主義の考え方が非常に役に立ちます。現代の学問は公理主義を基礎をおいているので、端的に言えば形式主義的な記号操作の世界で経験や直観力は公理に慣れた後に後からついてくればいいのです。いろんな分野の学問を見ていると公理体系が似ていたり同じだったりする場合があります。そういう場合は過去の学習の応用が利くので便利です。同型の場合なら偽号を置き換えるだけで同じものになるからです。

第 15 章 倫理道徳と現代哲学

人は生まれながらにして自由かつ平等である。 フランス人権宣言

人間は自由の刑に処せられている。 サルトル

この世で自らを島とし、自らをたよりとして、他人をたよりとせず、法を島とし、法をよりどころとして、他のものをよりどころとせずにあれ
釈迦の遺言『仏陀最後の旅』からの引用

15-0 哲学とは何かの復習

これまで哲学とは認識と存在に関する確実性を中心に追求する学問であるとして説明してきました。しかし確実性という場合には、どの様に行動するのが正しいのか、善や美をどの様に判断するのが正しいのかなどの存在や認識とは別のことについての確実性を追求する流れがあります。エマニュエル・カントの有名な 3 部作は『純粋理性批判』、『実践理性批判』、『判断力批判』です。その中で『純粋理性批判』は認識論と存在論について扱ったものですが、『実践理性批判』は人間がどの様に行動するのが正しいのか、『判断力批判』は人間が真善美をどの様に判断するのが正しいのかについて書かれています。

確実性の追求が近代哲学の定義ですから、存在や認識以外のことについても確実性を追求するのは自然なことです。

本教科書の基礎篇では単純化のため存在、認識の確実性以外の部分をカットしました。

第 2 篇 応用・実践篇ではこれについて述べます。

この章は現代哲学に、「人間はいかに生きるべきか」の答えを求める人には重要な章にな

ります。この章でその答えを提示します。

15-1 倫理学

倫理学は人はどの様に考え、どの様に行動するのかを研究する学問です。人がどういう行動をとるべきかを道徳と言います。狭い意味の倫理という言葉は人間がかくあるべき姿や行動を示します。

第一篇基礎篇 入門編でそれを取り上げなかったのは現代哲学ではそれについて何も示していないからです。人間は喜ばしいことに本質的に自由です。そして悲しいほどに自由でしかありえないのです。

近代の哲学者たちも人はどう生きるべきかを語ります。そしてその根拠として神を挙げたり提言命令というものをあげたり絶対精神というものを挙げたりします。それらはすべて仮定なので取り上げる価値がありません。信じたい者は信じればいいだけの話です。

実存哲学では逆に今与えられた状況の中に我々が存在することを既定としてどう考え、生きているか、どう生きるべきかを問題として哲学の出発点とします。この視点の転換がニーチェを生みます。ニーチェの哲学は実存主義からの存在論、認識論です。ニーチェの哲学はこれによって現代哲学の源流の一つとなります。

現代哲学では第一篇 基礎篇・入門編で触れた（あるいは触れていない）ように人間がどう生きるべきかについて何も語りません。よく言えば無関心、悪く言えば無視です。そんなことは哲学では分からないので個々人で勝手に決めてくれ、というスタンスです。言い換えると分からない、というのが現代哲学の結論です。

ですから現代哲学を応用しようとする我々にとっては、もし我々がどう生きるべきかを決めたい場合には、現代哲学をどの様に応用に活用するかがテーマとなります。

15-2 現代哲学と自由

現代哲学は我々の生き方の正しさを保証してくれませんが、どう生きるかは我々が決めることになします。あるいは決めずに何となく流されて生きるのも良いでしょう。我々は本質的に自由です。

しかし自由というのはなかなかしんどい場合があります。何か指針があった方が精神衛生上良かったり、精神的に安定したり、健全、健康的である場合もあります。逆に指針がないと不安定になる場合があります。もちろん逆に指針があるから不安定になったり、不健康になったりする場合もあるでしょう。そういう人は指針を作らなければいいのです。

現代哲学で行動の指針を作る場合の方法を見て行きましょう。箇条書きで例示します。

- ・ 信仰対象を作る。
- ・ 何か無条件で従うルールを決めてしまう。

- ・好きなようにやる。
- ・何かに反動的に思考、行動すると決めてしまう。
- ・本能、直観、その時のおもいつくままにふるまう。
- ・ルールを定めず天衣無縫にふるまう。
- ・周りに流される。
- ・誰かに依存する。
- ・あるイデオロギーに従属する。
- ・目的を定めてプラグマティズムに生きる。
- ・目的を定めて達成の方法を考える。
- ・人生をゲームのように捉える。
- ・

などが挙げられます。

またこれらを組み合わせる方法もあります。またその時その時で都合よくやり方を変えていく方法もあります。

結論を述べます。

- ・現代哲学は我々がどう生きるかについて特に示唆しない。
- ・逆に我々がどう生きるかについて何も推奨しないのが現代哲学である。
- ・我々がどう生きるかは自由である、という消極的結論が導き出される。
- ・完全な自由というのは恐らく不可能なので、我々は生き方を時に選択する。
- ・それについては現代哲学的に思考すると示唆が得られる。

15-3 主体性 そして自覚

15-3-1 近代的な主体性と自覚

近代において最も大切な概念の中に人権、そして主体性が含まれます。偉大なフランス革命の思想は自由、平等、人権を全ての人間に宣言した普遍主義的なものです。ギリシア時代はいわゆる人間は自由市民、奴隷、蛮族と別れていました。偉大（、そしてやはり悲惨な）近代西洋は人間を全て自由市民にしようとしたわけです。しかし人間が全て気ままで自分勝手では社会がまとまりません。当時はまだ宗教的権威や階級制度、貧困、法治主義、その他人間の自由を拘束する意識的、あるいは無意識的な不自由が受け入れられていた、あるいは受け入れられざるを得ませんでした。

人間、というのは大切な概念です。近代的な人間の理想像は一番大切なのは自覚を持つことです。そして2番目に大切なのは主体性を持つことです。3番目に大切なのは整合的な行動規範を持っていることです。まとめると近代が理想とする人間は自分自身で選んだ原理原則を持ち、それを守って判断や行動を行い、もし誤った場合には、これには原理原則が間違っていた場合と原理原則から外れてしまった場合がありますが、それを自分で自

分の責任を取る、その一連の過程を自覚して行う人間です。原理原則が間違っていてそれを変える際にはそれも自覚して変更し、原理原則が間違っていた場合にも言い訳したり、責任を転嫁せず、ありのままに責任を受け入れてそれを認められる人間です。そしてその一連の過程を自覚して行います。自覚はメタ認知に相当します。

関西弁で言い換えると、自分で自分のケツを持ち自分のケツを拭く人間です。このケツという言葉は便利で責任という言葉より適切な場合があります。関西ではケツをかく、ケツをたたく、ケツをまくなどいろいろな使われ方がされます（最近の若い関西人は知らない人もいるかもしれません。また上品な言葉ではないので古い関西人でも生育環境によっては知らないかもしれません）。

例えてみます。ナチスやヒトラーを持ち出すのはゴドウィッツの法則と言って現在では信用できない、あるいは議論を終わらせたり、相手を責めるための方法として使われるのでナチスやヒトラーを安易に持ち出す人は信用できないというものです。ネットでうまれた概念の様です。その上であえてナチスの例を持ち出すと、ユダヤ人のホロコーストに関わった下級官吏が裁判で責任を問われたとします。彼はホロコーストは自分の倫理に従って良くない事と自覚していたが家族を養うため仕方なく命令に従っていたとします。その際に「自分は本当はやりたくなかったが仕方なくやったんだ」と言い訳するのと、「自分は当時その過ちに気が付かなかったが、現在では過ちであったと後悔している」と過ちをみとめるか、「自分は当時から過ちと自覚していた。だからその結果の責任は全て受け入れる」というか、彼の思考内容により彼の主体性や自覚度を判断することができます。

15-3-2 現代的な主体性と自覚

現代哲学においては自覚が一番大切です。自覚はすなわちメタ認知とも言い換えられます。ポスト構造主義で最も大切な自覚です。行動規範の原理原則を持たないでもよいし、それに従わなくてもいいし、責任逃れをしてもかまいませんが、その全ての自分の考えと行動を自覚せよ、記憶せよ、改ざんするな、という姿勢が現代哲学的です。行動規範として原理原則を持つか持たないか、それを守るか守らないか、責任をとるかとらないかは現代的というより近代的主体なあり方です。自覚だけは必要なはそれも無くしてしまえば訳が分からなくなってしまうからです。知性と教養がない状態と言えるでしょう。極端な場合には精神医学の司法鑑定では、心神喪失、心神耗弱と言って刑を免れたり原型処置がとられます。精神障害の他知能障害なども問題になりますが、ここでは単純化のためその可能性は省きます。

15-4 行動の矛盾と無矛盾性

現代的な生き方や行動で一番たいせつなのは自覚であって、2番目に大切なのは主体性 3番目に大切なのは原理原則、行動の規範であると前節前々節で書きました。2番目と3番目に大切な主体性と規範について現代哲学の視点で解説します。主体性は自分の意志で思考、

行動している状態ですので、これは近代哲学、現代哲学を問わず、重視せざるを得ないでしょう。3番目は主体が石を持って行動の原理原則のようなものを選択した場合です。その場合、現代哲学的にはそれが無矛盾性、完全性を持っているかどうか、つまり公理主義的であるかどうかを見ます。あるいは完全に公理主義化できなくても公理主義化しようとして公理主義化できずに不完全な公理主義化した原理原則を持ちそれをじかくしているなら、その姿勢も評価しましょう。

そうでないならその人の行動原則は公理主義化されておらず、その自覚もないため、矛盾していたり、関係ないことに首を突っ込んだりして、しかもその自覚がないような始末に負えない状態になるでしょう。繰り返しますが、自覚を最重要視しますので、それが自覚できていればまだいいのですが、自覚していない時には矛盾に不意を突かれて驚く場合が出てくるでしょう。

以上をまとめると以下のようなになる。

- ・現代哲学的には自覚と主体性と公理主義化された原理原則を持ちそれに従って行動する生き方とそれ以外がある。
- ・別にどのように生きようがかまわない。良い悪いではない。選択の問題である。首尾一貫して前者に徹する必要もなく必要に応じて使い分けても良い。

15-4 コミュニケーションの可能性 現代哲学でコミュニケーションが成立するということは、彼我のよって立つ考え方の前提と思考方法を一致させてそれを確認してコミュニケーションを行うことです。言い換えると特定の公理体系にしたがってコミュニケーションを行うことです。これはあくまで彼我の認識を一致させるためのコミュニケーションです。コミュニケーションも広い意味を持つため、例えば情緒的な共感、感動の共有、質問や命令、それに対する従属の意志を示す、意志の宣言などいろいろな要素を含むでしょう。現代哲学で扱うのは認識と存在の確実性ですので。精神要素の中の認識機構についてだけ扱い情緒などについては扱いません。ですが現代思想はもっと広い領域を扱うので人間の感情や情緒などについて述べた理論もあるでしょう。それは現代思想で扱う問題で現代哲学で扱う問題ではありません。現代哲学で扱うのはあくまでコミュニケーションの彼我の認識に関する側面だけです。

これは大切なことですので一旦まとめます。

- ・認識を一致させるためには現代哲学によらねばならない。
- ・彼我の公理が異なるのであれば認識は一致しない可能性がある。
- ・彼我の公理が異なるのであればそもそもコミュニケーションしないという選択が最初から取れる。

彼我の公理が異なる場合はそもそも関わらないという配慮ができます。また敢えてコミュニケーションして意見が分かれても感情的になりにくくなるでしょう。コミュニケーションにおいて公理体系をを一致させることは他者に対する、あるいは他者から自分への優しきであり寛容さを生むでしょう。

15-5 コミュニケーションの障害

コミュニケーション、つまりこれまでの文脈に従って認識についてのコミュニケーションで破たんを生じる場合を理解の新化と発展のため見て行きましょう。科学や学問の領域で戦争が起こらないのは公理主義を理解しているからです。公理主義を知らない学者や研究者が論争を起こしたり感情的になったりすることはありますが。これは不完全な存在である人間である限り生じる御愛嬌でしょう。また公理体系が一致していなくても議論しなければならないことが他の人間社会と同じく、科学や学問でも生じることもあるでしょう。ある程度はしょうがないのです。ただ正常でも異常事態でも現代哲学が用いられていない、あるいは破たんした状態で行われるコミュニケーションは非常におかしな状態をもたらすことがあるので例を挙げていきましょう。一般社会の例や精神科医療で例を挙げてみます。

・ 定型発達症候群

神経発達障害と呼ばれる自閉症スペクトラム障害（ASD）の方や社会コミュニケーション障害（SCD）の方がそうでない人々を見た場合に奇妙に見える現象があります。それを定型発達症候群と言います。きちんと学術的に定義された言葉ではないですが色々考えさせられることがあります。ASD は赤ちゃんの時代から自然に持っていると考えられる、他者への同調性が低いことから生じる社交性、コミュニケーションの発達の障害と、やはり赤ちゃんの頃から見られる興味のくつつきと呼ばれる注意力の過剰から注意の分配の発達が遅れる障害です。SCD は注意の固着はなく社交・コミュニケーション力の発達だけが遅れる障害です。ASD や SCD の方は論理性や合理性が非常に高いことが多く、感情と論理を切り離したり、議論を整理して独立事象を切り離し、議論がそれたり、本題かと関係ないことを議論から切り離すのが得意です。そういう方々から見た、そうでない人間、マジョリティーである非定型発達ではない、つまり定型発達である人々に見られる奇妙な行動を皮肉のため提唱されたのが定型発達症候群です。どういう症状を呈するかいかに例を挙げます。

・ 社会の問題への没頭

周囲に馴染むことを最優先事項とみなす

そして集団になると、社会性および行動において硬直する

・ 優越性への幻想

自分の経験する世界が唯一のもの、正しいものであるとみなす

- ・ひとりであることが困難

人と一緒にいるが、仲間に入らないということを苦手とする

人といるときには必ず何か話さないではいけない

- ・率直なコミュニケーションが苦手

本音を言わず、建前を優先する

- ・論理を欠いても平気

一貫性がなく、状況によって対応を変える

もっと具体的に言うと我々は嫌いなものを送られてもうれしいと感謝したり、京都人に対するアネクドートとして知られていますが早く帰って欲しい時に「ぶぶづけいかがどすか」と言ったりする心情を解するのが定型発達というもので我々の通念、常識を形作るものです。しかし定型発達の人から見てもこれは奇妙な行動と言わざるを言えません。これらは合理性、論理性を持たない行動で公理主義とは言えません。我々はそういう世界に住んでいるという自覚が必要です。

- ・パラノイド

極端な例がこれですが、人間は快快としてパラノイドという性格、思考、行動の特徴を有する場合があります。これは体系化された妄想を持つ統合失調症患者の症状が減弱されて見られている状態で一般の人にも見られます。完全に公理主義化された認識に基づき思考、行動する場合のみこの状態を離れることができます。

パラノイアとは偏執症と訳され、非常に強い現実に対して偏った認識を持っている状態でありそれが特に周囲に対して奇怪で日適応的に働く、つまり不快感を持たせたり迷惑を掛けたりする場合です。現代の最先端の精神障害の分類基準である DSM-5 では妄想型パーソナリティ障害と妄想型統合失調症にパラノイドという言葉が含まれています。パラノイドとはパラノイド類というほどの意味で、パラノイドかその周辺群、パラノイドの仲間の状態を指します。認識の偏りは周囲に対する猜疑心や対人過敏、被害念慮、その結果としての不安や恐怖、怯え、臆病、攻撃性として出る場合があります、このようなパラノイアの例は典型的で今までの人生で心当たりのある読者諸兄も多いのではないのでしょうか。パーソナリティ障害のパラノイド型は独裁者が良く例に挙げられ、典型例はスターリンやヒトラーです。ヒトラーを例に挙げるとゴドヴィッツの法則に当てはまってしまいかねないのでもあまり例に挙げたくないのですが。人に限らず集団がそのような状態に陥ってしまう場合もあります。政治集団や宗教集団、国家がそうになってしまう場合もあります。ドストエフスキーの悪霊や学生運動の連合赤軍事件などがそれに当たります。統合失調症で体系化された妄想を持つものでは妄想は修正不能ですし、自分が偏った認識を持っているという病識も減弱しています。すなわちメタ認知が減弱しています。奇妙なことですが、幸か不

幸か妄想が本人を守ってくれている面があるらしく妄想が消失して自殺してしまう例も知られています。

こういった状態は普通の人でも過度に寝不足、消耗疲憊している時や思春期の時には軽度なものが見られたりします。

さて問題は偏った認識の内容ですがこれは公理化されていません。ですので矛盾が生じます。それを指摘すると取り繕うような患者なりの論理を構築して正当化しようとします。かつて共産主義や社会主義の影響が強かった時代にはこのような事例が頻繁にみられました。共産主義や社会主義に限らずある特定のイデオロギーを絶対化する場合には社会的、あるいは集団的に構成成員全体がパラノイド化する例が頻繁に見られます。こうなると公理主義でないのはもちろん、普通の常識的な議論も可能ではなくなってしまいます。このような不幸な状態を避けるために現代哲学の習得の必要性を訴えるのが本教科書の執筆の動機の一員です。パラノイドは人間を幸福にすることはまずないでしょう。自覚的にパラノイドであるのであればまだよいです。自覚≒メタ認知は最も高等な知性であり供与湯です。自覚しないでこうなってしまうと難渋します。精神障害では依存症でも統合失調症でも病識のない患者さんの心理教育による病識の獲得が最も重要な治療である場面を多く経験します。

15-6 現代哲学的生き方

現代哲学が特に推奨する生き方はありません。現代哲学は存在論や認識論については言及していますが、倫理道德の実践や判断力の正否については何も述べていません。ですから確実性の追求が哲学だとして、どういう風に生きるのが正しいのか、どういう風に判断するのが正しいのか、正しいというのはいち換えれば確実かを現代哲学に問うても理論の範囲外ですので答えてくれません。そういう意味では議論の対象が近代哲学より狭いです。ただ近代哲学のようにおせっかいは焼きません。こう生きるべきだ、こう生きるのがただしいとか押しつけがましいことは行ってきません。そういう意味で本当に自由なのです。自分の好きなようにすれば、というスタンスです。

その上で現代哲学を応用した現代的生き方なるものが提案できます。しかしこれは現代哲学というよりは現代思想の問題で言い換えれば倫理学の問題ですのでそこは分けて考えて下さい。

・自由主義

本当に何でもアリアリの自由主義です。ラディカルなりベラリストでしたら自分のしたいように生きて下さい。穏健派の自由主義者でしたら周囲の状況をみつつ適度に自由を満喫してください。

自由主義は近代以前もありました。近代以前は社会適応や法や宗教を意識した限定された自由主義が主流だったようです。社会主義や共産主義では活動の過程で大分ラディカル

な自由主義も生まれたようですがそれはあくまで社会主義思想や共産主義思想の影響の範囲内であったようでやはり限定されたものだったようです。

ここで取り上げた現代哲学的生き方としての自由主義は限定が全くありません。本当に勝手気ままにして下さって結構です。なぜなら、現代哲学からは自由を制限することを正当化する考え方が一次的には出てこないからです。二次的に自由主義の制限規則を付け加えることは出来ても取ってつけたものでしかありません。

現代哲学でもし自由主義を制限するものがあつたとして一番自然なのは公理主義を導入するかどうかです。自分が自分で自由に決めた公理体系に従って行動することを決めた場合これはある意味で制限された自由主義となります。自分にも他者にも自分がどういう制限を受けた自由主義化を示すことができますので、他者からの理解が可能ですし、他者がその人をどう遇すかの判断な基準にもなるので非常に公正で誠実な自由主義であると考えられます。

結論をまとめます。

- ・現代哲学の自由主義は公理主義化された道德規則を定めておくものと置かないものがある。

- ・ドゥルーズ＝ガタリのモデル

現代哲学を基礎とした言外思想において、現代哲学を土台にしたうえで人間がどうあるべきかのモデルを示したのがジル・ドゥルーズとフェリックス・ガタリです。彼らはノマド、リゾーム、機械、強度、器官なき身体、スキゾフレニー、パラノイア、属領化、欲望など彼らが現代哲学を土台に意味づけた多くの概念を使ってポストモダンの新しい生き方を提示しました。彼らの思想の本ではないので詳細は割愛します。

- ・浅田彰の逃走論のモデル

我々は資本主義の部品となり無意識に支配されてしまっているから資本主義から逃げ続けるという思想です。現代型引きこもりの一つのルーツと言えるかもしれません。実際強い影響力をもってこれを実践した人も多かったようです。中には人生を狂わせた人もいたようですが詳細は分かっていません。

15-7 結語

- ・現代哲学は道德を語らない。
- ・現代哲学は個々人の生き方のケツも知はしない。
- ・生き方を探求したければ倫理学を勉強しよう。
- ・倫理学を勉強するにしても基礎、教養として現代哲学は知っておくべき。
- ・現代思想ではいくつか生き方の紹介があるので勉強することができる。

第 16 章 イデオロギーの実際

16-0 どんなイデオロギーがあるか

16-3 選択するイデオロギーの内容

イデオロギーと一言で書いていますが、イデオロギーには様々なものがあります。単なる常識、伝統、主義主張、宗教、思想、哲学、なんでもイデオロギーといえるでしょう。しかしあまり情緒的過ぎて思考や言葉で表現しに食べ物についてはここでは除きましょう。情緒や意欲や遺伝子や生育環境は現代哲学では無意識や S に含まれるものとしてブラックボックスに入れて扱うか、分析したい場合には徹底的に分析します。今回はあまり考えないことにしましょう。

さしあたり日本人に関係ありそうなものを見ていきましょう。

まずはユダヤ、キリスト、イスラム教から考えましょう。

この特徴は他の宗教に対して排他的、攻撃的です。これはこれらの宗教の超俗のメタイデオロギーとっていいのかもしれませんが、神はただ一人であり、YHWH、あるいはキリスト、あるいはアッラーだけで、他に神はないということを根幹に置きます。

これを支えるのは多くの場合は信仰で無条件に信じることです。

もう一つは実際に神の存在に接すること、感じることです。実体意識の障害として統合失調症では、存在しない他者の存在を感じることがあります。それが絶対者の感じを持つこともあります。臨在感と言って認識はできませんが、何か絶対的なものが存在するのを感じることがあります。それを神と認識することがあります。統合失調症ではよくある症状ですが、統合失調症でない人でも臨在感を持つことがあります。私も絶対者の存在を感じたことがあります。宇宙飛行士や登山家、素潜りの選手、F1 ドライバーなど極限状態で感じる人が多いようです。この場合は無条件の信仰は必要ありません。神が存在すると感じる根拠が実体験にあるからです。うまくいけば聖書のように神の声も聞こえる場合があります。神を見たことのある人は聖書でも 2~3 人しかいなかったと思いますが、声を聴いた事がある人は多かったはずで、予見者ではなく預言者、といわれるのは一つはそのためもあるでしょう。

これだけでしたらいいのですが宗教は世俗イデオロギーがくっついている場合が多くあります。このメタイデオロギーを実現しようとする、他の神を持っている人に布教しようとしたり、他の神を持っている人を攻撃したりする世俗イデオロギーが発生しがちです。現実の歴史では実際そういうことになりました。そうではない教派も多かったでしょうけれども。

このくっついているイデオロギーは宗教の中心のイデオロギーとは関係ないものであることが多くあります。特定の神しか信じてはいけないから豚を食べてはいけないとかは全く結びつきません。

もう一つはこれらの宗教は啓示宗教と言って預言者などの神の言葉を預かる形で書かれたような文献があり、その注釈や歴史などをまとめた経典を持っています。そこに律法という形で戒律が書かれています。これが世俗のイデオロギーであり、現実の行動にじかに影響を与えます。食べていいものとか祈り方とか日時年月の過ごし方とか多かれ少なかれ細かく記載されています。これに反するのも神に反するのと同じです。また解釈をめぐる内部分裂や対立も激しくなります。

内部にも外部にも戦闘的、好戦的な面が多く攻撃を仕掛けるために宗教戦争が起きがちです。

他の宗教はどうでしょう。

西洋人は自分の宗教を基にして宗教の三要素を定義したり、宗教を定義することがありました。神、教義、経典、開祖、教義、戒律、教団、信者、その他です。

これはキリスト教、ユダヤ教、イスラム教すなわち一神教や啓示宗教の視点でしょう。

世界 3 大宗教は民族、国を問わない広がりを見せる大きなまとまりということですが、仏教の一部はこういうものを満たしていません。原始仏教の三宝帰依では仏、法、僧をさしますが、この中には神はありません。ですから宗教を定義づけるのは困難な面があるでしょう。

しかしエンティティ=実在として存在し、宗教として認知されているものは一神教系啓示宗教以外にもたくさんあります。

特に注目すべきは聖典や競技がない場合です。キリスト教では聖書や教皇、ユダヤ教では聖書やタルムード、イスラム教では、聖書やクアラーン、ハディースなどがあるでしょう。

本邦の神道や仏教のいくつかの派では経典がないこともあります。経典はあっても本質は不立文字だったり、念仏のみが義とされたり済みます。教典はなくても競技はこの場合はあるでしょう。

革新的な教義や注釈書、キリスト教でいう外典や典外典も広い意味で協議になる場合もあるので競技にも重要さに濃度差があるでしょう。しかもよく見ると矛盾やパラドックスがある場合もあるでしょう。

個人的イデオロギーにせよ集団的イデオロギーにせよ拘束が厳しいイデオロギーから教

義があいまいなイデオロギーまでいろいろあります。

宗教でなく主義や思想といった宗教以外のイデオロギーはどうでしょう。

共産主義は単に生産手段の公有化と分配の平等を目指す社会思想のほうですが、実現するためにはそれに同意する集団形成が必要になるため、個人にその考え方に同意させ従わせる同質な思想を持つグループを形成しなければ実現は難しいでしょう。

そこで共産主義を普及、啓発、教育するためのマルクス主義、レーニン主義、スターリン主義、毛沢東主義など、個人のイデオロギーを集団のイデオロギーに一致させるための運動が行われます。教育によるインプリンティングか、思想により説得するか、なんとなくかっこいい、社会的正義であるとブームを起こしたり、情緒や意欲を形成させる空気を醸成するか、思想を矯正するための強制的行為や運動、洗脳などが使われることが多いようです。共産主義を正当化するためのイデオロギーがくっつく場合がありますが、それを銀りとして共産主義を演繹するか、後付けでくっつけるかは考え方次第でしょう。

個人的な生き方のスタイルやポリシー、好悪の情や伝統主義、愛国心、国益主義などはどうでしょう。

このあたりになると個人の情意や集団、時代の空気が影響してきて状況や時期によってころころとイデオロギーが変わります。知情意入り混じってイデオロギーはどんどん変質していき、それはそれで一つの在り方でしょう。

現代哲学から見るとそれらはメタイデオロギーではなくイデオロギーですが、それらのどれかをメタイデオロギーとして考えることもできます。

一神教では神はその神ただ一人ではほかの神はないというのをメタイデオロギーとします。この場合、他のイデオロギーには正誤や優先順位がつきます。

これはメタイデオロギー自体がイデオロギーの分類や階層化、多数のイデオロギーの位置付けを必然的に行ってしまうことになります。

共産主義をメタイデオロギーとしましょう。これも他のイデオロギーに位置付けに対して影響を与えます。共産主義にあっている思想は正しい、共産主義に矛盾する思想は正しくないというイデオロギー分類を行うでしょう。

より形のない個人の好悪や集団の空気をメタイデオロギーとするとどうでしょう。メタイデオロギー以外のイデオロギーは常に正誤の位置付けが続けるので安定がありません。不安定なのが特徴です。不安定は悪いこととは必ずしも言えないかもしれません。ブレインストーミングや革命のときなどには役に立つでしょう。集団がそうである場合、空気を読む、水を差す技術があると便利でしょう。集団が固定的なイデオロギー集団の中で個人が常に自分の情状性に従って生きる場合には、いい意味でも悪い意味でも社会から異端的な目でみなされるでしょう。聖性やカリスマ性、スター性、マスコットとして肯定される

こともあれば、たまたま目だたず人目に触れなかったり無視されることもあるでしょう。悪い場合には集団のイデオロギーに合わないという理由で敵視されたり矯正されたり攻撃されたりします。

現代哲学のメタイデオロギーであるポスト構造主義と他のイデオロギーをメタイデオロギーとする場合との違いは何でしょう。

現代哲学ではポスト構造主義の性質上、またそのルール規定によって、ポスト構造主義以外のすべてのイデオロギーを平等に扱います。どれか一つを特別視しません。肯定も否定もしません。

一方別のイデオロギーをメタイデオロギーにする場合には、そのメタイデオロギー以外のイデオロギーの平等性を保証しません。

現代哲学のみが全てのイデオロギーの平等性、正誤の区別の無意味さ、上下や高低のないことを保証するイデオロギーです。

よく言えば寛容、優しさ、公正、平等、無差別なメタイデオロギーです。悪く言えば無関心、意味不明な論旨の無視、人の頭の内容を図る冷静客観的な目を持っており、表面主義で冷たい感じを持たれるかもしれません。

悪く見るのも誤解で実際には嫌ったり差別はしないが無関心な場合はあり、すべてイデオロギーを差別せず、すべてに興味関心を持つ知的なメタイデオロギーといえます。

結果として現代哲学は、すなわち感情のコントロール能力を高めますし、意志や欲望についてもよく内省し、行動するときには十分に試行し、判断し、覚悟し、決断し、行動し、行動の結果を受け入れる（例えば責任を取る、あるいは取らないでにげるでもいい）、主体性や自覚に満ちています。

第16章 イデオロギーの選択

16-0 イデオロギーの組み合わせ事態で何がどう変わるか具体的に調べましょう。

現在の教育、教育学では理論や机学習の大切もそうですが、実際に使ってみることが大切です。語学でもなんでも文法、修辞学を学んでも実施用論、実際に使ってみなければ身に付きません。使うとは愛に手に対して離したり聞いたりすることです。たまに天才がいて聞くだけで身についたり、デスクワークだけで身につく方がいます。例えば学習障害で独自障害があるのに聞いた言葉を二度と忘れないアスペルガーの友人がいて数か国語しゃべれるそうです。がそういう方は単純化のためここでは省きます。

16-1 ドゥルーズ、ガタリの場合

これは現代哲学というより現代思想で有名なコンビです。構造主義の四天王という言葉が昔ありましたが、ポスト構造主義の四天王あるいはこのコンビはポスト構造主義では 2 人で共著していましたので、ポスト構造主義の三大天、あるいは三傑と言えれば一角はこのコンビが担うでしょう。残りはジャック・デリダ、ミシェル・フーコーになります。フーコーは構造主義の四天王に入っていますので重複があります。

ドゥルーズは哲学史家でガタリは精神科医です。ドゥルーズは「ベルクソニズム」や「スピノザ」などの単著の著作で過去の哲学者、思想家たちの思想を現代哲学の観点から再構成しています。また「差異と反復」「意味の論理学」などでいわゆる現代思想を展開しています。

ドゥルーズとガタリの共著では『[アンチ・オイディプス](#)—資本主義と分裂症』『[千のプラトー](#)—資本主義と分裂症』

等の著作にて、現代哲学的に生きるモデルを提示しています。ここでは装置や機械の概念、ノマド、リズム、強度、スキゾフレニア、パラノイアなどについて新しい概念規定を行います。

簡単に言えば前章のメタイデオロギーによる自由空間の中で自分に好きなイデオロギーを構造主義的な手段で作成し使用しながら生きる、という感じでしょうか。

第 1 篇でも述べましたが、極端な実在論は伝統主義的というか保守的なもので、元からそこにある実体、事実、真実、心理、原理、法則を発見するという世界に与えられ既にあるものであり、それを人間が発見していくというニュアンスが強くなります。

それに対して極端な構造主義では世界に元々天然自然に与えられているような真実、心理、原理、法則などは存在しない、あるいは存在するかしなないかは問題にはしない、構造主義を用いて人間がモデルを構成していくのだというニュアンスが強くなります。

ですから実在論で発見という言葉を使う傾向があるのに対し、構造主義では発明、発案、考案、構成、作成、構築などの言葉を使うことが多くなります。

後者の見方は構造主義の成立によって認知されたと言っていいでしょう。ドゥルーズとガタリはその考え方を最大限に利用します。もちろん既存の実在論に基づくイデオロギーを利用していいのですが、そういうものも構造主義を用いて構造主義化したモデルが構成可能ですので格段に自由度が上がっていると言えます。念のため言っておきますが、構造主義を用いて構成されたモデルを実在論で解釈することも可能な事が多いでしょう。すべて可能かどうかは分かりませんが。どのみに人間の精神機能には実在論を形成する近代的な言葉でいうと理性、悟性、感性が備わっていると考えられます。ですから個体発生は系統発生に似るとい生物学の法則が人間の精神発達や知性に発達にも当てはまるかは分かりませんが、成人するまでのどこかの段階ではカントくらいまでの哲学が一番すつき

り理解、納得しやすいのではないのでしょうか。ちなみに成人とは現代のように 18 歳や 20 歳を指すのではなく、古い時代の通過儀礼、侍の元服やユダヤ今日のミツヴァのように 12, 13 歳くらいの思春期を抜けた時期と考えましょう。その方が生物学的に適当な気がしますし、18 歳や 20 歳で成人とするのは近代以降の社会制度の影響が大きいと考えられるからです。

逆にいうとエリクソンにしてもピアジェにしてももっと新しい認知科学や発達心理学の理論によっても、現代哲学、実在論とポスト構造主義は簡単ですから構造主義が山になりますが、構造主義を理解し、それを含めた現代哲学全体を理解するにはある生物学的、つまり自然科学的な根拠も含めたある発達段階移行でないと難しいという事を示唆します。

さらに第 2 篇では現代哲学というよりは現代思想という言葉がふさわしくなります。第 2 篇の一番謝意所の部章である、第 4 部第 9 章もそうですが、現代哲学のように理論解説ではなく、現代哲学を使ってどういう風に応用していくかについて構成的に説明していきます。

また資本主義や分裂症という言葉が使われていることに注意しましょう。

現代哲学、あるいは現代思想自体が哲学であり社会思想であるマルクス主義、共産主義を批判する意味を持っている、あるいは持っていた事を覚えておいて頂けると全体の見通しがつきやすくなります。

現代哲学は社会思想としても個人思想としても自由主義、個人主義と親和性があります。結果として法的自由、平等を保障する、民主主義、経済的自由を保障する市場経済や資本主義と親和性があります。近代の理念としてマルクス・共産主義も自由、平等、個人、人権をできる限り尊重しようとしてできた制度だと思われませんが、全く異なる形であることに注意してください。マルクス主義は個人、主体、人権を犠牲にして収入の平等を意図します。そうでないと反論するために教育の段階でそのような政治体制を支持するように洗脳を行います。教育の力で主体的に自由に人権を尊重された形で自らの意志でマルクス主義、共産主義を支持しているのだ、と思い込ませます。

共産主義やマルクス主義を主体的に選び取っている 19 世紀や 20 世紀中盤までのインテリならそれで構いませんでしたが、ハンガリー動乱やチェコスロヴァキアのソ連による民主派の武力侵攻、弾圧であるプラハの春を見た後では流石にヨーロッパの知識人はソ連及び共産主義やマルクス主義に懐疑的になり否定派が増加します。共産主義を手放しで支持していたのは中国などの共産主義諸国と先進国ではのんきな日本くらいでそれは今でも変わりません。まあ日本は数十年は先進国でいられたましたが、マルクス主義経済学を信じている進歩的文化人が主導権を握っていたので昔の共産主義・社会主義諸国と同じ万年緊縮政策の万年不景気政策をやられて先進国から没落してしまいました。せめて高等教育を行う最高学府である大学の経済学部で世界では常識的に教えられている普通のマクロ経済学

やマイクロ経済学を教育されていたらと悔やまれてなりません。今からでも遅くありませんので経済官僚や経済に関する発言をする政治家にはマクロ経済学とマイクロ経済学の試験を定期的に行い、知的理解力を図ってから分相応の仕事に憑かせることを推奨します。

やや余談になりましたが、自由主義的な民主主義が中国と北朝鮮その他少数の国以外の世界の趨勢であり、理想と考えられていましたが、近年は中京の世界制覇の可能性も高まり情勢が変わってくるかもしれません。

ドゥルーズとガタリは資本主義に批判的に読まれることもあるようですが、資本主義の持つ自由、個人、主体、人権を抑圧する部分についてです。

自由主義的民主主義の特徴は自由主義、個人主義、人権を極限まで尊重することです。その結果として経済的な富の偏在が生じますし、パラドキシカルに自由、個人、主体、人権を制限、あるいは停止しようとする考え方が生まれる場合もあります。

資本主義社会の下におけるドゥルーズとガタリの提示する生き方は個人の自由と主体性を極限まで高めることを前提としたうえでの思想になります。

構造主義は近代のデカルト的要素還元的方法論を用いることもありますが、社会のような複雑な対象を見る場合、要素だけ取り出すことができない、つまり関係性や差異や構造が重要ですので対象をマトリックスのように全体的に複雑なまま解析したり、他因子解析のように要素の数をできるだけ増やしプロファイリングする方向性と禁煙性が強くあります。単純化のモダニズム、複雑化のポストモダニズムとでも言ったらいいいでしょうか。

ですから個人を分析する際にもどうしてもその時代背景や社会背景などがくっついてきます。前提条件を提示せず、対象を分析するのは無意味どころか有害でさえあります。

例えばゲーデルの不完全性定理を見てみましょう。これだけ取り出して大騒ぎする人が多かったのですが、論文の正式名称は「ペアノの公理系の…述語論理における…不完全性定理」みたいな名前でした。少なくともペアノ公理系を知らなければいけません。数学的帰納法や対角線論法が使えなくなるからです。また述語論理でないと集合論を含んでないので同じくゲーデルが証明した完全性定理のように命題論理のように虱潰しの有限個の各パターンを全部証明することによって成り立ってしまうかもしれません。

16-2 一番単純な形

メタイデオロギー、ポスト構造主義を自らのイデオロギーとするのは規定のこととして今後は語ります。その上でメタ自由主義、メタ個人主義を持ち、主体と選択肢としてのイデオロギーを好きに選ぶ状態のまま、その時、その場で好きなようにイデオロギーを選んでいくスタンスです。

ドゥルーズ・ガタリはその選択に際してドゥルーズガタリは選択肢として構造主義と重視して見えますが、もっと単純な形は勝手気ままにその時の気分やスキキライによってイデオロギーを変えることです。複数のイデオロギーを同時に選択したりしてもかまいません。同時に選択したイデオロギーがイデオロギー同士矛盾していたり、前に選択したイデオロギーと矛盾していたりしてもその人にとっては構いません。無自覚にそういうことをしていたらメタイデオロギーの自覚も自由空間の自覚も主体性もないのでまとまりのない人に見えるでしょう。これは一般の特に主義主張のない方がなんとなく自覚的にやっているというよりこうなっているパターンが多いかもしれません。一部自覚したり世間との兼ね合いであるイデオロギーを選択させられていたり、無意識に選択してしまってますが、メタイデオロギーや自由空間、主体やメタイデオロギーの自覚はありません。これは一般の日本人の生き方でしょう。

第4部第9章の現代哲学応用の基本構造に自覚的にこれを行いますと、ラディカルな自由主義者のように見えたり、アナキーなように見えたりする場合があります。映画の時計仕掛けのオレンジやイージーライダーやアメリなどはこのようなスタンスで書かれていたかもしれません。ゴダールをはじめとするヌーベルバーグ映画にもその意識があったかもしれません。私もこのスタンスです。

しかしこのスタンスでは世俗とうまくやっていくためにはある程度のイデオロギー選択の制限が必要になります。選択せずに好きなように生きている筋金入りもいるかもしれませんが他者や外部と軋轢を起こすことが多いでしょう。

あるいはたまたま自分のイデオロギーが社会や他者のイデオロギーと調和的でうまくいっている人もいるかもしれません。

何にせよこのような人はある固定したイデオロギーを持たない人で、ある単一、あるいは複数のイデオロギーを自覚的、あるいは無自覚的に選択し守ることに自覚的である人から見れば原理原則のない人間のように見えるでしょう。その場合「自由がおれのイデオロギーだ」と反論するかもしれませんがこの自由はメタ自由主義であって世俗的な自由主義ではありません。

もう一点この考え方は本当の意味での自由至上主義です。この自由空間と選択したイデオロギーの行為の結果はなるべく国家権力などから規制され内容が良いため、基本的に規制緩和と規制をなくす形の構造の構築と構造改革を常に考え行います。行為の結果を刑罰や国会台でも何らかの権力から攻撃されないようにするため、可能な限り規制は作らず、すでにある規制もオッカムのカミソリではありませんが、損得や機会費用計算を行って、切りすてていきます。規制というものは一度できると可逆性が低くその規則の周囲に既得権益が生じたりいったん人心に定着すると変えることに費用や時間やエネルギーなどの手間がかかるため失くしにくいからです。ほっておくと規制と税金と公務員と既得権益がどんどん膨らんでいき、世の中の活気がなくなります。逆学習で意欲をのものを殺していくからです。人間も組織も一度スポ椅子れたりダメになると情熱や破棄や変えられないもの

と思ひ込み、思考を停止されます。一度そのようになるとこれも可逆性が高くなく、元に戻れるとも限りません。人間も世界も履歴（ヒステレシス）に支配されます。治安がいいとか安全だとか安定しているとか言われて喜んでいる場合ではありません。言っている人も褒めていいるのではなくあざけている場合もあります。安定、安心、安全に定住せず常に夢と希望と情熱と勇気と覚悟を持ち安全、安定を恐れず行動していくのが好きな人がこの生き方が向いています。

16-3 あるイデオロギーを絶対的に順守する場合、専制国家の場合

これは思想の自由がない国の民族や国民が強いられる状態によく見られます。国や集団単位で画一的に行われることが多いです。支配者層と被支配者層が分かれていることが多くて被支配者層は教育段階から洗脳され現代哲学の自由空間を持たせてもらえず、教育もされず、現代哲学の自由空間というイデオロギーがあることに気が付いて実践したり、啓発しようとする、粛清されたり、強制収容所に入れられて洗脳を受けます。場合によっては集団単位で支配者に不従順だと、粛清されたり虐殺されたり、民族絶滅を企てられたり、思想教育や洗脳をくらわされることがあります。支配階層はそれを現代哲学を理解したうえでやっている場合と理解しないでやっている場合があつて、後者が殆どでしょう。前者は支配者階層である地位にしがみついたためか、確信犯的に被支配者の現代哲学的メタ自由主義を弾圧します。これは現代でいえば中国が典型例でしょう。

しかし中国人以外も笑ったり優越感情に浸ることはできません。

16-4 あるイデオロギーを絶対的に順守する場合：自由主義・民主主義国家の場合

面白いことに自由主義や個人主義、主体性や個人の自覚を重んずる国家であっても生じえます。特に興味深いのが自由主義的民主制でリベラルと呼ばれる左派勢力でしょう。リベラルなので自由主義ともいえますし、そう思われていますが、これは現代哲学のメタ自由主義とはことなります。普通のイデオロギーとしての自由主義です。メタ自由主義は個人の内面においては絶対の自由です。自由主義過ぎて実存主義哲学者のサルトルが「自由の刑に処せられている」というくらい自由です。自由もつらい時もあるのでこういう発言になるのでしょう。

メタイデオロギーでないイデオロギーは普通のイデオロギーと呼びましょう。普通のイデオロギーの自由主義は内容がカメレオンのように変化して定まらず、現実の自由主義は多様性がありすぎて、政治的主張が真逆な場合すらあります。

まずメタ自由主義以外の自由は定義をはっきりさせないといけません、ここからしてもうコンセンサスが成立せずもめ始めます。

現代は理念としては近代の理念を引きずっているので、自由、平等、人権、個人尊重、主体、自覚、民主制などは近現代に共通したイデオロギーになります。これらが個人と集団で同時に成り立てば殆どメタ自由主義と一緒に問題がないのですが、現実の世俗社会で

も超俗的なイデオロギーの整合性の上でもこれら全ては同時には成り立ちません。これら以外の色々なパラメータ、条件も含めてトレードオフします。ジレンマ、トリレンマ、もっと数を増やすとプリレンマかマルチレンマというのかもしれませんが、古典ギリシア語も古典ローマ語も勉強したのですがもう忘れてしまいましたので分かりませんがここではプリレンマと呼びましょう。

人間何から何まで得られることはない、いいことは悪いことの裏返しという見方は現代哲学の一つのテクニックです。

実際の世の中のリベラル、リベラリズムというのを見てみると分化・多様性が強く、党派間の権力闘争が強く内ゲバ状態で、権力が強い勢力がリベラル、リベラリズムとみなされるので国ごとに違うものを指すようです。

特徴と問題点をあげていきましょう。まず誰かの自由は誰かの不自由という状態が生じやすい点が挙げられます。そこで折衷案である程度自由を制限して平等性を担保しようとするのですが、自由は弱まって今います。これは個人と集団における自由の葛藤ともいうべきものでモノレンマとでもしましょう。自由だけでもテーゼ（正）とアンチテーゼ（反）とアウフヘーベン（合）が生じて結果として個人の自由も集団の自由も限定的になります。かといって個人の自由を極限まで追求すると映画イージーライダーのラストシーンのように集団主義者に射殺されておしまいでしょう。集団の自由を保障すると？ホップズのリバイアサン状態、万人の万人に対する闘争が生じます。私は昔は世俗的にもラディカルな自由主義者だったのこれでもいいかなと思っていましたが、最近は現実的に無意識に制限自由主義者になっているようです。昔は世捨て人だったのでそれでよかったのですが、世俗に分けあって還って来ましたので仕方ありません。でも世の中の経済的福利厚生がもっと発展して人間の知性や精神性も含めあ民度が上がることで人類全員が現代哲学の下で自覚的にお互いを尊重し合える世の中にランクアップすることを望んでやまないものです。この教科書を書く同期の最大のものです。

今度は自由と他の理念との関係を見ていきましょう。自由と平等でジレンマが生じます。経済的自由とは何かという問題がありますがもしそれを保証すると収入、資産の格差なおの経済的格差が生じるでしょう。するとこれは経済的平等に反すると主張する立場の人が出てきます。結果の平等ではなく機会の平等と平等とすると自由な経済活動を保証してしまうと結果の平等がなくなります。これは理念同士でジレンマを生じる例です。

自由と民主性はどうでしょうか。民主制は選挙を用いる場合がありますが、それで自由を規制ないしはなくするという結論を出してしまうと自由が減退、あるいは消滅します。これは現在中国共産党が行っていることです。民主制から見るとそもそも個性的、多様性のある個人がいなくて個性のない画一な人間集団だけであれば民主制は必要ありません。民主制が成り立つのは個人の間には差異がある場合のみです。そもそも民主制が昔から暗黙

の前提として意見の異なる個人を前提しているので選挙が必要なのであって、差異のない意見が一致することが自明な人間集団の下では選挙のない民主制が成り立ち得る可能性があります。選挙結果が全員一致するからです。全員一致しない場合は無個性の特定個人にだけ特権を与えるかを占拠する場合です。一人にだけ特権を与えるのは他のみんなが反対するかもしれません。しかし賛成するかもしれません。占拠する側は均質である特定のグループだけそれに外れているグループを形成する場合があります。

大体これが中京と北朝鮮が国内外で進めていることです。この場合、国内でやっていることと、国外でやっていることは異なります。国内では選挙制度を失くし、特定のグループに特権的地位を与えることを自明としその他の集団を均質化し、その体制を支持するように矯正、強制、教育します。一方で他国を侵略する場合には民主制と選挙制度と自由と人権を使ってインテリジェンス工作に活用します。

そもそも自由というのは主体性とセットであることが示唆されますので自由と主体性と個人について考えてみましょう。全員の自由意思が全く同じであるクローン人間が同じ環境で育てられたようなケースが思考のモデルになるでしょう。全員の自由意思が全く一緒になるのである意味常にコンセンサスが守られるように見えます。この場合は自由ですが画一的意見しかないので自由を失くしてしまうのも無駄を省き効率でもありますから、自由の制限はケースバイケースで選択肢になります。しかし他者と同じ意見を避け個性的であれという風に教育されればやはり多様性が発生するでしょう。ここでは自由が多様性に結びつきます。するとどうしても反対意見やコンセンサスが形成されないことが出るでしょう。その場合の解決策として選挙があります。他にも戦争など戦いに訴える方法をはじめいろいろな工夫が考えられるでしょう。

まあそれぞれの関係を原点から考えるのも時に有意義でしょう。

とにかく近代の理念を実現するには何を選択しても自由主義、個人主義、人権の度合い、民主制かその他の政治体制かなど組み合わせが複雑でどれが最適化を断定するのは困難であるため、色々な人が別々の主張を同じ自由主義という言葉を使って行うことになります。ですから国によってリベラルが真逆になるというよく聞かれる話が出てくるわけです。

本当は以上のような議論は行列など使って数理的にも解析できるのですが（例えばゲーム理論）別に数学や社会学のきちんとした教科書でもないことですし、雑駁な議論で済ませることにしました。

16-5 超俗的イデオロギーと世俗的イデオロギーの問題

近代の理念、言い換えると超俗的イデオロギーは自由、平等、博愛？、人権、民主制、主体性、個人主義などでしょう。これらは政治的イデオロギーで経済的な超俗的イデオロギーは自由主義的民主主義あるいは協和制（貴族性や制限選挙）では所有権を認める事、機械の平等、経済活動による結果の不平等を許容すること、大きな声では言えませんが利己的物質的金銭的豊かさの追求などがあるでしょう。商業など経済活動の自由、例えば金利や貸し借りの許可、市場性の維持、資本主義の需要などもあります。ここら辺は超俗的イデオロギーと世俗的イデオロギーが混ざってくるかもしれません。世俗的なイデオロギーを守ることが超俗的イデオロギーの実現につながるという、アダムスミスの神の見えざる手のような、超俗的かつ世俗的イデオロギーが多量に入ってきます。

普通は、というか我々のそのように教育されてその世界で生きてきたので異なる生き方を知りません。

しかし本質的に異なるシステムを作ろうとしている国家が世界に 2 つあります。中国と北朝鮮です。この 2 つを簡単に見ていきましょう。

16-6 中国の場合

中国は今世界史の巨大な実験を始めています。世界征服です。習近平を頂点に習近平を支持する中国共産党が君臨し、中国に逆らわない国家と人民からなる新しい形の世界を作ろうとしています。共産党一党独裁とか自由主義的民主制の敵とかそういう議論は常識のようなことなのでここでは省いて、社会の IT 化を積極的に進めている特筆するべきです。容赦なくとか犠牲をいとわずとかいって嫌々やっています。それは自由主義陣営の話です。中京は嬉々として破竹の勢いで進めています。それが習近平の独裁、あるいは中京支配体制の利益になると確信して行っています。自由主義陣営は体制の弱点を突かれてインテリジェンスで負けてしまいスパイ、工作され放題、技術盗まれ放題です。欧米の政治的安定が失われえしまいました。センサー技術や通信技術、AI 技術や量子コンピュータが発展した場合、個人情報保護の考え方のない、あっても守る必要性を感じておらず、むしろ人民の情報を国家が早くし管理することを禪と考えていると考えられます。先ほど書きましたが個人とか自由とか主体性とか民主制が必要とか大切というイデオロギー自体が存在していないからです。情意のイデオロギーは共産党が人民を導いて幸せにするという事でしょう。そのためにいいことをしていると明確に意識し、自覚的に国民情報の完全把握と完全管理を目指しているでしょう。人民の幸せのためにです。もしかしたら我々自由主義国家に住んでいる人民の方が幸せになろうとしているのに、イデオロギー選を間違っ幸福になる道を躊躇して進むのをためらっているのかもしれませんが、それだけならいいのですが、中京は自由主義体制には敵意満々です。我々のことをむしろ不幸と考えて自由主義から解放して幸せにしてくれようと考えていると思われる。自由主義陣営と違って敵意と攻撃を隠していません。しかも自由主義陣営が作ったルールに従って順法的に行っています。

まあ結果だけ見て買った方が正しいという判断はよくないと思いますが、結果的に中国が世界制覇、世界征服するかも知れず、その場合には我々は過ちを犯してしまったのかも知れません。

16-7 北朝鮮とチェチェ思想

北朝鮮は身に中国です。ここはキム主席がいて均一な人間集団がいて、キム主席がその人民を導けば幸せになるというイデオロギーを持ってそれに従ってインテリジェンス活動を行っています。北朝鮮国内の国民の洗脳はほぼ成功していて、たまに離反者がいてもその制圧、粛清にもいつも成功しています。その思想を在日朝鮮人などにも行い、他国、というか韓国と日本です。韓国では成功して大統領の傀儡化に聖子しました日本には沖縄や対馬の人々を洗脳して独立させようとしています。そうすると沖縄で住民の均質化を行い、キム主席が彼らに幸せをもたらします。北海道もそうです。しかしこの国は中国との関係が微妙です。実質属国ですが、どのような形であれキム主席というよりキム家の権力は維持する予定です。中国もそうですが東北アジア、東アジアはシャーマニズム、少しトーテムの伝統が染みついており、代表的な思想が儒教、道教でしょう。どちらも厳正利益で、子孫を残し増やし栄えさせる、一族と先祖と起源を大切にするという思想を根強く持っています。こらは無意識というか前意識というか、本音と建て前というのが適切で。本音のイデオロギーです。これは日本にもそういうところがあります。ですから本音のイデオロギーは一族繁栄、建前のイデオロギーは習近平一族の繁栄、共産党員の繁栄、最後に中国人民の繁栄となります。

16-8 社会主義

経済を体制を 2 つのイデオロギーを極としてその間のスペクトラムとしてみてみたいと思います。1つ目は市場主義経済、資本主義体制で私有財産を肯定し、国家、銀行、財とサービスの生産者、消費者と労働者、資本家や投資家、貿易、取引、売買などがルールに基づいて自由に行われます。結果としてなるべく法律的な権利は平等ですが、富の偏在に基づく格差が存在します。これを一応自由主義経済と呼びましょう。

一方で純粋な共産主義があります。生産手段は公的機関である国家が所有し、生産された財やサービスは公平に分配します。それでも消費の仕方によって富の偏在が生じてしまう気がしますが、それはどうやって是正するのは分かりませんが何とかするのでしょう。社会主義はその両極の間のどこか位置する国家体制です。

この定義でいうと普通の国家といわれるものは殆どが社会主義になります。

そういう意味でいうとみんな何らかの意味で社会主義の国になります。自由主義経済の国というのはリヒテンシュタインとかパックスヘブンと呼ばれる特殊な国でしょうか。よく知りませんが新馬ポールなんかもそうなのかも知れません。

一番共産主義らしい共産主義は北朝鮮かも知れません。これは最初はそれでいいと思っ

てやっていたが冷戦終了中国の成功を見習って後自由主義的経済体制を真似しようとしたところ経済制裁を受けてそれができないでいるからではないでしょうか。

中国は共産主義と言いますが経済発展期の中国は同時期の緊縮経済を続けて30年不景気、法律も政官界の締め付けも厳しい日本と比べると中国の方が自由主義経済的で、日本の方が社会主義経済的にさえ見えます。というか昔から日本は最も成功した社会主義国といわれていました。現在も規制でがんじがらめで規制緩和も構造改革もできず、経済関係者のやる気も意欲も情熱も改革の意識も低くなりエネルギーがない上に、中京などのインテリジェンスで政治や経済が停滞し、国力衰退中で経済成長もできないので、エネルギーがありません。優秀な人は国外あるいは外資系企業意流出し技術も盗まれ放題でエネルギーがますます減っています。エネルギーがないことの裏返し安定と安全と治安の良さだけが自慢でしたがそれも移民で崩れつつあり精神国の必要条件である民度や制度や行政、司法、立法の質が低下し国の形が崩れつつあるので現状はスペクトラムのどのあたりに位置する社会主義国かもよくわからない状態になっているのではないのでしょうか。

そういう意味では中国や北朝鮮のような社会主義や共産主義を嫌ったり笑ったりする人もいますが、もう抜かされてしまって笑ってはいられないのでしょうか。

富の再分配というのは経済学の最も大切な3大要素に挙げる経済学者もいるくらいで非常にやり方にばらつきがあります。グローバリズムと国際金融がはやった時代には世界で格差が大きな問題になり富の再移転、所得再分配がテーマになりました。

イデオロギーも大切ですが現在は状況は非常に個人に影響を与えます。

こういう観点で議論すると個人的イデオロギーはあまり関係がなくなってきました。個人が行うべきことは自分の生活や家族の生活をしっかり守るための適切な世俗的イデオロギーを選択できるかどうかでしょうか。あるいは大きな志を持つならば、そう状況であれ利他行動を行うというイデオロギー、経済を成長させるイノベーションを起こすためのイデオロギー、政治や経済の制度、社会や憲法などの法律を変えるなどの規制緩和や構造改革を行うという大きな公の心を持ったイデオロギーを選択するという事でしょう。利己的であるか利他的であるかその両者であるか、言い換えるとどの程度公を重んじどの程度私を重んじるかの兼ね合いの問題になります。

16-9 仏教

大乘仏教徒、大乘仏教国のイデオロギーだけが少し特殊になります。

第1篇でも述べましたが大乘仏教（あるいは原始仏教）を極めると現代哲学と同じになると説明しました。

そこで仏教徒、および仏教国のイデオロギー構造はシンプルです。超俗的イデオロギーとして三諦論すなわち空や中観の思想があります。

中はポスト構造主義ですので本当に超俗的で特にポスト構造主義以外のイデオロギー全てを特別視しません。

またお釈迦様のお人柄や当時あるいは偽教、すなわち後代に徐々にかつ色々な地域で作られた状況の関係もありますが、経典成立過程での色々な絡みもあり、中核についてのお経以外のお経が穏やかなものや優しいものばかりです。

とすると中核が他のイデオロギーに極限まで寛容でしかもそれにくっつける世俗のイデオロギーも殺生するとか笑顔でいろとかやさしいものばかりです。

つまり他のイデオロギーが仏教に敵対しなければ他のイデオロギーと軋轢を起こす要素がありません。それどころか攻撃性も防御力もまるでありません。布教力も弱く、中身で勝負！という感じです。ただインテリが多い成果美術と芸術は得意でそれが布教力につながったようです。それはともなく布教力がないどころかもっといって孤立的です。実際根本分裂で上座部仏教と分裂してしまいました。上座部仏教は個人の解脱に注力するので大乘仏教よりさらに孤立的です。

中核思想が難解ですのでインテリに好かれます。というかインテリしか理解できないので上層階級の宗教になってしまいがちです。しかも中核思想が分からない大衆も救ってあげると上から目線の割にはカースト制度のインドの中では平等を唱えるなど特殊です。特殊がよく作用するかどうかですがどっちみち平等だったところでインテリになりやすい上層階級と親和性が高いことには変わりありません。

というわけで仏教教団に救って欲しいと思う人以外に対して吸引力がありません。世界宗教として世界中に広がっていきませんがインドでは学校以外すたれてしまいます。ただインド以外の新しい土地では土俗の文化とあまりぶつかりません。それどころが中身が自由空間、即ち何でもありの空っぽということで、仏教をしっかりと理解していない人にとっては非常に色々な形で利用がしやすいと言えます。政治利用もできますし、他の宗教やイデオロギーが使うことがあります。宗教同士はシンクレティズム（宗教融和）という現象が起こることがありますが、非常にそれが起こりやすい宗教と言えます。仏教者自体も悟る人などめったに出ることはないと思われまので、たまに悟る人が出るくらいは誤解されたまま教団や経典が維持されていきます。

仏教も継続していきますが、土着の元々あった諸文化、諸宗教、諸思想も保存されやすいので仏教国では古いものが非常に残りやすいと言えます。

仏教も他の外来イデオロギー、あるいは侵入イデオロギーに迫害されることもあるのは他の思想と同じです。中国でも歴史上有名な迫害だけでも三武一宗の法難というのがありましたし、李氏朝鮮では高麗が仏教国だったので仏教を根絶やしにして儒教の国に変えてしまいました。日本でも仏教需要期に仏教はと新党派で抗争が起こりますが聖徳太子が天才で神仏習合という宗教混交（シンクレティズム）を起こして、伝統宗教と同居させてしまいました。

仏教はインド哲学の精華、西洋哲学の結論ですので実は最強の思想です。他のイデオロギーときちんとした、誠実謙虚なディベート・論争・議論をある程度頭がいい人が行えば論理的に仏教が勝ってしまいます。真言宗の天才空海が三教指帰という本を書いて、道教

と儒教と仏教の中からなぜ仏教を選んだのかを記した藻が国宝として残されていますが、仏教の論理は流石にインド人が作ったものだけあって強力です。

この危険性を見抜いたせいかインドに侵入したイスラム教徒は仏教寺院、学校、仏教徒を破壊しつくしたのは有名です。ですからインドでは仏教がいったん途切れますが、現在はアウトカーストの人々が帰依して仏教徒になったためインドにも仏教徒が存在します。一神教徒はもともと攻撃的で排他的なので仏教にかかわらず他宗教をいつも徹底的に攻撃、破壊しますが、共産主義も共産主義者には一神教と同じ位置付けで共産主義を絶対化し他のイデオロギーを排斥、攻撃しますので、中国共産党は大乗仏教国であったチベットやモンゴルのうち内モンゴル、満州族に対し徹底的に弾圧を行って民族と思想浄化を行っています。共産主義も一神教も洗脳か教育での刷り込みがなければフィクションみたいなもので確実性がなく、あいまいなものですが、信者や主義者にとってはメタイデオロギーになっていて、否定を許されません。一神教ならば汝の他に神はなく神は一人であるとかそういうものですが、仏教から見ればそれはただのイデオロギーの一つにすぎません。一方一神教徒から見るとメタイデオロギーを否定する誤ったイデオロギーとということになります。

一方、共産党はというと特に個人的イデオロギーではないはずなのですが、生産手段の共有化と所得分配の平等というのがメタイデオロギーなのでしょう。マルクス主義はマルクスの資本論がメタイデオロギーなのかもしれません。別に仏教と敵対する必要はなさそうですが、人民の均一化がイデオロギー達成のためには現実的に必要になりますので、インテリ層を粛清、虐殺したり、強制収容所に送るのがちよくちよく見られます。このように仏教を極めると現代哲学を極めたことと一緒に、他の不寛容で攻撃的、絶対主義的な思想と相性が悪くなりますが、多くの場合はそこまでは理解されずに仏教は迫害されることが多いようです。

仏教というのは宗派によって中核部分の現代哲学の部分と他のイデオロギーをくっつけて成り立っていると言いましたが、もしかしたら浄土宗系の思想はこれとは違うかもしれません。西洋人は仏教の研究を始めてから仏教を哲学とみることが多いですが、浄土宗系の思想に関しては阿弥陀経を絶対しんとし救いは信仰によってのみなされる、すなわち信仰によってのみ義とされるプロテスタントと同型の思想に見えるようです。

16-10 まとめ

現代哲学は個人的イデオロギーです。集団的イデオロギーとして応用できるかもしれませんがこの教科書の対象ではないので扱いません。

ラカンのシェーマ L の説明の時に以下のような式を示しました。

シェーマ L=現象学+ニーチェ+実存主義+精神分析学(フロイトの構造論、自我心理学、クライン派など)+構造主義

シェーマエルにより現前が生成し、現前の関係性からまた新たな減算が生まれる。これをジャック・デリダは現前の形而上学と言っています。現前は世界が、我々の認知が瞬間瞬間移り変わるのと同じく、本来は一瞬一瞬何かが変わって別の現前になっているはずですが同じ厳然として認識する。これを同一性と言い、同一性が生成するにはどんなに時間とともに移り変わっていても同じ厳然として理解してしまうように我々が考えてしまうからです。つまり同一性は我々に対して現前が再び同じような現前として現れ同じものとして認識するからです。これを再現前と言います。現前同士の差異も同じことで時間軸を導入し時間の流れを考えれば現前が無常に移り変わっているのだから差異も時間とともに変わっていきます。そういった差異のあり方と差延と言います。

空と言ったり現前と言ったりしますがネットワーク、まさにネットのようなもので網の網目のようなものです。網目とは紐や糸の結節です。マトリックスの結節点が現前です。存在とは関係性ネットワーク、マトリックス、関係性の形、構造があつてはじめて生じます。ですので現前、空は単体として取り出せません。常に環境との更には世界、更には宇宙とのかかわりあいの中で存在しているように感じるものです。何かを認識する際に紐を網をネットをマトリックスだけ切って結節、結び目だけ取り出すのもいいでしょう。しかし、その時にその結節は何かを変質しています。

個人とは世界と切り離された存在ではありません。世界-内-存在といいます。個は個だけであれば存在としての意味を持ちえず環境、状況とともにあつて初めて意味を持ちます。そして個人はそういう世界の中に実存主義でいう投げ入れられた（企投された）た世界を運命、宿命として持ちその中でどう生きていくかが存在者の存在の在り方です。状況やその時点その場所で、自分が存在する世界内でどのように生きるのかという事で、最も大切なのはメタイデオロギー、メタ自由主義、自由空間を持ち、自覚と主体性をもって選択をしていくことです。選択肢を増やすのも選択肢を選んで行動するのも意志と覚悟と勇気と情熱が現代哲学ではなく現代哲学を基礎としてその上に存在する、現代倫理学の、あるいは応用現代哲学である現代思想の最大のテーマです。

第5部のまとめと結語

第5部が第2篇現代哲学の応用編実践編現代思想篇の基礎になります。

まとめるとポスト構造主義で、ポスト構造主義だけが特別なイデオロギーで他のイデオロギーから区別します。そういう意味でポスト構造主義が規定するイデオロギーをメタイデオロギーと呼びます。メタイデオロギーは全てのイデオロギーを平等に扱う考え方です。实在論にせよ、構造主義的哲学にせよ、あるいは实在論や構造主義的哲学自体もイデオロギーではありますが、实在論に基づくイデオロギーにせよ、構造主義に基づくイデオロギ

一にせよ、全てのイデオロギーはイデオロギーである以上ものでもそれ以下のものでもなく特別なイデオロギーというものもあれが、正しいイデオロギーと間違ったイデオロギー、より高等なイデオロギーとよりイデオロギーという区別はありません。

ですからポスト構造主義だけがイデオロギーの中では1つだけ例外となります。

ポスト構造主義が定めるメタイデオロギーとはポスト構造主義以外は全て平等なイデオロギーとすることの他にイデオロギーの選択の自由を認めます。全てのイデオロギーの中から複数個のイデオロギー、あるいは単一のイデオロギーを選択してもいいですし、どのイデオロギーも選ばなくてもいいですし、イデオロギーを変えるのも自由です。イデオロギーを平等に、正誤や上下の差がなく見て考えられることをメタ認知とします。またイデオロギーの選択の自由を保障することをメタ自由主義、メタ個人主義とします。個人の主体性、自主性を完全に認めます。この自覚を持つことが現代哲学をマスターするという事です。このような認知と行動が許されている状況を自由空間としましょう。現代哲学的に生きてければ自由空間を維持するよう努める事、妨害するものから自由空間を守ることが必要になる場合があります。

第5部では現代哲学をマスターした人とマスターしていない人の比較を行いました。またイデオロギーにどのようなものがあるのかも見ていきました。そして現代哲学をマスターしていないとどうなるかも説明しました。

現代哲学を使いこなすという事はこのメタイデオロギーとイデオロギーを理解して使いこなすという事が一番重要になります。この最優先事項をマスターすることだけで多くのことが変わるでしょう。

ですから現代哲学で一番大切なのはポスト構造主義の理解です。

そして実在論は簡単なのでおいておくとして、できれば構造主義と構造主義的哲学を理解するのが2つ目の重要事項です。この2つ目の構造主義と構造主義的哲学の理解はやや難解な場合があります。ですが現在ではきちんとした学問として確立しているので努力すれば必ず身に付けることができます。

ですので①ポスト構造主義、②実在論、③構造主義及び構造主義的哲学、とすると①を理解できれば現代哲学の重要な部分を理解できます。①②③とも理解できれば現代哲学を完全に理解できます。

現代哲学を完全に理解すると頭がよくなり、自己啓発力が高まります。それを第6部で説明します。

第6部 現代哲学から見た世界と社会

第 6 部では現代哲学をマスターしたうえで現実の社会をどう見るかという応用に入ります。

第 17 章では、人間や歴史についての同一性、恒常性の先入観の解体を行います。モダニズムでは人間を正常、異常、あるいはこうあるべきもの、こうあるべきではないものと区別していました。

そしてモダニズムの考える正しい人間像を持たない人間像を排除したり強制する装置がありました。軍事力、警察力などの暴力装置、精神病院や障害者施設などの医療保険福祉施設です。

歴史については聖書の文献学的研究は 20 世紀にはいるまではタブーとされました。日本なら戦前は皇国史観、戦後は唯物史観が正しいとされそれに反する文献は無視され文献学的、考古学的研究結果が恣意的に取捨選択されてきました。現代哲学成立により何が変わったか、を説明します。

モダニズムで前提であった大きな物語（ナラティブ）についての説明を行います。

ポスト構造主義、ポストモダンによる社会の見方、シュミレーションと趣味らーくるについて説明します。

また第 18 章では

第 17 章 歴史と人間の終わり

17-0 モダニズム批判、ポストモダン

現代哲学がうまれて、現代哲学から見た近代批判が生まれました。それを解説します。

17-1 同一性神話の解体

人間も歴史も同一性を保っている、万物は平和な状態で破壊的な状況で次々と破壊されていなければ同一性を保って存在し続けると我々は発達過程で感じる様に育ちます。

しかし現代哲学では「現前」の項で少し触れたように現前は一瞬一瞬別の物に変わっていくと考えます。差異により現前は生じますが、時間的にも一瞬一瞬差異が生じて常に同じ現前ではありません。しかし我々の目には同じ現前に見えるため、同一性、恒常性を保

っているように見えます。これを差延とジャック・デリダはなげました。この考え方は認知科学と相性が良く、記憶というものは差延的な物であることが示されています。

一瞬一瞬全ての構成要素が入れ替わるのですから構造というのは静的な物ではなく動的な物、すなわち構成的に見る見方が必要になる場合もあります。

現代哲学を学んで一番実用的なことは公理主義を使いこなせるようになるでしょう。公理主義は静的なイメージがあること、また構造主義という言葉が静的な感じを与えるため静的に捉えられることも多いですが、現実には動的な認識が必要な場合が多くあり、構造的というよりは構成的に見ることが多くあります。

諸行無常

諸法無我

と般若心経にあります。上が差延、構成的なイメージ、下が現前、構造的なイメージになります。

さてこれを人間や歴史に当てはめてみるとどうでしょう、というのがこの章のテーマになります。

17-2 人間の終わり

個人レベルでは万物と同じように一瞬も同じ存在ではありえない。つまり自己や他者の同一性や恒常性は保証されないと考えるのが現代哲学的な発想になります。さて人間というカテゴリー全体で考えるとどうでしょう。カテゴリー、概念、アイデアで考えるとどうなるか。

17-3 歴史の終わり

一次資料から歴史を勉強してみましょ。古い時代は文献がなさすぎるので、考古学資料が重視されます。文字で記されたものが本来の歴史の定義ですが、歴史を広く捉え文字以外の情報も混ぜて広い意味で使ってみましょ。昔は文字情報保存の技術も低く、複製技術も低く、文書保存能力も低かったので、昔の事を知るのに十分な情報がありません。逆に時代が下ると情報が氾濫してきます。昔も今もそうですが、情報は矛盾していたり、一面的な偏った立場から書かれていたり、実は後の時代に作られていたりします。また今は公開されていなかったり発見されていたかたりして時代によって残される文献も刻一刻と変わっていきます。我々はそういったものを使って歴史を知ろうと努力します。昔は真実の歴史があつてそれを探求するのが歴史学という考え方がありました。これは理想主知的、観念的な考え方です。しかしそんなものはないといったのがミシェル・フーコーです。そもそも過ぎ去った過去を知ることはできません。正しい歴史を残す努力は出来るかもしれませんが、実際には残せません。文献どころか我々の記憶すらあいまいで想起するたびに再構成されていますし、構造主義的に言えば、常に歴史認識は変わっていくもので

す。現代哲学からみれば万物は常に変わっていくものです。それは歴史と言えども例外ではありません。現代哲学では真理、真実、事実という概念がないように真実の正しい歴史という考え方はとりません。歴史も常に変わっていくものです。この発想の転換が近代と現代を分ける物です。近代には正しい歴史というものがあって何かの都合で正しく理解できない時でもそれがあるという真実にかわりがないという考え方をしていました。現代哲学ではそもそもそんなものは歴史にせよ何にせよ初めからないのです。そういう考え方が存在しないからです。

17-2 人間の終わり

こちらの方は現在は普及啓発活動が進んで当たり前の様に理解されてきているため、逆に昔のことが分かりにくくなっていますが、以前には正しい、かくあるべき人間像というのがありました。この考え方によると正常な人間がある一方で異常な人間もいることになります。実際に昔は異常な人間がいると考えられ区別されたり差別されたりしていました。天才とか高貴な血筋とか成人とか預言者がいると考えられた反面、精神異常者や LGBT や知的身体障害者や嗜好が変わっていると見なされている者があると見なされていました。歴史に対する考え方と同じように現代哲学は人間に対しても書くべき真実の人間のような考え方をそもそもしません。これは当たり前の様ですが、意外と最近までは日本やアメリカを含め優生学というものがありましたし、共産主義諸国では今でも民族浄化が行われています。フェミニズムや一部の社会活動家が頑張って活動して人間は多様性があり寛容であるべきという考えは現在通念のようになっていています。その際に現代哲学を引っ張ってきて時に誤用や意図的、政治的な利用のためのいいとこどりを行うことがあるようですが、それ自体は現代哲学の責任ではありません。

17-3 形而上学批判

近代以前の、实在論が入り込んでいる思想や宗教はひっくるめて形而上学ともいいます。これらはどこかに仮定や無条件の信仰が入っていたりします。現代哲学はそういうものに対して正しいという保証を行いません。また間違っているという保証も行いません。不可知論ともいえるかもしれません。ただそういったものが排他的になったり、他を攻撃したり、自分の思想がただしいと主張する場合には批判的に見てしまう癖がつくかもしれません。そういったことがなければ現代哲学は寛容でむしろ優しい思想です。現代哲学があまりにも何でもありであるため我々がどう生きるべきか、どう判断すべきかを教えてくれません。です。ので現実の世界、社会の中で生活していく際に困ることがあります。好き嫌いでもいいし何かの宗教や思想を信じるのでもいいのですが、時に自分で判断し決断し行動し責任を取るための基準を自分で決めないといけない時があるかもしれません。何事もいいことばかりではなくいい面も悪い面もあります。この考え方は現代哲学を応用する際によく使う考え方ですが現代哲学自体にも当てはまります。

第 18 章 イデオロギー批判と現代哲学

18-0 近代の偉大と悲慘

現代哲学は近代哲学を乗り越える過程で生まれました。近代哲学の基礎には素朴实在論があります。それを肯定するにも否定するにも素朴实在論が必ず意識されていて何らかの形で組み込まれています。素朴实在論には真善美などの観念の实在性も含まれており、肯定するにせよ、否定するにせよ無視できない要素でした。近代哲学、もう少し広げて現代思想をもに作られた理論や体系、イデオロギーにはその考え方がどうしても影響を与えてしまいます。特に問題なのは、真と善です（文学や技術をやっている人にはすみません。美も大切でしょう）。

近代は人類にとって偉大な時代です。科学技術が発達し、経済、産業がそれ以前と比べ物にならないほど発展した結果、人間は物質的に豊かになりました。また知識の集積、情報、メディアにより知的にも豊かになりました。公衆衛生、医学の進歩は死亡率を下げ健康と寿命を改善しました。一方、軍事やイデオロギーによる人間観の対立は多くの人を殺しました。20 世紀ほど巨大な偉大と悲慘が同居する世紀はなかったでしょう。

そのイデオロギーが真であり善であれば人間はそれに従うべきだということになるでしょう。それに従わないものは正しくないという意味で偽、つまり間違っており、悪であるという結論を導き出しても不思議ではありません。20 世紀は偉大と悲慘の世紀で人類が素晴らしいことを成し遂げる一方、悲慘なことが数多く起こりました。科学・技術の進歩は人間の偉大さの象徴でしょう。一方で悲慘さの象徴は戦争や宗教対立ですが、戦争や宗教対立を正当化する際に時に使われたのがイデオロギーでした。

18-1 イデオロギーの何が問題か

イデオロギーはアイデアとロゴスの合成語で観念の体系という意味です。そういう意味ではいろんなものがイデオロギーです。現代哲学もイデオロギーですし、現代的構造主義も、素朴实在論もイデオロギーです。数学基礎論も、集合論も、意総論も、数理論理学もイデオロギーですし、幾何学、解析学、力学、電磁気学、全部イデオロギーです。公理主義もイデオロギーです。

理論や体系というものは抽象化すれば全てイデオロギーです。ここで問題にするのは政治思想です。これもイデオロギーです。これは大変多くの人を巻き込みますので多くの人を幸せにすることもあるし、不幸にすることもあります。政治思想だけでなく、経済思想や科学思想もそうなることがあります。日本の失われた 30 年は経済学をきちんと勉強して

いない人たちが主導権を取ったためにおこってしまった（優しく言えば時代的にまだ知的レベルが低かった）ことから起こった悲劇ですし、アメリカ南部では進化論や地動説を教育で教えることの是非が裁判になり、進化論、地動説側が敗訴したりしています。まさにモンキートライアルで現在から見れば猿のような議論でしょう（まだ禁止している州があったらごめんなさい）。

イデオロギー自体はいいのですが、それを絶対化し人々に適用すること、あるいはそれを信じて従うことを強要することから悲劇が生じます。ですから問題はイデオロギー自体ではなくイデオロギーの絶対化が問題です。絶対化までいかなくてもそのイデオロギーがただしくてそれに反する部分がある別のイデオロギーが間違っているといいたすと非常に要注意の警報を発動しなければいけなくなります。

イデオロギーの中で自由主義だけすこし異なっています。特定のイデオロギーを絶対化しないことがラディカルな自由主義の特徴です。自由主義を絶対化しているのではないかという批判がありそうです。そういう自己言及命題ができるのが自由主義の特徴です。ラッセルのクラス理論でいえば自由主義は他のイデオロギーとはクラス（階級）が違います。イデオロギーを絶対化するかそれ以外かとするすると自由主義派それ以外に含まれます。このあたりの議論は簡単にするために省かせて頂きますが、問題は自由主義以外の政治思想（時に経済思想を含む）の絶対化です。

18-2 近代以前の思想の理論・体系

現代以前の思想について考えてみましょう。とりあえず現代に近い近代の哲学者について考えてみましょう。デカルトは心身二元論を唱えました。物に対する認識は正しい、それは神が保証するからだと考えました。デカルトの哲学は神の誠実を仮定しています。カントは物自体から認識に至る理性、悟性、感性などについて考えましたが、物自体と認識の過程を精緻化しただけでありデカルトと変わりません。物自体には到達できないジレンマを考えたのはカントの誠実さでしょう。しかし実践理性批判や判断力批判になると途端に仮定が入り込み始めます。提言命令、「～すべし」「～すべからず」というルールが存在してそれに従うのが人間の行うべきことだ、みたいな仮定が入り込み始めます。ドイツ観念論になると物自体を否定し観念一元論から出発す。観念だけがあり、実部と見えるものはある種の障害があるとそれが事物として精神に現れるとかフィヒテは言います。それがさらにシェリング、ヘーゲルとごによごによなつて、絶対精神や弁証法が存在して世界や存在の法則になっているのだという仮定にものづいた物語が語られます。仮定が入っているので全てファンタジーであり、仮定が真であると示されなければフィクションです。しかしある意味近代哲学はここで完成したとも言えるし行き詰ったともいえます。ヘーゲルの体系はそれなりに世界の成り立ちや我々の内面を理解できてすっきりとした理論でもあります。仮定を導入してでもこの様な世界の説明体系が哲学により作られたのは哲学にとって進歩でしょう。ヘーゲルは近代哲学の帝王みたいな存在なのでその後の思想的

ちはヘーゲルを研究しますし、さらに実用化してマルクス主義を造ったカールマルクスみたいなものも現れます。マルクス主義はドイツ観念論のヘーゲルの哲学、フランスの空想的社会主義、イギリスのマルサスの人口論など当時の色々な物をまとめてつくった体系で、あまりすっきりした印象はありませんがその後の歴史に大きな影響を与えました。ソ連崩壊で古本屋で投げ売られるまでは資本論を金科玉条のように勉強するのが知的だと考えられていました。

こういった近代思想は何らかの形で事物の実在性を説明するという条件に拘束されています。実在論の影響を逃れられなかったところが一つのポイントになります。そこで近代哲学までの哲学を実在論系統の哲学理論と考えます。

一応第3章でふれたフッサールとニーチェとについて考えてみましょう。この2人は近代哲学の最後の人、あるいは現代哲学を切り開くための最初の端緒人のような側面があります。フッサールは現実に見えている事物について考える事を保留（エポケー）し、確実な物、つまり意識の中に現れる現象、認識される現前を観察することで新たな道を切り開こうとする現象学という学問を造りました。現象「学」と学がつくのはそれが方法論だからです。科学とは方法の精神です。意識の中に現れる現象、現前までは確実であるが、それ以上のことは何も言えないと態度を保留しました。ここには何の仮定も入っています。確実な物だけを追求し、仮定を排除しようとすることは哲学にとっては健全な精神です。仮定は確実なものとは言えないからです。真であるか偽であるか確定した時に初めて確実な物だったりしますが、それが神だったり絶対精神だったりすると真偽の確定もできません。ですから家庭に依存している哲学体系は全てフィクションでファンタジーなのです。ソシュールは哲学のフィクションファンタジー性を駆逐します。結果としてその後の現代哲学はソシュールの造った楽園、この意識の中の現象を相手に繰り広げられることになります。ニュートンの古典力学におけるガリレオ空間のようなものです。それは観念論とは違います。観念論は観念の実があると観念を絶対視する思考です。それは仮定と仮定の絶対視の絶対視です。ソシュールが目指したのは哲学の方法論の厳密性と確実性の追求です。そもそもソシュールはもともと数学者で最初は解析学の帝王ワイエルシュトラウスの助手をしており、それから数学の確実な基礎の研究に研究方向を切り替え、それから哲学に来た人物で、通してみると関心の方向性が一定しています。

ニーチェはまた違う現代哲学の開拓者です。ニーチェは哲学に対して重要な問いをえました。「なぜ人間は哲学をするのか」です。別のいい方をすると「なぜ人間は確実性を追求したいという欲求にかられるのか」です。また別のいい方をすると「なぜ人間は実在するものがあると思っているのか」です。これは哲学に対するメタ認知です。問題は問題としなければ問題になりません。問題とするから問題になります。問題とするかどうかはそれを問題とする人の内面的な衝動や欲求というような精神力動によって決まります。それはどのような精神力動なのか？ニーチェが問うたのはそれでした。人間は見たいものだ

けを見、信じたい者だけを信じる、あるいは信じてしまう、とジュリアスシーザーは言いました。ニーチェとが当時の心理学や精神分析学とどういう関係にあったのかは分かりません。そのような問いを立てたうえで、ニーチェは次のような回答を与えました。「実在していると思っているものは、人間が実在して欲しいと思っているから実在している」。別のいい方をすると「人間は実在して欲しいものを実在していると思い込む」あるいは「実在していて欲しいから、実在していると無意識に思い込む習性がある」ということです。今までの文脈から表現すると確実性という観点において、「確実に存在する根拠はないが、人間がそれが確実に存在すると思っ込んでいるだけ」、「確実に存在して欲しいものを、人間は確実にそんざいすると無意識にでっちあげてしまう」心の働きがあるということを指摘しました。つまり事物が確実に実在しているという根拠はないのです。あるのはその事物が確実に存在して欲しいという我々の願いだけがあります」

結論としてニーチェは①事物の存在の有無の確実性は問題ではない。②問題なのは我々が事物が確実に実在してしまうと思っ込んでしまう心の働きの仕組みだ。という問題提起を行いました。

これはおおきな、しかも哲学が今まで思いもよらなかった方向転換の提案です。存在論を無視しろと言っています。言い換えると存在が確実だとか確実でないとか問うのは無駄で不可知でよいととれます。またなぜ我々は無意識に確実な事物の存在を仮定する思考をしてしまうのかという、思いもよらなかった質問が今までの哲学者に問いかげられたわけです。これを無視してしまうのも一理あるでしょう。そうすると存在論の絶対化になります。しかしこれを発展させていくとどうなるでしょう。存在論を無視しているのだからこれはフッサールの方法論と同じようなフィールドで哲学することに通じます。ニーチェやフッサールの弟子ハイデガーはそれぞれこれに彼らの回答を与えていますがここでは触れません。重要なのは存在論を無視する考え方が出てきたことです。そうすると何が残るか、あるいは何が残るか、あるいは生まれるかが問題です。

歴史上存在論にかわる、ということは存在論の影響を全く受けずないで成り立ちうる哲学として成立したのが構造主義になります。

18-3 存在論の不要の哲学

繰り返しますが近代哲学は存在論の影響を受けています。存在が実在するかどうかを説明することは、どのような哲学であろうと理論の内部に重要な要素として存在しています。それと全く独立の、独立という言葉は数学では背反とは違い、関係ない、無視して成立する、ということですが、新しい哲学があれば、それは大きなニュースになります。

さて口でいうのは簡単ですがそういう哲学をどうしたら作れるか見つけられるかです。実際長らくそういう哲学理論は現れませんでした。現れたのはフランスで1960年代にフランスで構造主義が流行するようになってからで、それが哲学に応用されるようになってからです。変な話ですが、哲学の構造主義にはこの人が哲学において構造主義を確立した、

という人はいません。構造主義の四天王として、レヴィ・ストロース、ルイ・アルチュセール、ミシェル・フーコー、ロランバルトなどが言われた時期もあったようです。ある意味流行現象だったのでそういうはでなレッテルが張られたのでしょう。誰が哲学に構造主義をもたらしたかという議論にはなっていません。哲学の構造主義は別の学問の構造主義が移入されたものなので、誰が移入したのかと問うてもそれほど意味はありません。多少の時差があっても同時多発のようなものです。では誰が構造主義を確立したかというとな数学者のダフィット・ヒルベルトや言語学者のソシュールが挙げられることが多いでしょう。一般にはソシュールが有名なようですが、ヒルベルトの方がおそらく先です。どちらも象徴と記号、抽象概念と具象を操る学問であることに興味をひかれます。まさに言語とそれが表す対象（シニフィアンとシニフィエといいます）、数学と数学的概念の関係の確実な基礎付けを探求する過程で構造主義的な考え方が生まれました。その後数学は数学内外で公理主義として数学を基礎とする物理学などへも波及しながら発展し、言語学は言語学内外で構造主義言語学として研究されていきましたが、構造主義ブームの火付け役になったのはレヴィ・ストロースで文化人類学のある民族の婚姻の仕組みに構造主義を適用します。フランスの学制の特徴ですが、知識人同士は親密で学際的に勉強会や研究も行われ、各学問分野に構造主義が取り入れられ隆盛を迎えます。ここからの時期はフランス現代思想と呼ばれます。そういう背景の中で哲学も構造主義が取り入れられますが、特に重要なのはジャック・ラカンだと思われます。彼は精神科医で精神分析学を構造主義化します。これは存在とは何か認識とは何かを説明する実在論とは根本的に異なる、ということは独立で実在論の要素が全く入っていない初めての新しい哲学理論に転用できるモデルだったからです。実在の存在を無視あるいは不可知なものとし、認識に現前が生じる仕組みを精神力動を用いて説明しています。これは現象学からニーチェの哲学を継承しています。さてこの理論もシェーマ L という仮定のモデルを使っているのではないかという意見が出るかと思えます。その通りでこれも一つのフィクションでファンタジーです。ただのモデルでしかありません。構造主義を用いて別の認識と存在のモデルを作れるかもしれませんが、構造主義とはなれたところで、かつ実在論とも離れた全く別の独立な哲学理論を造れるかもしれませんが。そういう意味で構造主義派批判の余地が実在論と同じくありますし、絶対化できない部分が実在論と同じくあります。

実在論にせよ、それに基づく、近代哲学にせよ、構造主義に基づく哲学理論にせよ絶対化は出来ないのです。構造主義が流行すると流行時に往々に見られるように急進化しそれを絶対化、あるいは絶対化と言わなくてもそれを強く押し出す人々が生まれます。イデオロギーとはそういう面があり得ます。

そういう訳で哲学においてそれらを相対化する、メタ認知でみる理論が生まれます。それがポスト構造主義です。

ポスト構造主義は繰り返しですが次の4つの見方をします。

①実在論を肯定し構造主義を否定する。

②実在論を肯定し構造主義を肯定する。

③実在論も構造主義も両方肯定する。

④実在論も構造主義も両方否定する。

その上でまた別の哲学理論があるかもしれないと考える知性の余裕も必要ですし、ポスト構造主義自体が構造化される可能性もあり得ます（ちなみに数学はそういう不毛に見えかねない事ばかりやっている学問です）。

さてラッセルのクラス理論、タイプ理論でもそうでしたがメタ認知化する、すなわち階層化する、俯瞰的に上から見下ろす見たかとするると全体は良く見えますが、その思想自体に実用性が乏しくなります。ですから我々はポスト構造主義まできちんと理解しそれで終わりでもいいのです。

18-4 イデオロギー

さて 3 章とこの章を読めば哲学史がだいたいわかったと思います。そこでこの教科書だけで哲学史を理解できるのでリーズナブルです。

それはともかく、ここまでの結論は仮定を置かない理論はない、ということでした。つまりイデオロギーというものはすべて仮定に基づいて作られています。ですからその仮定が真であることを証明しない限り絶対に確実であるということとはできません。したがってそのイデオロギーを自分で信じることは自由ですが、絶対化できないことを自覚するべきですし、人に押し付けるのも自由ですが、それで押し付けた相手が不幸になった場合に押し付けた人はどう考えるべきか、ということに常に自覚することが大切です。

本教科書は現代哲学を身に付け応用することの習得を目指すものです。それにはきちんとイデオロギーを習得しそれを使いこなす、かつそれを絶対化せず場合によっては別のイデオロギーに切り替えるということです。

ポスト構造主義はメタ認知能力を持ち、全てのイデオロギーを絶対化せず、相対化し、しかも自分が使いこなせるイデオロギーを用途に応じて使いこなす、幸福になろうというものです。ポスト構造主義で常に持たなくてはいけないのはメタ認知ですがそのためには自覚や謙虚さが必要です。

特に問題は

①そのイデオロギーが公理化されているかいないかの自覚を持つこと。

②イデオロギーを切り替えた時にイデオロギー間で別の結論を出すことがあるので、行動が時間の前後で矛盾してしまうことがあること。

①もなく②もなければ矛盾だらけになり自覚しきれなく、つまりコントロールできなくなり混乱が生じる恐れがあります。現代哲学は頭を使うことも多いので頭が疲れてしまう場合がありますし、人間の持続力や回復色には限界があります。自分が混乱して疲弊するの

も問題ですが、傍の人が人が混乱する恐れがあります。いい混乱ならいいでしょうが、その人々を不幸にする混乱であれば、その人々が自分にとって大切な人々である場合には自分も不幸を感じるでしょう。イデオロギーの取り扱い、イデオロギーの理解、イデオロギーの切り替えには大変注意が必要です。

18-5 イデオロギーの脱構築

イデオロギーを使う話をしてきましたが、イデオロギーというのは一つの構造です。我々の中にあるイデオロギーがついて離れない場合、そしてそれで苦しんでいるような場合にはそれを改善したくなるかもしれません。

18-5 現代哲学が教えてくれないこと

現代哲学メリット、デメリットを挙げました。メリットとして知的、思想的なものが目立ちますが現代哲学が教えてくれないことを考えてみたいと思います。

現代思想は我々に何を信じるべきかとか、何を好きになるべきかということを教えてくれません。それを選択のは個々人です。何が真実で自分は何を信じるべきで何を信仰すべきか、そういったことについて現代思想は何も教えません。自分が何を好きになり、何をやっていけば楽しく幸せに過ごせるか現代思想では分かりません。我々がどうやって生活していくのかということは我々の現実であり、我々は何かに従って生活従わざるを得ませので、必要なことです。我々がどういう生活や行動のスタイルをとり、何を考え何を感じていくかについて現代思想は教えてくれません。そういうものは自分で決めることであることを現代哲学は結論として示唆します。

現代哲学は我々の精神に対しては思考、認識からのアプローチを行い、感情や意志を扱うツールではありません。

全ての認識を解体することはできません。仮に全てを解体できたとしても私たちが生活するには何か構築されたものが必要です。我々は構築していかなければいけませんし意識しなくても自然に構築を行うよう成長します。それが積極的なものであっても受動的なものであってもです。ただ何を構築しても、現代思想を忘れてしまっはいけません。我々は我々の受け入れたものをいつでも解体したり脱構築できる能力をなくしてしまっはいけませんし、いつでも我々が構築している諸事物を俯瞰的に捉えたり相対的にみたりできるべきです。いい方を変えるとメタ認知できるべきです。それは我々に知的な謙虚さを与えます。 現代哲学を自分の思想として生きるということはそういうことです。

我々は発達過程で何かを認識していきます。いいかえると認識対象の物事を構築していきます。この発達過程が障害されるのが知的障害の一つの説明となります。それは初等教育で学ぶには難解であるということもありますし、理解しなくてもよい人生

を送れるからでしょう。また認識能力、自己同一性や自己以外の他者や物事の同一性、恒常性を発達過程で身に付ける前に現代思想を学んでしまうと事物の同一性や恒常性の認識能力が障害されてしまい、ある種の精神疾患にかかりやすくなる精神の脆弱性へとつながってしまうかもしれません。教育理論では認識の発達には時期があり、その時期に達する前に年齢に不適切に抽象的なことを教育しようとしても不可能である可能性があります。

第19章 シミュラクル、シミュレーションの世界、大きな物語とナラティブ

他者との違いを知ること、それを我々人類は優しさと呼ぶ。 村上龍

19-0 本章では現代哲学から必然的に導かれる世界や社会に対する見方を説明します。シミュラクルはまがい物という意味でシミュレーションは嘘、偽造、捏造という意味です。現代的構造主義では真理や真実と言った言葉を使いません。モダニズム批判とか特殊な文脈で使いますが、近代以前に興味も知識もなければ、そもそも現代的構造主義の文脈の中には自然に、「真理」や「真実」が使われる文脈が出現する機会がないのです。定義して使う人工的なわざとらしい概念のように現代哲学しか知らない人は感じるでしょう。「心理」や「真実」は素朴实在論では自然で経験的に使われる言葉です。「心理」や「真実」という言葉は便利なので日常で使えると便利でしょうし、素朴实在論しか知らない人と話す場合に齟齬を生じてしまいます。ここに素朴实在論を勉強しておいた方がいい理由の一つがあります。素朴实在論は過ちであると立証できないものです。ですから知っておく必要があります。現代的構造主義に傾倒してしまっただけで絶対化して原理主義化するよりは、もう一つ確かかもしれない2つ目の理論があった方がいいでしょう。そうすれば3つ目の理論も、4つ目の理論も、あるいはもっとたくさんの理論があるかも知れないという可能性を考えることができます。知らないことを知ること、どれは謙虚、謙譲、謙遜、そして他者に対する優しさと寛容さを生みます。これは現代哲学を身に付けることで得られる自然な徳であり、利益でもあります。

19-1 現代哲学の存在の考え方

現代哲学では存在に対する考え方が近代哲学と異なります。

近代哲学というのは素朴实在論に立脚していたため存在というのは重要な問題でした。現代哲学では現代的構造論の考え方でもできるため存在に対する考え方が違います。素朴実

在論では存在とは自明の物でした。近代哲学は素朴実在論の影響を受けているため、存在を無視した見方をできません。ですから存在論というのが一つの大きな柱になります。

現代的構造主義ではそもそも存在という考え方がありません。存在というのはある現前が単一性、同一性を保って認識されるときに人間が感じる感覚です。それが実体であると勘違いした時にその現前の実態が存在すると間違って解釈します。つまり存在を自明なものとする考え方は間違っていると考えます。そういう立場からすると我々が存坐すると思っっているすべての事物は捏造でありまがい物ということになります。これをボードリヤールはシミュレーション、勘違いして存在していると思っっている対象をシミュラクルと言います。現代的構造論の立場では存在していると思える事物、そしてその総体の世界、全てはシミュラクルであり、世界はシミュレーションの世界です。

素朴実在論を否定して、現代的構造主義を絶対化した立場から見ると、素朴実在論でしか物事を見えぬ人はまがい物を本物で真実の実在であるという過ちを犯していることになります。素朴実在論でしか物事を見られない人はシミュレーションの世界に住んでいながらそれを理解しない騙された人達という風に見ることができます。

現代哲学ではこういう見方を出来る様になることが必要です。こういう見方を出来る様になってこそ、現代的構造主義の意義が理解できますし、ポスト構造主義の有益さも理解できます。

繰り返しますが事物の存在とは近代哲学以前の人々には、素朴実在論やそれから離れられない哲学を持っている人々には自明なものに見えるため無視できない非常に重要な概念です。他方で現代哲学を習得した人々には存在について考える事もそれを無視して整合的な議論を行うこともできます。それはなぜかというと現代的構造主義的ができれば存在という概念も素朴実在論を否定しても全く生きていくにもコミュニケーションを取るにも社会を成り立たせるためにも科学・技術が存在するためにも問題ないからです。

近代以前の人々が現代的構造主義を知らないで素朴構造論だけで生きてきたのと同じように、現代人は素朴実在論を否定して現代的実在主義の考え方だけで生きていくこともかろうです。もちろんポスト構造主義の見方のようにそのどっちの考え方も受け入れつつ、両方の見方を同時にとることもできるような懐の深い見方をするのが一番いいと思われます。現代的構造主義が確立した当初は素朴実在論を否定し現代的構造主義だけを採用する急進的、原理主義的なラディカルな考え方も流行しましたが後にポスト構造主義の立場からこのような極論は批判されることになります。当初は構造主義者と言われた論客達はこのような現代的構造主義を用いて素朴実在論を否定する立場が多かったですが、ポスト構造主義の確立と共にポスト構造主義に吸収されていきます。

ただし急進的な現代的構造主義論者たちの素朴実在論やそれから派生する思想批判は無駄な物ではなく、様々な思想的な果実を实らせました。これをポストモダンizmということがあります。ポストモダンという言葉はリオタールという思想家が使った言葉で近代、つまりモダンの後の時代、現代、コンテンポラリーということで素朴実在論が自明な物で

はなく現代的構造主義が確立したことで現代という時代が変わったという時代区分の変化を表現しています。

19-2 近代主義批判、ポスト構造主義

真理、真実、事実、実体、実在、現実、存在、そういった言葉は現代構造主義の立場から見ると？、何のことだろう？、ということになります。相違概念を用いる必要が現代的構造主義にはないからです。必要がないので素朴实在論を否定して現代的構造主義の立場からそれらの概念を論じるためには現代的構造主義なりの方法でそれらを定義してやる必要があります。それらは素朴实在論にとっては理論の中核をなす一時的な概念でしょうが、現代的構造論の側からみればあらためて現代的構造主義の概念や方法をつかって定期議しなければいけない二次的な概念にすぎません。ポストモダンやポストモダニズムという場合には近代に対して批判的な視点を持っているため、やや近代を侮蔑するような言葉や表現が使われる場合があります。シミュラクルやシミュレーションはその典型です。近代的な認識しかできない人々はシミュラクル、つまり実在しないものを実在していると思いいそれを真実を思い込んで誤った考えを持ちながら生きている、ということになります。

ただその様な差別的な意味合いだけでない悲しい現実として我々は生きていく中でいかに真実に見えるような世界の中に生きているように感じていたとしても、それはシミュレーションである、という自覚を促す、肯定的な表現でもあります。

メディア批判ではいかにメディアが偽造、捏造、剽窃、プロパガンダするか等が論じられます。しかしメディアが偽造、捏造、剽窃、プロパガンダしなくてもその報じる内容はシミュレーションです。メディアを介さなくても我々が感じ取る事物や世界自体が現代哲学的に言えばシミュレーションであるという見方を常に持ち続けなければ、現代哲学をマスターしているとは言えません。時に世界を現実、実在と感じて過ごす感性も、シミュラクル、シミュレーションと見て健全な懐疑主義、ニヒリズムを常に携える姿勢も両方持たなければいけません。素朴实在論で対象を見て安心することも不安になることもあるでしょう。逆に現代的構造主義で物事を見て安心することも不安になることもあるでしょう。ポスト構造主義ではその両方の見方ができるということです。現代哲学をマスターすると感情のコントロールが上手になります。

19-3 正しいもの

10-2 にならって現代哲学的に見た色々な概念を検討していきましょう。

例えば正しい、あるいは悪いという言葉について考えてみます。

ある言語では一つの意味しか持っていないように見える言葉でも他の言語では多義語の場合もあるし逆もあるでしょう。「いじめられる方も悪い」という言説が昔はありました。この場合の悪いとはどういう意味でしょうか。宗教的に悪という場合にも悪いと言います。倫理あるいはその行動既定の道徳から見て、道徳的に悪い、という場合もあります。法律

的に悪い事という場合には違法であるということです。品質が悪い、などものの良し悪しにも使われます。仕事で悪い判断をした、という場合には間違った判断という意味です。頭が悪い、と言いう場合もあります。知能が低いことを指します。腕が悪い、という場合もあります。技能が上手でないということです。食べ物が悪いという場合もあります。腐っていたりする場合です。それぞれの場合の反意語は正しいではなく、善だったり、良いだったり、上手だったりします。さて「いじめられる方も悪い」という場合に何が悪いのでしょうか。今では倫理道徳的に悪いものは悪いということが認識されているのでこういう言説はなくなっていると思われませんが、昔は「いじめられる方にも原因がある」という意味で使われていたようです。しかし悪いという言葉を使ったため、いじめる側が正しい面もある、いじめたのもしょうがなかったという風に言説が変性し、いじめにもしょうがない面がある、といういじめ擁護論に使われたりしていました。

第7部 各論：現代哲学の科学・学問への応用

20-0 現代哲学の自然科学への応用

現代哲学は現在の科学、技術、学問の基礎であると書きました。それをこの第4部で説明します。

20-1 数学への応用

これは基礎篇で詳しく書きましたのでここでは簡単に書きます。現代哲学を数学に応用したというよりは現代数学の基礎論を現代哲学に応用したと書く方が正確です。現代的構造主義の成立は数学が他の学問に先んじました。但し純粋数学者自身がそのアイデアを哲学に広めようとする動きは鈍かったようです。思うに数学者は数学が至高の学問だと考えておりそれを他の学問に応用しようとしたり商売に導入しようとする傾向が少ないようです。数学を哲学に応用しようとした人物としてフッサールやヴィットゲンシュタインがいますが数学の分野ではあまり大きな成果を残していないようです。ラッセルもそうかもしれませんが、ラッセルは数学至上主義者で頭が悪くなったので仕方がないので哲学をやったようなことを書いていたと思います。ついででやった哲学や評論ですがそっちの方ではノーベル文学賞を取っているようです。

現代数学の公理主義は特殊な構造主義で一般化すれば哲学の構造主義に容易に転用できます。

数学の公理主義は数学の各分野にすぐに広がりあらゆる数学で公理主義化が行われます。一方で数学基礎論も深く研究され発展し、例えば計算機科学、つまり現在のコンピュータを生みました。コンピュータも含めた情報科学、データ解析などはそもそも数学の一分野ですが応用科学すなわち技術として社会的にも産業的にも重要ですので、それ自体で大きな学問分野になっています。

20-2 物理学

そもそも物理学は数学と仲が良く、哲学とも仲が良かったのですが、物理学も公理主義が確立すると各分野すぐに公理化されましたし、そもそも新しい理論を造る際には公理の区政を最初から考えて作られることもあります。

20-3 発達心理学、認知科学

ピアジェという有名な発達心理学者がいて彼は構造主義者と呼ばれましたが自分は構成主義者であると言って構造主義の時間軸のなさを批判していたようです。ピアジェの見方は精神科医が子供を見るときにエリクソンと共によく使うので例示してみます。

ピアジェによると人間の認識は赤ちゃんの時の感覚運動期を経てその後表象的思考期に入ります。表象的思考期は前操作期と操作期に分かれます。前操作期は前概念的思考段階、突貫的思考段階に分かれます。その後学童期に入ると具体的操作期、思春期に形式的操作期になります。人間の心、あるいは脳というものは公理主義的ではありません。バグも多いし矛盾も多いでしょう。特に発達期にはそもそも思考力が十分に発達していません。

大人になって認知機能が十分に発達したとしてやはり素朴な实在論だけで心をとらえるのには無理があります。脳はある程度ネットワークとしてみないといけないので情報科学との親和性が出てきますが、ネットワークが作り出す実体感は实在論のそれとは違うものです。哲学でも心理学でも認識の理論の研究は行われますが、どちらも未完成の分野で発展段階ですので、実験系でなく理論系の研究も行う場合には現代哲学の素養がないと理論が古臭くなります。

ここで人間の発達段階について考えてみます。

ピアジェという発達心理学者が人間の認知の発達について考察を行っています。ピアジェによれば発達に関する基本機能として、シェーマ、同化、調整という3つの概念を挙げています。

- ①シェーマ：経験によって形成された枠組み
- ②同化：持っているシェーマを当てはめ新しく理解する

③調整：新しい事柄に適応するため、シェーマを変えていく

そのような機能を前提に人間の発達段階を分類しています。

最初は1.5～2歳の赤ちゃんの頃で感覚運動期と言います。これを過ぎると表象的思考期と言ってある種の抽象的思考が出来るようになっていきます。1.5～2歳から7～8歳までを前操作期と言い、1.5～2歳から4歳頃までを前概念的思考段階、4歳から7～8歳までを直観的試行段階と言って幼稚園に入るまでの認知発達です。何にせよ幼稚園児相当の認知発達がないとなかなか社会人としては生活は困難です。

7～8歳から11～12歳までを具体的操作期、12歳からを形式的操作期と言います。学童期の学習では中学の壁と言いますが、それぞれの時期に認知能力の飛躍が見られます。しかし個人差もあり必要な認知発達に到達してない段階で中学校の勉強を始めてしまうと大きな壁にぶつかり不適應を起こすことがあります。発達の速度は人それぞれでありそれには生物学的な要素が大きいのでまだ生粒学的に脳の発達が学習内容に至っていない段階で学習させるといろんな悲劇が生じるのは小児精神科の外来ではよく見る所です。注意点はこういった発達段階は学習によるだけでなく生物学的な成熟が必要だということです。逆にいうと、ほっといてもそのうち出来る様になることを急いで身に付けさせる必要はありません。問題は幼稚園、小学校、中学校の受験や塾に行かせる場合で、子供の生物学的な発達に対して過剰な負荷をかけ、親が叱ったりして情緒的な負荷をかける場合です。その場合いい進学先に入れるかもしれませんが、将来の精神疾患の罹患の原因になる場合もありますのでご注意ください。

具体的操作期というのは表象的な思考が可能で概念的な思考も可能で抽象的に考える能力は未熟ですが具体的な対象に対してある程度論理的に考えられる段階でこれが小学校の時期に当たります。

思春期に近づくと形式的操作期と言って、表象的、概念的に思考できるようになり、観念的な想像を利用した抽象的、論理的思考が可能になります。これが大人ですが、この新しい思考様式と現実との間に不適應が起こると思春期の危機を迎えます。大学で高等教育を受ける際にはできれば形式的操作期には達して十分に抽象的思考を出来る様になっていることが望ましいでしょう。

20-4 公理主義と情報科学・計算機科学

逆に公理的なものは演算装置で代用できるので別に人間でなくても場合もあります。ライプニッツやチューリングはそのような演算装置を想像しました。

現代のコンピュータの成立にはフォン・ノイマン、アラン・チューリング、ライプニッツその他無名、有名関わらず、いろんな人が関わっています。そもそもコンピュータは職業で、航路計算や三角関数計算をしていた人々でした。情報科学を支えた人たちは数学者

がたくさんいます。認知科学の初期の人々にも数学者がたくさんいます。ライプニッツは時代が違いますがこの人たちは純粋数学、というか現代数学に精通し公理主義などあたり前に知っている人々でした。数学者から見ると現代思想などは数学の哲学への応用にすぎません。純粋数学を愛している人たちは哲学のような世俗な学問に興味はないのです。かつてラッセルはいいました。「私は頭が一番働いていた時に数学をやっていて、頭が働かなくなってきたら論理学に転向して、更にさえなくなってきたら哲学に変更して、ばかになつてしまったので評論家になって・・・」

20-5 その他の自然科学

数学、物理学以外はそもそもどの自然科学の学問も数学や物理学の応用科学です。そういう意味で構造主義がもともと土台として入っているとと言えますし、新しい理論をそれらの学問で作る際にはやはり公理主義化が可能です。ただより現実とじかに接する学問が多いのでそこまで公理とか近代的な言葉ですが原理原則にこだわる必要はないので公理主義に対する意識はファジーでしょう。数学者と言えども公理主義を知らないと数学ができない、数学で功績を挙げられないという訳ではないので教養や数学、ましてや哲学を重視しない理系学部は結構見られます。

認知科学、情報科学と現代思想

20-6 公理主義と情報科学・計算機科学

逆に公理的なものは演算装置で代用できるので別に人間でなくても場合もあります。ライプニッツやチューリングはそのような演算装置を想像しました。

コンピュータの成立にはフォン・ノイマン、アラン・チューリング、ライプニッツその他無名、有名関わらず、いろんな人が関わっています。そもそもコンピュータは職業で、航路計算や三角関数計算をしていた人々でした。情報科学を支えた人たちは数学者がたくさんいます。認知科学の初期の人々にも数学者がたくさんいます。ライプニッツは時代が違いますがこの人たちは純粋数学、というか現代数学に精通し公理主義などあたり前に知っている人々でした。数学者から見ると現代思想などは数学の哲学への応用にすぎません。純粋数学を愛している人たちは哲学のような世俗な学問に興味はないのです。かつてラッセルはいいました。「私は頭が一番働いていた時に数学をやっていて、頭が働かなくなってきたら論理学に転向して、更にさえなくなってきたら哲学に変更して、ばかになつてしまったので評論家になって・・・」

コラム2 現代思想と現代数学、情報科学、計算機科学

これからこの教科書を書き進めていく上で色々な他の分野の学問を例に出して説明しま

す。その学問の分野は皆さんにとってなじみがあるかもしれませんが知らない学問が出てくることがあると思います。この教科書では数学基礎論を例に挙げて説明することが多くなります。

用語の違いなどを除けば数学基礎論の公理主義と現代哲学は同じ学問ということになります。数学基礎論を学ぶと現代思想の勉強が楽になりますし、逆もまた同じです。同じ構造の学問同士は勉強しやすいのです。“構造とは何か”これも後の章で説明します。実際には数学基礎論は現代哲学よりも先に発展した学問ですので、数学基礎論は現代哲学の母体のひとつでありプロトタイプです。

これは現代哲学だけではなく結局のところ学問というのは確実性の探求ですので全ての学問に当てはまります。確実性を追求する学問は現在現代哲学や数学基礎論を土台としています。19世紀後半から色々な学問に構造主義が持ち込まれ、公理主義は構造主義の一種です。構造主義と確実性は関係ありませんが、公理主義は構造内部で確実性を担保するように作られた構造ですので構造の特殊なものになります。裏を返せば公理化されていない構造というものもあります。現代的な構造主義の確立と構造内での確実性をいかに保証するかが数学基礎論や現代思想の母体になっています。

情報科学や計算機科学は現代数学の一部門ですので本書ではやはり例示の際にしばしばPCや情報科学を用いて説明します。

第21章 自然科学以外の科学の現代哲学の応用

21-0 人文科学、社会科学の中にはそもそも公理主義が適用できない分野があります。その様な分野の紹介とその理由を解説します。

21-1 経済学

これは例外的に理論構築に数学がよく使われるので現代哲学を方法として知っておくと便利です。実際にモデルや理論構築の差異に公理主義化の作業が行われることも多いようです。そもそも欧米の大学では経済学は理系として扱われるようです。というか理系、文系という分け方をしないようです。

21-2 法学

これは社会科学と思うのですが、公理主義が一番適用できるようでいて一番適用が難しい分野かもしれません。まず憲法から言うと日本では中国にならって聖徳太子やその後の律令制で最高法規の憲法が造られ明治憲法制定まで原則は続いていたはずですが機能していたとは言えなかったと思われまます。明治憲法は明治維新の元老たちがいた間はまだ機能していたようですがその後抜け穴を突かれて良い形で機能しなくなり大日本帝国は滅亡し

てしまいました。日本国憲法は素人 25 人が 9 日間で作った即席憲法なのであまり中身があるとは思えません。アメリカが適当に作った憲法で台湾も韓国も憲法の構成が日本国憲法とそっくりなようです。最高法規が適当だからという訳でもありませんが、法は制定にも運用にも政治的な側面、人間的な側面が入ってきます。政治的な側面、人間的な側面は構造主義では解析できるかもしれませんが公理主義では解析できません。以下はそういう分野について見て行きます。

21-3 言語学

これは自前で構造主義を創り上げた学問と言えます。構造主義的言語学というのがソシュール以降も研究され他の学問分野に応用されました。構造主義的ではありますが、公理主義的ではありません。自然言語というものは無矛盾だったり完全性を追究したり独立性を追究したりするものではないからです。公理主義のような規制が外れていますのでより一般的な構造主義を使って研究することになります。言語学からより一般的に記号学、記号論という分野が生まれます。言葉以外の象徴も広く含めて分析するものです。言語は記号であらわされますが、ノンバーバルなコミュニケーションを日常我々は行いますし絵画などの芸術作品は象徴性を利用して意味を持たせています。また意味が失われて分からない言葉やメッセージを理解する際に構造主義的手法が用いられます。表現されるものとその表現である記号の一致がコミュニケーションの前提の仮定にありますが、その一致が分からなくなっていたり、意味が失われていたりする場合、差異と関係性に注目するアプローチがとられる場合があるからです。

21-4 文化人類学

日本では民俗学とも呼ばれます。文化が違ったり情報が少ない文化を解析する際には構造主義的アプローチを用いることが有用であることをレヴィ・ストロースが示しました。これは構造主義流行のきっかけとなりました。未開の民族の我々にはよく分からない風習や習俗から差異や関係性を観察し規則性を見出しその意味を探るアプローチです。神話のような現在では意味が失われている物語の分析にも使えます。というか意味やルールが我々の合理性では分からない場合、言語的なコミュニケーションによる理解ができない場合には構造主義でアプローチするのが一つの手法になります。

21-5 文献学、書誌学、歴史学、テキスト論

文学や歴史を含めて文献を研究する場合にどうしても我々は勘違いが生じます。我々が真実と感じている世界ですら現代思想ではシミュレーション、シミュラクルと言ってまがい物としてみると前に書きました。テキスト自体もそうですし、テキストを通して理解することもやはりそうです。ただ近代であれば真実ではない、真理ではない、事実ではない、まがい物であるといったことはネガティブな意味になるでしょうが現代哲学ではそれ

をネガティブとかポジティブとかいう 2 極構造で単純には判断しません。そういう考え方もあるのか、くらいです。良くも悪くも寛容な哲学です。多様性を理解し謙虚な姿勢は訓練されます。また曖昧さに強くなりまた曖昧さを愛することもできます。テキストが多様な意味を持つということを肯定的な評価もできます。

文献学では中国などは実は文献が残っていない国です。王朝交代のたびに焼いたか焼けてしまったようです。日本などに重要な文献が残っていて、明治期に逆に海外に流出し海外で保管されている例もあります。

考証学分野では日本は世界のトップで古義学の伊藤仁斎などは老子は後代の作と証明し、懐徳堂の富永仲基は加上説で大乘仏典の多くは後代の創作であると示しました。森鷗外の渋江仲裁の友達、森立之や中医師の岡田健吉氏は傷寒論が宋代以降に再編集されたものであることを示し傷寒論原理主義的な古方派から黙殺されています。聖書学は 20 世紀からでやはり聖書が色々な時代に色々な立場の人が加えたり編纂し直して形成されていったことを示しています。

22-6 倫理学、思想史

近代以前の思想は整合性を重視し、合理的、論理的、理性的であろうとします。この場合の理は公理ではなく原理とか公理とは別の意味で、真実、事実、真理、正しさ、正義と結びついていることばです。言い換えれば実在論に基づいています。倫理学で扱う思想はおおらかで矛盾があるのを機にしないようなものから西洋哲学のように矛盾を締め出しがちがちに正しさを主張するようなものまで広く含みます。

大体の西洋思想は仮定や信仰を意識的、無意識的に導入しその正しさを主張するので形而上学となってしまいます。思想はその発案者一代限りのものもあり、あるいは西洋哲学は非常に科学に謙虚なので矛盾を理解しそれを改良しようと後に続くものが改善に努めます。そうした中で教条化してしまう思想もあります。近代に政治的に大きな影響を及ぼした共産主義です。

19 世紀末から 20 世紀後半までの知識人は殆んど共産主義に影響を受けてきました。社会的にはマルクス主義の実現が世の中のためになると考えていた人が多く、それは今でもそうです。しかしマルクス主義に歴史的な一貫性がなく前期と後期で構造上の断絶を見出したのがルイ・アルチュセールです。

今の聖書はユダヤ教の聖書やタルムード編纂より前なのでキリスト教は実はユダヤ教より古い宗教ですが、ユダヤ教は中世の文献はよく分かりませんがキリスト教の文献の方が教会などにまだ残されていると思われれます。ユダヤ教も最初は異端だったハシディズムが正統派とされるなど歴史と共に変遷しているため古い宗教と言っても昔と今が同じ宗教であるかどうか分からないのは他の宗教と同じです。言葉も宗教も思想も時代と共に変わっていくのです。最新の研究でヤーウェ概念の変遷など見て行くとまさに諸行無常です。

21-6 芸術、デザイン、ファッション

文学もそうかもしれませんが、これは真善美の美に関わる部分です。これらは美の追求をする学問ですが同時にテクノロジーと言えるでしょう。これまでの学問は主に真善に触れてきました。デザイン、ファッションは機能性を考えなければいけない場合もありますが、機能性を度外視して美だけを追求する立場もあります。美というものはアイデアとして実体があるのかもしれませんが、構造主義が発案されて構造主義的なアプローチで歴史を見たり新たに創作、デザインされる流れが出現しました。ファッションではコム・デ・ギャルソンというブランドのかわきたれいやヨージ・ヤマモトの山本ようじで日本人が活躍しました。現代アートでなどのシーンでも現代思想を意識した作品が造られました。

21-1-2-2 構造主義の科学への波及、そして哲学への適用

基本的に全ての科学や学問の分野は構造主義が登場するまで素朴实在論を基礎にして研究されていました。構造主義が登場すると素朴实在論に変わる新たな基礎理論を手にしたこととなります。それまでは素朴实在論に変わる基礎理論がなかったのです。

現代的構造主義が成立したことで、全ての学問領域、科学分野で現代的構造主義を基礎に学問を構築し直す動きが起こります。あらゆる理論や体系と言われるものは現代的構造主義を基礎にすることが可能です。

自然科学の分野はこれは早期に行われました。まず数学の各分野の公理化が行われ、物理学の各分野にも行われます。自然科学の場合、体系内部での無矛盾性や完全性が行われるため、現代的構造主義の中でも公理主義が用いられます。また人文科学や社会科学の領域でも現代的構造主義を基礎に学問の再構築が行われます。構造主義は他の分野にも波及します。社会科学や人文科学では文化人類学のレヴィ＝ストロースや共産主義を構造主義化したルイ・アルチュセール、文学・テキスト論の構造主義化の論客、ロラン・バルト、文献学や書誌学の構造主義化のミシェル・フーコー、精神分析を構造主義化したジャック、ラカンが有名です。

第 22 章 現代哲学の精神科医療への応用

22-0 この章はおまけです。著者は精神科の臨床医なので現代哲学を踏まえてどの様なスタンスで診療を行っているかについて少し触れます。

22-1 構造主義的精神分析

これはそのまんま、ラカンの方法です。人間の人間をシェーマ L で捉えます。その人の現前がどの様に成立しているか分析します。

認識に関係ある症状、幻覚や妄想はそれが成立する理由を考えます。

統合失調症では幻覚や妄想がみられますが、被害関係妄想と言われるものが多いです。これはクレッチマーという人の敏感関係妄想や、シュナイダーの一級症状と呼ばれるものでも記載されていますが、思春期の対人過敏期に関係があると考えられます。人目が気になりどう見られているか怖いという心性がネガティブな念慮や妄想に発展していく力動を形成していると考えます。ですから治療としては発症早期ならば患者に安心感を与えないといけませんし、病気が進行してからもその配慮が必要です。統合失調症は脳の器質的な病気であることが徐々に明らかになってきつつありますが、精神病理学、心理学、精神療法、心理療法的なアプローチは欠かせません。

一方で幻覚や妄想は必ずしも悪いものではなく患者の心を守るための大小反応であるという反対の見方も必要です。躁状態で誇大妄想を呈しているのならそれは装的防衛と言って防衛機制の一種かもしれません。抑うつに状態になりそうな状態から心を守ろうとする反応かもしれません。

22-2 プロファイリング、ビッグデータ、情報・構造分析

臨床医としての能力を高めるためには、患者さんをたくさん見る。症例報告を読む、カンファレンスするなど含めて、沢山の症例と関わることが欠かせません。そうすることでデータを増やしていきます。患者さんに関するビッグデータを構築します。そしてそれらをプロファイリングします。つまり情報を集めて情報処理をします。研究のため統計的にきっちりする人もいるでしょうし、そうでない人もいるでしょう。情報に関する情報処理の仕方は沢山あった方がいいです。ですのでいろんな理論を学びます。その症例がどの理論に当てはまるか、どう解釈するかでアプローチもおのずから変わってきます。情報処理の仕方は沢山持っていればいるほどいいです。大統一理論のような一つの理論で全ての症例を分析できてしまうような理論か、高性能コンピュータと進んだAI技術、センサーなどのハード技術がもっと進めばまた違ってくるでしょうが我々はそれを自分の脳を受かって行います。

22-3 認知の歪み 脱構築、構築

認知行動療法で使われる言葉ですが、人はそれぞれ考え方に癖があったり思い込みがあったりします。そういうものは脱構築します。脱構築の方法は様々ですが、これもやはり勉強していろいろな脱構築の仕方を学んでおいた方がいいです。逆に脱構築ではなく構築しないといけない場合もあります。自信がない患者や傷ついた患者に励ましたり慰めたり優しさと栄養と信頼を造らないといけない時もあります。またその患者さんが持っていない発想や知識を持ってもらわない場合もあります。定型化していると心理教育などと呼ばれる場合もありますが、その患者さんがその時必要な考え方は人それぞれなので、その患者さんにかけている発想、または思考の構造と言ってもいいかもしれませんが、それを供給しないとイケません。特に精神科医で最も大切なのはこれです。ラポールが成立しない

と診療の関係が結べないことが多いです。誰でもラポールが造り易い患者さんもいれば、医者との相性があったり、どんな医者ともラポールがとりづらい患者もいます。

コラム

10-2 にならって現代哲学的に見た色々な概念を検討していきましょう。

例えば正しい、あるいは悪いという言葉について考えてみます。

ある言語では一つの意味しか持っていないように見える言葉でも他の言語では多義語の場合もあるし逆もあるでしょう。「いじめられる方も悪い」という言説が昔はありました。この場合の悪いとはどういう意味でしょうか。宗教的に悪という場合にも悪いと言います。倫理あるいはその行動既定の道徳から見て、道徳的に悪い、という場合もあります。法律的に悪い事という場合には違法であるということです。品質が悪い、などものの良し悪しにも使われます。仕事で悪い判断をした、という場合には間違った判断という意味です。頭が悪い、と言いう場合もあります。知能が低いことを指します。腕が悪い、という場合もあります。技能が上手でないということです。食べ物が悪いという場合もあります。腐っていたりする場合です。それぞれの場合の反意語は正しいではなく、善だったり、良かったり、上手だったりします。さて「いじめられる方も悪い」という場合に何が悪いのでしょうか。今では倫理道徳的に悪いものは悪いということが認識されているのでこういう言説はなくなっていると思われませんが、昔は「いじめられる方にも原因がある」という意味で使われていたようです。しかし悪いという言葉を使ったため、いじめる側が正しい面もある、いじめたのもしょうがなかったという風に言説が変性し、いじめにもしょうがない面がある、といういじめ擁護論に使われたりしていました。

22-4 環境、社会分析

精神科の場合は、患者さんの症状だけでなく、患者さんの置かれた状況のデータや、社会全体のいろいろな知識を持っているかどうかで全然医療能力が変わってくる場合があります。患者さんは社会という構造の一部なのです。ですから疾患によって性差や年齢差や業種・職種の差や移動頻度の差、社会構造の差、時代や世代の差など、様々な要素が関係してきます。それらを知らないとそもそも診療ができません。患者さんとのラポールも作れません。患者さんは何でも話してくれるわけではありません。話さない事まで理解して異なることまで医者への指示を守らない患者であることまで予想しないとイケません。

23-5 内面の構造解析

患者さんは疾患によって、あるいは単に個性で、あるいは環境によって、または生まれつきによって色々な考え方をします。我々精神科医はそういう人間の考え方の構造のコレ

クターのようなものです。いろんな構造を集めて知っておくのが必要ですので生涯勉強ですし、診療外の時間でもいつも人間や社会の勉強をしています。これはたぶん職業病のようなものだと思います。まあ最近はそうでない人も増えてきている傾向がありますが、昔は心理学や人間の心に興味がある人が精神科医になる傾向があって、精神科は医学部の文学部と言われていました。最近はそのようなのがやや流行らなくなってきたようですがそういう医師にも優秀な人が多いですし、古典的な精神科医のイメージにあった人が能力をうまく発揮できていない場合ももちろんあるので人それぞれです。

あるいは治療促進的な患者さんの認識がないか探していますし、それに対する介入方法を探しています。患者さんの情報をどのように分析し情報処理するか、これが一つの精神科医の腕の見定め方です。

22-6 統合失調症の予防

これは私が本書を執筆した大きな理由の一つであるが私は現代思想の普及、啓発活動は統合失調症の発症予防になるのではと考えている。現代思想を理解することは我々の認識に対する洞察を深めるし、認知能力、メタ認知能力を高めるからである。

統合失調の発症前からその人を含めたコミュニティー全体が現代思想を理解している状態を作り上げることが私の目標である。(オープン・ダイアログがなぜ治療的かも、精神科医にとって興味深いので掘り下げた方が。)

統合失調症という病気がある。広く言うと精神病の一種である。また神経症という病気もある。これらの病気に対する分析と治療が現代思想の母体になったという話は以前に書いたと思う。

統合失調症では認識が障害される。現代思想的に統合失調症を見てみよう。構造主義的精神分析を創始したラカン派の見方から精神病を考えてみる。

人間の認識機構では、認識される対象は構造の中で他の対象との関係性から形成される。これを現前という。現前したものは認識対象として臨在感をもっている所以我々はこの実在を実感しながら生きている。このこと自他が対象の存在の実在性の真偽について何か言えるものではないが、このような生き方はふつうであり健全である。我々は発達過程でこのような認識能力をまずは健全にバランスよく身に付ける。

精神発達はこの成し遂げられればとりあえずよしとしなければならない。それは素朴な実在観念を持ち続ける事であり、周りのみんなもそういう認識で生きていけるのであればそれはそれで健康的な社会である。これが近代までの認識であった。

現代とはそれとは異なり認識論が素朴実在論からポスト構造主義にまで拡張された世界である。万人がポスト構造主義を理解し、コミュニケーションの際に相互の公理を確認することができればこれはこれで健全な社会である。公理を一致させてコミュニケーション

することもできるし、公理が異なるのでコミュニケーションしない、あるいは公理主義を用いないコミュニケーションを行えばいいのである。公理を一致させたコミュニケーションはたとえば理数系の科学の話をするときには必ず必要であるが、たとえばお天気の話や世間話、趣味で盛り上がる時や愛について語る時には必要ない。我々は何かを厳密に語りたいたいときにだけ公理主義を使えばよい。あるいは公理主義を使わなくてもお互い公理化されていない構造主義を用いてコミュニケーションすること自体は可能であって、それは無矛盾性を担保しないが、そういうコミュニケーションもきっと無駄ではないかもしれない。何か創造的なことを行うためには既成の公理にしがみつくとよりある程度自由に話した方が生産的かもしれない。

さて我々の認識やコミュニケーションの日常風景について話したが、統合失調症では認識機構が障害されてしまう。その結果、ある種の認識対象に対する現前の形成が行われなくなることもある。あるいはある種の認識対象の現前が以上に強まりそれに執着してしまうことがある。人間は往々に自分の知らないということについて気が付けない。あるいは自分が知らないかもしれないということについて謙虚になれなかったり、その可能性を考えられなかったりする。「私は自分が知らないということを知っている」と言ったソクラテスや、「語りえないことについては沈黙すべきである」といったヴィトゲンシュタインはやはり偉いというべきであるが、なかなか人間そういう考え方を持ってない人も多し、持てる人でも常時それを続けられるとは限らない。統合認知症では認識の現前化機構が障害され普通の多くの人で自然に自明に現前されることが現前されなくなったり、現前が過剰に更新したり、あるいは普通の人に現前されないことが現前されて、妄想、幻聴、興奮などの症状が起こることがある。(この辺りは、精神科医にとって非常に面白いテーマなので詳しく説明。)それだけであれば誤解を招く言い方になるが、まだいいのであるが、統合失調症になると自分の認識形成の機構が失調して、認識にゆがみが生じバランスが崩れていること自体を認識できなくなることがある。自分が認知を行っていること自体を認知する自己言及的な認知をメタ認知というがメタ認知機構が上手く働かなくなる。

統合失調は百人百様の症状があると云った偉い精神医学者がいたが、もちろん上記は統合失調症の病態解説の一例であって、例外はいろいろある。しかし例外は例外として上記のように統合失調症を見ると統合失調症は認識とメタ認知ができなくなった病気と見ることができる。

統合失調は臨床的にも研究の結果でも早期に介入し早期に治療することが大変である。もっと言えばできれば発症予防することが大切である。フィンランドのアラネン学派は町急性期治療介入を行い、成果をあげてきたが地域ぐるみの統合失調症の啓発や教育、早期介入を行ってきた。彼の後継者たちは彼の意志を受け継ぎ今もいろいろな方法で精神保健医療福祉活動を研究、実践しているがそのなかには統合失調症の発症率を低下させたというデータがある

つまり 10 代 20 代の統合失調症の後発年齢で突飛な言動や行動を呈して何か認知機能に失調が生じているのではないかと思われる人を早期に発見し、メンタルケアを行うことにより精神病の発症を予防したり軽症化させられる可能性がある。

統合失調症は昔は地域や人種に関係なく発症率が一定の疾患と言われていたが、実際には発症には地域差があったり、発症しやすくなる特定のリスク因子が分かっている。

話しは変わるが病態水準の進んだ統合失調症では心理療法や心理教育の効果がなかなか出にくい。

私がクリニックで接している患者はストレス関連障害やうつ病などの気分障害の方が主である。精神科の治療では心理教育や心理教育は大切なものであるが、私はそれを現代思想に基づいて行っている。それはなぜかというと我々は患者さんの認識について分析と介入を行わなければいけない。そのための方法はいろいろあり、心理療法にもいろいろな学派があるが私はそれに現代思想を用いています。

患者さんのある物事に対する患者さんの認識は時に病気の原因であったり、病気に有害であったり病気を遷延させたりします。その様な疾患に悪い作用を及ぼす認識はなくしてしまうか変形したり変質させてしまうのがよいでしょう。逆に病気を治すために役に立つ認識や考え方を持っていなかったり、そういったものを持っていてもそれが弱すぎたりしたら、それを作り上げるか、強いものにします。

色即是空、空即是色と言いますが、精神科医は患者さんの認識を操作しなければいけない時があります。色即是空を現代思想では脱構築、空即是色を構築と呼んだりします。

、（この辺りも面白いので分量を↑。精神科医は何気ない行動や会話にアンテナを貼り経験を元に判断している、それが的確なほど優秀など。）情報分析の仕方や情報処理の仕方はたくさん持っていた方がいいです。スマホや PC にたくさん良質なソフトウェア、アプリやツールを積んでいた方がいいのと一緒にです。情報と情報処理は時に表裏一体のもので情報は情報処理することによって新しい情報が生まれますし、新しい情報の形が生まれれば別の情報処理方法が適用できたりします。これは数学基礎論の集合論などでも学ぶところです。

第 7 部 現代哲学による自己啓発と頭をよくする方法

第 1 篇で現代哲学の理論、第 2 篇第 6 部までで現代哲学の応用、実践方法や実際にどのように現代の基礎になっているかを説明しました。

これよりあとは趣を変えて卑近で世俗的な話ではありますが、どのように我々の欲求、欲望の充足に、願望充足に、欲求不満に、自己実現に現代哲学を役立てていけるかを考えてみます。

まず現代哲学をマスターした人としていない人の比較を行きましょう。

現代哲学をマスターすることで何が得られるか何を失うか明瞭になります。

全てを使って現代哲学を実践・応用するためのシステムを構築しました。

これは科学である現代哲学を科学とするためです。科学に対する技術と工学の関係になります。

さらに突っ込んでこのシステム構築でなぜ頭がよくなるのか、具体的にどのように用いていくかを説明します。

第 23 章 現代哲学の使い方の実践編

23-0 システムによる能力のアップデート

第 5 部で現代哲学を使うためのシステム構築を行いました。

現代の哲学のメタフィジクスを、形而上学を作ったわけです。この場合の形而上学とは何でしょう。形より上の学問が形而上学です。形とは何でしょう。イデオロギーのことです。形而下学は形より下の学問で各々のイデオロギーになります。古代より形而下はフィジクス、形而上学はメタフィジクスとされちました。ここでは若干意味を変えて用います。現代哲学の形而下学が家おろぎーとすると現代哲学のメタフィジクスはポスト構造主義を中心に設計されたイデオロギーを使用するための土台となるシステムです。

メタとは「高次なー」「超ー」「ー間の」「ーを含んだ」「ーを入れた」「ーの後ろの」の意味で前面に表れているイデオロギーの背後で作動している基礎のメカニズムでこれもまたイデオロギーと言えます。そこでメタイデオロギーと呼びます。これを歴史的な経緯を含めてポスト構造主義と呼びます。

どういうシステム化というとイデオロギーに上下を設けないという規則とイデオロギーを自由に選択できるという規則からなります。

第 5 部で学んだのは現代哲学の形而上学と形而下学です。

形而下学は本来は形より下の学問という意味で物理学や自然科学全般を指します。

形而上学はプラトンでいうイデア論がよい例ですが、その背後に働く観念的な世界で形而下学の本質のようなものとみなされます。

中国哲学では趣旨の理気二元論でしょう。気が形、物質で感覚で感じられ、世界を構成

しているもの、理がその背後にある法則です。

現代哲学の形而上学、形而下学はそれとは違う意味で用いましょう。

現代哲学ではデリダが「現前の形而上学」を書いたり、近代主義の形而上学という考え方には批判的です。

そこで形而上学と形而下学の意味を現代哲学で定義しなおしましょう。

形而下学とはイデオロギーの研究です。形とはイデオロギーを指します。この直接の分析ツールとして重要なのは実在論と構造主義、構造主義的哲学でしょう。

形而上学とはポスト構造主義を指します。認知、自由主義、等の言葉はイデオロギー、つまり形而下学でも使いますので、区別しラベリングするために、形而上学の概念にはなるべく「メタ」という言葉をつけましょう。メタ認知、メタ自由主義、メタイデオロギーなどです。実体的にはメタイデオロギー=形而上学=ポスト構造主義といえるでしょう。

では現代哲学の活用法を説明しましょう。

23-1 現代哲学の2大ツール

現代哲学の使用法を大きく分けて2つに分けましょう。

①メタイデオロギー=形而上学=ポスト構造主義を使いこなす。

②実在論、構造主義を使ってイデオロギーを生成、分析する。特に構造主義を使ってイデオロギーを深く新しく研究する。構造主義の脱構築、現前、差延などの概念を学ぶ。

突き詰めていうとこの現代哲学の実践、応用で学ぶことは上の2つといえるでしょう。

23-2 思考の選択肢、可能性が増える。

この2つを使いこなすと頭がよくなります。自己啓発にもなります。なぜそう言えるのでしょうか。

現代哲学の3要素は①実在論、②構造主義、③ポスト構造主義、でした。

①は近代思想、モダニズムでも用いられます。また人間が発達の過程で自然に身に付けるものでもあります。ですからすでに理解している場合や理解している、あるいは理解できることを気が付いていないだけです。どちらにしても成長の過程でそれを使いこなすように発達していきますし、教育、訓練もなされます。ですからこれは誰でもすでに習得しているものと考えましょう。

すると現代哲学を学んだことで新たに身に付けたことは②構造主義、③ポスト構造主義となります。

①だけでなく②と③を身に付けたのだから単純に考えて頭が約3倍良くなる、とざっくり考えてもいいでしょう。もう少し複雑に考えるのなら1つから3つに加わったので3倍と単純に考えたくないかもしれません。経済学の初歩を学んだ人なら遞減していくので3倍以下と考えるかもしれません。また数学の順列や組み合わせ、関数について学んだ人で

あれば、倍になる、あるいは指数関数的、あるいは別の関数に従い遡増すると考えるかもしれませんが。とりあえず思考は 2 つの新しい考え方が加わっただけで複雑になります。複雑になれば、より多くの場合分けを考えるのでいろんなアイデアを提案できたり、より多くの考え方を使得って物事を見られるようになるでしょう。多いのがいいこととは限らないかもしれませんが。頭は疲れるし、総合や判断が疲れる時もあるかもしれませんが。考えすぎて行動が遅くなるかもしれません。しかしにべもありませんが結局ものは使いようです。そこらへんは自分で訓練してコントロールしてください。とにかく確実に言えることはキャパシティが大きくなるのと可能性が増えることです。人間とは何か、可能性である、という実存哲学者もいます。ハイデガーやサルトルはその問題を考えました。より多くの可能性があればより多くの選択肢があり、選択肢が多いことが自由度の指標でもあります。逆に考えてみましょう。どんなに外部が自由を増やしてくれても、自分の中で選択肢が少ないならその中の組み合わせで選ぶしかありません。しかし可能性が増えていくと劇的に選択肢が増加します。当たり前ですが足し算ではありません。組み合わせなので掛け算や指数関数的に増える可能性があります。有り余る可能性から選べることは自由度が高いといえるでしょう。

そしてよりたくさんの方の選択肢を創造できる、あるいは蓄積し想起できるという事は頭がよいと言っていいでしょう。

第 24 章 知情意のコントロール

24-1 情と意をコントロールする。

別の根拠も示しましょう。思考力、思考量、思考数、思考の質が上がることは精神に別の面での影響と及ぼします。

電動的に精神医学、あるいは心の研究では精神を 3 つの点から考えます。知・情・意です。精神科の疾患分類は昔はそれによって作られており、今でもその名残があります。

この教科書で扱うのは現代哲学、フィロソフィーすなわち智と愛、リベラルアーツすなわち自由と技術です。フィロソフィーの愛以外は全て知です。フィロソフィーの愛と言っても智への愛というのが主眼で、好奇心、関心、興味、新規性探求などを示す知的な側面を多く持ちます。

情すなわち感情や気分、意すなわち意志や欲求については主眼に置いて基本的に扱いません。扱いませんが、知・情・意は密接に関係しているので実際の人間の精神を考える場合、特に現実の日常社会生活、精神医学のような精神を扱う現場、哲学の現実応用のような実使用論的な場面では大切な問題になります。

基礎編では情と意についてはラカンのシェーマ L などで S としてひっくるめて考えました。また意識という言葉に意という言葉が含まれますが、哲学の「現前」という概念を考える際に重要になります。これは応用編においては本文を割いて説明します。重要な問題だからです。

シェーマ L の S は精神分析学の S を由来としていますが、これはシェーマ L ではある程度ブラックボックスとして理論構成しました。人間の精神、認知、認識は実際には訳が分からないもので認知科学、心理学、精神医学でも全く（と言っては学者の先生方に失礼かもしれませんが）解明されていません。ですが精神の要素の間には複雑な関係性があることは分かるでしょう。

第 2 篇では思考を用いて情や意をコントロールする方法を説明します。知のみでなく情と意も思考の力でコントロールします。ですから第 2 篇は自己啓発のためにも役に立ちます。モチベーションコントロールやエモーショナル IQ を高めるからです。

第 19 章 まとめ

科学というものは役に立たなければいけないという科学哲学というものがアメリカを中心に栄えていましたし現在もそうです。

そういう意味ではどの科学分野にもその科学を応用した応用科学、すなわち工学があればよいでしょう。

実際には科学は、特に理論系科学、数理科学、すなわち数学や物理学は現実の観察や実測を伴わず理論は理論として研究します。昔は物理や数学は現実を研究する手段として理論が後に形成されることも多かったのですが、現代では逆転しています。素粒子も宇宙論も理論が先行して実証するための測定技術の発達待ちです。

デカルトやニュートンやパスカルは物理学者兼数学者として有名でしょう。ガウスやポアンカレなども有名かもしれませんが。アインシュタインの特殊、および一般相対性理論は理論を説明する数学的道具はローレンツ変換やヒルベルトの親友ミンコフスキーのミンコフスキー空間としてすでに数学 k で研究されていました。量子力学の数学理論もシュレディンガー波動関数もハイゼンベルグの行列力学にせよ数学ですすでに研究済みでした。アインシュタインの理論の帰結として予想される重力波やビックバン宇宙論はより後年になって実測されています。

理論、体系といったものは

第 25 章 高級、高次、高階の自己啓発としての現代哲学

現代哲学の習得は自己啓発役に立ちます。

単純に考えて、実在論しかなかった近代的思考に比べて、構造主義（構造主義的哲学）、ポスト構造主義を身に着けるので、差し引き、構造主義とポスト構造主義が加わった分だけ頭がよくなります。それぞれ同等くらいの量だとすると 3 倍賢くなるかということ、数学の組み合わせや順列などを勉強したことがある人なら単なる足し算ではない可能性に気が付くでしょう。

膨大な思考の複雑性を手に入れます。複雑というと頭が悪いみたいなイメージを持つかもしれないので、いいかえると単に、2 倍、3 倍ではない、掛け算、指数関数などのような爆発力を持つ場合分けの増加を予想できるでしょう。

場合分け、可能性と選択肢をより多く持てばそれに相関して頭はよくなるかもしれませんが、グラフとしては上突で頭打ちになるかもしれませんし、考える量が多すぎると脳が披露してよくない面もあるかもしれません。

しかし単純に考えれば、思考力が上がります。

思考力の増大は頭の良さといってもいいでしょう。

更に思考の質量ともに上昇したことにより、感情や意欲のコントロールの能力も上がっています。

当たり前ですが、頭のいい人のほうが感情や意欲のコントロールが上手です。

思考が感情や意欲をコントロールすることを手伝うからです。

ですから現代哲学マスターになると自己啓発能力が上がりまし、学ぶこと自体が自己啓発になります。

メタ

モダニズムの上位互換、

第 26 章 現代哲学をマスターした人、しない人の比較

26-0 現代哲学をマスターすると何が変わるか？

この章は気楽に読めるようにしました。

現代哲学を理解している人としていない人の各論を描写します。

現代哲学で何が変わるのか、感覚としてまず理解して頂けるようにしました。

変な話、頭を良く見せようとするれば実は簡単です。勘違いや詭弁が人生や社会に重要なのは修辞学（レトリック、レートリケー）と詭弁とソフィストが跋扈した古代ギリシアから変わりません。ソフィストだけだと頭がよく見えますがロゴスがないことをソクラテスに批判され、起こってソクラテスを死刑にしてみました。人間自分の知っていることだけを語れば神になれます。CPU、メインメモリー、マザーボード、ハードディスクが優秀ならソフトがくそでも頭を良く見させることも可能です。

しかし話してみればわかります。いわゆる脳の構造が分かります。構造の中核をなす現代哲学の理解や論理学の理解はすぐに裸になります。

現代哲学を勉強して本当の頭の良さを身に付けましょう。

26-1 メタの獲得現代哲学で一番変わるところ

現代哲学を身に付けることで全てがワンクラス、ワンタイプ上位互換します。

これを「メタ」の獲得と名付けましょう。

メタ、とは「超」とか「超越」とかそういう意味です。

認識、行動、全てのものが1ランク上がりメタが付きます。

認知力はメタ認知を獲得することができます。イデオロギーに対する見方はメタイデオロギーとイデオロギーに分けてみるすることができます。自由空間を獲得でき、メタ自由主義者になることができます。自由主義空間の中でメタ主体性を獲得します。

主体性を通常のイデオロギーを信奉して行動することだとすると、メタ主体性はまずイデオロギーを客観的に見て自分のその時、その状況でのイデオロギーを選択する主体性です。

通常のリベラル思想（政治、経済、社会）の作る自由空間と比べると、現代哲学のつくる、ポスト構造主義というメタイデオロギーと選択対象であるイデオロギーを自由に選べる状態はメタ自由空間といえるでしょう。

現代哲学を理解したもの通しで話す場合に、通常の個人主義ではなく、メタ個人主義と呼べるでしょう。コミュニケーションが現代哲学を踏まえた上で行われるからです。

近代は各人、または集団が物語「ナラティブ」の世界に住んでいました。リオタールという人がメタナラティブ、近代という大きな物語の終了と言いましたが、我々の人生が物語であることは変わりません。

我々が現代で生きる物語をイデオロギーの猛進による偏狭、排他的なものではなく、多くの人々と寛容、優しさが保証できるように現代哲学を生かした生き方をメタナラティブと定義しておきましょう。

我々は現代哲学によってわくわくするようになつてない大きな物語を生きる可能性を手
にします。

26-2 自分の芯が変わる

現代哲学を理解した場合、第 9 章を理解してもらおうとメタイデオロギーとしてのポスト
構造主義とその他との間に自由空間が出現します。ここが主体性、メタ認知、メタ自由主
義、メタ個人主義が発生する場です。

我々はこのベースを常に失わず、他のイデオロギーを認知し選択します。

さて現代哲学がないとこの過程の自覚がありません。イデオロギーがあつて自分がある
状態がもやっと存在します。

通常イデオロギーを持っていない、あるいは失われてしまった状態をアノミーとしまし
よう。

そうすると現代哲学を理解していない人はメタアノミー状態といえます。イデオロギー
があるのはしついてもこのメタイデオロギーやメタ自由空間を理解していないので、自
分をイデオロギーの関係はぼんやりで自覚がありません。自覚があつてもその形をはっき
りわからずぼんやりですから何かあると基礎と根本がないのですぐにぐらぐらになつてし
まいます。

まとめるとポスト構造主義者とメタアノミーな人の比較対象がこの章の要点です。

現代哲学をマスターしている人は思想体系、土台と基礎構造の理解があり、それが芯に
なります。

メタアノミーな人はそのところの自覚がなく、あつてもそれが何かわからず芯があり
ません。

メタアノミー、アノミー、メタイデオロギー、イデオロギーを理解してもらうことがこ
の教科書の主題です。

26-3

では現代哲学マスターとメタアノミーな人の比較を行っていきましょう。

キーワードはメタです。

まずイデオロギーがあるとしましょう、キリスト教でもマルクス主義でもナショナリズム
でも多神教でも何でもいいです。

現代哲学マスターにとってはそれはどれもただのイデオロギーにすぎません。どれかが
絶対的に正しいということもありません。現代哲学マスターにしてみるとイデオロギーは

どれも絶対に正しいと思えるものはありません。何かが欠けていて完全になるためには仮定や信仰で埋めなければいけないものに見えます。そういうことを理解したうえで、その時の状態や必要に応じてイデオロギーを選択します。イデオロギーによっては他のイデオロギーを否定して自らの絶対性の信仰を強いたり、一生信じることを求めることもあります。

その場合現代哲学マスターと言えども迷います。現代哲学を理解しているために、そのことの意味の重要性を理解しています。また自分の決断に誠実であろうと筋を通そうとする人情があるかもしれません。

一つの方法は現代哲学マスターをやめて、ただのメタアノミーな人に戻りそのイデオロギーを信奉してしまうことです。

また別の方法は現代哲学マスターであったまま、そのイデオロギーを信じることです。現実にはこれが多いと思います。一回りっかり理解してしまったことを忘れることは困難な場合が多くあります。また人間の脳の仕組みだと思いますが、人間は矛盾したことを信じるのが苦手ではありません。

人間突き詰めなくてもあいまいに生きていいのはインドネシアのイスラム教徒を見ればわかるでしょう。私も友達のイスラム教徒に帰依を毎日帰依を進められていますが、戒律はできる範囲で守ればいいそうです。

またその時は真剣にそのイデオロギーに従って生きることも可能です。現代哲学の上層の枠組みは世俗性がないので他のイデオロギーとぶつかることがあまりありません。汝の他に神はなしと言われても、別にポスト構造主義には何の関係もありませんのでそれを信じてメタイデオロギーであるポスト構造主義を信じてても矛盾は特にありません。

ただイデオロギーが他のイデオロギーに対して排除、攻撃を行う場合は皮肉をいう能力が生じます。なぜなら攻撃する側のイデオロギーにメタイデオロギーであるポスト構造主義から見れば排除、攻撃をするだけの正しさを保証する根拠はないとみるからです。イデオロギーの正しさはそれを支える仮定や信仰によっているとしか見えません。

ですからポスト構造主義というメタイデオロギーは色々なイデオロギーと共存可能です。ポスト構造主義のようなメタイデオロギーを意識して否定、攻撃するイデオロギーはあまりないと考えられます。

そもそも現代大きな勢力を持っているイデオロギーは現代哲学の前にできたものが多いですし、現代哲学以降に現代哲学を意識して作られたイデオロギーは現代哲学の応用が多いか、批判したとしても本質的なポスト構造主義という中核を批判していても批判の根拠がよくわからないものが多いからです。

またその時はあるイデオロギーをすっかり信じてしまいメタイデオロギーを抑圧してしまうのもいいでしょう。

またそのイデオロギーに対する思いが薄まれば戻ってくればよいのです。

一方メタアノミーの人々はどうでしょう。

イデオロギーを選ばない場合は何となく情状性で行動している感じでしょう。これはこれで構いません。ポスト構造主義者のイデオロギーを選ばないスタンスと特に違いはないでしょう。

一方メタアノミーでイデオロギーを選択する場合はどうでしょうか。これは何となく行われます。これはポスト構造主義の場合と同じです。ただ若干何となく選んでいることの自覚が薄い場合があります。

更に根拠づけしてそのイデオロギーを選ぶ場合があります。その根拠が自分の好き嫌いであればやはり現代哲学者と変わりません。変わるはその根拠を正当化し始める場合です。この自己正当化という考え方は現代哲学者にはありません。そこでこの自己正当化の根拠を認めずむしろ気づかずそれをしてしまえば自己批判をするのが現代哲学者のスタンスになります。

これはニーチェが研究した無意識の自己正当化、権力の意志というものになります。人間の内面的力動は自己正当化の方に働き、捏造、改竄などの操作を気づかずしてしまいがちなのでそれに対して自覚的であり、注意し、早期発見、早期予防し、見つけたら自己批判して改めるか、改められなければ自覚し続けようというのが現代哲学者の考え方になります。

一方メタアノミーな人たちはこの場合にはグダグダになってしまい、論理的になれず、感情的になる場合があります。また過剰に攻撃的になったり防衛的になったり冷静、中立、客観を失うときがあります。これはメタ認知障害で可逆的であれば問題ありませんが、脳委縮などの器質的変化や不可逆性を伴う場合がありますそれが統合失調症の一つの病態生理ではないか、というのが精神病理学の仮説になります。

26-4 イデオロギーの選択者間のコミュニケーション

12-1 では現代哲学者とメタアノミーな人とのイデオロギー選択における違いを説明しました。

まとめると現代哲学者はイデオロギーの選択が完全自由ですがその事に自覚的です。

メタアノミーの人たちはイデオロギーの選択の基盤がしっかり作られていないので、様々な非合理的、非論理的情緒反応を起こします。なぜなら元々何らかの理を持っていないので、理に合わせることも理を論ずることも言葉の定義から言ってもできません。それらしき事をしているように見えても、後付けで適当な理を作っているだけです。

そこで実際に現代哲学マスターとメタアノミストが何らかのイデオロギーを選択している場合を考えてみましょう。

現代哲学マスターであるイデオロギーを選択している人と、メタアノミストであるイデオロギーを報じている人の間のコミュなケーションを考えてみます。

あるイデオロギーが同じである場合にはそのイデオロギーのルール内で円滑に事が運ぶ場合があるでしょう。一方イデオロギーは矛盾や整合性を欠いている場合も多いので意見が分かれたり、更には対立する場合も出てくるでしょう。その場合に両者にどのような反応が生じるのかを考えてみましょう。

まず現代哲学マスターは意見が相違した時にも冷静です。そもそもそういうことがあるのが普通としか思っていない。そのイデオロギー以前にメタイデオロギーに立脚しているので道具の性能の限界くらいにしか思いません。現代哲学マスターはそういう事態に対して寛容、謙虚、優しさがああります。忠恕（真心と思いやり、まじめな事と許すこと、自分と相手の心に対する洞察）と親和性がある考え方です。場合によってはそのイデオロギーを修正したり破棄して別のイデオロギーに移ればいいでしょう。

一方メタアノミストは冷静な場合もありますが感情的になってしまう場合もある様です。そのイデオロギー以外によって立つ基盤がないのでしょ。

心理学レベルの問題になります。人間は意見が合わない時心地良さを感じない場合があります。不快感を感じる場合もあります。意見が合わない相手をネガティブに思う場合もあります。

あるいは謙虚になった場合、イデオロギーの不信感、相手や自分への劣等感、文字通りイデオロギーを捨ててアノミーになってしまう場合もあります。

アノミーになってあるいはならないうちに別のイデオロギーに移った場合も、やはりそれに根拠なく、なぜ自分がそちらに移ったのかに対する説明が不整合になりがちです。メタイデオロギーがないので、情緒的な話や、理由の後付けや、メタイデオロギーに至らない下位レベルのイデオロギー同士の何となくの比較で転籍する感じです。

さて現代哲学マスターに対する態度はどうなるでしょうか。やはり行き当たりばったりでしょうが絡んでくる可能性があるので注意が必要です。何にせよいったん原点、根本に戻る、すなわちメタイデオロギーに還る、ポスト構造主義に戻るという事ができませんので、イデオロギー間で横に移動したり、イデオロギーを複数抱えたり、イデオロギーを持たない、すなわちアノミー状態になります。

意識的な自覚で考え判断し行動しているわけではなく、無意識的な何かで根本のところは動いていますので、現代哲学マスターの理解の範囲を超えます。現代哲学はシェーマ L のところで見たようによくわからない部分、特に情意の部分に S としてひっくるめてブラ

ックボックスとします。そこへ行く矢印も無意識の関係と言ってやっぱりブラックボックス的な扱いをします。分からないところはわからないと謙虚、寛容を持つのが現代哲学のいいところですが。ただし現代哲学マスターとして経験を積んでくると、そういう人の思考、行動パタンの色々な類型に接してなれてくるので、トラブルなく事を運ぶようになってきます。

ではメタアノミストは現代哲学マスターにどういう感情を持ちどういう思考をするでしょうか。大まかにいうと、よくわからないやつだと謙虚に感がてくれるか、自分のわかる範囲の範疇に組み込んで決めつけてしまう傾向があります。ポジティブには頭のいい人、ネガティブには頭の悪い人や変人など。

思考に関するメタイデオロギーがないので基盤が弱く情意に左右されがちなので現代哲学マスターはそこを注意します。

逆にメタアノミストは結局は得体のしれない感が哲学マスターに対してぬぐい切れないので、警戒感を多かれ少なかれ持つようです。時にメタアノミストの何かよくわからないコンプレックス（精神複合体、精神分析学の意味で劣等感などのネガティブな意味はない）にふれ何らかの知情意をおこされることがあるようです。とにかく何らかのイデオロギーを持っていない場合、思考、発言、行動の予測が難しくなるので注意が必要です。イデオロギーを持っていてそのイデオロギーに誠実であればより理解しやすくなるでしょう。

第 27 章 現代哲学で得られるものの総括、まとめ

27-0 現代哲学を習得すると頭がよくなります。なぜ頭がよくなるのか、具体的にどのような頭の使い方のオプションが増えるのかについて説明します。

現代思想を理解すると頭がよくなります。頭の回転がよくなったり記憶力が増すことは直接的にはありません。

しかし、情報処理や整理のための強力なツールが手に入ることになりまますので間接的には CPU のスペックアップにつながり、ワーキングメモリーやメインメモリーを増すことになるでしょう。

頭の回転が速いだけの人や記憶力のいいだけの人が馬鹿に見えます。CPU やメモリーが良くてもろくなソフトウェアを積んでないと感じます。お話にならないので彼らの調書を傾聴しつつも足りないところが目につきます。能力があっても知の基本を習得していないのだなと感じます。

ですので会話をするとき相手に合わせて話すようになります。こちらはセーブして話すことになりまます。タイミングを見計らって相手に別の見方を提示するくらいのことしかできません。

我々はみな全力で能力を発揮するべきですし、本気で協力して、人とも理解し合い仲良くなり合えればどれだけよい世の中になるのでしょうか。現代思想を理解しないことは我々と社会の幸せ、福利厚生を棄損します。

だから現代思想を理解している人はもったいないと感じます。自分と相手と社会の無駄、損失を感じます。相手が現代思想を理解さえしていればもっと生産的な話ができるはずなのです。実際に GDP ももっと伸ばせるはずですし、社会の技術、経済的發展も阻害されてしまいます。

27-1 なぜ頭が良くなるのか

現代哲学は3語でわかると書きました。①実在論②構造主義③ポスト構造主義です。

現代哲学を知らない人は①しかできません。あるいは①+曖昧な②か曖昧な③です。単純化のために①しか知らない人が②と③の思考方法を習得するのですからその分だけ頭の使い方のオプションが増えます。ですから②と③が加わることでどのように頭が良くなるかを具体的に記載していきます。

27-2 頭が柔軟になる

大きなところから書いていきます。③ポスト構造主義を理解することで①によらない考え方が出来る様になります。①によらず②によった考え方と①にも②にもよらない考え方です。①にも②にもよらない考え方というのは可能性としてはありうるのですがそれが愚他的に何かと言われれば著者には思いつきませんので省きます。ですので①によらず②によった考え方ができる場合を考えます。まず前半部分の①によらない考え方というのが現代哲学を理解していない人はきちんとできません。こういうタイプの人には高学歴で天才ではないが秀才で(発達障害がない場合が多い)自分の知能に自信がある人にも見られます。そういう人は頭の回転が速く記憶力が良く実務処理能力が高いので頭がいい人と自分も人も思っている場合が見られます。他方で思考の形式、パタンの数が少なく、物の見方が狭い、また自分の知らない事を知らない、つまり謙虚さが無い、またはメタ認知能力が低いという特徴があります。そういう人は受験戦争を勝ち抜くタイプの性格に育てられている場合があります。そうすると自分より賢いと感じる人にはコンプレックスを抱き、自分よりしたと思っている人には態度が大きくなる召喚士的というか夜郎自大、慇懃無礼な性格に育ちます。これは精神医学でいうと自己愛性パーソナリティ障害(NPD)傾向があるといます。日本社会は長らく受験勝者が社会的成功者と見なされてきましたし、また私立で坊ちゃん学校の場合だと小さい頃から格差社会に晒されてきて変なコンプレックスが身につけているのでそういう性格の人が少なくありません。また離島とかの僻地で生まれたり兄弟が多い家庭で育った人にも見られますが少子高齢化でこのパターンは最近では多くは見られません(外国人に見られることがあります)。これは非常にもったいないことです。

彼らの思考の幅の狭さは②と③ができず①に固着すること、謙虚さがないのは①が得意で②の存在を知らず、③がないことによってもたらされます。

そういう人が②③を理解したらどうなるでしょう。

現代思想を理解すると頭がよくなります。頭の回転がよくなったり記憶力が増すことは直接的にはありません。

しかし、情報処理や整理のための強力なツールが手に入ることになりますので間接的にはCPUのスペックアップにつながり、ワーキングメモリーやメインメモリーを増すことになるでしょう。

現代思想を理解したら頭の良さは別の形で実感できます。頭の回転が速いだけの人や記憶力のいいだけの人が馬鹿に見えます。CPUやメモリーが良くてもろくなソフトウェアを積んでないと感じます。お話にならないので彼らの調書を傾聴しつつも足りないところが目につきます。能力があっても知の基本を習得していないのだなと感じます。

ですので会話をするとき相手に合わせて話すようになります。こちらはセーブして話すことになります。タイミングを見計らって相手に別の見方を提示するくらいのことしかできません。

我々はみな全力で能力を発揮するべきですし、本気で協力して、人とも理解し合い仲良くなり合えればどれだけよい世の中になるのでしょうか。現代思想を理解しないことは我々と社会の幸せ、福利厚生を棄損します。

だから現代思想を理解している人はもったいないと感じます。自分と相手と社会の無駄、損失を感じます。相手が現代思想を理解さえしていればもっと生産的な話ができるはずなのです。実際にGDPももっと伸ばせるはずですし、社会の技術、経済的發展も阻害されてしまいます。

27-3 現代哲学は知能を高める

現代哲学を勉強すると物事に対して圧倒的に多様な見方をすることができます。また情報を整理整頓する能力が上がります。知能はコンピュータでたとえれば情報処理のようなものです。現代思想を学ぶと頭の整理整頓を含めた情報処理能力があがります。現代思想を習得すること自体が新しい情報処理の方法を獲得することになりますし、新しい情報処理の仕方を勉強して使いこなす力が上がります。別の言葉でいうと勉強と学習の能力があがります。

一般的には頭のよさとは頭の回転の良さや記憶力、知識量ではかられます。現代思想は直接的には頭の回転の良さをあげません。記憶力も知識量もあげません。

コンピュータでたとえてみましょう。性能のいいPCはよいCPUを積み、メインメモリーが広く、固定記憶装置の容量が大きいものを指すでしょう。脳をPCに見立ててみましょう。現代思想を学ぶことでPCのCPU、メインメモリ、固定記憶装置を浴することはできません。

そうしたハードウェアの性能は変わりませんが、ソフトウェアの性能が格段に上がります。新しい情報処理のプログラムで情報を扱うことで同じスペックのコンピュータをより効率的に使いこなすことができるようになるでしょう。

情報処理は基本ソフトとしていろんなアプリケーションと相性がいいです。というより現代の諸科学は現代思想を理論的手中として作られています。ですから新しい学問を学びたいとき、現代思想を知っていると学習効率が上がります。その科学の公理体系を意識して学習するようになるのが最大の変化です。どの学問も公理主義（後の章でくわしく説明します）を意識して構成されており、一部を除いて全ての学問は公理主義を土台として構築されています。

現代思想により公理主義という考え方を習得できるので、どんな学問にせよ勉強の効率がよくなります。学問をする際にはメタ認知（これは後の章でくわしく説明します）が滝と学習が容易になります。それを使いこなすために使うシステムや理論をより俯瞰的に見ることが大切です。現代思想はメタ認知能力を確実に高めます。

色々な物事を脱構築できるようになること、もう一つ大切なのは構築を行うことです。

構築の仕方もマナーを知るべきです。構造論的に構築するのか、实在論的に構築するのか、公理主義的、つまり矛盾が生じないような形で構築するのか、矛盾が生じてもいいような、我々の感情、真善美の感覚に従って構築するか。これは文学、美術、政治などが例になります。

自分で構築しなくてもすでに構築されたものを信じる際に現代思想の基礎は役に立ちます。自分でどういう信念をもつのか、何の宗教を信じるのか、自分は何が好きで何が嫌いなのか、自分はどのような複雑な感情を持っていて何を選択するのか、そういったものと関係しながら我々は生活していくのです。それは自分で構築してもいいし与えられた中から選択して受け入れていてもかまいません。

おかしな話ですが、現代思想を信じることは、宗教なり、信念なり、自分が何を信じるかとは矛盾しません。両方信じてもいいのです。現代思想はそういったものとは独立ですし、関係ありません。ある特定の宗教を信じる人からは自分の宗教の教義に矛盾するから、という理由で現代思想を否定し、排斥する人はいるかもしれません。ただ現代思想の側からはなんの宗教であれ、信念であり個人がそれを持つことに対して特に否定も肯定もすることはありません。現代思想は何が真実だとか、正しいとかは語っていないからですし、語ることは現代思想の目的ではないからです。

27-4 知の在り方：教養、哲学、教育、自己啓発

・知の在り方

今までの議論を踏まえて現代の知の在り方について考えてみましょう。

これ以前の章は既に知られた事実をまとめたただけでしたが、この章は著者からのこれか

らの教育がどうあるべきかの提言となります。

- ・現代における教養
- ・現代における哲学

27-5 現代哲学が身に付くメリット

現代哲学によって具体的にどんな得をするのかを説明します。

①倫理が理解できるようになる。

高校の社会科の選択科目に倫理があります。現代哲学を習得すると昔の思想や哲学は簡単に理解できるようになります。

②理性が高まる。

合理的、論理的、理論などと言われる場合の理という言葉は、現代では公理主義の公理を指します。現代の理系の学問は基礎に公理を設定して構築されます。ですので本当の意味で合理的、論理的に思考できます。逆に現代哲学を知らない人は真の合理性、論理性を理解していませんので往々にして非合理的、非論理的主張が見られます。

③学問の学習能力、研究能力が上がる。

現代の学問の基礎は現代哲学による教養なので基礎学力の向上により学問の習得能力、研究能力が。上がります。

④数理系に強くなる。

現代数学の公理主義が現代哲学のプロトタイプです。現代哲学を理解すれば公理主義が理解できるので数理計画分野得意になります。

⑩仏教的な満足

仏教でいうと現代哲学の理解は悟りと同じ内容なので仏教を理解できるようになります。

⑤コミュニケーション能力が高くなる。

相手の思考構造を見抜くのが得意になります。状況によって柔軟にコミュニケーションできるようになります。

④ディベートに強くなる。

相手の思考構造の分析能力が上がるので、相手の頭の中を早期に見抜けます。また相手

の思考構造を脱構築する別の考え方を用意しておけます。

②情報処理能力が上がる。

色々な思考構造を習得、収集できるようになるため情報処理能力が上がります。

⑦先入観やイデオロギーの絶対化に強くなる。

宗教にせよ道徳観にせよ、相手の決めつけへの批判、反論能力が上がります。

⑧先入観、偏見を解除できる。

思い込みをなくすことができます。自分に思い込みがあるかも点検できます。先入観や偏見、差別、尊敬さえも解体したり相対的、総合的に見るできるようになります。

⑨優しさと謙虚さ、寛容さ

他者や外部との違いを知ることができるようになります。それは優しさ、謙虚さ、寛容さをもたらします。論語にも君子の徳は温良恭儉讓と言いますのでそれは上品さや魅力になります。人と無用に争うことがなくなります。

⑩思考をコントロールできる。

多くの思考の仕方の中から思考方法を選択できるようになります。

⑬感情をコントロールできるようになる。

思考と感情を切り離すことが上手になります。

⑭思考方法の分析能力が高まる。

自分や他者の思考方法の分析力が上がり、自己も他者も内面を分析しやすくなります。

⑰メタ認知能力の向上

ポスト構造主義を取得する結果、メタ認知能力が向上します。

⑱物事を冷静客観的に見るようになる。

対象を俯瞰的、網羅的、総合的に見る様になります。

⑲騙されない。

健全な懐疑主義とニヒリズムを獲得できます。元々全てをシミュレーションとした世界観を持つからです。

⑱自由度が上がる。

自由を一段上のレベルで味わえます。

⑲自主性、主体性

自主性、主体性が高まります。

⑳頭が良くなる。

自分で自覚できますし、人に頭がいい人と見られることも増えます。

㉑自分に自信がつく。

頭がよくなるので自己肯定感が高まります。

㉒性格がよく、上品になる。

優しく、寛容になります。

㉓アイデアが湧きやすくなる

発想力も上がります。

㉔. 学ぶことが好きになる。

色んな考え方を身に付け収集することが楽しくなります。自分が賢くなることを体験しやすくなります。

㉕. 好奇心と興味が強くなる。

知識に貪欲になります。

第6部 箴言、モラリズム哲学

現代哲学を実践、応用的に理解するために寸鉄人を刺すような哲学の形式、モラリスト文学風に主要概念をまとめてみました。

第〇章 自由

ポスト構造主義を理解すると、現代哲学的によって自由を明確に理解できる。ポスト構造主義は全ての思想、哲学、宗教、理論を同等に扱う。どれかが絶対正しいとは考えない。

またポスト構造主義を理解すると現代哲学が我々がどう判断し、どう行動すべきかを教えてくれないことに気が付く。

我々には自分が何を信じて何に従って判断し、何に従って行動するかの自由のみが与え

られる。これが現代哲学のいう自由である。

第〇章 自主性、主体性

自由の概念を理解したときにはじめて主体性、自主性とは何かがわかる。我々が意識してどの構造を選択するか決める事、これを自主性、主体性という。

第〇章 選択肢

ポスト構造主義を理解すると我々は全ての思想、哲学、宗教、理論を一つの構造としてのみとらえる。構造の形をはそれぞれ異なったり見かけは違っても憧憬と言って同じ構造を取っている場合もあるが、いずれにせよ意識して思考、行動を行う場合、どの構造を選ぶのか選択しなければならぬ。この選択肢は多ければ多いほどいい。またどれかの選択肢に偏ったり支配されるべきではない。自由な選択ができる事、これを豊かさという。

第〇章 謙虚、寛容、優しさ、慈悲

ポスト構造主義を理解するとどれか一つの構造が他より正しい、絶対である、選択すべきであるとは言えなくなる。自分と異なるもの、外部や他社が選択している構造は自分と異なっているかもしれない。あるいは外部や他者はその構造にとらわれてそれを絶対化しているかもしれない。そのような眼をもって他者や外部を眺めるときに他者や外部に対する。寛容さや優しさが生じ、自分自身に対しては謙虚さが生じる。

第〇章 偏見、先入観、差別、奴隷

ポスト構造主義を理解していない、自由に選択できない、ある構造を絶対化している、自分が何かの偏見や先入観に影響を受けて支配されてしまっている時は、人は自由ではないといえる。リベラルアーツは奴隷から自由民になる技術であった。自由ではないとは奴隷であるといえる。自主性、主体性を失っている状態を奴隷という。奴隷には意識して同齢になっている場合と無意識に奴隷になっている場合がある。我々はある種の力に屈して意識的に奴隷になることはあるにせよ、自主性、主体性を持つ個人としては奴隷である事実を意識し明確化し直面し目をそらすべきではない。

第〇章 豊かさ

現代哲学において豊かさは選択肢の多さといえる。選択できる構造をたくさん持っているものがより豊かである。豊かさと自由には関係がある。豊かであるほど自由である。選択肢が多いほど豊かである。自由であるほど豊かである。

第〇章 幸福

現代哲学における幸福は豊かさとしよう。これは経済学の考え方と借りている。経済学

では幸福の尺度を失業率と GDP でしめす。より選択可能な職業と財とサービスの種類と量が多ければ多いほど幸せといえる。現代哲学ではより地涌的に選択可能な構造が多ければ多いほど幸福である。すると幸福であるために選択可能な構造の種類と量を増やさなければいけない。つまり勉強しなければいけない。ここにフィロソフィーの復権が求められる理由がある。構造のコレクターになるのが幸福への道である。そのためには勉強しなければならぬ。勉強するためには知を愛する方がいい。

第〇章 自由主義

現代哲学による自由とはどの思想、哲学、宗教、理論にも平等で相対的で寛容で謙虚な眼をむけられることであり、またどの構造も自主的、主体的に選択することである。

だから現代哲学の自由主義は他の構造とは別の階層、クラス、タイプに属する。他の思想、宗教、哲学、理論とは同列には並べられない。ポスト構造主義を理解した上での選択の自由を尊重することこそ現代思想の自由主義である。だから現代哲学を知らない人が言う自由主義とは異なっている場合がある。

第〇章 情熱

我々にはエンジンやモーターのような動力源が必要だ。エネルギーを発生させる装置が必要だ。現代哲学ではそれをエスとかイドとかリビドーとか力への意思とか防衛機制とかいう。情熱、情念、熱気、熱、熱さ、エネルギー、生命力、欲望、欲求、意欲、元気、それは訳のわからないものだ。どのような形で表現されるかもわからない。しかしそれが無い人間は悲惨である。動力源のない車、それは止まっている。筋肉のない人間、それも止まっている。エスは筋肉ではない。だから動くことはできる。いわゆるエスだけでなく筋肉があればそれは植物人間と言ったり、カタトニア（緊張病）といった状態になる。軽度のものであれば統合失調症の残遺症状、重症うつ病、重症認知症状態になる。

第〇章 コミュニケーション

構造主義によれば構造を一致させることがコミュニケーションの必要条件である。構造を一致させても構造に無矛盾性がなければ矛盾が生じるかもしれない。そこで現代数学の功利主義が登場する。無矛盾性や完全性の問題が出てくる。問題を排除するため排中律や背理法を排除する論理学を作ってみたり、クラス理論かタイプ理論を作ってみたりいろいろ工夫が行われる。

一方構造を合わせなくても人間分かり合えた気分になることも大切という議論もある。知情意でいうと、現代哲学は知、つまり思考、認識を語るが、感情や意志は語らない。しかし現前でいうと、構造主義による認識の形成とともにそこに実在感や臨在感、存在感を感じてこそ現前が輝く。逆にそれが伴わないと減算とはならない。精神医学では実態意識の問題、実在感の問題、離人症や現実感消失症候群というものがある。知による構造形成

はできても認識対象に現実感や実体感が伴わない。統合失調症の病理の本質でもある。これはあえて言うなら知ではなく、情意の問題だろう。

それはともかくコミュニケーションするためには共通の文法が必要である。現代哲学で重視するのは構造であるが、古典的リベラルアーツで学ぶ自由 7 科、文法、古典語、修辭学、音楽、算術、幾何学、天文学は全て共通言語でありコミュニケーションのためにあるともいえる。現代のリベラルアーツは現代哲学である。

第〇章 教育

高等教育ではリベラルアーツとして現代哲学を学ばなければいけないと書いた。初等教育では間違いなく実在論的認識力を身につけなければいけない。普通実在論は勉強しなくても身につくものだ。生物学的なアプリアリな本能ともいえる。しかし実在論もポスト構造主義と一緒にたくさんの実在概念を知っていた方が知らないよりいいに決まっている。そのためには教育が大切である。教育しなくても自分で自発的に学んでくれてもいいのだが、子供が何を学ぶべきか導くのは大人の責任であると言ってよい。大人になって必要な知識は子供のうちに教えておくべきだ。生物学的な臨界期というものもあってある発達段階までに教えておかないと身につかない技能もある。例えば言葉だ。オオカミ少年は大人になって発見されたが言葉を自由に使い事ができず幸福とは言えない人生を送った。大人になって必要なものは子供が大人になるまでに大人が身につけさせておくべきである。女性なら化粧やファッションを学ばせるのもいいだろう。GDP を頑張ってあげているのは社会資本、複利厚生、公衆衛生を高めるためでもある。家庭に任すのではなく先進国では義務教育として子供が大人になったときに必ず必要になる技能は身に着けさせる方向に進めるべきだし進んでいくべきだろう。世界中先進国でもまだ十分に生産性が豊かとはいえないので至らぬ面もあろう。できる範囲でよい。男女問わず、掃除洗濯炊事などの家事を充実して公教育で教えるのもいいだろう。お金や税金、保険や資本主義、金融の知識も教えるべきだ。

我々は社会も個人もどんどん賢くなるべきなのだ。古いものより新しい知識がよりよいものになっているように努力すべきである。

第終章 本書のまとめ

本書の要点を 12 箇条でまとめてみました。

- ①フィロソフィーが必要
- ②リベラルアーツが必要
- ③現代哲学を理解すべき
- ④現代哲学のキーワードは実在論、構造主義、ポスト構造主義
- ⑤現代哲学の3つのキーワードの意味が理解できれば現代哲学を理解できる。
- ⑥現代哲学を理解できれば頭が良くなる。
- ⑦現代哲学を理解すると勉強のモチベーションが上がる。
- ⑧現代哲学を理解すると現況が効率よく出来る様になる。
- ⑨現代哲学を学ぶとコミュニケーションが効率的になる。
- ⑩日本人は仏教徒なので加えておくと現代哲学を理解することは仏教の悟りと同じ。
- ⑪現代哲学を理解すると寛容と優しさが身に就く。
- ⑫現代哲学を理解できると現代思想も理解できる。
- ⑬すでに現代社会は現代哲学を基盤に成り立っている。

あとがき

現代哲学は人類が到達した倫理学の到達点です。

現代哲学を説明することで“確実性とは何か”の問いに答えを与えることができます。

また現代思想と理解するということは現代数学の基礎や仏教の悟りを理解できます。

14年前、私が現代哲学を広めようと決意した時に比べると現代社会はより現代哲学が浸透しており、現代哲学に親しみやすい状況にあります。

現代思想を理解することは人や社会の幸福につながります。ですから人生のできるだけ早い時期に現代思想を理解しておかないと損をします。

また現代哲学は人を幸せにしてくれます。現代哲学を身に付けると選択肢が限りなく増えます。選択肢が増えることを豊かさと言います。豊かな思考ができることは貧困な選択肢しか持たない思考貧乏よりいいことです。代は章を兼ねます。選択肢を持つ人は選択しないことが可能ですが、選択肢を持たない人は手持ちの選択肢から選ぶしかないので。これは不自由です。現代哲学は人間の自由にします。現代哲学は自由主義と相性が抜群です。

また現代哲学は人間同士の本当の意味でのコミュニケーションを可能にしてくれます。

現代哲学は現代哲学が基盤の社会で、今後さらに社会は現代哲学化していきます。あなたが心の中で抱えている凝り固まった考え方を解体するのに、新しい考え方を構築するのに役に立ってくれるでしょう。あなたに豊富な情報処理のツールを提供してくれます。

謝辞

この教科書を作るにあたって力を貸してくれた多くの人々に、特に親友の秀瀬真輔先生と家庭を支えてくれた妻の真由美、龍樹、維摩、摩耶の 3 人の子供達、私の好きなように仕事をさせてくれるクリニックのスタッフたち、本書の編集、出版に尽力してくれた〇〇〇〇に心からの感謝の意を示します。

令和元年 9 月 8 日

(字数:127,751 字 201911271127)

妻臥病牀兒叫飢，
挺身直欲拂戎夷。
今朝死別與生別，
唯有皇天后土知。